

青森県埋蔵文化財調査報告書 第518集

な か だ い い せ き
中 平 遺 跡 Ⅲ

— 県営野沢地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

2012年3月

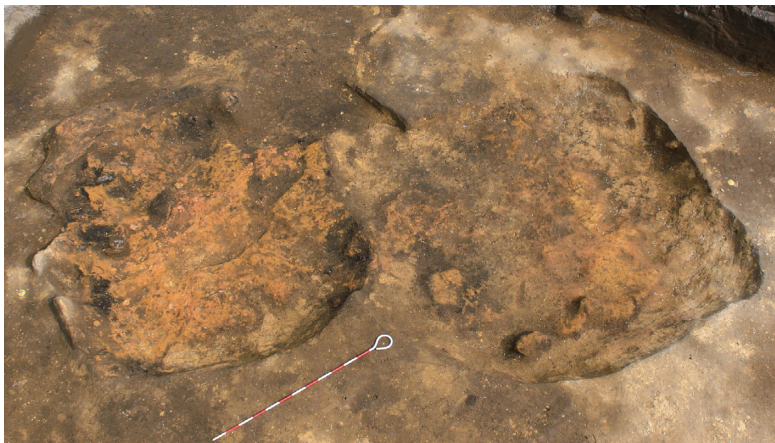
青森県教育委員会



農道 27 号 SI02 貯蔵粘土とロクロピット

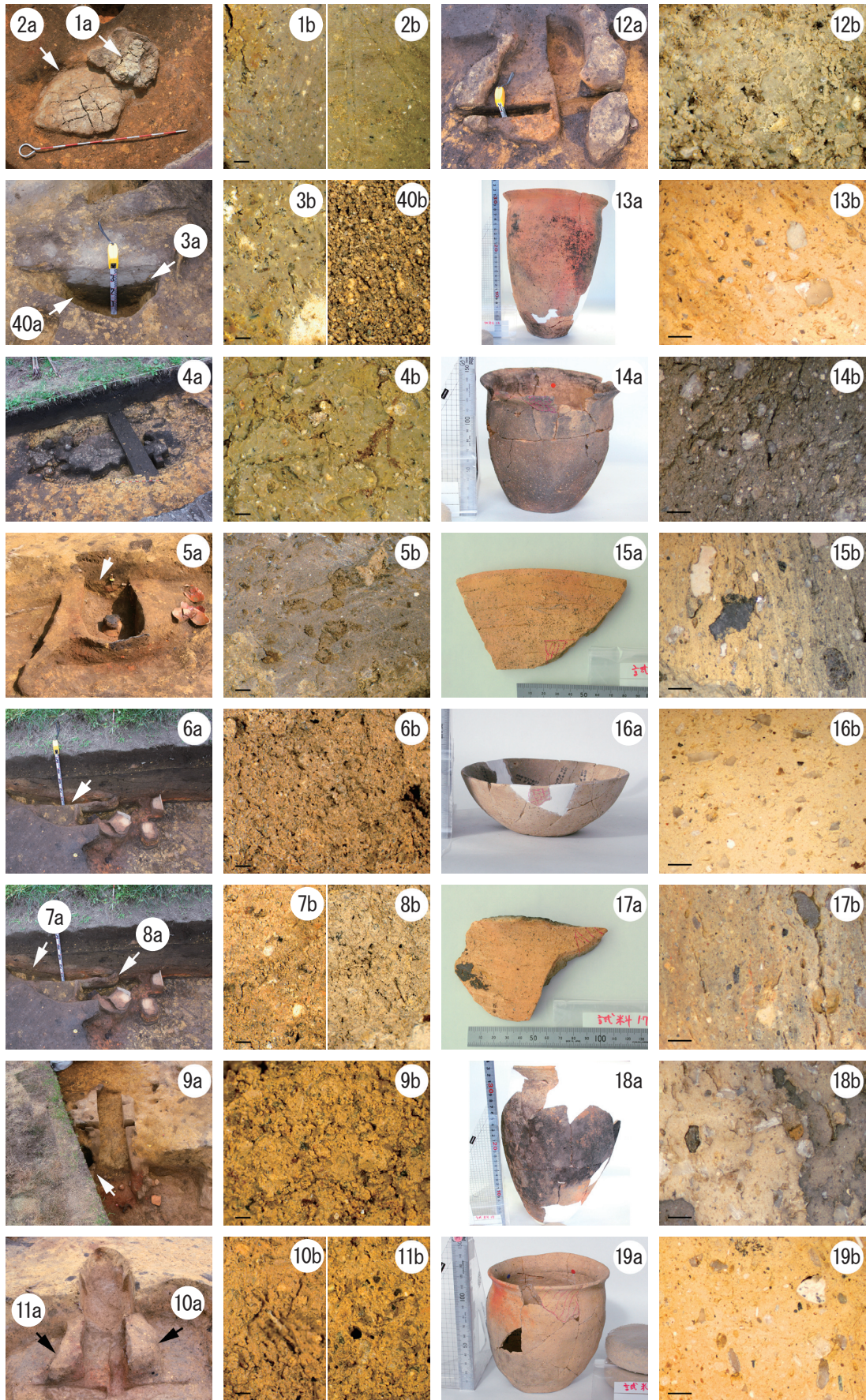


農道 27 号 SI07 貯蔵粘土とロクロピット

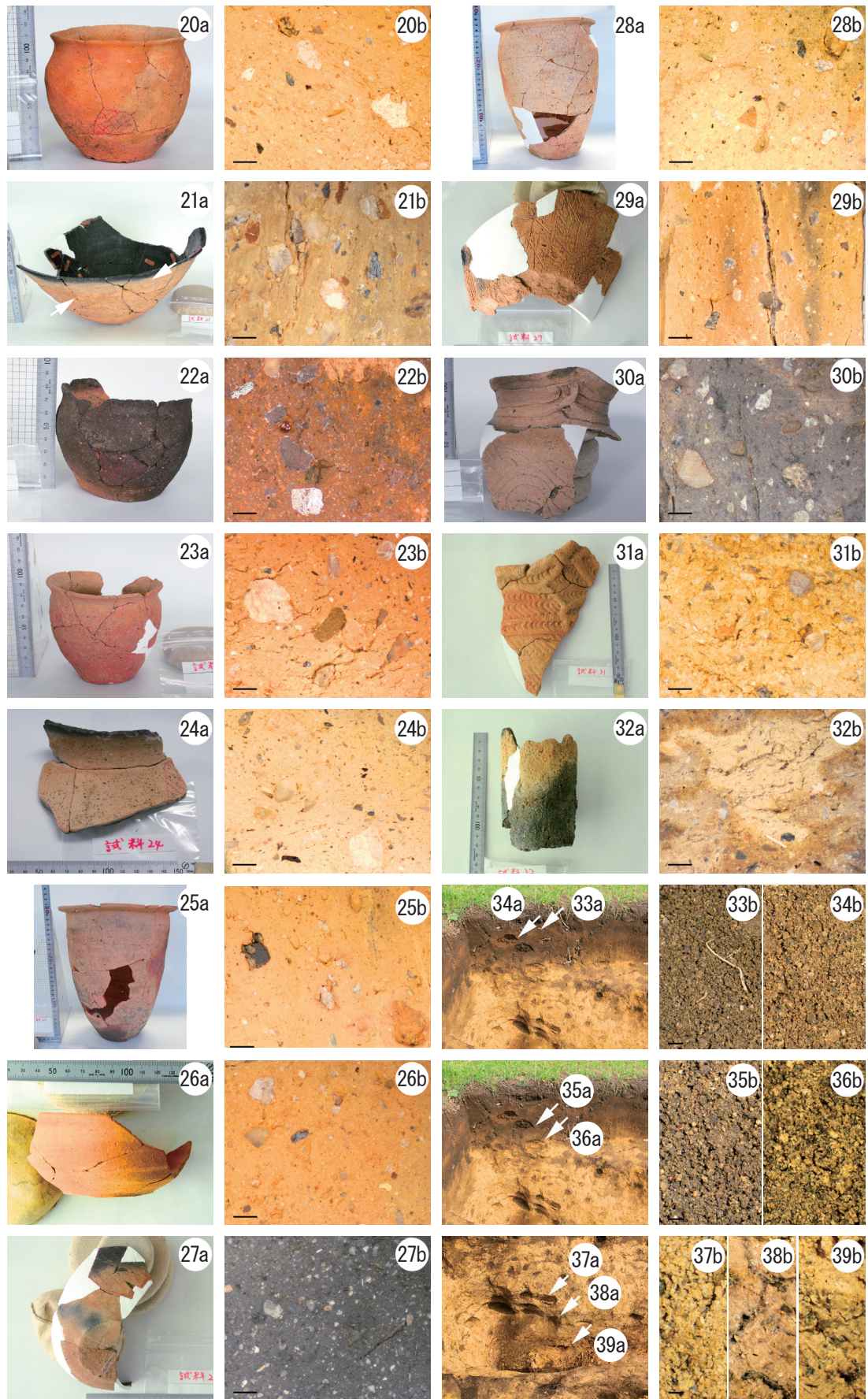


農道 27 号 SK24・25 (左)、SK30 (上)
土師器焼成遺構

口絵 1 土師器製作遺構と焼成遺構



口絵2 粘土等材料分析試料 (1) 第5章第7節参照



口絵3 粘土等材料分析試料 (2) 第5章第7節参照

序

中平遺跡は、津軽平野の南東部に位置する青森市浪岡地区に所在します。当地域では東北自動車道建設を初めとする公共事業に伴う多数の遺跡の発掘調査が行われており、平安時代には史跡高屋敷館遺跡や野尻遺跡群などの大規模集落が存在していました。

青森県埋蔵文化財調査センターでは平成19年度から4年間にわたり、県営野沢地区畑地帯総合整備事業予定地内に所在する中平遺跡の発掘調査を実施してまいりました。これまで縄文時代後期の掘立柱建物跡や貯蔵穴などが環状に巡る遺構群、平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などの遺構が多数発見され、縄文時代の土器・石器、平安時代の土師器・須恵器・金属製品などの遺物が大量に出土しました。平安時代の銅製鈴や馬を模した土製品は、県内ではきわめて希少な出土例として注目されています。

本報告書は平成21年度及び22年度の中平遺跡の発掘調査の成果をまとめたもので、新たに平安時代の遺構や遺物が多数見つかりました。特にロクロを設置したピットと土師器の材料となる粘土が見つかった土師器製作遺構、そしてここで作られた土器を焼いたと思われる土師器焼成遺構がセットで見つかったことは特筆すべき成果であります。これらの成果が今後、埋蔵文化財の保護と研究等に広く活用され、また、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている青森県農林水産部農村整備課に厚くお礼申し上げますとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたりご指導、ご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成24年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 松田守正

例 言

- 1 本書は、青森県農林水産部農村整備課による県営野沢地区畑地帯総合整備事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成 21 年度および 22 年度に発掘調査を実施した青森市中平遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は平成 21 年度 3,363㎡、平成 22 年度 2,878㎡、合計 6,241㎡である。
- 2 中平遺跡の所在地は、青森県青森市浪岡大字吉野田字平野地内、青森県遺跡番号は 201334 である。
- 3 県営野沢地区畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書は既に 3 冊刊行されていて本書は第 4 冊目となる。中平遺跡の発掘調査報告書としては 3 冊目となる。
- 4 発掘調査及び整理・報告書作成の経費は、発掘調査を委託した青森県農林水産部農村整備課が負担した。
- 5 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

| | |
|------------|----------------------------------|
| 発掘調査期間 | 平成 21 年 4 月 23 日～同年 7 月 24 日 |
| | 平成 22 年 5 月 11 日～同年 7 月 23 日 |
| 整理・報告書作成期間 | 平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日 |
| | 平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日 |
- 6 本書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は、青森県埋蔵文化財調査センター 神 康夫文化財保護主幹・工藤 忍文化財保護主査・田中珠美文化財保護主査が担当した。遺構・遺物等の事実記載にあたっては、農道単位で掲載・記述している。工藤は第 4 章第 2 節及び第 3 節の遺構関係と分析と考察の遺物関係、田中は石器の実測図作成及びトレース、神はこれら以外を主として担当し、全体の編集作業は共同で行った。なお依頼原稿については、文頭に執筆者名を記した。
- 7 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。

| | |
|-----------------|---------------------------|
| 幅杭設置及び水準測量業務 | 株式会社コンテック東日本 |
| ラジコンヘリによる空中写真撮影 | 株式会社シン技術コンサル |
| 土器類の写真撮影 | シルバーフォト |
| 石器類の写真撮影 | フォトショップいなみ、スタジオ・エイト |
| 火山灰の分析 | 弘前大学 柴 正敏 |
| 炭化材の樹種同定 | 株式会社 パレオ・ラボ |
| 放射性炭素年代測定 | 株式会社 加速器分析研究所、株式会社 パレオ・ラボ |
| 土師器等の材料分析 | 株式会社 パレオ・ラボ |
- 8 発掘調査成果の一部は、現地見学会、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書がこれらに優先する。
- 9 発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。
- 10 発掘調査及び整理・報告書作成に際して、下記の方々と機関からご協力・ご指導を得た（敬称略、順不同）。

工藤清泰、木村浩一、坂本洋一、株式会社五戸組、株式会社市川土建、有限会社石村興産
- 11 本書に掲載した地形図（遺跡位置図等）は、国土地理院発行の 25,000 分の 1 地形図「浪岡」を複写して使用した。
- 12 測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第 X 系による。

- 13 挿図中の方位は、すべて座標北を示している。
- 14 地形図及び調査区域図の縮尺は原則として1/1,000、遺構配置図は1/500としたが、長大なものなどは適宜縮尺を変更した。また各挿図ごとにスケール等を示した。
- 15 遺構には、その種類を示す略号と、農道ごと、検出順に通し番号を付した。遺構に使用した略号は以下のとおりで、整理作業に伴って遺構名等を変更したものについては各節冒頭あるいは各遺構の事実記載文に記している。

S I - 竪穴住居跡 S K - 土坑 S D - 溝跡 S B - 掘立柱建物跡 S P - ピット
 S N - 焼土遺構 S V - 溝状土坑 S X - 性格不明遺構

また火山灰に関して、B-Tm は白頭山苦小牧火山灰、To-a は十和田 a 火山灰の略称として使用している。

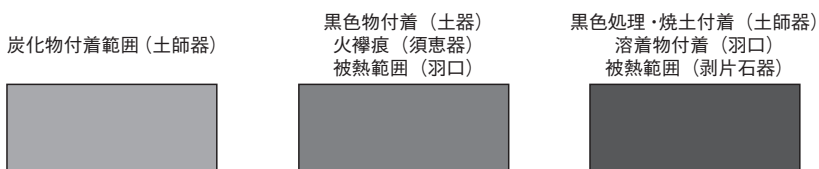
- 16 遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土層には算用数字を使用した。各土層の色調表記等には、『新版標準土色帖 2005 年版』（小山正忠・竹原秀雄）を基に記録した。
- 17 遺構実測図の縮尺は原則として、竪穴住居跡のカマド・炉等は1/30、竪穴住居跡・土坑・溝跡・掘立柱建物跡・溝状土坑・柱穴状ピット群等は1/60に統一し、各挿図ごとにスケール等を示した。
- 18 遺構実測図の土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付した。
- 19 遺構実測図に使用した主な網掛けの指示は以下のとおりで、これら以外のは各挿図中に示した。



- 20 遺構内から出土した遺物等、取り上げ順にその種類を示す略号と通し番号を必要に応じて付した。遺物に使用した略号と、遺物出土地点に示した記号の主なものは以下のとおりで、ここにはないものは各挿図中に示した。

土器 - P・● 石器 - S・■ 炭化材 - C・(形状を実測) 金属製品 - F・▲

- 21 各遺構の規模に関する計測値は、原則として現存値を記載している。調査区域外に延びていたり他遺構・攪乱によって壊されているものは特に()を付して本文やS P計測表に記載している。
- 22 遺物実測図の個別番号には、農道ごとに1から遺物番号を付した。
- 23 遺物実測図の縮尺は原則として、縄文土器・土師器・礫石器・土製品・鉄製品等は1/3、剥片石器・石製品等は2/3とし、各挿図ごとにスケール等を示した。
- 24 遺物実測図に使用した主な網掛けは以下のとおりで、各挿図中にも示した。



- 25 遺物観察表の計測値は、原則として現存値を記している。土器類計測値における()内の数値は、口径・底径は推定値、器高は現存値である。土器類の調整技法(文様)は、判別がつかざり施文順で観察表に記載してある。
- 26 遺物写真には遺物実測図と共通の図番号を付し、縮尺は不同である。

目次

口 絵
序

例 言
目 次

図版・表・写真目次

第1章 調査の概要

| | | |
|-----|---------------|----|
| 第1節 | 調査に至る経過 | 1 |
| 第2節 | 調査方法等 | 3 |
| 1 | 発掘作業の方法 | 3 |
| 2 | 整理・報告書作成作業の方法 | 6 |
| 第3節 | 平成21年度調査分の経過等 | 11 |
| 1 | 発掘作業の経過 | 11 |
| 2 | 整理・報告書作成作業の経過 | 12 |
| 第4節 | 平成22年度調査分の経過等 | 14 |
| 1 | 発掘作業の経過 | 14 |
| 2 | 整理・報告書作成作業の経過 | 16 |

第2章 遺跡周辺の地形と基本層序

| | | |
|-----|---------|----|
| 第1節 | 遺跡周辺の地形 | 18 |
| 第2節 | 基本層序 | 18 |

第3章 平成21年度の検出遺構と出土遺物

| | | |
|-----|------------|-----|
| 第1節 | 農道2号 | |
| 1 | 検出遺構 | 20 |
| (1) | 土坑 | 20 |
| (2) | ピット | 20 |
| (3) | 焼土遺構 | 22 |
| 2 | 遺構外の出土遺物 | 23 |
| 3 | 遺物観察表 | 23 |
| 第2節 | 農道26号 | |
| 1 | 検出遺構 | 24 |
| (1) | 土坑 | 24 |
| (2) | ピット | 24 |
| (3) | 焼土遺構 | 28 |
| 2 | 遺構外の出土遺物 | 28 |
| 3 | 遺物観察表 | 28 |
| 第3節 | 農道27号 | |
| 1 | 検出遺構 | 29 |
| (1) | 建物跡・竪穴住居跡 | 29 |
| (2) | 土坑 | 51 |
| (3) | 溝跡 | 65 |
| (4) | 掘立柱建物跡・ピット | 73 |
| (5) | 焼土遺構 | 73 |
| 2 | 遺構外の出土遺物 | 74 |
| 3 | 遺物観察表 | 77 |
| 第4節 | 農道28・1号 | |
| 1 | 検出遺構 | 80 |
| (1) | 竪穴住居跡 | 80 |
| (2) | 土坑 | 100 |
| (3) | 溝跡 | 111 |
| (4) | ピット | 115 |
| 2 | 遺構外の出土遺物 | 116 |
| 3 | 遺物観察表 | 117 |

| | |
|-------------------------|-----|
| 第4章 平成22年度の検出遺構と出土遺物 | |
| 第1節 農道1号 | |
| 1 検出遺構 | 121 |
| (1)土坑 | 121 |
| (2)溝跡 | 121 |
| (3)ピット | 125 |
| (4)焼土遺構 | 125 |
| 2 遺構外の出土遺物 | 126 |
| 3 遺物観察表 | 126 |
| 第2節 農道25号 | |
| 1 検出遺構 | 127 |
| (1)建物跡・竪穴住居跡 | 127 |
| (2)土坑 | 144 |
| (3)溝跡 | 147 |
| (4)ピット | 149 |
| (5)性格不明遺構 | 150 |
| 2 遺構外の出土遺物 | 150 |
| 3 遺物観察表 | 152 |
| 第3節 農道29号 | |
| 1 検出遺構 | 155 |
| (1)建物跡・竪穴住居跡 | 155 |
| (2)土坑 | 163 |
| (3)溝跡 | 166 |
| (4)ピット | 167 |
| (5)性格不明遺構 | 169 |
| 2 遺構外の出土遺物 | 169 |
| 3 遺物観察表 | 170 |
| 第4節 農道30号 | |
| 1 検出遺構 | 173 |
| (1)建物跡・竪穴住居跡 | 173 |
| (2)土坑 | 183 |
| (3)溝跡 | 187 |
| (4)掘立柱建物跡・ピット | 187 |
| (5)焼土遺構 | 189 |
| (6)溝状土坑 | 189 |
| 2 遺構外の出土遺物 | 189 |
| 3 遺物観察表 | 190 |
| 第5章 理化学的分析結果 | |
| 第1節 青森市中平遺跡出土の火山灰について | 192 |
| 第2節 中平遺跡の火山灰 | 194 |
| 第3節 中平遺跡出土炭化材の樹種同定 | 196 |
| 第4節 中平遺跡農道25号出土炭化材の樹種同定 | 205 |
| 第5節 中平遺跡における放射性炭素年代 | 210 |
| 第6節 放射性炭素年代測定 | 216 |
| 第7節 中平遺跡出土土師器等の胎土材料 | 222 |
| 第6章 分析と考察 | |
| 第1節 時期別占地状況について | 241 |
| 第2節 平安時代の建物等の変遷について | 246 |
| 第3節 建物跡等出土遺物の時期別様相 | 265 |
| ま と め | 267 |
| 引用・参考文献 | 268 |
| 写真図版 | 269 |
| 報告書抄録 | 364 |

図 版 目 次

調査概要・基本層序

| | | |
|----|----------------------|----|
| 図1 | 中平遺跡 位置図 | 2 |
| 図2 | 中平遺跡 調査路線と公共座標 | 4 |
| 図3 | 中平遺跡 農道1・25~30号調査区域図 | 5 |
| 図4 | 農道1・26~28号遺構配置図 | 7 |
| 図5 | 農道1・29・30号遺構配置図 | 9 |
| 図6 | 基本層序 | 19 |

農道2号

| | | |
|----|---------------|----|
| 図7 | 農道2号地形図・遺構配置図 | 21 |
| 図8 | 農道2号検出遺構 | 22 |
| 図9 | 農道2号出土遺物 | 22 |

農道26号

| | | |
|-----|------------|----|
| 図10 | 農道26号地形図 | 25 |
| 図11 | 農道26号遺構配置図 | 26 |
| 図12 | 農道26号検出遺構 | 27 |
| 図13 | 農道26号出土遺物 | 27 |

農道27号

| | | |
|-----|----------------|----|
| 図14 | 農道27号地形図 | 30 |
| 図15 | 農道27号遺構配置図(1) | 31 |
| 図16 | 農道27号遺構配置図(2) | 32 |
| 図17 | 第1号建物跡(1) | 33 |
| 図18 | 第1号建物跡(2) | 34 |
| 図19 | 第1号建物跡 出土遺物(1) | 35 |
| 図20 | 第1号建物跡 出土遺物(2) | 36 |
| 図21 | 第2号建物跡(1) | 39 |
| 図22 | 第2号建物跡(2) | 40 |
| 図23 | 第2号建物跡 出土遺物 | 40 |
| 図24 | 第3号竪穴住居跡と出土遺物 | 42 |
| 図25 | 第4号竪穴住居跡 | 43 |
| 図26 | 第4号竪穴住居跡 出土遺物 | 44 |
| 図27 | 第5号竪穴住居跡 | 46 |
| 図28 | 第5号竪穴住居跡 出土遺物 | 47 |
| 図29 | 第6号竪穴住居跡 | 48 |
| 図30 | 第6号竪穴住居跡 出土遺物 | 49 |
| 図31 | 第7号竪穴住居跡と出土遺物 | 50 |

| | | |
|-----|------------|----|
| 図32 | 土坑(1) | 60 |
| 図33 | 土坑(2) | 61 |
| 図34 | 土坑(3) | 62 |
| 図35 | 土坑(4) | 63 |
| 図36 | 土坑 出土遺物(1) | 63 |
| 図37 | 土坑 出土遺物(2) | 64 |
| 図38 | 溝跡(1) | 68 |
| 図39 | 溝跡(2) | 69 |
| 図40 | 溝跡 出土遺物 | 69 |
| 図41 | 第1号掘立柱建物跡 | 70 |
| 図42 | ピット | 71 |
| 図43 | 焼土遺構 | 73 |
| 図44 | 遺構外出土遺物(1) | 75 |
| 図45 | 遺構外出土遺物(2) | 76 |

農道28・1号

| | | |
|-----|---------------------|----|
| 図46 | 農道28・1号地形図 | 81 |
| 図47 | 農道28・1号遺構配置図 | 82 |
| 図48 | 第1号竪穴住居跡 | 83 |
| 図49 | 第1号竪穴住居跡 出土遺物(1) | 85 |
| 図50 | 第1号竪穴住居跡 出土遺物(2)カマド | 86 |
| 図51 | 第1号竪穴住居跡 出土遺物(3) | 87 |
| 図52 | 第1号竪穴住居跡 出土遺物(4) | 88 |
| 図53 | 第2号竪穴住居跡(1) | 89 |

| | | |
|-----|------------------------|-----|
| 図54 | 第2号竪穴住居跡(2) | 90 |
| 図55 | 第2号竪穴住居跡 出土遺物(1) | 90 |
| 図56 | 第2号竪穴住居跡 出土遺物(2) | 91 |
| 図57 | 第3号竪穴住居跡と出土遺物 | 93 |
| 図58 | 第4号竪穴住居跡 | 94 |
| 図59 | 第4号竪穴住居跡 出土遺物 | 95 |
| 図60 | 第5号竪穴住居跡 | 97 |
| 図61 | 第5号竪穴住居跡 出土遺物(1) | 97 |
| 図62 | 第5号竪穴住居跡 出土遺物(2)床面直上主体 | 98 |
| 図63 | 第5号竪穴住居跡 出土遺物(3) | 99 |
| 図64 | 土坑(1) | 105 |
| 図65 | 土坑(2) | 106 |
| 図66 | 土坑 出土遺物(1) | 107 |
| 図67 | 土坑 出土遺物(2) | 108 |
| 図68 | 土坑 出土遺物(3) | 109 |
| 図69 | 土坑 出土遺物(4) | 110 |
| 図70 | 溝跡 | 113 |
| 図71 | 溝跡・ピット 出土遺物 | 114 |
| 図72 | 遺構外出土遺物 | 116 |

農道1号

| | | |
|-----|-----------|-----|
| 図73 | 農道1号地形図 | 122 |
| 図74 | 農道1号遺構配置図 | 123 |
| 図75 | 農道1号検出遺構 | 124 |
| 図76 | 農道1号出土遺物 | 126 |

農道25号

| | | |
|-----|------------------|-----|
| 図77 | 農道25号地形図 | 128 |
| 図78 | 農道25号遺構配置図 | 129 |
| 図79 | 第1号竪穴住居跡と出土遺物 | 130 |
| 図80 | 第2号竪穴住居跡(1) | 132 |
| 図81 | 第2号竪穴住居跡(2) | 133 |
| 図82 | 第2号竪穴住居跡 出土遺物 | 134 |
| 図83 | 第3号竪穴住居跡 | 136 |
| 図84 | 第3号竪穴住居跡 出土遺物 | 137 |
| 図85 | 第4号建物跡(1) | 138 |
| 図86 | 第4号建物跡 出土遺物(1) | 139 |
| 図87 | 第4号建物跡 出土遺物(2) | 140 |
| 図88 | 第4号建物跡(2) | 140 |
| 図89 | 第5号竪穴住居跡 | 142 |
| 図90 | 第5号竪穴住居跡 出土遺物(1) | 142 |
| 図91 | 第5号竪穴住居跡 出土遺物(2) | 143 |
| 図92 | 土坑 | 145 |
| 図93 | 溝跡・性格不明遺構と遺構出土遺物 | 148 |
| 図94 | 遺構外出土遺物(1) | 151 |
| 図95 | 遺構外出土遺物(2) | 152 |

農道29号

| | | |
|------|------------------|-----|
| 図96 | 農道29号地形図 | 156 |
| 図97 | 農道29号遺構配置図 | 157 |
| 図98 | 第1号竪穴住居跡 | 159 |
| 図99 | 第1号竪穴住居跡 出土遺物 | 160 |
| 図100 | 第2号竪穴住居跡と出土遺物 | 161 |
| 図101 | 第3号建物跡 | 162 |
| 図102 | 第3号建物跡 出土遺物 | 163 |
| 図103 | 土坑と出土遺物 | 165 |
| 図104 | 溝跡・性格不明遺構と溝跡出土遺物 | 168 |
| 図105 | 遺構外出土遺物 | 170 |

農道30号

| | | |
|------|----------|-----|
| 図106 | 農道30号地形図 | 171 |
|------|----------|-----|

| | | |
|-----------------|-----------------------------------|-----|
| 図107 | 農道30号遺構配置図 | 172 |
| 図108 | 第1号建物跡(1) | 174 |
| 図109 | 第1号建物跡(2) | 175 |
| 図110 | 第1号建物跡 出土遺物 | 175 |
| 図111 | 第2号堅穴住居跡と出土遺物 | 177 |
| 図112 | 第3・第5号堅穴住居跡・第2号溝跡 | 179 |
| 図113 | 第3号堅穴住居跡カマドと出土遺物 | 180 |
| 図114 | 第2号溝跡 出土遺物 | 181 |
| 図115 | 第4号堅穴住居跡と出土遺物 | 182 |
| 図116 | 土坑 | 185 |
| 図117 | 土坑 出土遺物 | 186 |
| 図118 | 溝跡・焼土遺構・溝状土坑と出土遺物 | 188 |
| 図119 | 遺構外出土遺物 | 189 |
| 理化学的分析結果 | | |
| 図120 | 中平遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1) | 202 |
| 図121 | 中平遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2) | 203 |
| 図122 | 中平遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(3) | 204 |
| 図123 | 中平遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1) | 208 |
| 図124 | 中平遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2) | 209 |
| 図125 | 暦年較正年代グラフ | 214 |
| 図126 | 年代測定をおこなった炭化材試料 | 220 |
| 図127 | 暦年較正結果 | 221 |
| 図128 | 中平遺跡とその周辺の地質図 | 233 |
| 図129 | 分析試料の外観写真、断面写真の実体顕微鏡写真、偏光顕微鏡写真(1) | 234 |

| | | |
|--------------|-----------------------------------|-----|
| 図130 | 分析試料の外観写真、断面写真の実体顕微鏡写真、偏光顕微鏡写真(2) | 235 |
| 図131 | 分析試料の外観写真、断面写真の実体顕微鏡写真、偏光顕微鏡写真(3) | 236 |
| 図132 | 分析試料の外観写真、断面写真の実体顕微鏡写真、偏光顕微鏡写真(4) | 237 |
| 図133 | 分析試料の外観写真、断面写真の実体顕微鏡写真、偏光顕微鏡写真(5) | 238 |
| 図134 | 分析試料の外観写真、断面写真の実体顕微鏡写真、偏光顕微鏡写真(6) | 239 |
| 図135 | 分析試料の外観写真、断面写真の実体顕微鏡写真、偏光顕微鏡写真(7) | 240 |
| 分析と考察 | | |
| 図136 | 縄文時代の遺物散布範囲想定図(1) | 242 |
| 図137 | 縄文時代の遺物散布範囲想定図(2) | 242 |
| 図138 | 平安時代の遺構占地状況図 | 244 |
| 図139 | 平安時代の遺構占地状況横断面図 | 245 |
| 図140 | 柱穴配置模式図 | 248 |
| 図141 | 火山灰堆積状況からみた堅穴住居等集成図(1)灰1期・灰2期 | 249 |
| 図142 | 火山灰堆積状況からみた堅穴住居等集成図(2)灰3期 | 250 |
| 図143 | 火山灰堆積状況からみた堅穴住居等集成図(3)灰4期 | 251 |
| 図144 | 堅穴住居等群別集成図(1)深A群 | 256 |
| 図145 | 堅穴住居等群別集成図(2)深A群 | 257 |
| 図146 | 堅穴住居等群別集成図(3)深B群 | 258 |
| 図147 | 堅穴住居等群別集成図(4)深B群 | 259 |
| 図148 | 堅穴住居等群別集成図(5)深B群 | 260 |
| 図149 | 堅穴住居等群別集成図(6) やや深A群・やや深B群 | 261 |
| 図150 | 堅穴住居等群別集成図(7)やや深B群 | 262 |
| 図151 | 堅穴住居等群別集成図(8)浅A群・浅B群 | 263 |

表 目 次

| | | |
|------------------|---------------------------|-----|
| 調査概要・基本層序 | | |
| 表1 | 中平遺跡と周辺の遺跡一覧 | 1 |
| 表2 | 主要点の国土座標値及び標高値一覧 | 3 |
| 農道2号 | | |
| 表3 | 農道2号SP計測表 | 22 |
| 表4 | 農道2号出土土器類観察表 | 23 |
| 表5 | 農道2号出土土器観察表 | 23 |
| 農道26号 | | |
| 表6 | 農道26号SP計測表 | 24 |
| 表7 | 農道26号出土土器類観察表 | 28 |
| 表8 | 農道26号出土土器観察表 | 28 |
| 農道27号 | | |
| 表9 | 農道27号SP計測表 | 72 |
| 表10 | 農道27号出土土器類観察表 | 77 |
| 表11 | 農道27号出土土器・土製品・金属製品観察表 | 79 |
| 農道28・1号 | | |
| 表12 | 農道28号SP計測表 | 115 |
| 表13 | 農道28号出土土器類観察表 | 117 |
| 表14 | 農道28号出土土器・石製品・土製品・金属製品観察表 | 120 |
| 農道1号 | | |
| 表15 | 農道1号SP計測表 | 125 |
| 表16 | 農道1号出土土器類観察表 | 126 |
| 表17 | 農道1号出土土器観察表 | 126 |
| 農道25号 | | |
| 表18 | 農道25号SP計測表 | 149 |
| 表19 | 農道25号出土土器類観察表 | 152 |
| 表20 | 農道25号出土土器・金属製品観察表 | 154 |
| 農道29号 | | |
| 表21 | 農道29号SP計測表 | 169 |
| 表22 | 農道29号出土土器類観察表 | 170 |

| | | |
|-----------------|------------------------------|-----|
| 表23 | 農道29号出土土器観察表 | 170 |
| 農道30号 | | |
| 表24 | 農道30号SP計測表 | 187 |
| 表25 | 農道30号出土土器類観察表 | 190 |
| 表26 | 農道30号出土土器・金属製品観察表 | 191 |
| 理化学的分析結果 | | |
| 表27 | 中平遺跡出土の火山灰試料 | 193 |
| 表28 | 中平遺跡の火山灰及び土壌 | 195 |
| 表29 | 中平遺跡出土炭化材の樹種同定結果 | 196 |
| 表30 | 各住居跡出土炭化材の樹種と木取り | 199 |
| 表31 | 中平遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧 | 200 |
| 表32 | 中平遺跡農道25号出土炭化材の樹種同定結果 | 205 |
| 表33 | 中平遺跡農道25号出土炭化材の樹種同定結果一覧 | 207 |
| 表34 | 測定試料 | 212 |
| 表35 | 放射性炭素年代測定結果 | 213 |
| 表36 | 付表 | 215 |
| 表37 | 測定試料および処理 | 217 |
| 表38 | 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 | 218 |
| 表39 | 材料を検討した遺物の特徴 | 223 |
| 表40 | 各試料の粘土中の微化石類と砂粒組成の特徴記載 | 224 |
| 表41 | 粘土・土師器・土製品の胎土中の粘土および砂粒の特徴一覧表 | 229 |
| 表42 | 岩石片の起源と組み合わせ | 230 |
| 表43 | 種類別の粘土および混和材等の特徴 | 231 |
| 分析と考察 | | |
| 表44 | 中平遺跡 検出遺構数及び出土遺物量 一覧表 | 241 |
| 表45 | 火山灰との前後関係がわかる建物・堅穴住居一覧表 | 248 |
| 表46 | 堅穴住居の群別属性表 | 252 |
| 表47 | 火山灰との前後関係がわかる建物・堅穴住居の時期区分 | 252 |
| 表48 | 中平遺跡で検出されたすべての建物・堅穴住居の時期分類 | 254 |
| 表49 | 火山灰との前後関係が不明な建物・堅穴住居一覧表 | 255 |

写真図版目次

| | | | | | | |
|--------|-------------------------|-----|---------|------------------------|-------|-----|
| 口絵 1 | 土師器製作遺構と焼成遺構 | | 写真47 | 農道28号(11) | SK | 315 |
| 口絵 2 | 粘土等材料分析試料(1) | | 写真48 | 農道28号(12) | SK | 316 |
| 口絵 3 | 粘土等材料分析試料(2) | | 写真49 | 農道28号(13) | SK | 317 |
| (扉写真1) | 平成21年度調査 | 269 | 写真50 | 農道28号(14) | SD | 318 |
| 写真 2 | 平成21年度調査路線(1) 空中写真 | 270 | 写真51 | 農道28号(15) | 調査区完掘 | 319 |
| 写真 3 | 平成21年度調査路線(2) 空中写真・基本層序 | 271 | 写真52 | 農道28号(16) | 調査区完掘 | 320 |
| 写真 4 | 農道2号(1) 空中写真・調査区完掘 | 272 | 写真53 | 農道28号(17) | 遺物 | 321 |
| 写真 5 | 農道2号(2) SK・SN・SP・遺物 | 273 | 写真54 | 農道28号(18) | 遺物 | 322 |
| 写真 6 | 農道26号(1) 空中写真・調査区完掘 | 274 | 写真55 | 農道28号(19) | 遺物 | 323 |
| 写真 7 | 農道26号(2) SK・SN・遺物 | 275 | 写真56 | 農道28号(20) | 遺物 | 324 |
| 写真 8 | 農道27号(1) 空中写真 | 276 | 写真57 | 農道28号(21) | 遺物 | 325 |
| 写真 9 | 農道27号(2) SI01 | 277 | 写真58 | 農道1号 調査区完掘 | | 326 |
| 写真10 | 農道27号(3) SI02 | 278 | (扉写真59) | 平成22年度調査 | | 327 |
| 写真11 | 農道27号(4) SI02 | 279 | 写真60 | 平成22年度調査路線 空中写真・基本層序 | | 328 |
| 写真12 | 農道27号(5) SI03 | 280 | 写真61 | 農道1号(1) 空中写真・調査区完掘 | | 329 |
| 写真13 | 農道27号(6) SI04 | 281 | 写真62 | 農道1号(2) SK・SD・SN | | 330 |
| 写真14 | 農道27号(7) SI05 | 282 | 写真63 | 農道1号(3) SN・SK・遺物 | | 331 |
| 写真15 | 農道27号(8) SI05 | 283 | 写真64 | 農道25号(1) 空中写真 | | 332 |
| 写真16 | 農道27号(9) SI06 | 284 | 写真65 | 農道25号(2) SI01 | | 333 |
| 写真17 | 農道27号(10) SI07 | 285 | 写真66 | 農道25号(3) SI01・02 | | 334 |
| 写真18 | 農道27号(11) SK | 286 | 写真67 | 農道25号(4) SI02 | | 335 |
| 写真19 | 農道27号(12) SK | 287 | 写真68 | 農道25号(5) SI03 | | 336 |
| 写真20 | 農道27号(13) SK | 288 | 写真69 | 農道25号(6) SI04 | | 337 |
| 写真21 | 農道27号(14) SK | 289 | 写真70 | 農道25号(7) SI05 | | 338 |
| 写真22 | 農道27号(15) SK | 290 | 写真71 | 農道25号(8) SI05 | | 339 |
| 写真23 | 農道27号(16) SK | 291 | 写真72 | 農道25号(9) SI05・SK | | 340 |
| 写真24 | 農道27号(17) SK | 292 | 写真73 | 農道25号(10) SK | | 341 |
| 写真25 | 農道27号(18) SK | 293 | 写真74 | 農道25号(11) SK・SD・SX | | 342 |
| 写真26 | 農道27号(19) SK・SP | 294 | 写真75 | 農道25号(12) 調査区完掘・説明会・遺物 | | 343 |
| 写真27 | 農道27号(20) SD | 295 | 写真76 | 農道25号(13) 遺物 | | 344 |
| 写真28 | 農道27号(21) SD | 296 | 写真77 | 農道25号(14) 遺物 | | 345 |
| 写真29 | 農道27号(22) SD・SP | 297 | 写真78 | 農道29号(1) 空中写真 | | 346 |
| 写真30 | 農道27号(23) 調査区完掘 | 298 | 写真79 | 農道29号(2) SI01 | | 347 |
| 写真31 | 農道27号(24) 調査区完掘 | 299 | 写真80 | 農道29号(3) SI02・03・SK・SD | | 348 |
| 写真32 | 農道27号(25) 調査区完掘 | 300 | 写真81 | 農道29号(4) SI03・SK | | 349 |
| 写真33 | 農道27号(26) 調査区完掘 | 301 | 写真82 | 農道29号(5) SK・SX・調査区完掘 | | 350 |
| 写真34 | 農道27号(27) 遺物 | 302 | 写真83 | 農道29号(6) 遺物 | | 351 |
| 写真35 | 農道27号(28) 遺物 | 303 | 写真84 | 農道30号(1) 空中写真 | | 352 |
| 写真36 | 農道27号(29) 遺物 | 304 | 写真85 | 農道30号(2) SI01 | | 353 |
| 写真37 | 農道28号(1) 空中写真 | 305 | 写真86 | 農道30号(3) SI01・02 | | 354 |
| 写真38 | 農道28号(2) SI01 | 306 | 写真87 | 農道30号(4) SI03 | | 355 |
| 写真39 | 農道28号(3) SI01 | 307 | 写真88 | 農道30号(5) SI03・04 | | 356 |
| 写真40 | 農道28号(4) SI02 | 308 | 写真89 | 農道30号(6) SI05・SD02 | | 357 |
| 写真41 | 農道28号(5) SI02 | 309 | 写真90 | 農道30号(7) SK | | 358 |
| 写真42 | 農道28号(6) SI03 | 310 | 写真91 | 農道30号(8) SK | | 359 |
| 写真43 | 農道28号(7) SI04 | 311 | 写真92 | 農道30号(9) SD・SN・SV | | 360 |
| 写真44 | 農道28号(8) SI05・02 | 312 | 写真93 | 農道30号(10) 調査区完掘・遺物 | | 361 |
| 写真45 | 農道28号(9) SK・SD04 | 313 | 写真94 | 農道30号(11) 遺物 | | 362 |
| 写真46 | 農道28号(10) SK | 314 | | | | |

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経過

平成15年8月、青森県農林水産部農村整備課が計画していた浪岡野沢地区畑地帯総合整備事業（農道改良事業）予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて、当該事業を担当する中南地方農林水産事務所水利防災課（現・中南地域県民局地域農林水産部水利防災課）と青森県教育庁文化財保護課が協議を行った。当該事業予定地内には周知の寺屋敷平遺跡と中平遺跡が所在するため、農道の基本設計完了後、平成16年10月に水利防災課と文化財保護課が現地調査（分布調査）を行った上で再度協議し、翌平成17年6月には文化財保護課が寺屋敷平遺跡の確認調査を実施した。現地調査と確認調査の結果を受けて、平成18年度に青森県埋蔵文化財調査センターが担当して寺屋敷平遺跡の本発掘調査と中平遺跡の確認調査を実施することになった。中平遺跡の確認調査は平成18年4～5月に行われ、本発掘調査の範囲が確定した。水利防災課と文化財保護課の打合せで、中平遺跡の本発掘調査は当初平成19・20年度の2ヶ年で実施する計画であったが、その後事業者側の要請で平成19～21年度の3ヶ年での実施計画に変更され、さらに平成22年度まで調査期間を繰り延べして4ヶ年での実施計画に再変更された。各年度の発掘調査区域は以下のとおりとなった。

平成19年度の発掘調査では、農道6・7号の全区域と農道9～11号の幹線道路（市道甲浜街道線）より北西側の区域を調査対象区とした。平成20年度の発掘調査では、農道1号の南西半区域、農道2号の東側大部分、農道8号の全区域、農道9～11号の幹線道路（市道甲浜街道線）より南東側の区域を調査対象区とした。平成21年度の発掘調査では、農道1号の一部、農道2号の西端部分、農道26～28号の全区域を調査対象区とした。平成22年度の発掘調査では、農道1号東側区域、農道25・29・30号の全区域を調査対象区とした。なお農道25号では北西部分の工事設計が変更されたことから、その部分については「工事立会」で対応することとした。

中平遺跡に係る土木工事等のための発掘に関する通知書は、平成15年6月に中南地方農林水産事務所長名で提出され、同年8月、青森県教育委員会教育長から当該発掘前における埋蔵文化財の記録の作成のための発掘調査の実施が指示されている。また、平成17年4月1日の青森市と浪岡町の合併に伴って、事業名が「県営野沢地区畑地帯総合整備事業」に変更され、東地方農林水産事務所水利防災課（現・東青地域県民局地域農林水産部水利防災課）がこの事業を所管している。

表1 中平遺跡と周辺の遺跡一覧

| 市 | 遺跡番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 |
|--------|---------|----------|-------------------------|-----------|
| 青森市 | 201331 | 下下平遺跡 | 縄文(後)、平安 | 散布地 |
| | 201332 | 旭(1)遺跡 | 平安 | 散布地 |
| | 201333 | 旭(2)遺跡 | 平安 | 散布地 |
| | 201334 | 中平遺跡 | 縄文(後)、平安 | 散布地 |
| | 201335 | 浪岡塩沢遺跡 | 縄文(前) | 散布地 |
| | 201336 | 熊沢溜池遺跡 | 平安 | 散布地 |
| | 201337 | 永原遺跡 | 縄文(前・後) | 散布地 |
| | 201338 | 上野遺跡 | 縄文(中・後)、平安、中世、近世 | 散布地、集落跡 |
| | 201339 | 神明宮遺跡 | 縄文(前・晩)、平安 | 散布地、集落跡 |
| | 201340 | 山神宮遺跡 | 縄文(晩) | 散布地 |
| | 201341 | 長溜池遺跡 | 縄文(中・後・晩)、弥生、平安、中世 | 散布地、墳墓 |
| | 201342 | 大林遺跡 | 縄文、平安 | 散布地 |
| | 201378 | 銀館遺跡 | 中世 | 城館跡 |
| | 201385 | 杉田遺跡 | 平安 | 散布地 |
| | 201386 | 寺屋敷平遺跡 | 平安 | 散布地 |
| | 201397 | 樽沢上野遺跡 | 縄文、平安 | 散布地 |
| | 201398 | 郷山前村元遺跡 | 平安 | 散布地 |
| | 201399 | 下石川平野遺跡 | 縄文(中)、平安 | 散布地 |
| | 201411 | 銀前田遺跡 | 平安 | 散布地 |
| | 201412 | 樽沢村元遺跡 | 縄文、平安 | 散布地 |
| 201414 | 岡田遺跡 | 平安 | 散布地 | |
| 201423 | 吉野田平野遺跡 | 平安 | 散布地 | |
| 五所川原市 | 205008 | 川崎遺跡 | 縄文(晩)、平安、近世 | 散布地 |
| | 205009 | 桜ヶ峰(1)遺跡 | 縄文(草・前・中・後・晩)、弥生、平安、近世 | 散布地、須恵器窯跡 |
| | 205018 | 持子沢館 | 縄文(後)、平安、中世 | 散布地、城館跡 |
| | 205043 | 真言館遺跡 | 平安 | 散布地 |
| | 205059 | 桜ヶ峰(2)遺跡 | 縄文、弥生、平安 | 散布地 |
| | 205060 | 桜ヶ峰(3)遺跡 | 縄文、平安 | 散布地 |
| | 205062 | 隠川(2)遺跡 | 旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、平安、近世 | 散布地 |
| | 205063 | 隠川(3)遺跡 | 縄文(前・中・後・晩)、弥生、平安、近世 | 散布地 |
| | 205064 | 隠川(4)遺跡 | 縄文(早・前・中・後・晩)、弥生、平安、近世 | 散布地 |
| | 205065 | 隠川(5)遺跡 | 平安 | 散布地 |
| | 205066 | 隠川(6)遺跡 | 縄文、平安 | 散布地 |
| | 205067 | 隠川(7)遺跡 | 平安、近世 | 散布地 |
| | 205072 | 隠川(12)遺跡 | 縄文(前・中・後・晩)、弥生、平安、近世 | 集落跡 |
| 205101 | 広野遺跡 | 平安 | 散布地、須恵器窯跡 | |

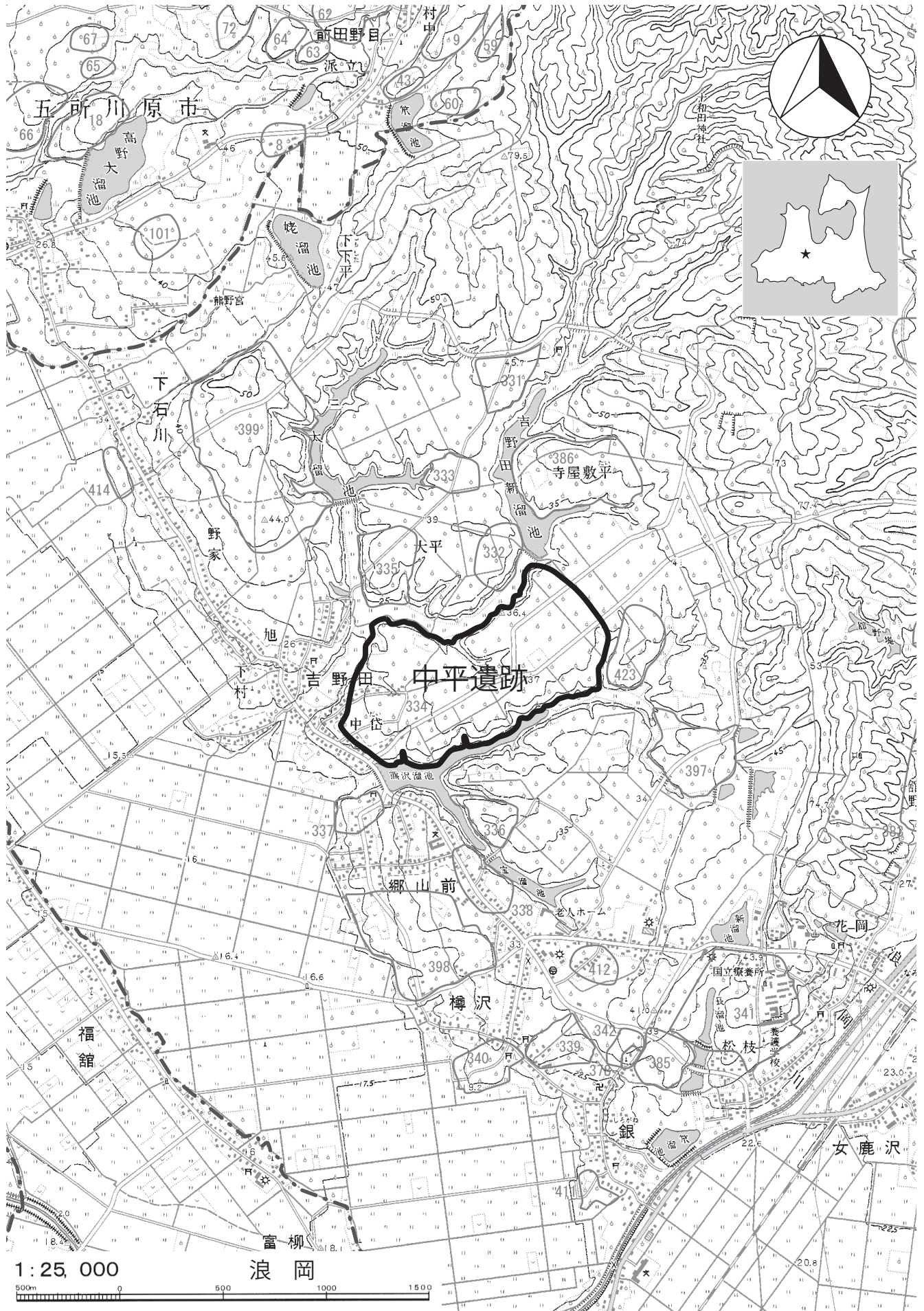


図1 中平遺跡 位置図

第2節 調査方法等

1 発掘作業の方法

平成18年度に青森県埋蔵文化財調査センターが実施した確認調査により、縄文時代・古代の遺物と遺構（竪穴住居跡等）が確認されたため、縄文時代・古代の遺構調査に重点をおいて、各集落の時期・構造等を把握できるような調査方法を採用した。

〔測量基準点・水準点の設置・グリッド設定〕各路線の測量原点及びレベル原点には工事用の既存成果を利用し、各調査対象区域内に標準の国土座標値と標高値を備えた工事用幅杭や任意の基準杭を設置し、これらを実測基準点として使用した。平成21年度調査での幅杭及び基準杭等設置にあたっては、農道26号は農道工事受注業者に依頼し、農道1・2・27・28号は測量業者株式会社コンテック東日本に業務委託した。平成22年度調査では、農道1号は既設の工事用杭を利用したが、農道29・30号は農道工事受注業者に、農道25号は測量業者株式会社コンテック東日本に業務委託して幅杭及び基準杭等の設置を行った。主な基準点の国土座標値（世界測地系）及び標高値は表2に、各農道と公共座標軸の位置関係、各農道の基準主要点については各農道遺構配置図にそれぞれ示してある。また、必要に応じてこれら実測基準点を与点として調査路線周辺に基準杭・ベンチマークを増設して使用した。

遺構・基本土層の精査や遺構外出土遺物の取り上げにあたっては、各農道の中心線を基準に起点から5メートルごとで区切ってグリッドとし、平面的出土位置を記録して取り上げた。例えば農道1号の場合、起点（No.0）から5mまでは「1-1グリッド」、5～10mまでは「1-2グリッド」…、100～105mまでは「1-21グリッド」…、農道28号の場合、起点（No.0）から5mまでは「28-1グリッド」、5～10mまでは「28-2グリッド」…、100～105mまでは「28-21グリッド」…、というように呼称した。ただし農道26号の流末水路部分及び農道27号の第3号取り付け道路部分では、若干異なった名称を付している。農道26号流末水路部分には工事用センター杭がNo.0から20m間隔で新たに設置されている。そこで基本的には5mピッチでグリッドを設置することには変わらないが、流末水路起点のNo.0を26-101グリッドとし、20m先にあるセンター杭No.1は26-111グリッド、さらに20m先にあるセンター杭No.2を26-121グリッド、というようにセ

表2 主要点の国土座標値及び標高値一覧

| 農道 | 点名 | 国土座標値 (世界測地系・JGD2000) | | 標高値 (m) |
|-------------|-----------|--------------------------|------------|------------|
| | | X | Y | |
| 1号 | No1 | 80313.566 | -23340.059 | - |
| | No3+3.95 | 80234.914 | -23443.574 | - |
| | No3+21.70 | 80224.164 | -23457.684 | - |
| | RA0+28 | 80329.650 | -23324.614 | 35.909 |
| 2号 | No7 | 80325.792 | -23786.342 | - |
| | No7+46.2 | 80355.955 | -23821.273 | - |
| | R7+40.430 | 80355.089 | -23814.248 | 36.493 |
| 25号 | No1+15.5 | 80096.102 | -23725.272 | - |
| | No2 | 80066.113 | -23708.217 | - |
| | No3 | 80022.400 | -23683.945 | - |
| | Y05 | 80015.933 | -23682.871 | 31.207 |
| 26号 | BNo0 | 80201.311 | -23670.234 | - |
| | BNo1 | 80157.287 | -23646.530 | - |
| | 流末No1 | 80103.680 | -23616.224 | - |
| 27号 | BR.7 | 80125.807 | -23632.646 | 34.997 |
| | No0 | 80249.904 | -23586.416 | - |
| | No2 | 80163.116 | -23536.885 | - |
| | No4 | 80076.427 | -23487.364 | - |
| | 取付No0 | 80101.860 | -23502.349 | - |
| | 取付No1 | 80077.223 | -23545.858 | - |
| 28号 | K286 | 80101.591 | -23507.062 | 34.330 |
| | No0 | 80297.913 | -23497.529 | - |
| | No2 | 80210.356 | -23449.230 | - |
| | No4 | 80123.941 | -23398.907 | - |
| 29号 | X.5 | 80160.193 | -23423.953 | 34.887 |
| | No0 | 80259.266 | -23407.046 | - |
| | No1 | 80223.271 | -23372.342 | - |
| | No1+25 | 80205.273 | -23354.911 | - |
| 30号 | No.1R | 80220.980 | -23374.718 | 35.772 |
| | No0 | 80327.588 | -23316.689 | - |
| | No1 | 80291.428 | -23282.157 | - |
| | No2 | 80255.269 | -23247.625 | - |
| No.1+14.2R1 | 80278.811 | -23274.808 | 35.650 | |

※各点の位置は各農道遺構配置図等に示している。



図2 中平遺跡 調査路線と公共座標

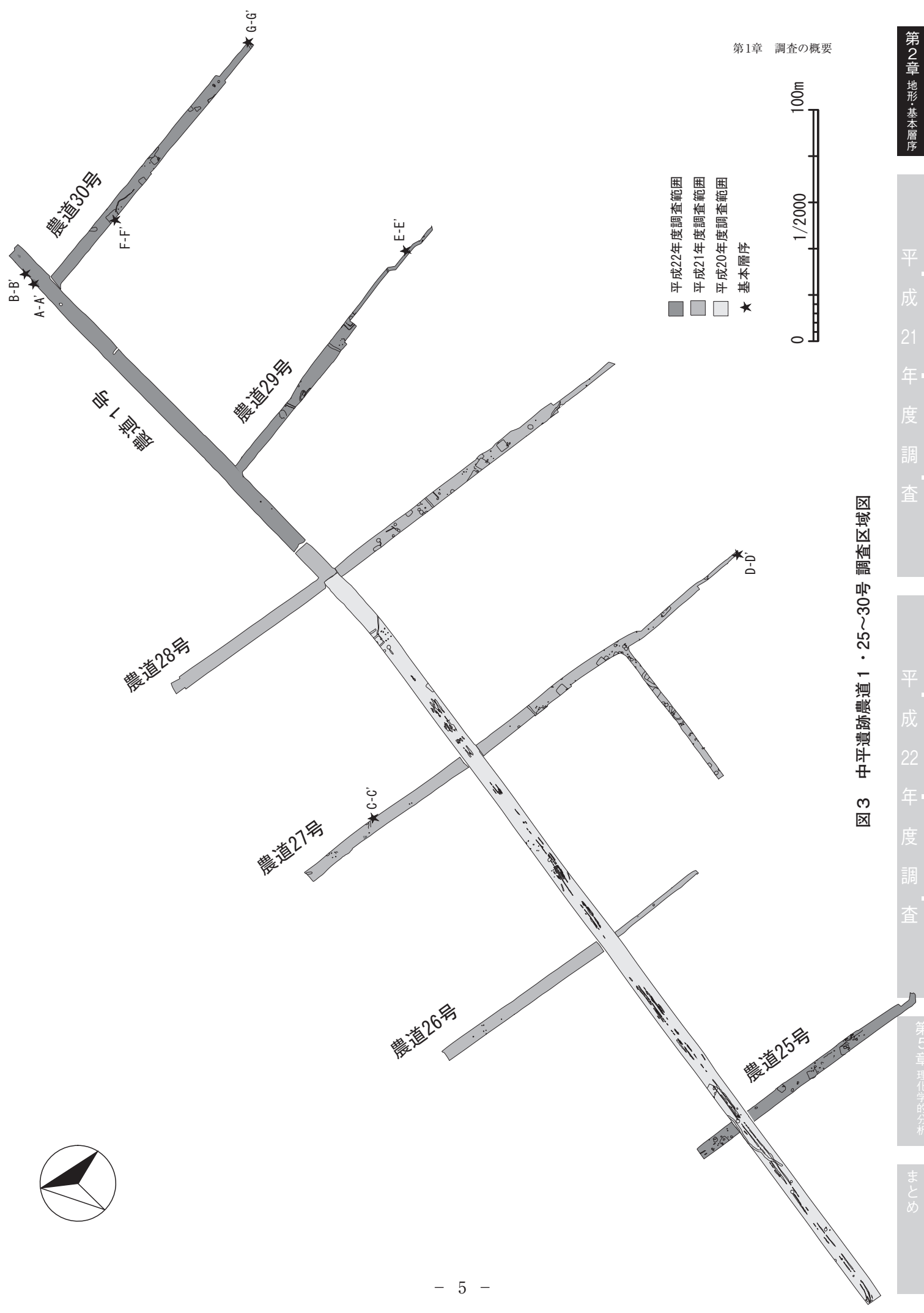


図3 中平遺跡農道1・25～30号 調査区域図

ンター杭を基準とした5進法を採用している。農道27号第3号取り付け道路部分は、工事用センター杭がNo.0から50m間隔で新たに設置されている。そこで、第3号取り付け道路部分起点のNo.0を27-101グリッドとし、そこから5mピッチで27-102グリッド、27-103グリッド…、というように呼称した。なお、グリッドの設置は各農道の遺構配置図に赤字で示している。

〔基本土層〕遺跡の基本土層については表土から順にローマ数字を付けて呼称し、細分が必要な場合は小文字のアルファベットを付した。

〔表土等の調査〕平成18年度の確認調査によって古代及び縄文時代の遺構・遺物が存在することは把握していた。しかし表土から古代の遺構確認面までは畑地造成や砂利道として攪乱されていることも分かっていたので、重機を使用して掘削の省力化を図り、古代の遺構検出・調査、縄文時代の遺物包含層・遺構検出・調査の順に発掘作業を進めることとした。表土から遺構確認面までの土層から出土した遺物は、適宜地区単位で層位毎に取り上げた。

〔遺構の調査〕検出遺構には、原則として確認順に種類別の番号を付けて精査した。堆積土層観察用のセクションベルトは、遺構の形態、大きさ等に応じて、基本的には4分割又は2分割で設定したが、遺構の重複や付属施設の有無等により必要に応じて追加した。遺構内の堆積土層には、算用数字を付けて、ローマ数字を付けた基本土層と区別した。遺構の平面図は、主に（株）CUBIC製「遺構実測支援システム」を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構の堆積土層断面図や竪穴住居跡に伴う炉・カマド等の平面図、出土遺物の形状実測図等は、簡易遣り方測量等で縮尺1/20・1/10の実測図を作成した。遺構内の出土遺物は遺構単位・遺構内地区単位で層位毎に又は堆積土一括で取り上げたが、床面（底面）や炉・カマドの出土遺物については、トータルステーションや簡易遣り方測量により、必要に応じて縮尺1/20・1/10のドットマップ図・形状実測図等を作成した。

〔遺物包含層の調査〕上層から層位毎に人力で掘削した。遺物が密集して出土した区域では、トータルステーションや簡易遣り方測量により、縮尺1/20・1/10のドットマップ図や形状実測図を作成したが、遺物が散発的に出土した区域では、原則としてグリッド単位で層位毎に取り上げた。

〔写真撮影〕原則として35mmモノクローム、35mmカラーリバーサルの各フィルム及びデジタルカメラを併用し、発掘作業状況、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の検出状況・精査状況・完掘後の全景等について記録した。デジタルカメラは、平成21年度調査では1,220万画素のもの、平成22年度調査では1,790万画素のものを使用した。また、業者に委託してラジコンヘリによる遺跡及び調査区域全体の空中写真撮影を行った。

2 整理・報告書作成作業の方法

平成21年度調査の結果、古代の竪穴住居跡13軒を中心に、土坑53基（縄文時代を含む）、溝跡16条、掘立柱建物跡4棟、ピット71基、焼土遺構3基が検出され、縄文時代・古代の土器類19箱、石器類6箱、鉄製品類1箱の合計段ボール箱26箱分が出土した。

平成22年度調査の結果、古代の竪穴住居跡14軒を中心に、土坑24基（縄文時代を含む）、溝跡8条、掘立柱建物跡3棟、ピット47基、焼土遺構1基、溝状土坑1基、性格不明遺構2基が検出され、縄文時代・古代の土器類9箱、石器類1箱、合計段ボール箱10箱分が出土した。

これらの遺構・遺物をもとに、主に古代の集落の時期・構造等を解明するため、竪穴住居跡をはじ

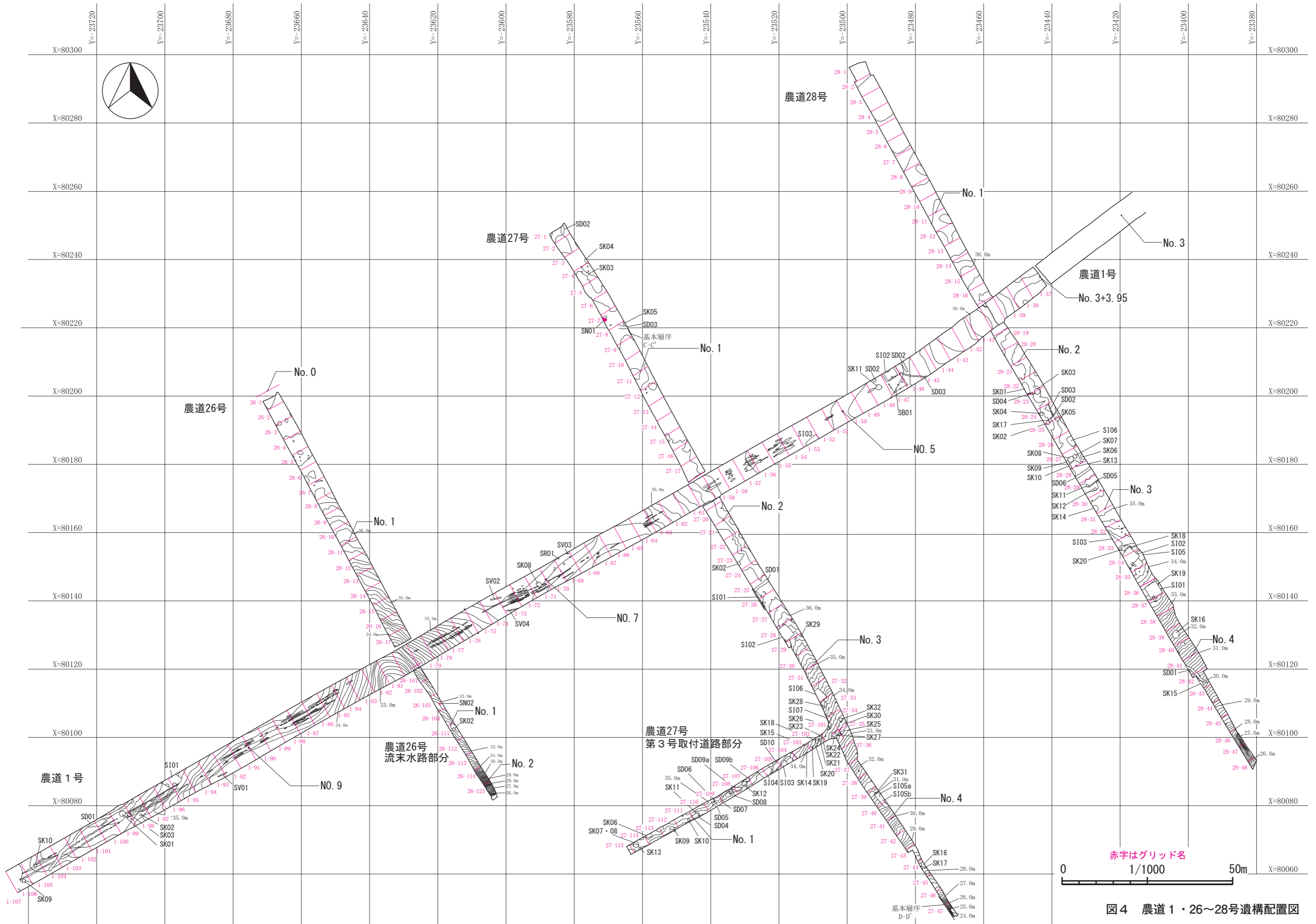


図4 農道1・26~28号遺構配置図

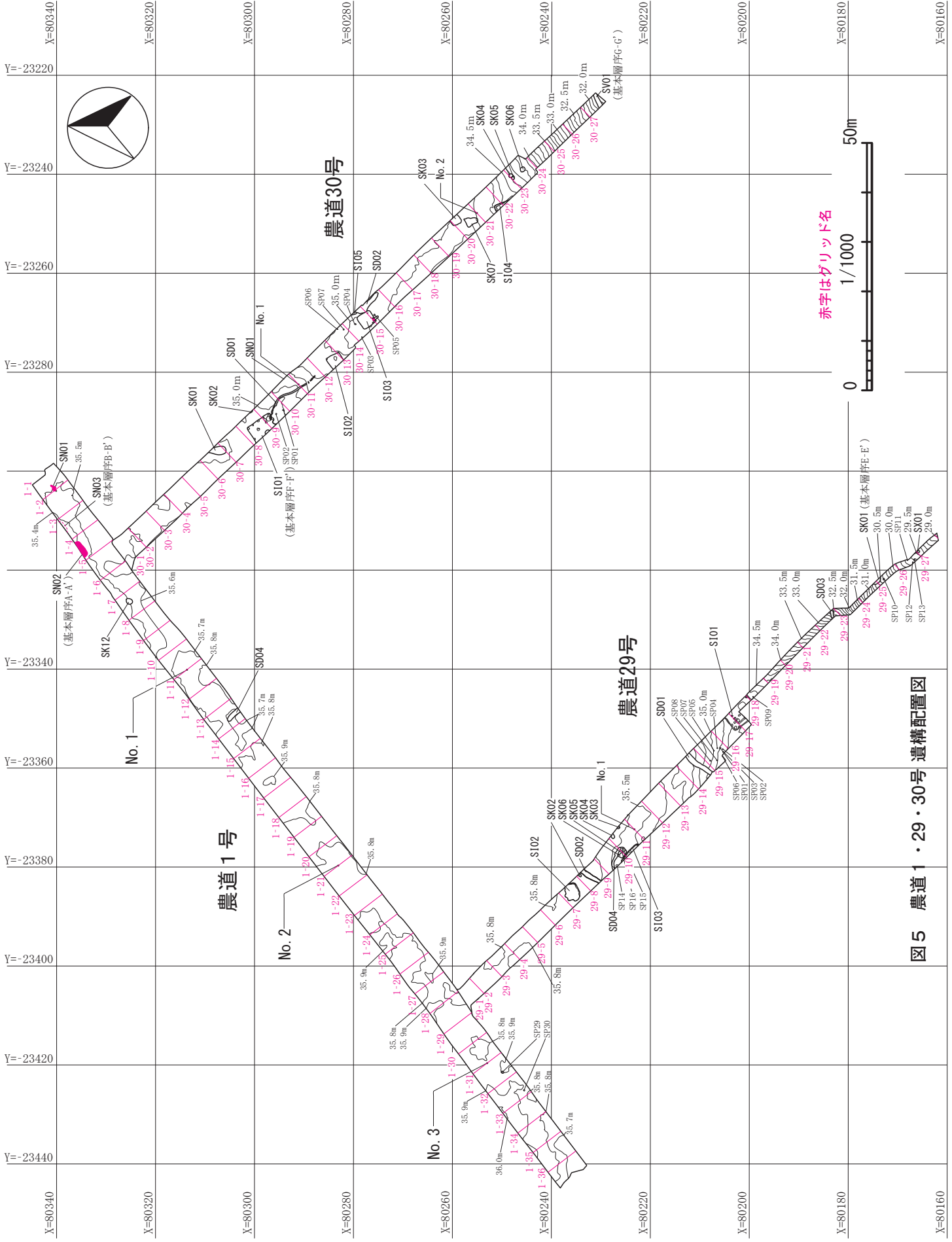


図5 農道1・29・30号 遺構配置図

めとする各遺構の構築時期と集落の変遷等の検討に重点をおいて整理・報告書作成作業を進めた。

〔図面類の整理〕遺構の平面図は主にトータルステーションによる測量で作成したもので、整理作業ではこれを原則として縮尺20分の1で図化し、簡易遣り方測量で作成した堆積土層断面図や炉・カマド等の付属施設の実測図等との図面調整を行った。また、遺構台帳・遺構一覧表等を作成して、発掘作業時の所見等を整理した。

〔写真類の整理〕35mmモノクロームフィルムは撮影順に整理してネガアルバムに収納し、35mmカラーリバーサルフィルムは発掘作業状況、包含層遺物の出土状態、遺構ごとの検出・精査状況等に整理して各年度及び各農道ごとにスライドファイルに収納した。また、デジタルカメラのデータは35mmカラーリバーサルフィルムと同様に整理してタイトルを付けた。

〔遺物の洗浄・注記と接合・復元〕遺構出土遺物及び包含層出土遺物を優先的に接合し、復元作業を早期に進めるようにした。遺物の注記は、調査年度、遺跡名、出土区・遺構名、層位、取り上げ番号等を略記したが、剥片石器・金属器等、直接注記できないものは、収納したポリ袋に注記した。接合・復元にあたっては、同一個体の出土地点・出土層等の整理を怠らないようにした。

〔報告書掲載遺物の選別〕遺物全体の分類を適切に行った上で、遺構に伴って使用・廃棄（放置）された資料、遺構の構築・廃絶時期等を示す資料、遺存状態が良く同類の中で代表的な資料、所属時代（時期）・型式・器種等の分かる資料等を主として選別した。

〔遺物の観察・図化〕充分観察した上で、遺物の特徴を適切に分かり易く表現するように図化した。特に、縄文土器の復元個体や拓本では表現しきれない隆帯・突起等の凹凸のある遺物については、実測図を作成するように心掛けた。また、種類ごとに遺物台帳・観察表・計測表等を作成した。

〔遺物の写真撮影〕業者に委託して行ったが、実測図等では表現しがたい質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意した。

〔理化学的分析〕出土火山灰の噴出源を特定するための火山灰分析、炭化材等の年代を特定するための放射性年代測定、竪穴住居跡の建築材等を特定するための炭化材の樹種同定、土器類の胎土・カマド構築材・本遺跡出土粘土等の異同を分析する材料分析については、研究機関・業者等に委託して行った。

〔遺構・遺物のトレース・版下作成〕遺構・遺物の実測図やその他の挿図のトレースは、ロットリングペンによる手作業と（株）CUBIC製「トレースくん」（遺物実測支援システム）を用いたデジタルトレースを併用した。実測図版・写真図版等の版下作成についても、紙図版による手作業とパソコンによるデジタルデータ加工作業を併用した。遺構内出土遺物のうち、床面（底面）出土遺物や竪穴住居跡の炉・カマド出土遺物等については、原則として遺構の平面図にそのドットマップ図・形状実測図等を掲載した。

〔遺構の検討・分類・整理〕遺構ごとに種類・構造的特徴・出土遺物・他の遺構との新旧関係等に関するデータを整理し、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。

〔遺物の検討・分類・整理〕遺物を時代・時期・種類ごとに整理し、出土遺物全体の分類・器種構成・個体数等について検討した。

〔調査成果の検討〕遺構・遺物の検討結果を踏まえて、縄文時代と古代の集落の時期・構造・変遷等について検討・整理した。

第3節 平成21年度調査分の経過等

1 発掘作業の経過

平成21年度の中平遺跡発掘調査は、調査委託者の要望により農道2・26号をまずは調査対象とし、調査の進捗状況に応じて順次調査区域を追加していくこととなった。その結果4月23日から7月24日までの発掘作業期間で、さらに農道27・28号と農道1号の一部の調査も実施した。発掘調査体制は以下のとおりである。

| | | | |
|---------|----------------|---------------------|--|
| 調査主体 | 青森県埋蔵文化財調査センター | | |
| 所長 | 新岡 嗣浩 | (現、青森県総合社会教育センター所長) | |
| 次長 | 工藤 大 | (平成22年3月退職) | |
| 総務GM | 木村 繁博 | | |
| 調査第二GM | 畠山 昇 | (平成23年3月退職) | |
| 文化財保護主幹 | 神 康夫 | (発掘調査担当者) | |
| 文化財保護主査 | 田中 珠美 | (発掘調査担当者) | |
| 調査補助員 | 梅田 裕哉 | 西田 愛 | |
| | 三宅 奈央子 | 佐々木 隆英 | |

専門的事項に関する指導・助言

| | | |
|-------|-------|--------------------------|
| 調査指導員 | 村越 潔 | 前国立大学法人弘前大学名誉教授・故人 (考古学) |
| 調査員 | 葛西 勳 | 前青森短期大学教授 (考古学) |
| | 山口 義伸 | 青森県立浪岡高等学校教諭 (地質学) |

発掘作業の経過、業務委託状況等は、以下のとおりである。

[平成21年度]

- 4月上旬 青森県東青地域県民局地域農林水産部 (調査委託者)、青森県教育庁文化財保護課と調査前の打合せを行い、発掘作業の進め方等について再度確認した。
- 4月中旬 調査事務所、器材庫、発掘作業員休憩所や仮設トイレの設置、駐車場の整備等、事前の準備作業を行った。
- 4月21日 昨年度までの調査結果を踏まえ発掘作業員による遺構確認作業がスムーズに行えるよう、最初に着手する農道2号と農道27号で重機を使用して表土 (農道に敷設されている碎石) の掘削及び除去作業を開始した。表土 (碎石) の掘削・除去にあたっては、農作業用車両が通行出来る幅員・高低差等を確保した迂回路を敷鉄板で設置した後の作業となった。
- 4月23日 発掘器材等を調査事務所、器材庫に搬入し、職員2名、補助員3名 (5月に1名増員)、発掘作業員51名の規模で発掘調査を開始した。環境整備後、農道2号の南東端部から発掘作業員による遺構確認作業に着手した。測量基準点・水準点は工事用のものを使用し、必要に応じて調査区周辺に増設した。
- 4月下旬 農道2号と併行して、農道1号より北西側の農道27号西半分の遺構確認と精査をすすめる。これ以後は、調査が終了し次第埋め戻す、通路確保のために敷鉄板を移設、重機で碎石等の表土除去作業、人力による遺構の確認・精査、という手順を繰り返すこととなる。

- 5月中旬 農道2号の調査が5月15日に終了したため、作業員は農道27号に投入し、農道1号より北西側の東半分の調査に入る。さらに次の調査路線となった農道26号の表土（農道に敷設されている碎石）を重機で掘削・除去するなど調査準備を進める。
- 5月下旬 農道26号にも作業員を投入し、北西側より遺構確認作業を行うが、農道1号付近では沢頭になることから黒色土の堆積が厚くなり、進捗が鈍くなる。農道1号より南側の農道27号の流末水路部分及び南西方向に長く伸びる取り付け道路部分の調査準備も開始した。
- 6月上旬 農道27号北西側の調査を終えたことから、農道27号南東側の遺構確認作業に着手する。併せて農道26号の流末水路部分の調査準備作業を始める。
- 6月中旬 遺構確認作業を進めていた農道27号からは、堅穴住居跡をはじめ次々と遺構が検出され始める。農道26号では流末水路部分も含めて遺構が少なかったため6月19日に調査を終え、農道1号及び農道28号の調査準備を開始する。
- 6月下旬 農道1号及び農道28号の北西側では遺構・遺物がほとんどなかったことから6月30日に調査を終える。農道28号南東側の調査を開始すると共に、農道27号の遺構精査を進める。
- 7月上旬 農道28号南東側でも遺構が次々検出される。
- 7月中旬 農道27号では遺構精査終了区域に碎石を敷き均して農作業用車両の通路とし、未調査区域の調査を行う。そこでは土坑など若干量の遺構が検出されたにとどまったため、7月15日に調査を終了することができた。農道28号は遺構の全数をほぼ把握し、遺構精査に集中することとなる。
- 7月22日 空中写真撮影を株式会社シン技術コンサルに委託し、遺跡全景及び農道27・28号を中心とした遺構群等の空中写真等を撮影する。空中写真の撮影後すぐに農道28号の調査終了区域に碎石を敷き均し、残っていた未調査区域の遺構確認を行う。そこから堅穴住居跡の一部が検出され、遺構精査を行う。これと併せて調査器材等を洗浄・梱包し、撤収の準備と後片付けを行う。
- 7月24日 調査器材・出土遺物・記録類等をトラックで搬出し、調査を終了した。その後、調査事務所、器材庫、発掘作業員休憩所や仮設トイレの撤去、さらにプレハブ用地・駐車場用地・農道迂回路用として敷設していた鉄板も搬出し、7月末にはすべての作業を完了した。

2 整理・報告書作成作業の経過

平成21年度調査の報告書作成事業は平成22年度に実施することになったが、写真類の整理作業等は発掘作業終了後の平成21年11月に終了している。この他の整理・報告書作成作業は平成22年4月1日から平成23年3月31日までの期間で行った。中平遺跡は縄文時代と古代の複合遺跡であり、検出遺構の中では古代の堅穴住居跡が多く、出土遺物も古代の土器が多い点等を考慮して、これに応じた整理作業の工程を計画した。報告書の総頁数は、平成21・22年度の調査成果2ヶ年を合わせて360頁の予定とし、この約7/8を古代の遺構・遺物の記載にあてることにした。

平成22年度の整理・報告書作成体制は、以下のとおりである。

調査主体 青森県埋蔵文化財調査センター
 所長 新岡 嗣浩（現、青森県総合社会教育センター所長）

| | |
|---------|----------------------------|
| 次 長 | 畠山 昇（平成23年3月退職） |
| 総務GM | 木村 繁博 |
| 調査第二GM | 中嶋 友文（現、調査第一GM） |
| 文化財保護主幹 | 神 康夫（報告書作成担当者） |
| 調査補助員 | 三宅 奈央子 佐々木 隆英 |
| 整理作業員等 | 工藤 好枝 小林 恵 宇恵野 聡子 及川 晶子 |

平成21年度調査に関する整理・報告書作成作業の経過、業務委託状況等は、以下のとおりである。

〔平成21年度〕

- 11月 写真類の整理作業と図面類の整理作業の一部を行った。写真類の整理作業は終了した。
- 12月 竪穴住居跡等から出土した炭化材について、株式会社パレオ・ラボへ樹種同定を委託した。

〔平成22年度〕

- 4月上旬 発掘作業で作成した図面類の整理作業と遺物の洗浄・注記作業を行った。図面類は、必要に応じて図面修正を行い、それをもとに個別遺構図や遺構配置図の作成を開始した。出土遺物は、農道ごと、遺構ごと、グリッドごと、層位ごとに出土遺物の点数と重量の計測を行い、遺物台帳等を作成した。
- 4月下旬 計測作業の終了後、遺構・グリッド・農道路線ごとに土器類の接合作業を開始した。
- 6月中旬 接合された土器にボンド・石膏を入れて復元し、実測作業等に耐えられるよう補強した。
- 7月上旬 復元作業の終了後、遺物の検討・分類・整理作業を経て、土器類・石器類とも報告書掲載予定遺物を選定した。選定された遺物には農道ごとの整理番号をナンバリングし、遺物整理一覧表を作成した。遺物整理一覧表に接合状況や図化手順も記載し、整理作業のスムーズ化を図った。これを基に7月中旬以降、土器類の実測図作成、断面図作成、拓本採りなど本格的な整理作業に入っていた。
- 7月下旬 柴正敏教授（弘前大学理工学部）に中平遺跡出土火山灰について原稿執筆を依頼した。
- 8月上旬 竪穴住居跡等から出土した炭化材について、AMS法による放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所へ委託した。
- 10月中旬 平成21・22年度の調査資料をまとめて、微化石類を中心とした薄片分析法による粘土等材料分析を株式会社パレオ・ラボに委託した。土器類の整理作業では、拓本採りを行った。
- 11月中旬 遺構図は報告書の体裁に合わせた図版組み作業に着手した。遺物関係は、拓本採りが終わり中断していた土器類の実測作業に戻ったが、それに加えて石器類の実測図作成作業にも着手した。報告書掲載遺物の写真撮影は、土器類はシルバーフォートに、石器類はスタジオ・エイトにそれぞれ委託して撮影した。
- 12月中旬 調査成果を総合的に検討して、報告書の原稿作成を開始した。遺物の実測作業も古代の土器の器面調整等本格的な作業に突入していった。
- 1～2月 粗原稿や仮図版、仮写真図版等を作成し、報告書の内容・ページ数を再確認した。実測が終わった遺物は順次トレース作業を行い、印刷用版下を作成していった。
- 3月 原稿、遺構図版、遺物観察表、遺構及び遺物写真図版などの精査を繰り返して、原稿・版

下等を完成させた。来年度、印刷業者へスムーズに入稿できるように、割付・編集作業などを詰めていった。

3月30日 出土遺物や記録類の整理作業を行う。最後に記録類・出土品を整理・収納して平成22年度の整理作業は終了した。

第4節 平成22年度調査分の経過等

1 発掘作業の経過

平成22年度の中平遺跡発掘調査では、これまで未着手だった事業対象路線4本を調査し、県営野沢地区畑地帯総合整備事業に関する発掘調査（現地調査）を終了することを委託者より要望されていた。そこでまずは、地理的に離れた地点にあった農道25号に調査着手し、その後の状況に応じて農道1号、農道29号、農道30号の3本の調査へ移行していく方針とした。その結果、5月11日から7月23日までの発掘調査期間内で、事業対象全路線の調査を完了することができた。

平成18年度に青森県埋蔵文化財調査センターが行った確認調査の結果、縄文時代・古代の遺物・遺構が確認されているものの表土から古代の遺構確認面までは畑地造成や砂利道として攪乱されていたことが分かっていたので、重機を使用して掘削の省力化を図り、古代の遺構検出・調査、縄文時代の遺物包含層・遺構検出・調査の順に発掘作業を進めることにした。発掘調査体制は以下のとおりである。

| | | | |
|---------|----------------|-----|---------------------|
| 調査主体 | 青森県埋蔵文化財調査センター | | |
| 所長 | 新岡 | 嗣浩 | （現、青森県総合社会教育センター所長） |
| 次長 | 島山 | 昇 | （平成23年3月退職） |
| 総務GM | 木村 | 繁博 | |
| 調査第二GM | 中嶋 | 友文 | （現、調査第一GM） |
| 文化財保護主幹 | 神 | 康夫 | （発掘調査担当者） |
| 文化財保護主査 | 工藤 | 忍 | （発掘調査担当者） |
| 調査補助員 | 三宅 | 奈央子 | 工藤 あすか |
| | 太田 | 大輔 | 秋元 雅貴 |

専門的事項に関する指導・助言

| | | |
|-------|-------|-------------------------|
| 調査指導員 | 村越 潔 | 前国立大学法人弘前大学名誉教授・故人（考古学） |
| 調査員 | 葛西 勵 | 前青森短期大学教授（考古学） |
| | 山口 義伸 | 青森県立浪岡高等学校教諭（地質学） |

発掘作業の経過、業務委託状況等は、以下のとおりである。

〔平成22年度〕

4月中旬 青森県東青地域県民局地域農林水産部（調査委託者）、青森県教育庁文化財保護課と調査前の打合せを行い、発掘作業の進め方等について再度確認した。

5月上旬 調査事務所、器材庫、発掘作業員休憩所や仮設トイレの設置、駐車場の整備等、事前の準備作業を行った。

- 5月10日 昨年度までの調査結果を踏まえ発掘作業員による遺構確認作業がスムーズに行えるよう、最初に着手する農道25号で重機を使用して表土（農道に敷設されている碎石）掘削及び除去作業を開始した。表土（碎石）の掘削・除去にあたっては、農作業用車両が通行出来る幅員・高低差等を確保した迂回路を敷鉄板で設置した上での作業となった。
- 5月11日 発掘器材等を調査事務所、器材庫に搬入し、職員2名、補助員4名、発掘作業員43名の規模で発掘調査を開始した。環境整備後、農道25号の北西端部から発掘作業員による遺構確認作業に着手した。測量基準点・水準点は工事用のものを使用し、必要に応じて調査区周辺に増設した。
- 5月中旬 農道25号では竪穴住居跡や土坑などが検出され、早々に遺構精査へ取り組むこととなった。これと併行して、農道1号にも車両通行用の鉄板敷設作業を行って、重機を使用して表土（碎石）の掘削・除去作業を行う。農道1号は農道隣地（調査区脇の畑地）に鉄板を敷設することができないので、約6mの農道幅員の南東半3m分を迂回路、北西半3m分を調査区とした。
- 5月下旬 農道1号にも作業員を投入して北東側より遺構確認作業を行う。黒色土中で焼土遺構などが検出されるものの遺構密度が薄く、調査は着々と進んだ。長さ約180mの農道1号では、測量・写真撮影など記録を取り次第調査区を埋め戻して迂回路とし、未調査の迂回路部分を調査するという行程を繰り返すこととなる。特に農道29号・農道30号と接続するT字路部分は土地に余裕がないことから、小範囲で調査区と迂回路の付け替えを繰り返すこととなった。
- 6月上旬 農道25号で調査が終了した部分を埋め戻して碎石を敷き、未調査部分の調査に着手する。これに伴って農道25号で使用していた鉄板を農道30号へ移設して車両迂回路とし、南東部の流末水路部分から重機を使用して表土除去作業を開始する。
- 6月中旬 農道25号では竪穴住居跡5棟をはじめとする比較的高密度で検出された遺構の精査、農道1号及び農道30号では遺構確認作業と遺構精査、ということに主眼を置いて調査を進める。6月11日には青森市立浪岡野沢小学校5・6年生（児童36名、教員4名）が遺跡見学に訪れ、野沢地区の古代の生活に思いを巡らせる。
- 6月下旬 竪穴住居跡5棟が検出された農道25号で遺構の精査に目処が立ってきたことから、最後の調査路線である農道29号の調査準備を始める。農道30号では4棟の竪穴住居跡が確認されたもののカマドが調査区内にないものが多く、出土遺物も少なかったことから遺構精査は比較的スムーズに進んだ。
- 7月上旬 7月1日に農道25号の調査が終了し、農道29号の遺構確認作業に7月5日から着手する。残り3週間となったことから基本的に農道30号と農道29号の遺構確認と遺構精査に注力することとした。一方、迂回路付け替え等手数を必要とするが遺構が薄いと見込んだ農道1号は、間隙を縫って小区域ごとに調査していくこととした。
- 7月中旬 天候不順ながら何とか遺構精査を進め、7月14日、株式会社シン技術コンサルに空中写真撮影を委託し、遺跡全景及び遺構群等を撮影する。未調査区域がわずかに残っていた農道29・30号では調査終了区域に碎石を敷き均して迂回路を付け替えて表土を除去し、遺

構確認を行った。その結果、農道29号では第3号建物跡や土坑等、農道30号では第5号
 竪穴住居跡と第2号溝跡の一部を検出したことから、急ピッチで遺構精査を行った。

- 7月20日 遺構精査、地形測量、調査区完掘写真撮影等を行い、農道1号の調査を終了した。
- 7月22日 遺構精査、地形測量、調査区完掘写真撮影等を行い、農道29号の調査を終了した。出土
 遺物・調査図面等の記録類を整理・収納し、調査器材等を洗浄・梱包した。
- 7月23日 調査器材・出土遺物・記録類等をトラックで搬出し、調査事務所、器材庫、発掘作業員休
 憩所や仮設トイレの撤去を始める。その後、プレハブ用地・駐車場用地・農道迂回路用と
 して敷設していた鉄板の搬出作業も順調に進み、7月末にはすべての作業を完了した。

2 整理・報告書作成作業の経過

平成22年度調査の報告書作成事業は平成23年度に実施することになったが、写真類の整理作業等
 は発掘作業終了後の平成22年11月に終了している。この他の整理・報告書作成作業は平成23年4月
 1日から平成24年3月31日までの期間で行った。中平遺跡は縄文時代と古代の複合遺跡であり、検
 出遺構の中では古代の竪穴住居跡が多く、出土遺物も古代の土器が多い点等を考慮して、これに応じ
 た整理作業の工程を計画した。報告書の総頁数は、平成21・22年度の調査成果2ヶ年を合わせて360
 頁の予定とし、この約7/8を古代の遺構・遺物の記載にあてることにした。

平成23年度の整理・報告書作成体制は、以下のとおりである。

調査主体 青森県埋蔵文化財調査センター

| | |
|---------|-------------------|
| 所 長 | 松田 守正 |
| 次 長 | 成田 滋彦 |
| 総務GM | 木村 繁博 |
| 調査第一GM | 中嶋 友文 |
| 文化財保護主幹 | 神 康夫（報告書作成担当者） |
| 文化財保護主査 | 工藤 忍（報告書作成担当者） |
| 文化財保護主査 | 田中 珠美（報告書作成担当者） |
| 調査補助員 | 三宅 奈央子 太田 大輔 |
| 整理作業員等 | 工藤 好枝 及川 晶子 阿部 志穂 |

平成22年度調査分に関する整理・報告書作成作業の経過、業務委託状況等は、以下のとおりである。
 [平成22年度]

- 11月 写真類の整理作業と図面類の整理作業の一部を行った。写真類の整理作業は終了した。
- 12月 竪穴住居跡等から出土した炭化材について、株式会社パレオ・ラボへ樹種同定及びAMS
 法による放射性炭素年代測定を委託した。

[平成23年度]

- 4月上旬 発掘作業で作成した図面類の整理作業と遺物の洗浄・注記作業を行った。遺構図面類は、
 必要に応じて図面修正を行い、それをもとに個別遺構図や遺構配置図の作成を開始した。
 出土遺物は、農道ごと、遺構ごと、グリッドごと、層位ごとに出土遺物の点数と重量の計
 測を行い、遺物台帳等を作成した。

- 5月上旬 計測作業の終了後、遺構・グリッド・農道路線ごとに土器類の接合作業を開始した。
- 6月中旬 接合された土器にボンド・石膏を入れて復元し、実測作業等に耐えられるよう補強した。
- 6月下旬 柴正敏教授（弘前大学理工学部）に中平遺跡出土火山灰について原稿執筆依頼を行った。
- 7月上旬 復元作業の終了後、遺物の検討・分類・整理作業を経て、土器類及び石器類の報告書掲載予定遺物を選定した。選定された遺物には農道ごとの整理番号をナンバリングし、遺物整理一覧表を作成した。遺物整理一覧表に接合状況や図化手順も記載し、整理作業のスムーズ化を図った。これを基に7月中旬以降、土器類の拓本採り、断面図作成、実測図作成など本格的な整理作業に入っていた。
- 8月上旬 拓本採り作業が終了し、土器類の断面図作成、外形実測図作成へと進む。
- 10月上旬 外形実測が概ね図化できたことから、土器類の器面調整等、詳細な観察・検討を加えながらの図化作業へ移行する。
- 11月上旬 報告書掲載遺物の写真撮影は、土器類はシルバーフォトに、石器類はフォトショップいなみにそれぞれ委託して撮影した。
- 11月下旬 石器類・鉄製品等の実測図を作成し、併せて遺構図・遺物図とも報告書の体裁に合わせた図版組み作業に着手した。また調査成果を総合的に検討し、報告書の原稿作成を開始した。
- 12月中旬 粗原稿や仮図版、仮写真図版等を作成し、報告書の内容・ページ数を再確認した。土器類の実測図最終確認作業を行って、土器類・石器類・鉄製品等のトレース作業に入る。
- 1月上旬 トレースされた遺物実測図で印刷用版下を作成していき、それを基に遺物観察表の確認、遺物写真の切り抜き作業、写真図版の作成を行っていく。図版を基に原稿執筆をさらに進め、推敲を繰り返す。
- 1月下旬 原稿、遺構図版、遺物観察表、遺構及び遺物写真図版などの精査を繰り返して、原稿・版下等を完成させる。割付・編集作業では、平成22年度に作成していた原稿・版下等とも組み合わせて全体の体裁を整える必要があり、その作業を経てから印刷業者へ入稿した。
- 2月 印刷業者との打合せ・調整を繰り返し、3回の校正を行う。併せて出土遺物や記録類の整理作業にも着手する。
- 3月28日 2ヶ年分の調査内容と中平遺跡を総括する内容を盛り込んだ報告書を刊行した。

第2章 遺跡周辺の地形と基本層序

第1節 遺跡周辺の地形

中平遺跡は梵珠山系の南西麓に広がる扇状地性の低位段丘上で、標高35～40mの緩やかな小丘地上に位置している（図1・2、表1）。小丘地の南北には東西に延びる開析谷が存在し、北側の谷上流部と南側の谷が堰き止められ、それぞれ吉野田新溜池、熊沢溜池として現在利用されている。小丘地頂部はりんご園造成のために削平され、ほぼ平坦となっている。遺跡周辺の詳細な地形・地質については青森県埋蔵文化財調査報告書第474集『中平遺跡』（青森県教委2009）を参照されたい。

第2節 基本層序

基本層序はこれまでの調査成果の蓄積があることから、遺構確認及び精査作業に伴って基本層序を再確認してこれまでの調査成果を追認していく手法を採った。基本層序の記録位置は図3に、各土層を図6に示した。第Ⅴ層より上層では各路線の層序に大きな変化は見られないが、上面の削平により欠落する層や傾斜地・谷地形などの地形により細分可能な層があり、その状況は地点によって異なる。したがって第474集及び第490集での基本層序とも若干食い違いがみられる部分もあるが、調査地点が異なっているということをご了承いただきたい。

今回の調査地点での各層の色調及び諸特徴の概要は以下のとおりである。

第Ⅰ層 10YR1.7/1～2/3 黒色～黒褐色土

表土もしくは耕作土で、 ϕ 1～2mmのローム粒をわずかに混入する。盛土（造成）が施される地点ではロームが帯状に含まれる暗褐色土や焼土・灰・碎石などが混入する。

第Ⅱ層 10YR1.7/1～3/4 黒色～暗褐色土

平安時代の包含層で、ローム粒や焼土粒をわずかに混入する。基本層序C・E・Gでは白頭山苦小牧火山灰（B-Tm）と思われる火山灰を含む。農道29号（基本層序E）では火山灰を含まない第Ⅱa層と、火山灰を含みやや明るい色調をなす第Ⅱb層に細分された。

第Ⅲ層 10YR1.7/1～2/3 黒色～黒褐色土

縄文時代の包含層で、ローム粒や焼土粒をわずかに混入する。農道1号北東部、農道25～30号の南東端の傾斜地では厚く堆積している。農道27号南東部（基本層序D）では、ローム粒混入の多寡により第Ⅲa層と第Ⅲb層に細分された。

第Ⅳ層 10YR2/1～4/6 黒褐色～暗褐色～褐色土

漸移層で第Ⅴ層に由来するローム粒・ブロックを中量含む。農道1号北東部や農道27号の一部など部分的に下位のⅤ層が粘土質である地点では、本層下部もやや粘土質を帯びる。

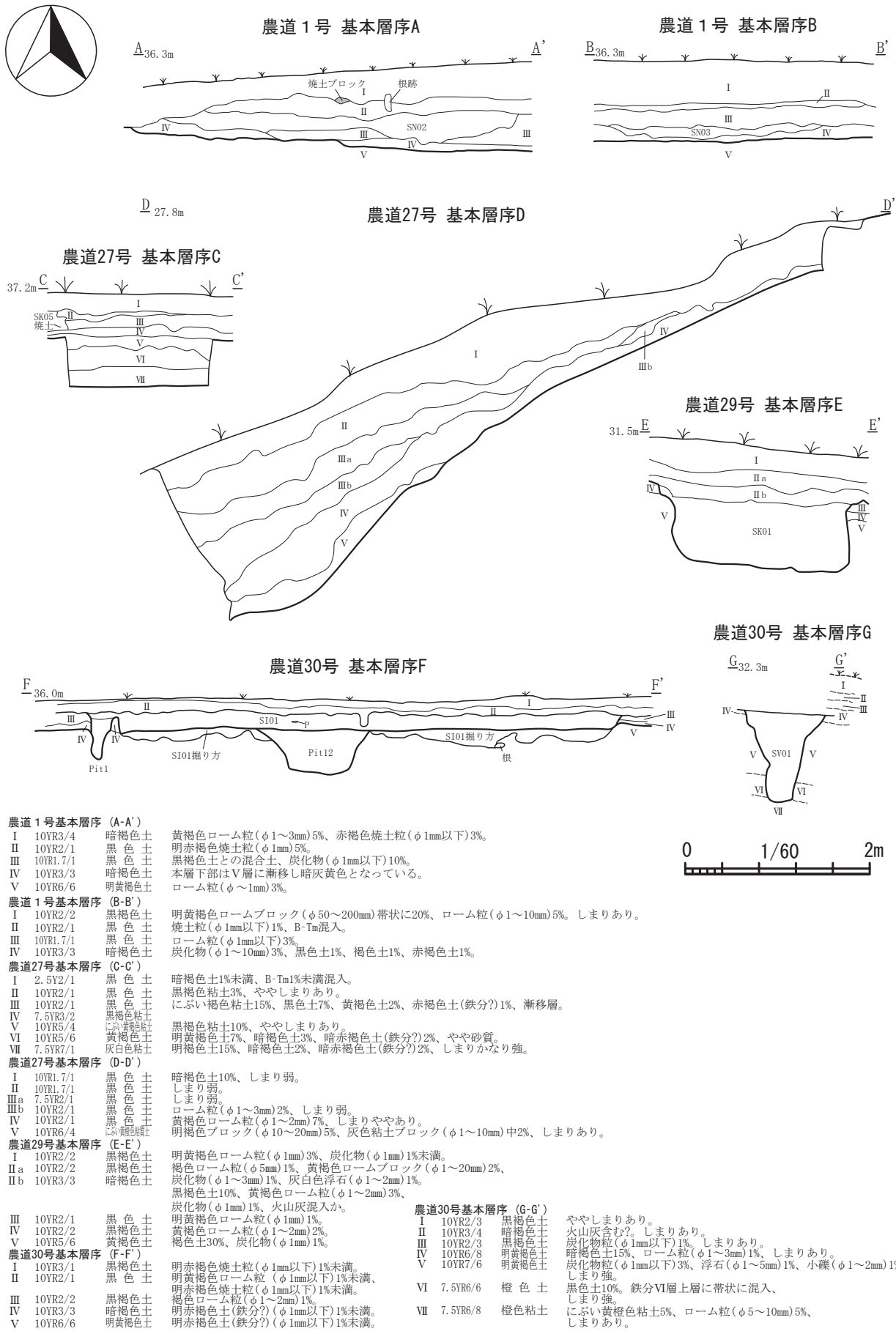
第Ⅴ層 10YR5/4～8/6 にぶい黄褐色～明黄褐色～黄橙色ローム質土

千曳浮石に対比される。 ϕ 5mmまでの浮石をわずかに混入する。農道1号北東部や農道27号の一部など、部分的に粘土化する地点もある。

第Ⅵ層 10YR5/6～7.5YR6/6 黄褐色～橙色土

やや粘土質で、酸化鉄が筋状もしくは帯状に混入する。

第Ⅶ層 10YR 7/1～7.5YR 6/8 灰白色～橙色粘土 緻密で締まりがある粘土層。



- 農道1号基本層序 (A-A')**
- I 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色ローム粒(φ1~3mm)5%、赤褐色焼土粒(φ1mm以下)3%。
 - II 10YR2/1 黒色土 明赤褐色焼土粒(φ1mm)5%。
 - III 10YR1.7/1 黒色土 黒褐色土との混合土、炭化物(φ1mm以下)10%。
 - IV 10YR3/3 暗褐色土 本層下部はV層に漸移し暗灰黄色となっている。
 - V 10YR6/6 明黄褐色土 ローム粒(φ~1mm)3%。
- 農道1号基本層序 (B-B')**
- I 10YR2/2 黒褐色土 明黄褐色ロームブロック(φ50~200mm)帯状に20%、ローム粒(φ1~10mm)5%。しまりあり。
 - II 10YR2/1 黒色土 焼土粒(φ1mm以下)1%、B-Tm混入。
 - III 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1mm以下)3%。
 - IV 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~10mm)3%、黒色土1%、褐色土1%、赤褐色土1%。
- 農道27号基本層序 (C-C')**
- I 2.5Y2/1 黒色土 暗褐色土1%未満、B-Tm1%未満混入。
 - II 10YR2/1 黒色土 黒褐色粘土3%、ややしまりあり。
 - III 10YR2/1 黒色土 にぶい褐色粘土15%、黒色土7%、黄褐色土2%、赤褐色土(鉄分?)1%、漸移層。
 - IV 7.5YR3/2 黒褐色粘土
 - V 10YR5/4 暗褐色土 黒褐色粘土10%、ややしまりあり。
 - VI 10YR5/6 黄褐色土 明黄褐色土7%、暗褐色土3%、暗赤褐色土(鉄分?)2%、やや砂質。
 - VII 7.5YR7/1 灰白色粘土 明褐色土15%、暗褐色土2%、暗赤褐色土(鉄分?)2%、しまりかなり強。
- 農道27号基本層序 (D-D')**
- I 10YR1.7/1 黒色土 暗褐色土10%、しまり弱。
 - II 10YR1.7/1 黒色土 しまり弱。
 - IIIa 7.5YR2/1 黒色土 しまり弱。
 - IIIb 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~3mm)2%、しまり弱。
 - IV 10YR2/1 黒色土 黄褐色ローム粒(φ1~2mm)7%、しまりややあり。
 - V 10YR6/4 明黄褐色土 明褐色ブロック(φ10~20mm)5%、灰白色粘土ブロック(φ1~10mm)中2%、しまりあり。
- 農道29号基本層序 (E-E')**
- I 10YR2/2 黒褐色土 明黄褐色ローム粒(φ1mm)3%、炭化物(φ1mm)1%未満。
 - IIa 10YR2/2 黒褐色土 褐色ローム粒(φ5mm)1%、黄褐色ロームブロック(φ1~20mm)2%。
 - IIb 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~3mm)1%、灰白色浮石(φ1~2mm)1%。
- 農道30号基本層序 (F-F')**
- I 10YR3/1 黒褐色土 明赤褐色焼土粒(φ1mm以下)1%未満。
 - II 10YR2/1 黒色土 明黄褐色ローム粒(φ1mm以下)1%未満、明赤褐色焼土粒(φ1mm以下)1%未満。
 - III 10YR2/2 黒褐色土 褐色ローム粒(φ1~2mm)1%。
 - IV 10YR3/3 暗褐色土 明赤褐色土(鉄分?)(φ1mm以下)1%未満。
 - V 10YR6/6 明黄褐色土 明赤褐色土(鉄分?)(φ1mm以下)1%未満。
- 農道30号基本層序 (G-G')**
- I 10YR2/3 黒褐色土 ややしまりあり。
 - II 10YR3/4 暗褐色土 火山灰含む?、しまりあり。
 - III 10YR2/3 黒褐色土 炭化物粒(φ1mm以下)1%、しまりあり。
 - IV 10YR6/8 明黄褐色土 暗褐色土15%、ローム粒(φ1~3mm)1%、しまりあり。
 - V 10YR7/6 明黄褐色土 炭化物粒(φ1mm以下)3%、浮石(φ1~5mm)1%、小礫(φ1~2mm)1%、しまり強。
 - VI 7.5YR6/6 橙色土 黒色土10%、鉄分VI層上層に帯状に混入、しまり強。
 - VII 7.5YR6/8 橙色粘土 にぶい黄褐色粘土5%、ローム粒(φ5~10mm)5%、しまりあり。

図6 基本層序

第3章 平成21年度の検出遺構と出土遺物

第1節 農道2号

農道2号の平成21年度調査区は図7にあるとおり平成20年度調査区の西側、標高約36.5mの平坦な台地上に位置している。北西から南東に延びる調査区で、長さ約45m、幅7.5～12mの420㎡を調査した。平成21年度の調査において検出された遺構は、土坑1基、ピット1基、焼土遺構1基で、出土した遺物は縄文土器・土師器・石器等、段ボール箱1箱分である。平成20年度の調査では、建物跡5棟、竪穴住居跡1軒、土坑7基、溝跡3条、掘立柱建物跡2棟、溝状土坑1基が調査区東側に偏在して検出されており、今回の調査区は遺構密度が薄い西側地区に隣接する地点で、縄文・平安時代の土器8点、石器が1点、近代の陶磁器1点が出土した。

以下に各遺構の記述を行うが、平成21年度調査で検出された土坑及びピットは前回調査の遺構名と重複することになるため、整理段階で次のとおり改称した。

| | | |
|--------------|---|---------------|
| (調査時名称) SK01 | → | SK08 (整理時名称) |
| (調査時名称) SP01 | → | SP106 (整理時名称) |

1 検出遺構

(1) 土坑

第8号土坑 (SK08 (旧SK01)、図8・9)

[位置・確認] 調査区北端、2-79グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.0mである。第V層上面で確認し、他遺構との重複は認められないが一部攪乱によって遺存していない。調査時は第1号土坑 (SK01) として精査したが、平成20年度調査成果と遺構番号が重複することから、整理段階で第8号土坑 (SK08) と改称した。

[平面形・規模] 調査区際にあつて、北西側は攪乱によって遺存していない。短軸は0.6mを測るが長軸は(0.8)mのみ検出され、平面形は楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは23cmで、底面は凹凸があつて断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 上層は黒色土及び黒褐色土が主体で、下層はブロック状の第V層土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 確認面から縄文土器0.13kg、土師器0.01kg、近代以降の陶磁器0.01kgが出土した。そのうち、縄文時代前期から中期の土器 (図9-2～4)、土師器片 (1) を図示した。本土坑は、古代以降の土坑である可能性が高い。

(2) ピット

農道2号からは1基のピットが検出された。調査時は第1号ピット (SP01) として精査したが、平成20年度調査成果と重複することから、整理段階で第106号ピット (SP106) と改称した。

第106号ピット (SP106 (旧SP01)、図8・9)

[位置・確認] 2-75グリッドに位置し、標高は約36.1mである。

[平面形・規模・堆積土] 規模は長軸14cm、短軸11cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは5cmを測る。堆積土は第V層土粒を含む黒褐色土であった。

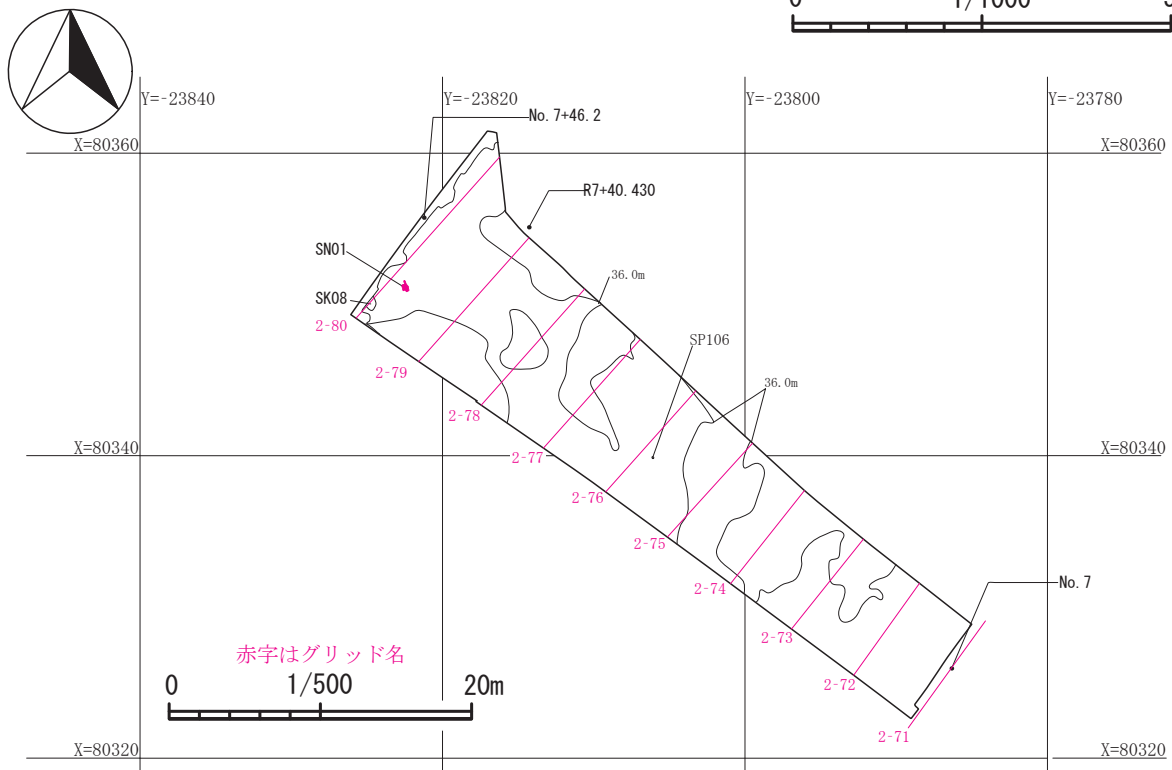
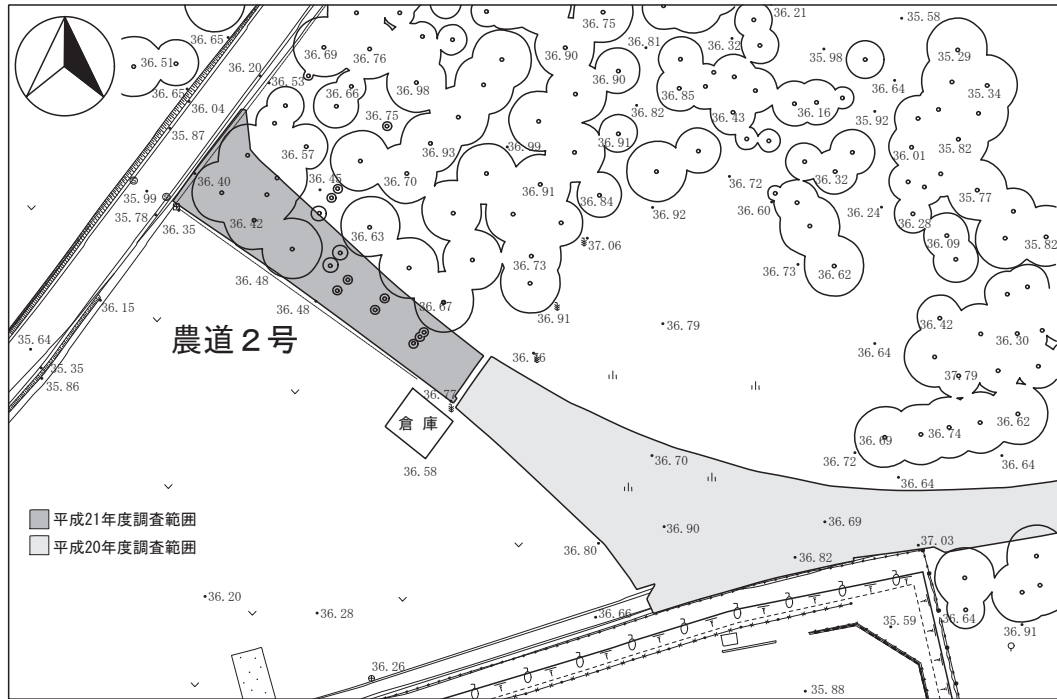
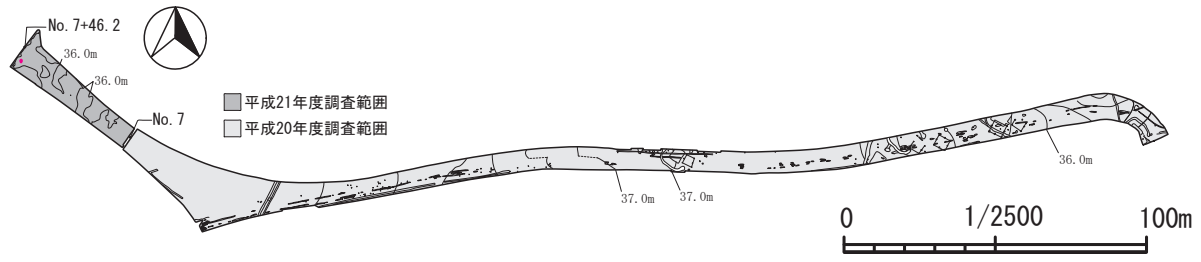


図7 農道2号地形図・遺構配置図

[出土遺物・遺構の時期等] 覆土から有茎石鏃1点(図9-6)が出土した。石鏃はピットに混入した可能性もあり、明確な遺構の時期を特定することはできない。

表3 農道2号 SP計測表

| SP 番号 | 掲載 図版番号 | グリッド | 座標値 | | 標高 (m) | 規模 (cm) | | | 備考 |
|----------|------------|------|---------|----------|-----------|---------|----|----|-------------------|
| | | | X | Y | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| 106 | 7・8 | 275 | 80339.9 | -23806.1 | 36.1 | 14 | 11 | 5 | 旧SP01。石鏃(図9-6)出土。 |

(3) 焼土遺構

第1号焼土遺構 (SN01、図8)

[位置・確認] 2-79グリッドに位置し、標高は約36.0mである。第IV・V層を掘り込んで堆積した黒色土中に焼土が確認された。

[平面形・規模・堆積土] 規模は長軸76cm、短軸39cmの不整形を呈する。黒色土が広がる確認面中央部に焼土が検出され、その下層まで黒色土が堆積している。黒色土と焼土の境界は漸移していることから投げ込まれた焼土ではなく、火を焚いたことによる焼土と判断できる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しておらず、時期も不明である。

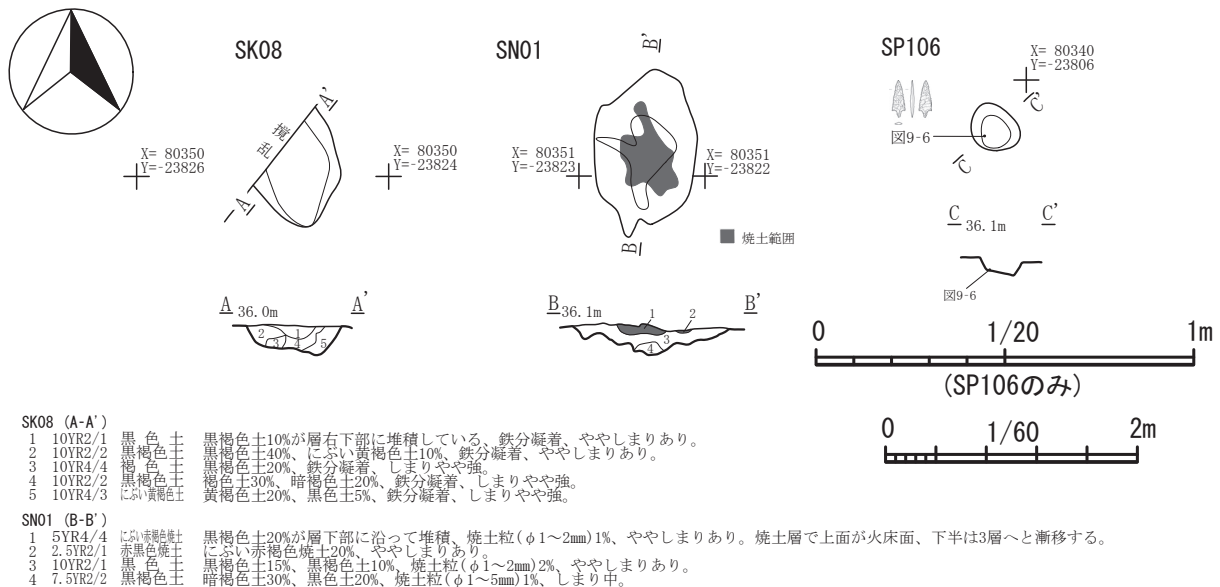


図8 農道2号 検出遺構

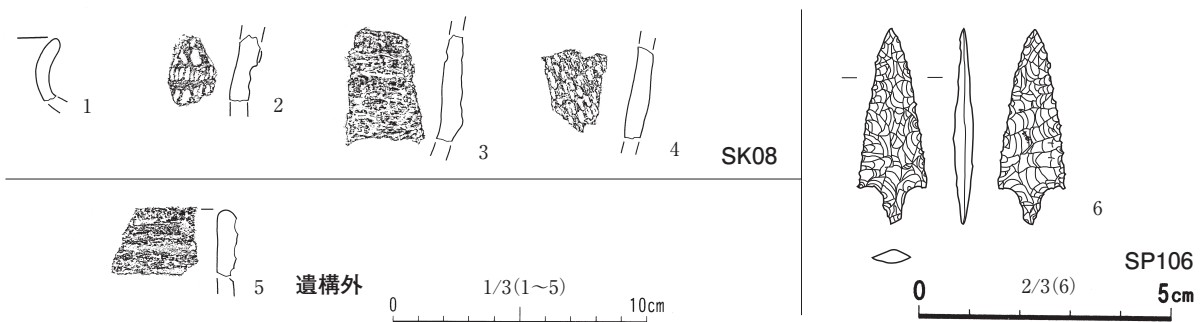


図9 農道2号出土遺物

2 遺構外の出土遺物

遺構外から縄文土器0.01kg、土師器0.01kg、合計0.02kgの土器類が出土し、縄文時代中期から後期のものと思われる土器片1点を、図9-5に示した。

3 遺物観察表

表4 農道2号出土土器類 観察表

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 部位 | 計測値 (cm) | | | 外面調整 (文様) | 内面調整 (文様) | 備考 (底面調整、時期等) |
|------|------|------|----------|------|----|-----|----------|----|-------|------------------------------|-----------|------------------|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 9 | 1 | SK08 | 旧SK01確認面 | 土師器 | 小甕 | 口縁部 | - | - | (2.3) | 横ナデ | ナデ | |
| 9 | 2 | SK08 | 旧SK01確認面 | 縄文土器 | 深鉢 | 頸部 | - | - | (2.5) | 絡糸体側面圧痕、縄端圧痕?、結束第1種 (LR・RL)? | ミガキ | 前期末~中期初 |
| 9 | 3 | SK08 | 旧SK01確認面 | 縄文土器 | 深鉢 | 頸部? | - | - | (4.1) | (外面剥落) | ナデ | 植物繊維多量。前期 |
| 9 | 4 | SK08 | 旧SK01確認面 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (3.5) | 多軸絡糸体 (r) | ナデ | 植物繊維混入。前期 |
| 9 | 5 | 遺構外 | 2-71 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (2.6) | 沈線 | ナデ | 中期末~後期初 |

表5 農道2号出土石器 観察表

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 石質 | 計測 (mm) | | | 重さ (g) | 備考 |
|------|------|-------|-----------|----|----|----|---------|----|----|--------|----|
| | | | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | |
| 9 | 6 | SP106 | 覆土S1、2-75 | 石器 | 石鏃 | 頁岩 | 39 | 14 | 4 | 1.6 | |

第2節 農道26号

農道26号は遺跡の存在する台地の南側縁辺部に位置し、北西から南東に延びる調査区で本路線の南端は熊沢溜池に落ちていく沢頭につながっている。メインとなる農道26号調査区は、長さ約82m、幅約5.3m、直交する農道1号以南の流末水路部分は長さ約45m、幅約2.2mでさらに狭くなっており、併せて526㎡を調査した。調査前の標高は、北西端で約36.8m、南東の26-113グリッド付近が約31.8mで南東側へ傾斜し、26-114グリッドで急激に沢へ落ちていく。

農道26号で検出された遺構は、土坑1基、ピット8基、焼土遺構1基である。遺構の配置状況は、標高36.7mの平場である26-4~7グリッド間でピット7基、台地縁辺部にあたる26-103・111・113グリッドで土坑・焼土遺構・ピットが各1基であった。土坑及び焼土遺構は縄文時代の可能性があるが、ピットの帰属時期は不明である。本農道で出土した遺物は、縄文土器が主体をなし、土師器、須恵器、近代以降の陶磁器等も含めて合計段ボール箱1箱分であった。

以下、各遺構について記述していくこととする。なお、第1号土坑（SK01）及び第1号焼土遺構（SN01）は欠番となっている。

1 検出遺構

(1) 土坑

第2号土坑（SK02、図12）

[位置・確認] 調査区南側、26-111グリッドに位置し、標高は約32.6mである。第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は直径約0.8mの歪な円形を呈し、確認面からの深さは28cmである。底面は概ね平坦で、断面形は壁が垂直に立ち上がるコ字状をなしている。

[堆積土] 主として黒褐色土が堆積し、壁際には地山のローム粒を含んだ暗褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかったため時期を特定することができないが、堆積土の状況等から、縄文時代の遺構の可能性はある。

(2) ピット

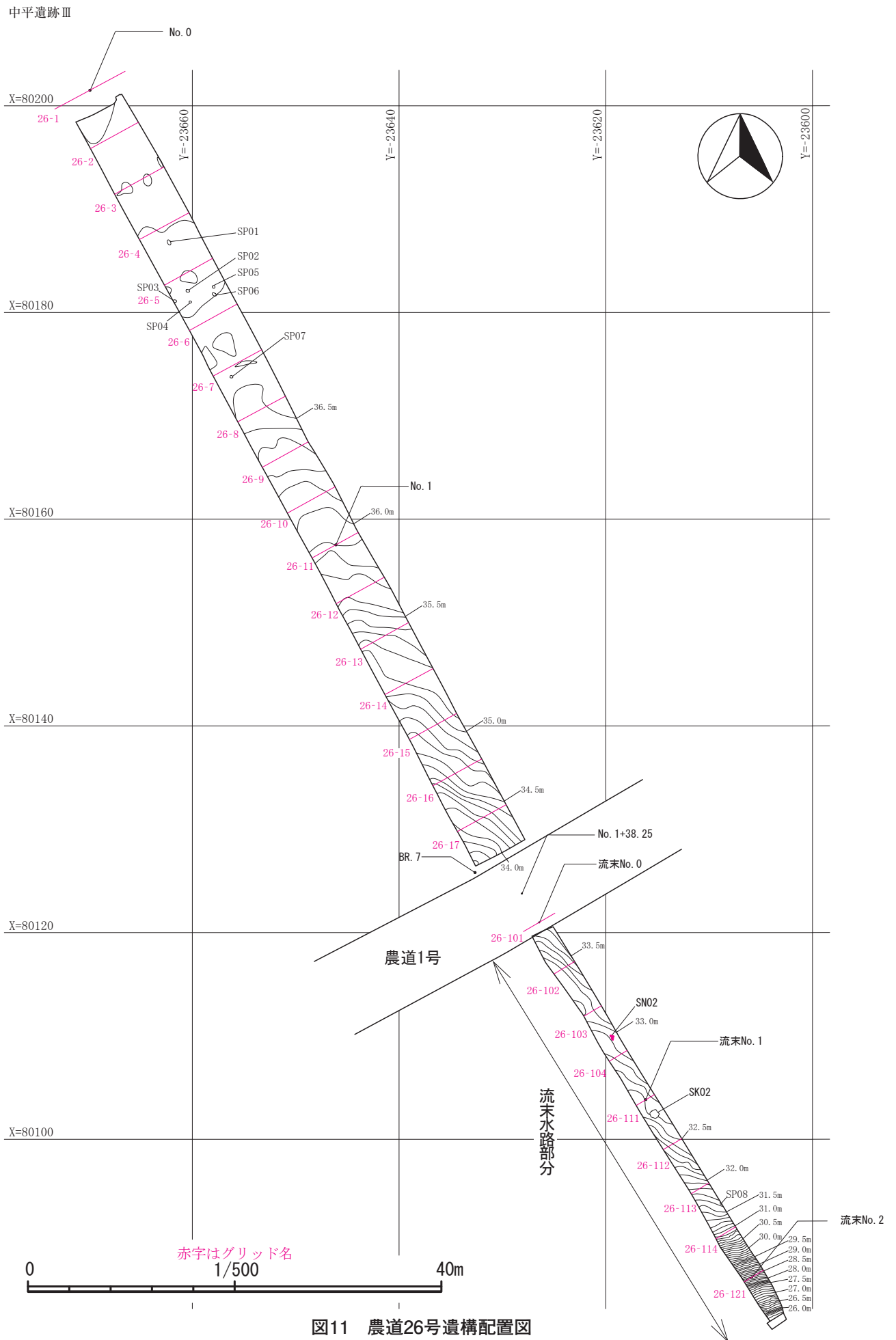
農道26号からは8基のピットが検出された。ピットの位置は図11の遺構配置図に、計測値等は表6に示した。1基のみが台地の縁際である26-113グリッドに位置しているほかは、7基のピットすべて北側の26-5グリッド周辺にまとまるように検出された。これらは掘立柱建物等を構成しないものと思われ、帰属時期も不明である。

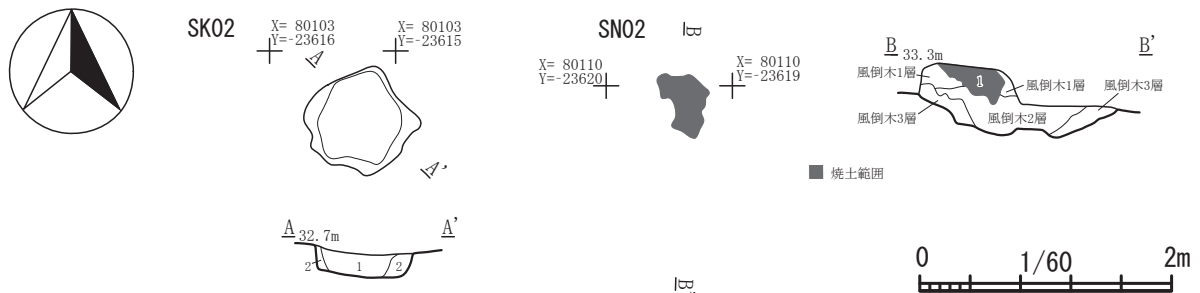
表6 農道26号 SP計測表

| SP 番号 | 掲載 図版番号 | グリッド | 座標値 | | 標高 (m) | 規模 (cm) | | | 備考 |
|----------|------------|--------|---------|----------|-----------|---------|------|----|----|
| | | | X | Y | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| 1 | 11 | 26-4 | 80186.8 | -23662.2 | 36.7 | 52 | 30 | 74 | |
| 2 | 11 | 26-5 | 80182.1 | -23660.4 | 36.2 | 36 | 28 | 34 | |
| 3 | 11 | 26-5 | 80181.1 | -23661.7 | 36.8 | (26) | 28 | 25 | |
| 4 | 11 | 26-5 | 80181.0 | -23660.2 | 36.7 | 27 | 24 | 31 | |
| 5 | 11 | 26-5 | 80182.5 | -23657.9 | 36.7 | 31 | 27 | 28 | |
| 6 | 11 | 26-5 | 80181.8 | -23657.9 | 36.7 | 44 | 26 | 35 | |
| 7 | 11 | 26-7 | 80173.8 | -23656.2 | 36.5 | 29 | 26 | 22 | |
| 8 | 11 | 26-113 | 80093.8 | -23608.8 | 31.6 | 27 | (10) | 36 | |



図10 農道26号地形図





SK02 (A-A')
1 10YR2/2 黒褐色土 黒色土30%、ローム粒(φ1~2mm)3%、炭化物(φ1~2mm)2%、しまり弱。
2 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土20%が層右側に集中している、褐色粘土ブロック(φ30mm)5%、ローム粒(φ1~2mm)3%、しまり弱。

SNO2 (B-B')
1 5YR5/8 明赤褐色土 風倒木によって攪乱された焼土。黒褐色土20%、暗褐色土15%、焼土粒(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~2mm)2%、しまり中。
風倒木1 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土30%、焼土粒(φ1~5mm)2%、ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%、しまりやや中。
風倒木2 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)50%、明黄褐色ロームブロック(φ30~50mm)20%、炭化物(φ1~2mm)2%、しまり中。
風倒木3 7.5YR5/6 明褐色土 暗褐色土30%、ローム粒(φ1~10mm)10%が斑状にみられる。炭化物(φ1~2mm)、しまり中。

図12 農道26号 検出遺構

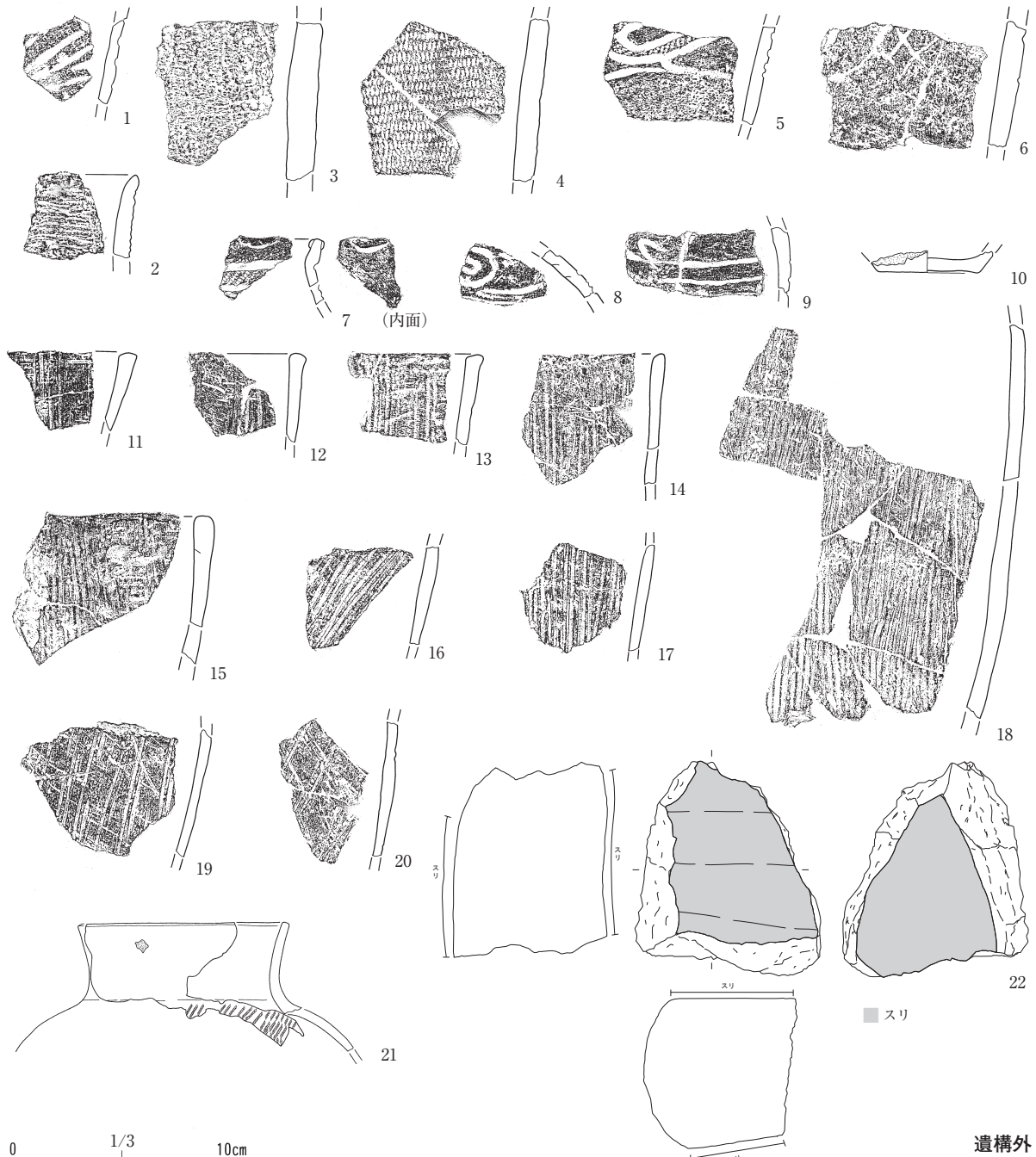


図13 農道26号出土遺物

(3) 焼土遺構

第2号焼土遺構 (SN02、図12)

[位置・確認] 26-103グリッドに位置し、標高は約32.9mである。第Ⅲ層中で確認したが風倒木痕と重複しており、本焼土遺構が風倒木痕に攪乱された可能性がある。

[平面形・規模・堆積土] 規模は長軸57cm、短軸32cmの不整形を呈する。堆積土は焼土と黒褐色土の混合土層であって火床面を検出できなかったことから廃棄焼土の可能性が高いが、風倒木によって揉まれて焼土と黒褐色土が攪拌されたとも考えることができる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。第Ⅲ層中で検出されたことから、縄文時代以降と考えられるが、それ以上の時期は特定できない。

2 遺構外の出土遺物 (図13)

農道26号の遺構外からは縄文土器1.19kg、土師器0.25kg、須恵器0.04kg、合計1.48kgの土器類、また近代の遺物や礫1.0kgが出土した。そのうち縄文土器(1~21)と石器(22)を図示したが、土師器・須恵器には図示し得る資料はなかった。

縄文土器は、早期(1)、前期(2~4)、後期前葉(5~10)、後期~晩期(11~21)のものがある。1は条痕を地文として沈線が施される早期のムシリI式と思われる土器片である。平成20年度の農道1号の調査でまともに出てきたものと同類と思われる。2~4は前期後半期のもので、胎土に植物繊維を含んでいる。5~10は後期前葉の十腰内I式土器で、広口壺(7)や同一個体と思われる壺(8・9)が出土している。11~20はナデ及び条痕で器面を整えた粗製深鉢であるが、20などは格子状に施文した可能性もある。21は晩期の広口壺で、ナデが施される直立する頸部を有している。

石器は、石皿と思われる破片1点(22)を図示した。

3 遺物観察表

表7 農道26号出土土器類 観察表

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 部位 | 計測値 (cm) | | | 外面調整 (文様) | 内面調整 (文様) | 備考 (底面調整、時期等) |
|------|------|-----|------------|------|-----|-----|----------|-----|----------------|-----------------|-----------|---------------------|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 13 | 1 | 遺構外 | 26-15Ⅲ層下部 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (3.7) | 条痕、沈線 | ナデ | 早期 |
| 13 | 2 | 遺構外 | 26-17Ⅰ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (3.8) | 単軸絡条体第1類 (R) 回転 | ナデ | 植物繊維混入。前期・円筒下層c式 |
| 13 | 3 | 遺構外 | 26-17Ⅲ層下部 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (7.3) | RRL?斜回転 | 平滑なナデ | 植物繊維多量。前期後半 |
| 13 | 4 | 遺構外 | 26-6Ⅰ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (7.5) | 多軸絡条体 (r) | ナデ | 植物繊維少量。前期後半 |
| 13 | 5 | 遺構外 | 26-4Ⅰ層 | 縄文土器 | 壺? | 胴部 | - | - | (4.5) | LR横、沈線 | ナデ | 後期・十腰内I式 |
| 13 | 6 | 遺構外 | 26-9Ⅰ層、Ⅱ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (5.8) | 単軸絡条体第5類 (L) 回転 | ナデ | 後期・十腰内I式 |
| 13 | 7 | 遺構外 | 26-4Ⅰ層 | 縄文土器 | 広口壺 | 口縁部 | - | - | (2.9) (3.0) | 粘土紐貼付、LR横、沈線 | ナデ | 後期・十腰内I式 |
| 13 | 8 | 遺構外 | 26-10Ⅱ層 | 縄文土器 | 壺 | 胴部 | - | - | (1.7) | 沈線 | 輪積痕、ナデ | 後期・十腰内I式 |
| 13 | 9 | 遺構外 | 26-9Ⅰ層、Ⅱ層 | 縄文土器 | 壺 | 胴部 | - | - | (2.0) | 沈線 | ナデ | 後期・十腰内I式 |
| 13 | 10 | 遺構外 | 26-17Ⅰ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | - | 4.6 | (1.0) | ナデ | ナデ | 底面・上げ底・オサエ。後期・十腰内I式 |
| 13 | 11 | 遺構外 | 26-7Ⅰ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (3.7) | ナデ、条痕 | ナデ | 後期~晩期 |
| 13 | 12 | 遺構外 | 26-7Ⅰ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (4.1) | ナデ、条痕 | ナデ | 後期~晩期 |
| 13 | 13 | 遺構外 | 26-7Ⅰ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (4.2) | ナデ、条痕 | ナデ | 後期~晩期 |
| 13 | 14 | 遺構外 | 26-7Ⅰ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (4.3) | ナデ、条痕 | ナデ | 後期~晩期 |
| 13 | 15 | 遺構外 | 26-11Ⅱ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (6.8) | ナデ、条痕 | 輪積痕、ナデ | 後期~晩期 |
| 13 | 16 | 遺構外 | 26-7Ⅰ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (4.5) | 条痕 | ナデ | 後期~晩期 |
| 13 | 17 | 遺構外 | 26-7Ⅰ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (5.0) | 条痕 | ナデ | 後期~晩期 |
| 13 | 18 | 遺構外 | 26-10Ⅰ層、Ⅱ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (18.0) | ナデ、条痕 | ナデ | 後期~晩期 |
| 13 | 19 | 遺構外 | 26-7Ⅰ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (5.9) | ナデ、条痕 | ナデ | 後期~晩期 |
| 13 | 20 | 遺構外 | 26-7Ⅰ層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (6.1) | ナデ、条痕 | ナデ | 後期~晩期 |
| 13 | 21 | 遺構外 | 26-13Ⅱ層 | 縄文土器 | 広口壺 | 口頸部 | (9.7) | - | (5.8) | LR横、ナデ | ナデ | 後期~晩期 |

表8 農道26号出土石器 観察表

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 石質 | 計測 (mm) | | | 重さ (g) | 備考 |
|------|------|-----|----------|----|----|-----|---------|------|------|---------|-----|
| | | | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | |
| 13 | 22 | 遺構外 | 26-9Ⅰ層 | 石器 | 石皿 | 安山岩 | (99) | (85) | (70) | (815.0) | 欠損。 |

第3節 農道27号

農道27号は、遺跡の存在する台地の南側縁辺部に位置し、北西から南東に延びる調査区で本路線の南端は熊沢溜池に落ちていく急崖につながっている。本農道は27-35グリッドで第3号取付道路が南西方向に延伸しており、熊沢溜池に平行する調査区を有している。メインとなる農道27号調査区は長さ約201m、幅約3～5.5m、流末水路部分は長さ約23m、幅約1.4mで、併せて985㎡で、第3号取付道路部分は長さ約69m、幅約2.7mの185㎡で、農道27号では合計1,170㎡を調査したこととなる。調査前の標高は、農道27号調査区北西端で約36.9m、中ほどの27-28グリッドで約35.9m、南東の27-43グリッドで約28.8mと南東方向へ傾斜している。第3号取付道路部分では北東端で標高34.5m、ピークとなる27-109グリッドで標高約35.0mである。

農道27号で検出された遺構は堅穴住居跡8軒（建て替え含む）、土坑31基、溝跡10条、掘立柱建物跡4棟、ピット37基、焼土遺構1基である。堅穴住居と掘立柱建物とが組み合わされ、建物跡となることが判明したため、このことを考慮に入れると、建物跡2棟、堅穴住居跡6軒（建て替え含む）、土坑31基、溝跡10条、掘立柱建物跡2棟、ピット37基、焼土遺構1基となる。

平安時代の特筆すべき遺構として、ロクロピット及び粘土貯蔵ピットを有する堅穴住居跡（SI02・SI07）、土師器焼成遺構と思われる土坑（SK24・25・30）を挙げることができる。また、溝跡には円形周溝5基（SD04～07・09）方形周溝1基（SD10）も含まれる。また、縄文時代の遺構は、本農道第3号取付道路部分で比較的多く検出されており、縄文時代・平安時代ともに土地利用の痕跡が認められた地区である。

遺構内外から出土した遺物は、縄文・平安時代の土器類7箱、石器類2箱、鉄製品1箱の計段ボール箱10箱分である。また、土師器製作の材料と思われる粘土塊も出土した。

以下、古代以前の遺構について遺構種ごとに記述を行う。

1 検出遺構

(1) 建物跡・堅穴住居跡

第1号建物跡（SI01、SB03、図17～20）

【概要】 調査区南側北部、27-25・26グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.2～36.3m、第IV層で確認した。SI01及びSB03で構成される。SI01がSD01と重複し、本建物跡が古い。

【堅穴住居跡 - SI01】

【平面形・規模】 全体の約4分の3が調査区域外にあるが、平面形は一辺が約3.3m程度の方形と推定される。確認できた壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁（0.6）m・深さ33cm、北東壁3.25m・深さ15cm、南東壁（1.1）m・深さ21cmを測る。壁は開きながら立ち上がる。住居の軸方向はN-141°-Eである。

【床面・壁溝】 床面は部分的に貼り床を施して平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

【カマド】 南東壁で火床面及び煙道の一部を検出した。カマドから煙出し部の範囲は攪乱が激しく、煙道部の底面や天井部などが部分的に確認することができる状況であった。袖部も原形を留めておらず、構築部材であったであろう粘土が散在した状況で検出され、その中から土師器甕（図20-10・



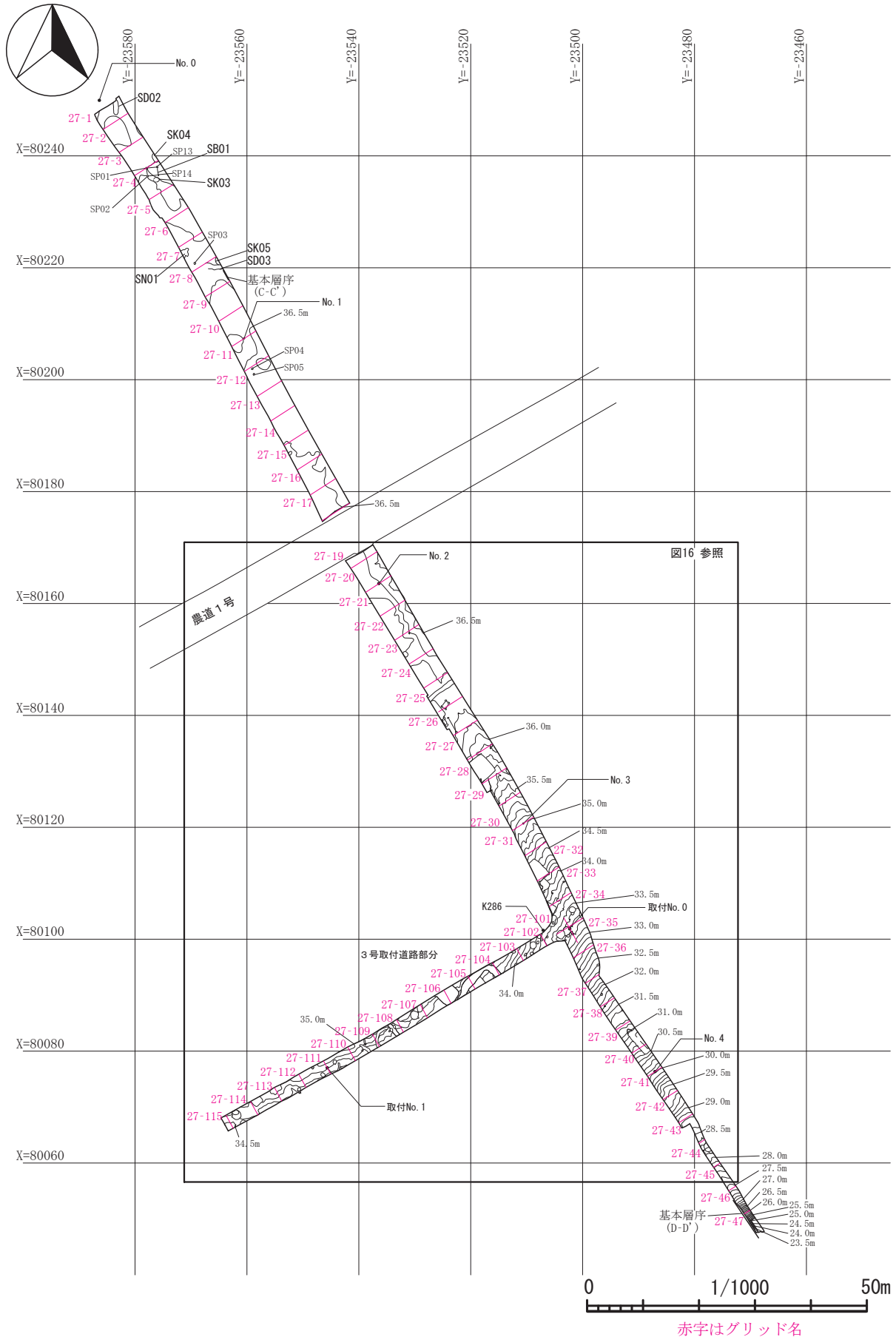


図15 農道27号遺構配置図 (1)

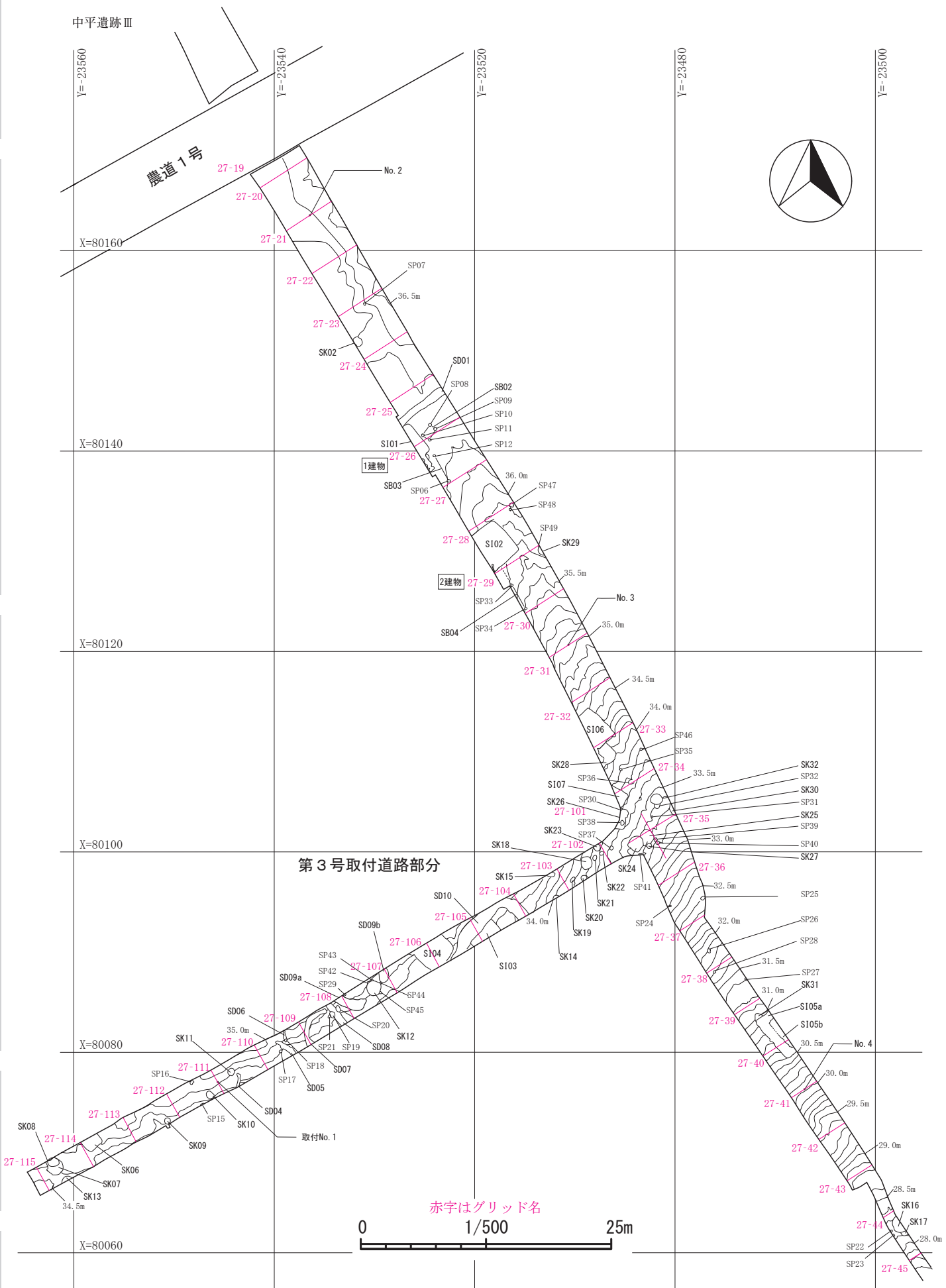
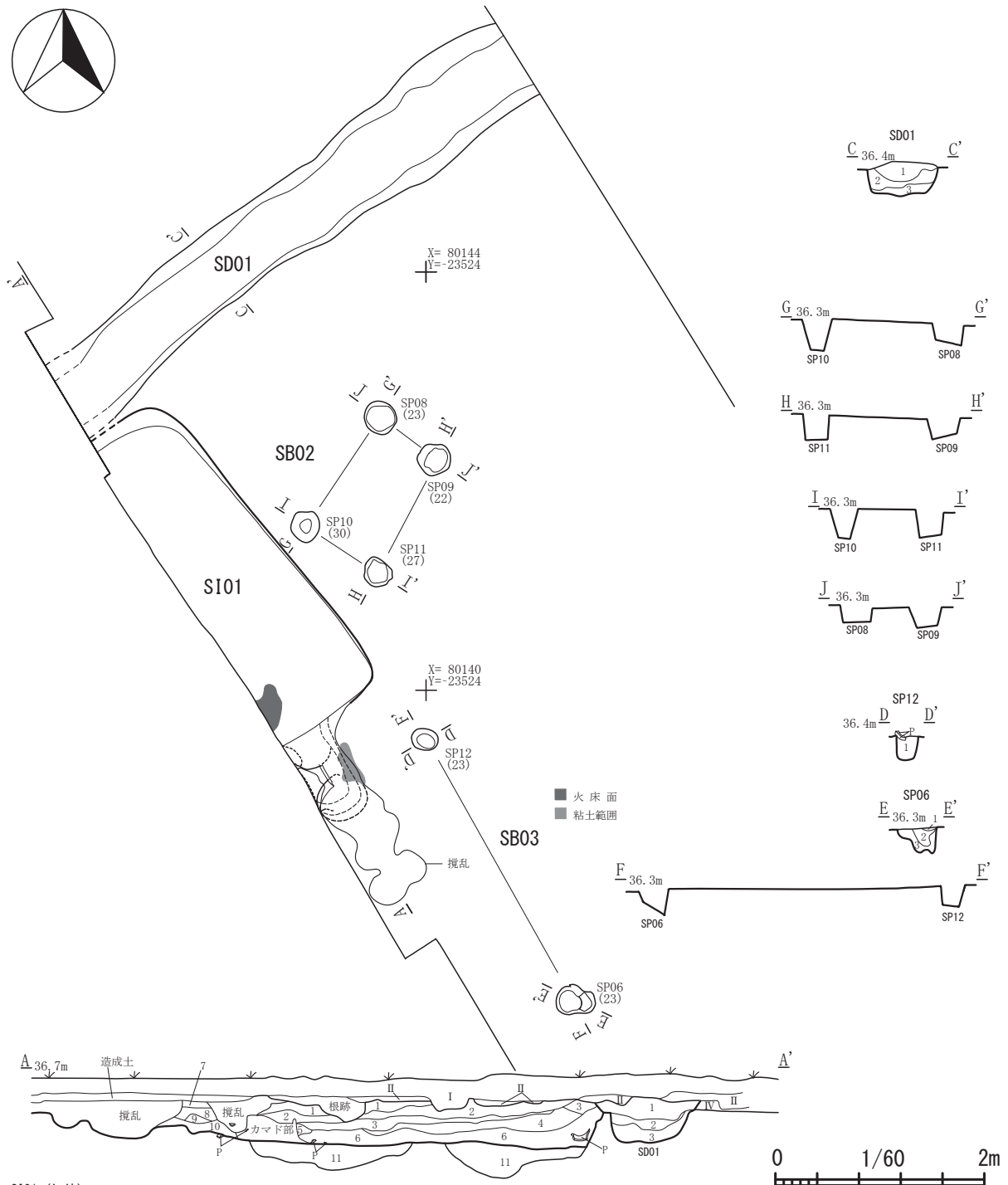
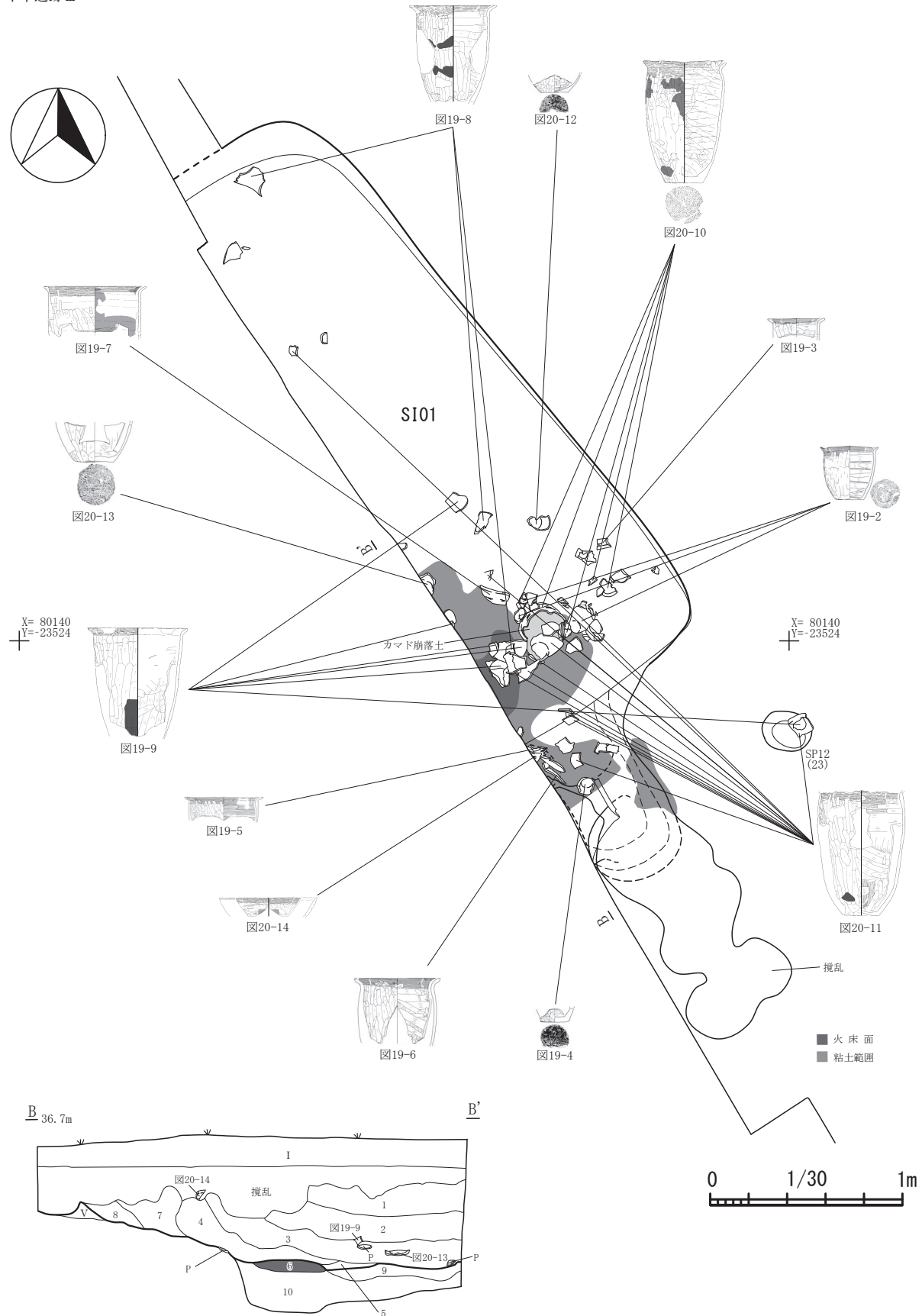


図16 農道27号遺構配置図 (2)



| | |
|--|---|
| <p>SI01 (A-A')</p> <p>1 10YR3/3 暗褐色土</p> <p>2 10YR3/4 暗褐色土</p> <p>3 10YR3/3 暗褐色土</p> <p>4 10YR3/4 暗褐色土</p> <p>5 10YR2/3 黒褐色土</p> <p>6 10YR3/4 暗褐色土</p> <p>7 10YR4/4 褐色土</p> <p>8 10YR4/6 褐色土</p> <p>9 10YR4/4 褐色土</p> <p>10 10YR3/4 暗褐色土</p> <p>11 10YR4/6 褐色土</p> | <p>ローム粒(φ1~3mm)2%、しまり中、他層に比べて混入物少ない、黒褐色土10%(I層近くに集中している)、ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1%、しまり中。黒褐色土30%(全体にまばらに混在している)、黄褐色ロームブロック(φ20~30mm)7%、ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1%、しまり中、他層より黒褐色土多い。</p> <p>明黄褐色褐色ロームブロック(20~40mm)10%、にぶい黄褐色粘土ブロック(φ20mm)2%、ローム粒(φ1~10mm)2%、ややしまりあり。暗褐色土30%、ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%、しまりやや強い。</p> <p>褐色土20%、ローム粒(φ1~10mm)20%、明黄褐色ロームブロック(φ20~30mm)10%、にぶい黄褐色粘土ブロック(φ20~30mm)3%、炭化物(φ1~2mm)2%、しまり中。</p> <p>暗褐色土40%、ローム粒(φ1~2mm)2%、しまりあり、粘土質土。</p> <p>ローム粒(φ1~2mm)1%、しまりあり、粘土層、カマド袖、層下部被熱。</p> <p>暗褐色土30%、ローム粒(φ1~5mm)、しまりあり、粘土質土。</p> <p>黄褐色土20%(まばらに混在している)、黒褐色土10%、ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~3mm)3%、ややしまりあり。</p> <p>掘り方。明褐色土30%、にぶい橙色粘土5%、明黄褐色土5%、ローム粒(φ1~5mm)3%、しまりあり。</p> |
| <p>SD01 (C-C')</p> <p>1 10YR2/3 黒褐色土</p> <p>2 10YR3/3 暗褐色土</p> <p>3 10YR3/3 暗褐色土</p> | <p>ローム粒(φ1~3mm)3%、炭化物(φ1~2mm)2%、しまり中、B-Tn?上層に1%未満。</p> <p>明黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)10%が、全体に混在している。ローム粒(φ1~5mm)7%、黒褐色土5%、炭化物(φ1~5mm)2%、しまり中。</p> <p>黄褐色ロームブロック(φ1~50mm)、しまり中。</p> |
| <p>SP12 (D-D')</p> <p>1 10YR4/4 褐色土</p> | <p>暗褐色土7%、明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)左側に3%、ややしまりあり。</p> |
| <p>SP06 (E-E')</p> <p>1 10YR4/3 にぶい黄褐色土</p> <p>2 10YR4/4 褐色土</p> <p>3 10YR3/4 暗褐色土</p> | <p>ローム粒(φ1~2mm)5%、炭化物(φ1~2mm)2%、しまり中。</p> <p>ローム粒(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~3mm)3%、しまり中。</p> <p>褐色土10%、明黄褐色ロームブロック(φ5~10mm)2%、ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%、小礫がまばらに混在している。しまり中。</p> |

図17 第1号建物跡(1)



SI01カマド (B-B')

| | | |
|----|----------|---------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| 3 | 10YR5/6 | 黄褐色土 |
| 4 | 7.5YR4/6 | 褐色土 |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 6 | 5YR5/8 | 明赤褐色土 |
| 7 | 10YR6/4 | にじみ黄褐色土 |
| 8 | 10YR4/3 | にじみ黄褐色土 |
| 9 | 10YR2/1 | 黒色土 |
| 10 | 10YR6/6 | 明黄褐色土 |

ローム粒2%、白色浮石1%。
 ローム粒5%、炭化物3%。
 ローム粒3%。
 焼土粒7%、7層土の流出土壌含む。
 焼土粒3%、炭化物2%。
 上面が火床面。
 カマド天井崩落土。
 炭化物1%、煙道の堆積土。
 ローム粒20%、貼り床層。
 掘り方。ローム粒2%。

図18 第1号建物跡 (2)

第1章 調査の概要
 第2章 地形・基本層序
 2号
 平成21年度調査
 27号
 28号・1号
 1号
 平成22年度調査
 29号
 30号
 第5章 理化学的分析
 第6章 分析と考察
 まとめ

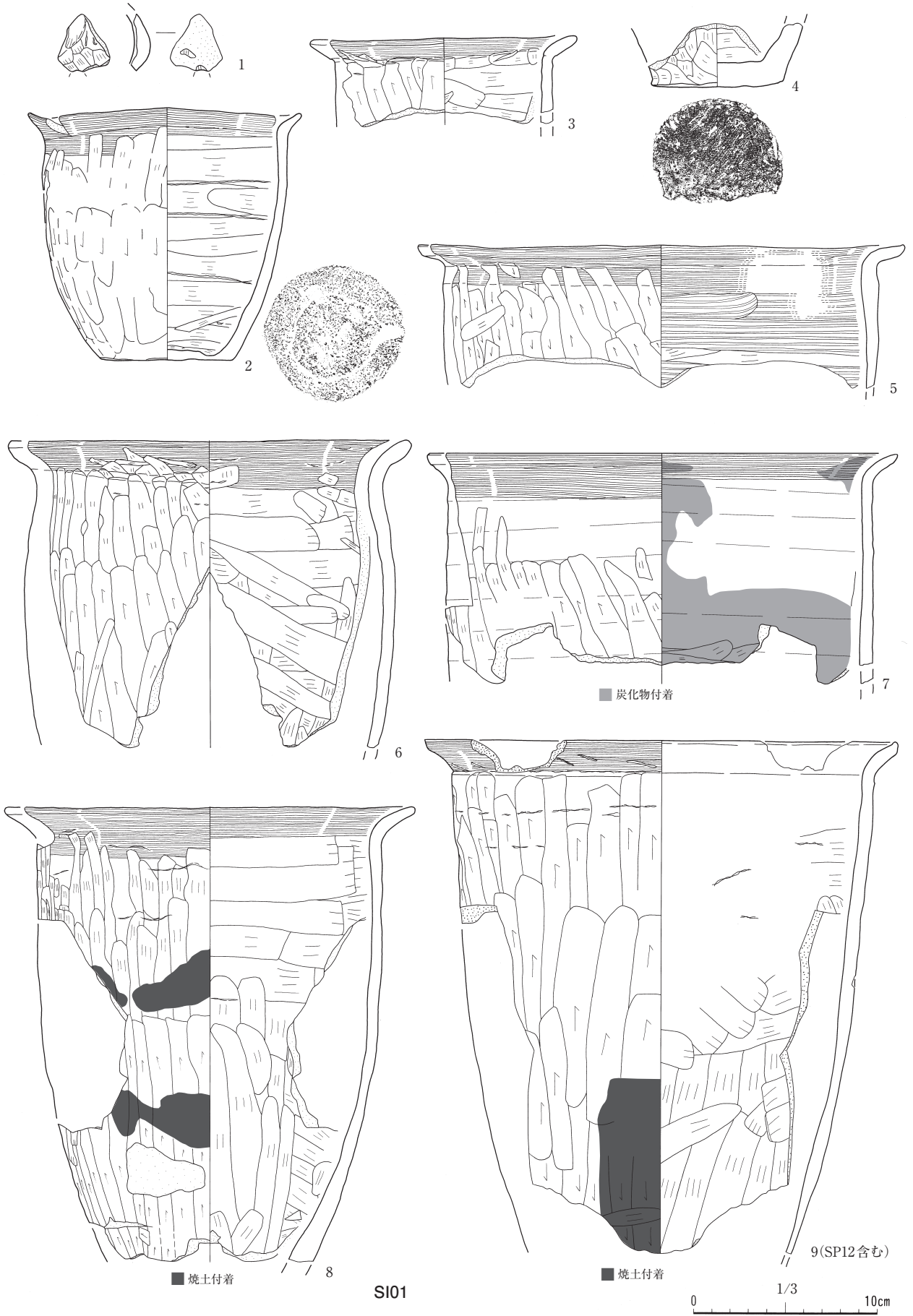
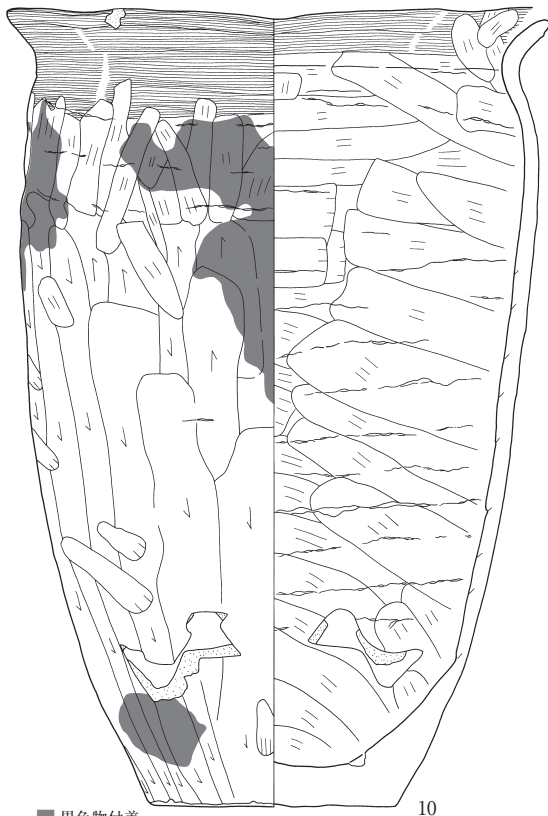
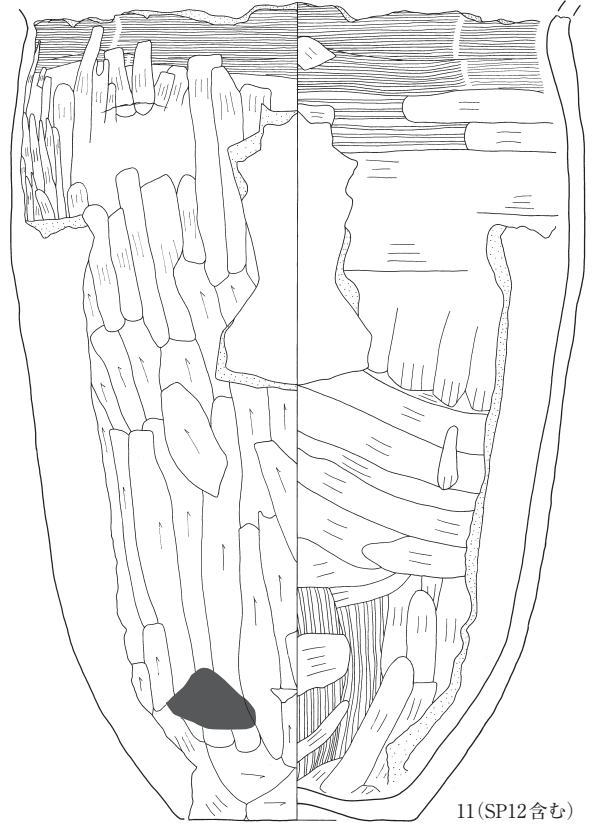


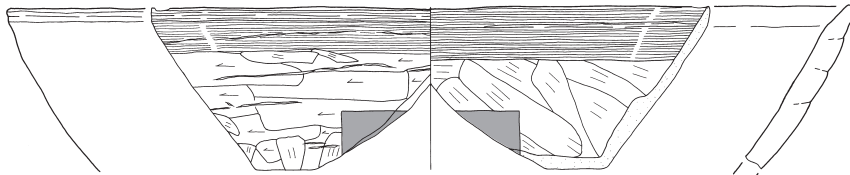
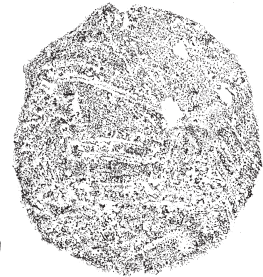
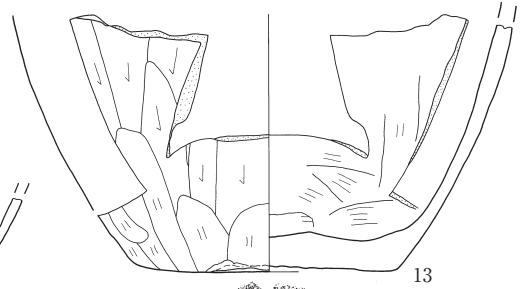
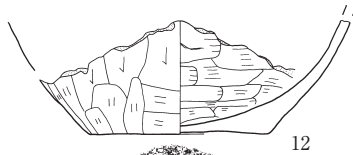
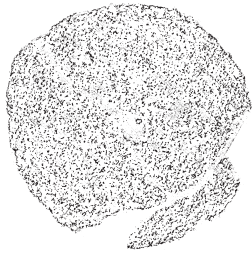
図19 第1号建物跡 出土遺物 (1)



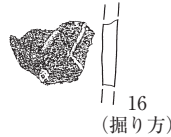
■ 黒色物付着



■ 焼土付着



■ 材料分析切除部分



SI01

0 1/3 10cm

図20 第1号建物跡 出土遺物 (2)

11) が出土していることから、これらはカマドの芯材として用いられていた可能性がある。火床面は33×23cmの不整形で、深さ6cmまで被熱が及んで赤色化していた。煙道は住居外に約90cm伸びていたものと思われ、煙出し部へ緩やかに立ち上がっていく。煙道の軸方向はN-150°-Eである。

[堆積土] 全体的に暗褐色土が堆積しており、下位ほどローム粒や炭化物の混入度合いが強いことから、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物] 出土土器の総重量は6.69kgで、内訳は土師器6.67kg、縄文土器0.02kgである。そのうち土師器ミニチュア土器(1)・甕(2~13)を図示したが、坏は図示し得なかった。遺物の出土状況は図18に示したとおり主にカマド周辺に破片が散在した状況で、SB03を構成するSP12出土土器とも接合した甕(11)もある。5・11は、内面に刷毛目調整が残されている。10はカマド左袖付近で倒立して出土した甕である。他に、カマド煙道部周辺の攪乱から土師器埴(14)、掘り方から土師器鉢(15)や縄文土器片(16)も出土した。なお、土師器小甕(2)・甕(10)・埴(14)は粘土等材料分析(それぞれ試料No.14・13・15)を行っており、いずれも淡水成粘土を用いている(第5章第7節参照)。

【掘立柱建物跡-SB03】

[平面形・規模] 本住居跡南東壁外でSP06・12のピット2基が検出された。西側の調査区域外に延びると思われるが、現状では桁行1間のみを確認で、桁間2.8mである。軸方向はN-150°-Eで、竪穴住居跡とは若干ずれるが、煙道の軸方向とは一致している。

[堆積土] 褐色土が主として堆積していたが、明確な柱痕は検出されなかった。

[出土遺物] 確認面から土師器片が0.17kg出土した。これらはSI01カマド付近から出土した土器と接合し、2個体の土師器甕(9・11)となった。

【小結】 出土遺物、堆積土の様相などから、9世紀後半~10世紀前葉頃に廃絶されたものと思われる。

第2号建物跡(SI02、SB04、図21~23)

【概要】 調査区南側北部、27-28グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.7~36.0m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

【竪穴住居跡-SI02】

[平面形・規模] 住居南西部約4分の1が調査区域外にあるが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁(2.6)m・深さ20cm、北東壁3.8m・深さ11cm、南東壁(3.3)m・深さ6cmを測る。南東壁では攪乱が深部まで及んでいるため、遺存している壁は低くなっているが、いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。住居の軸方向はN-139°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は基本的に貼り床によって平坦に整えられているが、地山をそのまま床面としている部分もある。なお、B-B'セクションで掘り方の記録をできなかったが、10~20cm程度の掘り方を有している。壁溝は幅8~31cm、深さ17~23cmで、壁際を全周するように巡らされている。カマド部分でも掘り方が確認できたことから、一旦壁溝を掘削した後、埋め戻してカマドを構築した可能性が高い。

[柱穴] 明確な柱穴は検出されなかった。

[カマド] 南東壁の南西寄りに検出され、粘土で構築された左袖部を検出した。また、カマド周辺では粘土が散在して検出され、燃焼部及び煙道部にも粘土が使用されていたようである。火床面は25

×13cmで、深さ5cmまで被熱が及んで赤色化していた。煙道は住居外に約46cm延び、煙出し部へ緩やかに立ち上がっていく。煙道の軸方向はN-150°-Eと推測される。

[その他の施設] 焼土1基とピット3基が検出された。焼土は62×38cmの不整楕円形で床面下部（掘り方）まで被熱が及んでいるが、堆積土第4層に含まれる焼土ブロックが床面を熱したことによって焼土化しただけで、付属施設ではない可能性もある。Pit 1は42×39cmの円形で深さ33cmの規模である。ピット底面には11×10cmの円形をなす少ピットが検出され、ピット底面から深さ15cmで、暗褐色土が堆積していた。底面中央部に小ピットが検出されたことから、Pit 1はロクロを設置していたロクロピットと思われる。Pit 2は65×56cmの楕円形で深さ24cmを測り、焼土を含む褐灰色土が堆積していた。本ピットの検出面上部に土器がまとまって出土したことから、本ピットは埋められて住居が使用されていたものと思われる。Pit 3は70×35cmの楕円形で深さ12cmを測り、本ピット内から2つの粘土塊が出土した。粘土塊は、北側のものは26.4kg、南側のものは5.3kgの合計31.7kgで、粘土の周囲には褐色土が堆積していた。この粘土について粘土等材料分析（試料No.1・2）を行ったところ、両者とも淡水成粘土であることが判明し（第5章第7節）、土師器の材料として貯蔵していたものと考えられる。

[堆積土] 上位には黒褐色土もしくは暗褐色土が堆積し、下位には暗褐色土もしくは褐色土が堆積している。第4・5層には焼土及び炭化物が比較的多く含まれる。

[出土遺物] 出土土器の総重量は2.24kgで、内訳は土師器2.23kg、縄文土器0.01kgである。覆土から鉄滓の細片も1点出土した。そのうち、床面直上から出土した土師器甕（17・18）・大鉢（19）を図示した。19の大鉢は、埴の器形ではあるが内面をミガキ後黒色処理していることから、煮沸具である「埴」ではなく「大鉢」とした。また18・19ともPit 2検出前の床面直上レベルから出土したものであり、Pit 2覆土から出土したものではない。19は粘土等材料分析（試料No.21）を行ったところ、淡水成粘土であることが判明し（第5章第7節）、Pit 3から出土した粘土と同質のものと考えられる。

【掘立柱建物跡 - SB04】

[平面形・規模] SI02の南東部において、SP33（深さ30cm）、SP34（同16cm）のピット2基が検出された。現状では桁行1間、桁間2.7m、軸方向N-151°-Eで、竪穴住居跡のカマド軸方向とほぼ一致していることから、竪穴住居跡に付属する施設である可能性が高いといえる。また、SP33とSI02Pit2の桁間も同じく2.7mを測ることができ、SI02Pit2を含めた3基で建物を構成する可能性も考えられる。また竪穴住居北東壁の延長線上にはピットが検出されなかったが、この周辺では攪乱（轍痕など）が遺構確認面以下の深部まで及んでいるためピットが壊されてしまった可能性が高い。

[堆積土] SP34は黒褐色土が堆積していたが、両ピットとも柱痕は検出されなかった。

[出土遺物] ピットから遺物は出土しなかった。

【小結】 出土遺物、堆積土の様相などから、9世紀中葉～9世紀末葉頃に廃絶されたものと思われる。またロクロピット（Pit 1）の検出と粘土貯蔵ピット（Pit 3）の検出から、本遺構は土師器製作遺構であったと考えられる。

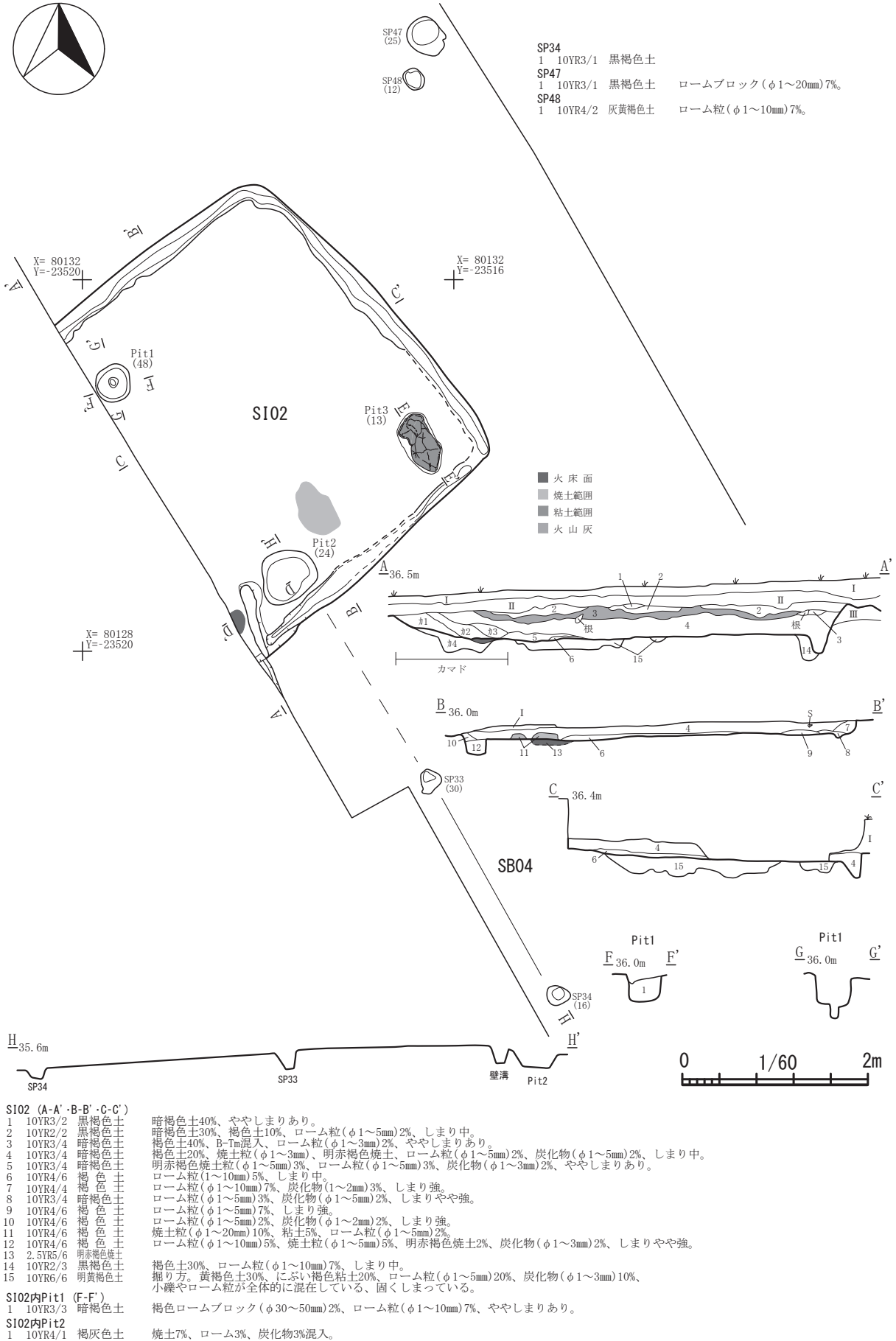


図21 第2号建物跡(1)

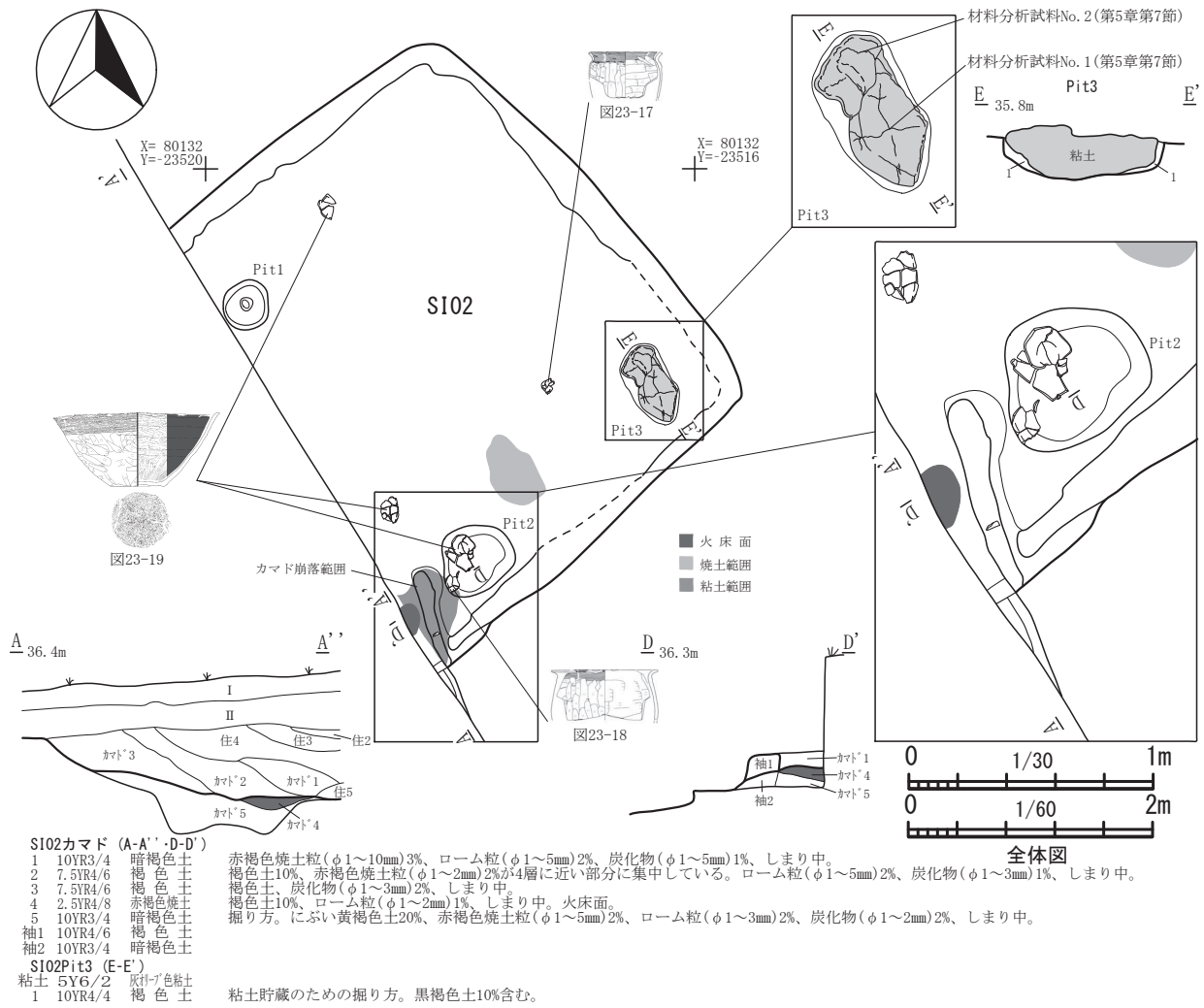


図22 第2号建物跡 (2)

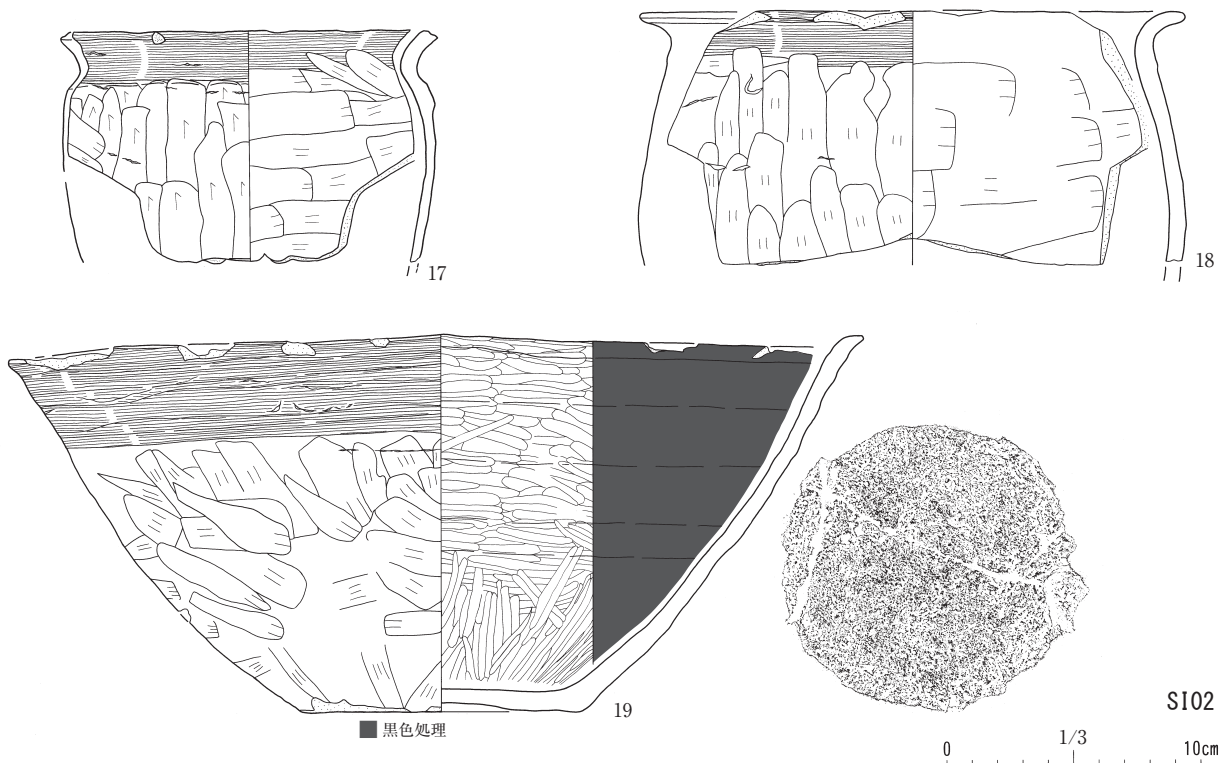


図23 第2号建物跡 出土遺物

第3号 竪穴住居跡 (SI03、図24)

[位置・確認] 第3号取付道路東側、27-104・105グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.4～34.7m、第IV層で確認した。SD10と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 南東側約4分の1程度が調査区域外にあるが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面の深さは、北西壁2.6m・深さ43cm、北東壁(2.8)m・深さ38cm、南西壁(2.0)m・深さ51cmを測る。いずれの壁も床面付近では丸みを帯びて立ち上がり、確認面付近ではやや外反する。住居の軸方向はN-140°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は基本的に貼り床を施して平坦に整えられているが、一部は地山をそのまま床面としている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 柱穴は検出されなかった。

[カマド] 調査区域内では明確なカマドは検出されなかったが、南側調査区域境界部分で、深さ3cmまで被熱が及んで赤色化した25×8cmの火床面が検出されたことから、ここにカマドが存在する可能性がある。

[その他の施設] ピット1基と地床炉1基が検出された。Pit1は西隅付近で検出され、103×79cmの東西にやや長い楕円形を呈する。床面からの深さは14cmで、ロームブロックや灰黄褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと思われる。Pit1からは土師器破片が数点出土し、接合したところ土師器小甕(図24-20)となった。地床炉は住居中央部分から検出され、規模は36×26cm、深さ4cmまで被熱が及んで赤色化していた。

[堆積土] 上位は暗褐色土が主体で自然堆積の様相を呈しているが、下位や壁際にはブロック状のロームが混入していることから、廃棄直後にある程度、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物] 出土土器の総重量は0.58kgで、内訳は土師器0.56kg、縄文土器0.02kgである。そのうち土師器甕(20・21)を図示した。20はPit1覆土から出土した小甕で、被熱を強く受けている。

[遺構の時期等] 出土遺物、堆積土の様相に加え、重複関係にあるSD10にはB-Tmが堆積していてそれより本遺構が古いことを考慮に入れると、9世紀前葉～中葉頃には廃絶されていたものと考えられる。

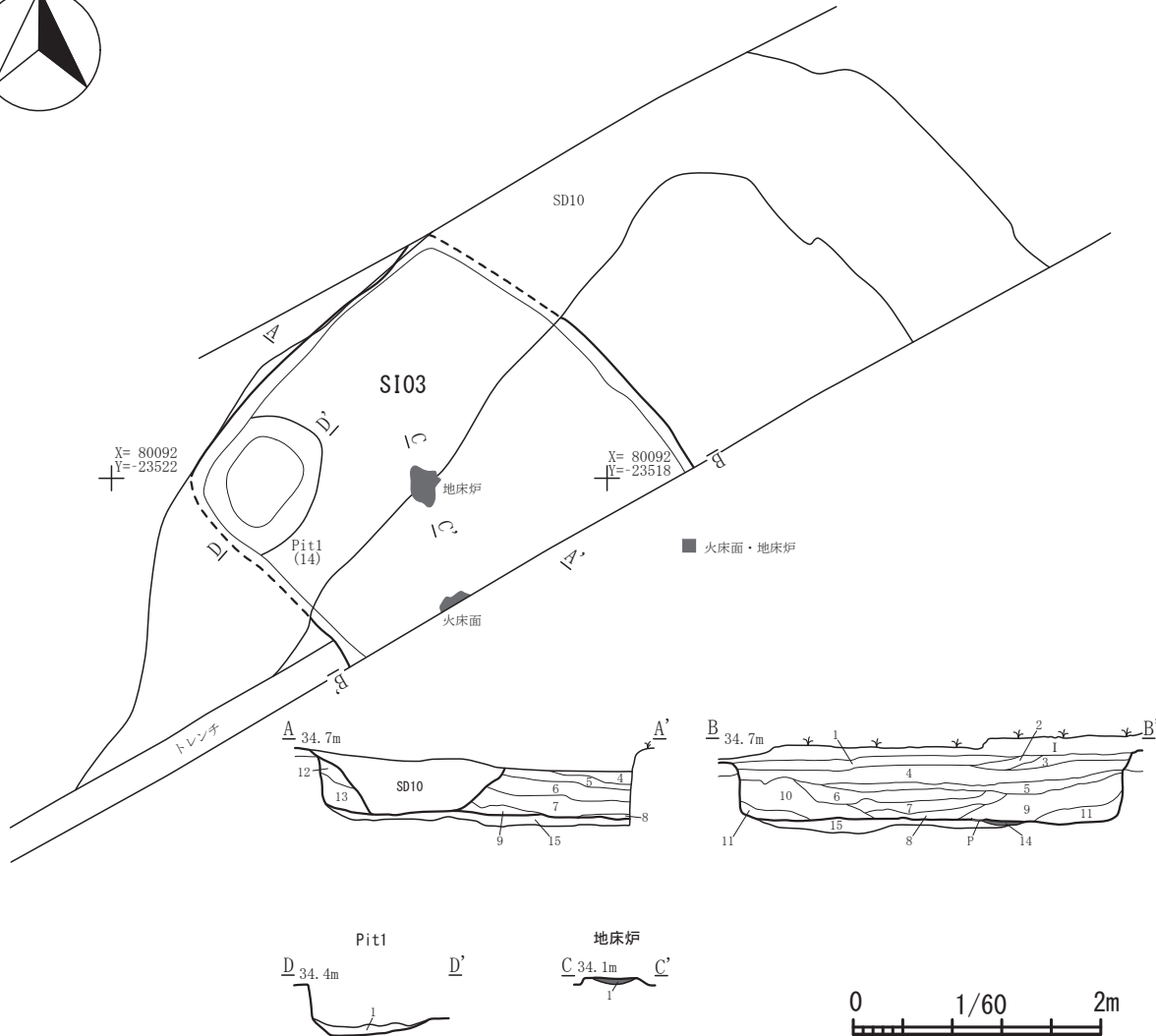
第4号 竪穴住居跡 (SI04、図25・26)

[位置・確認] 第3号取付道路東側、27-105・106グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.6～34.8m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 北側約4分の1程度と南西隅が調査区域外に延びていると思われるが、平面形は方形をなすものと推定される。壁長及び確認面から床面の深さは、北東壁(1.8)m・深さ15～32cm、南東壁(1.3)m・深さ19～32cm、南西壁(2.6)m・深さ9～13cmを測る。いずれの壁もやや開きながら立ち上がっているが、北西の調査区壁セクションでの土層観察では段状をなしている。住居の軸方向はN-134°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は基本的に地山をそのまま床面としているが、火床面周辺では掘り方を有している。壁溝は検出されなかった。

[カマド] 調査区域内では明確なカマドは検出されなかったが、南側調査区域境界部分で、深さ3cm



SI03 (A-A'・B-B')

- 1 10YR2/3 黒褐色土
- 2 10YR4/4 褐色土
- 3 10YR4/6 褐色土
- 4 10YR3/4 暗褐色土
- 5 10YR4/4 褐色土
- 6 10YR3/4 暗褐色土
- 7 10YR4/4 褐色土
- 8 10YR3/4 暗褐色土
- 9 10YR4/4 褐色土
- 10 10YR4/6 褐色土
- 11 10YR4/6 褐色土
- 12 10YR4/6 褐色土
- 13 10YR4/6 褐色土
- 14 5YR4/8 赤褐色土
- 15 10YR5/6 黄褐色土

暗褐色土30%、ローム粒(φ1mm以下)7%、炭化物(φ1~2mm)5%、しまり強。
 ローム粒(φ1~2mm)10%、炭化物(φ1~3mm)5%、しまりあり。
 褐色土30%、ローム粒(φ1~2mm)5%、炭化物(φ1~3mm)5%、しまり強、粘りあり。
 褐色土20%、ローム粒(φ1~3mm)7%、炭化物(φ1~3mm)7%、しまり強。
 にぶい黄褐色灰?の塊(φ5~30mm)15%、ローム粒(φ1~2mm)5%、炭化物(φ1~2mm)3%、しまりあり。
 褐色土20%、褐色ロームブロック(φ10~30mm)20%、炭化物(φ1~2mm)3%、ローム粒3%、しまりあり。
 褐色土30%、黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)15%、炭化物(φ1~5mm)3%、浮石(φ1~2mm)1%。
 ローム粒(φ1~2mm)5%、炭化物(φ1~2mm)2%、浮石(φ1~3mm)1%、しまりあり。
 褐色ロームブロック(φ10~40mm)30%、暗褐色土10%、ローム粒(φ1~2mm)7%、炭化物(φ1~2mm)3%、しまりあり。
 黄褐色ロームブロック(φ10~40mm)10%、ローム粒(φ1~5mm)10%、炭化物(φ1~2mm)5%、しまり強。
 黄褐色ロームブロック(φ10~50mm)30%、炭化物(φ1~3mm)2%、小礫(φ1~3mm)1%、しまりあり。
 黒褐色土塊状(φ20mm)に10%、ローム粒(φ1~2mm)2%、炭化物(φ1~2mm)2%、ややしまりあり。
 ローム粒(φ1~2mm)2%、炭化物(φ1~2mm)5%、小礫(φ1~5mm)3%、上層より粘性あり、しまりあり。
 炭化物(φ1~2mm)1%、ややしまりあり。火床面。
 掘り方。褐色土15%、炭化物(φ1~2mm)1%、しまり強、粘りあり。

SI03内地床炉 (C-C')
 1 5YR3/6 暗赤褐色土
 褐色土20%、炭化物(φ1mm以下)5%、しまりあり。

SI03内Pit1 (D-D')
 1 10YR4/6 褐色土
 黄褐色ロームブロック20%、灰黄褐色土10%、小礫(φ1~5mm)1%、しまりあり、粘りあり。

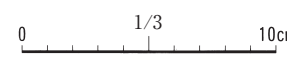
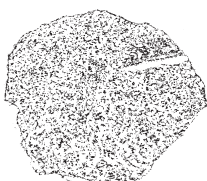
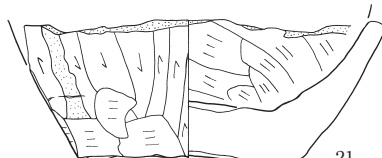
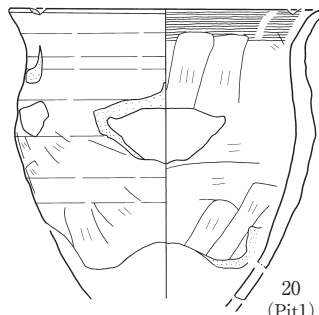


図24 第3号竪穴住居跡と出土遺物

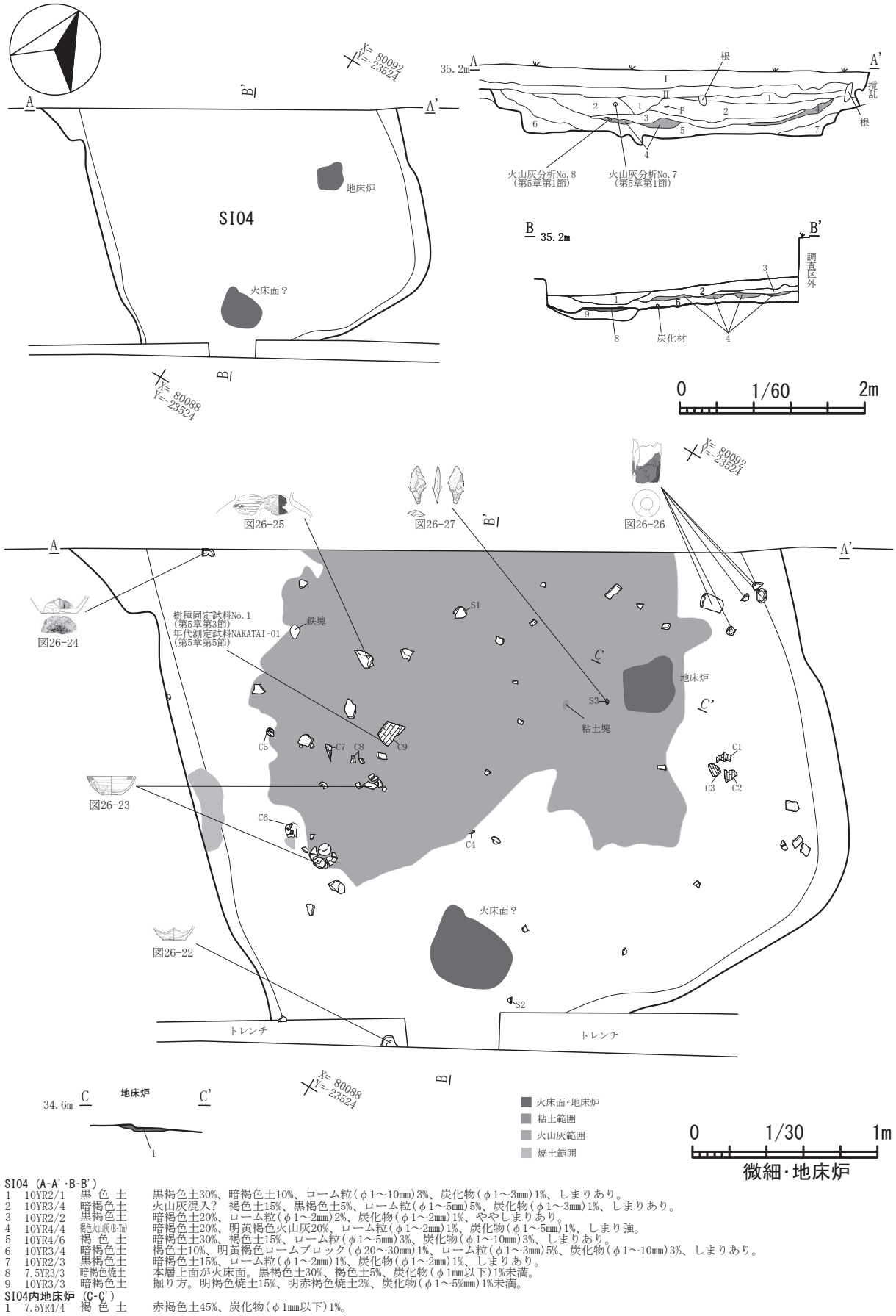


図25 第4号竪穴住居跡

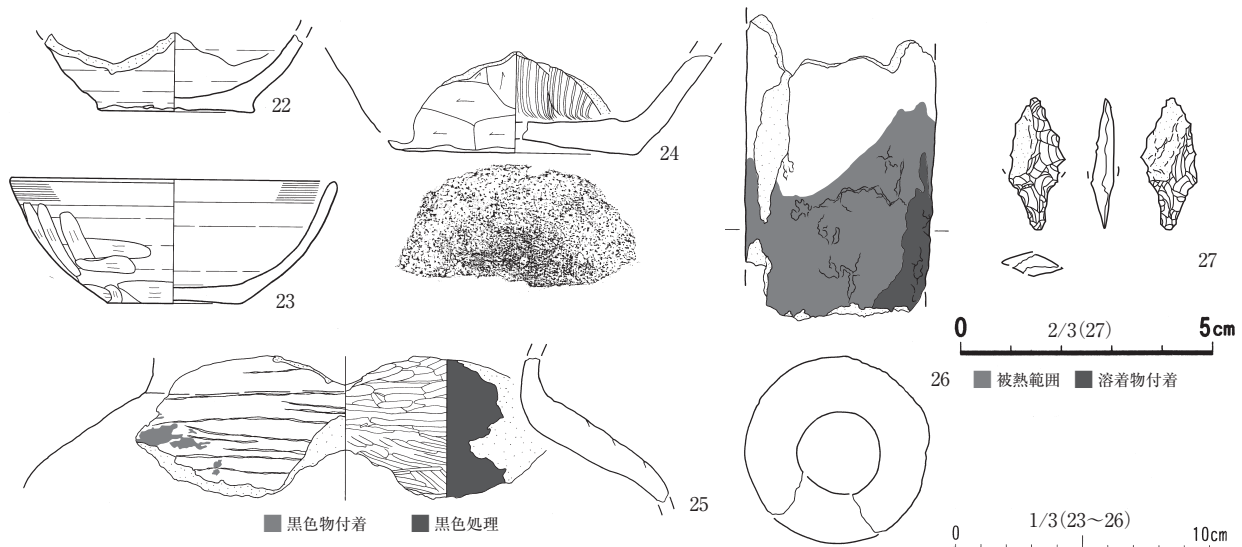


図26 第4号竪穴住居跡 出土遺物

まで被熱が及んで赤色化していた36×43cmの火床面が検出され、住居南東壁に近接していることから、ここにカマドがあった可能性がある。

[その他の施設] 北東壁付近で、深さ2cmまで被熱が及んで赤色化した地床炉が検出された。平面形は35×30cmの不整形である。

[堆積土] 全体的に暗褐色土が自然堆積し、覆土には火山灰が面的に検出された。この火山灰を分析したところ、第2・4層ともB-Tmと、再堆積した十和田八戸火山灰（To-H）が含まれていることが判明した（第5章第1節）。

[出土遺物] 出土土器の総重量は約1.10kgで、内訳は土師器1.1kg、須恵器0.002kgである。また、礫が0.31kg出土した。そのうち土師器坏（22・23）・甕（24）・壺（25）、羽口（26）、石鏃（27）を図示した。24は内面に刷毛目調整がある甕底部で、25は外面に輪積痕、内面にミガキと黒色処理を施す壺である。26の羽口は、溶損角度が20度と30度の2方向が観察されることから、複数回操業の可能性がある。27の石鏃は、両面に被熱による火バネと思われる剥落が見られる。23・25・26は粘土等材料分析（試料No.16・17・32）を行った（第5章第7節）。なお26の胎土にはスサが混入しており、高密度の矽痕が観察できる。また床面から覆土にかけて炭化物が散発的に出土したことから、そのうち床面直上から出土した1点について樹種同定及び放射性炭素年代測定を行った。樹種同定の結果、モクレン属であることが判明し（第5章第3節）、放射性炭素年代測定結果は第5章第5節に示してある。

[遺構の時期等] 出土遺物、堆積土の様相、B-Tmの堆積状況などから、B-Tm降下以前9世紀中葉～10世紀初頭には廃絶されていたものと思われる。

第5号 a 竪穴住居跡（SI05a、図27・28）

[位置・確認] 調査区南側南部、27-39・40グリッドに位置し、遺構確認面の標高は30.5～31.0m、第IV層で確認した。調査の結果、第5号竪穴住居跡は造り替えられていることが判明し、新期をSI05a、貼り床下層から検出された古期の住居跡をSI05bとした。またSK31と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 調査区域外に約3分の2程度があるものと思われるが、平面形は方形と推定される。

南東方向に傾斜する地形上に立地していることから、北西壁は深い、南東壁はほとんど遺存していない状況である。壁長及び確認面から床面の深さは、北西壁（1.6）m・深さ35cm、南東壁（1.1）m・深さ26～34cm、南西壁4.8m・深さ17～21cmを測る。いずれの壁も開きながら立ち上がる。カマドは検出されていないが、南東方向にカマドが存在するとすれば住居の軸方向はN-139°-Eである。

[床面・壁溝] 本住居跡はSI05bを埋めて平坦な床としており、拡張されている部分には鋤等の痕跡が確認できる。壁溝は幅9～30cm、深さ14～22cmで、壁際を全周するように巡らされるようである。

[柱穴] 柱穴は検出されなかった。

[カマド] 調査区域内では検出されなかったが、調査区壁の南東部で焼土を含む土層（第9・10層）が層厚を増しながら堆積しており、この付近（南東壁）の調査区域外にあるものと推定される。

[その他の施設] 床下からPit 1が検出された。規模は118×90cmの不整な円形を呈し、床面からの深さは45cmである。上位には暗褐色土、下位には黒褐色土が堆積し、いずれもローム粒を含んでいることから人為的に埋め戻されたものである。Pit 1からは土師器甕底部（図28-30）と、鉄滓片（0.002kg）が出土した。

[堆積土] 上位には暗褐色土が主体的に堆積し、下位には焼土ブロック及び炭化物を多量に含んだ黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 出土土器の総重量は0.61kgで、内訳は土師器0.6kg、須恵器0.01kgである。また礫が1.11kg出土した。住居中央やや西寄り部分から被熱によって破裂した礫がまとまって出土し、これらは写真35に示したとおり接合したが、石器としての使用痕跡が認められなかったことから図化していない。実測図を図示したのは土師器甕（29）、須恵器壺（31）である。

焼土は住居南隅部分を除くほぼ全面から検出されたが、焼土のない南隅部分には被熱していないロームが検出されている。炭化材は、壁の遺存状態が良好な住居西側で特に多く出土した。特に北西壁際では、炭化材が壁溝に直立した状態のものもあった。これらのうち9点を樹種同定、1点を放射性炭素年代測定したところ、樹種同定では8点がクリ、1点がブナ属であることが判明した（第5章第3節）。放射性炭素年代測定結果は第5章第5節に示してある。

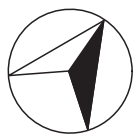
[遺構の時期等] 本住居跡は焼失家屋であり、出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、9世紀後葉～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。放射性炭素年代測定結果ではやや古い年代が示されており、古木効果の可能性がある。

第5号b 竪穴住居跡（SI05b、図27・28）

[位置・確認] 調査区南側南部、27-39・40グリッドに位置する。当初1軒の竪穴住居跡とみていた第5号竪穴住居跡は、調査の結果、造り替えられていることが判明したことから、新期をSI05a、貼り床下層から検出された古期の住居跡をSI05bとした。

[平面形・規模] 調査区域外に約5分の4程度があるものと思われるが、平面形は方形と推定される。壁長及びSI05a床面からの床面の深さは、北西壁（0.6）m・深さ36cm、南東壁（0.1）m・深さ15cm、南西壁3.4m・深さ22～44cmを測る。いずれの壁もやや開きながら立ち上がっており、住居の軸方向はN-137°-Eである。

[床面・壁溝] 地山をそのまま床面としており、平坦である。壁溝は検出されなかった。



- 樹種同定試料番号No. 3 (C2) (第5章第3節)
- 樹種同定試料番号No. 4 (C3) (第5章第3節)
- 樹種同定試料番号No. 5 (C4) (第5章第3節)
- 樹種同定試料番号No. 6 (C5) (第5章第3節)
- 樹種同定試料番号No. 7 (C6) (第5章第3節)
- 樹種同定試料番号No. 8 (C7) (第5章第3節)
- 樹種同定試料番号No. 9 (C8) (第5章第3節)
- 樹種同定試料番号No. 10 (C9) (第5章第3節)
- 樹種同定試料番号No. 2 (C1) 年代測定試料NAKATAKI-02 (第5章第5節)

SI05 (A-A'・B-B')

| | | | |
|----|----------|------|--|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黒褐色土10%、ローム粒(φ1~2mm)3%、炭化物(φ1~5mm)2%、しまりあり。 |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黒褐色土20%、明黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)10%、ローム粒(φ1~5mm)15%、炭化物(φ1~10mm)2%、しまりあり。 |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 黒褐色土30%、ローム粒(φ1~5mm)7%、炭化物(φ1~10mm)2%、浮石(φ30mm)1%、ややしまりあり。 |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~10mm)10%、ややしまりあり。 |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黒褐色土10%、橙色焼土ブロック(φ10~40mm)20%、ローム粒(φ1~10mm)7%、炭化物(φ1~30mm)7%、ややしまりあり。 |
| 6 | 10YR4/4 | 褐色土 | ローム粒(φ1~10mm)25%、炭化物(φ1~2mm)3%、しまり弱。壁溝。 |
| 7 | 2.5YR4/8 | 赤褐色土 | 明赤褐色土(漸移している)、しまり強。 |
| 8 | 5YR5/8 | 暗褐色土 | 橙色ロームブロック、しまり強。 |
| 9 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黒色土5%、橙色ロームブロック(φ5~30mm)25%、ローム粒(φ1~5mm)7%、炭化物(φ1~10mm)3%、ややしまりあり。 |
| 10 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 黒褐色土20%、ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~5mm)3%、ややしまりあり。 |
| 11 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 暗褐色土20%、褐色ロームブロック(φ100mm)7%、赤褐色焼土粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%、壁溝。 |
| 12 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 褐色焼土20%、黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)3%、ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1~5mm)1%、ややしまりあり。壁溝。 |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | Pit1覆土。黒褐色土10%、黄褐色ロームブロック(φ20~30mm)10%、ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1~3mm)7%、しまりあり。 |
| 14 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | Pit1覆土。黄褐色ロームブロック(φ10~50mm)7%、黒褐色土5%、炭化物(φ1~2mm)1%、しまりあり。 |
| 15 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | SI05b覆土。黒褐色土25%、黄褐色ロームブロック(φ10~70mm)25%、にぶい黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)5%、炭化物(φ1~5mm)3%、しまりあり。 |
| 16 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | SI05a覆土。黒色土30%、明黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)10%、ローム粒(φ1~5mm)7%、炭化物(φ1~2mm)2%、しまり弱。 |
| 17 | 10YR4/4 | 褐色土 | SI05b覆土。明黄褐色ロームブロック(φ30~150mm)30%、明褐色焼土ブロック7%、炭化物(φ1~5mm)5%、ややしまりあり。 |
| 18 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | SI05a覆土。黒褐色土10%、黄褐色ロームブロック(φ10~50mm)3%、ローム粒(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%、しまりあり。 |

SK31 (C-C')

| | | | |
|---|---------|------|---------------------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 暗褐色土5%、ローム粒(φ1~3mm)3%。 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黒褐色土20%、黄褐色土10%、ローム粒(φ1~3mm)5%。 |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 黒褐色土30%、ローム粒(φ1~3mm)3%。 |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 黄褐色土10%、黄褐色土5%、ローム粒(φ1~2mm)2%。 |

図27 第5号竪穴住居跡

第1章 調査の概要
 第2章 地形・基本層序
 2号 平成21年度調査
 27号 28号・1号
 1号 平成25年度調査
 29号 30号
 第5章 理化学的分析
 第6章 分析と考察
 まとめ

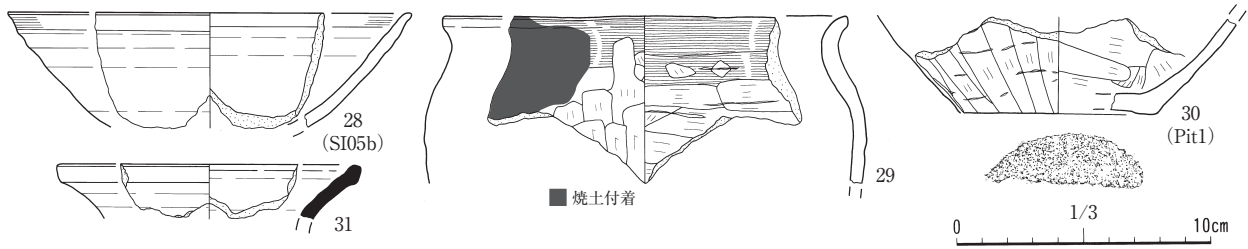


図28 第5号竪穴住居跡 出土遺物

[柱穴・カマド等] 調査区域内ではいずれも検出されなかった。

[堆積土] 上位はSI05aの貼り床とするためか、ロームをやや多く含む暗褐色土で埋め戻されている。下位はロームがやや少ない黒褐色及び褐色土で埋め戻されている。

[出土遺物] 土師器が0.11kg出土し、28が覆土から出土した土師器坏である。

[遺構の時期等] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、9世紀中葉～9世紀末葉頃に廃絶されたものと思われる。

第6号竪穴住居跡 (SI06、図29・30)

[位置・確認] 調査区南側第3号取付道路との分岐点北、27-32・33グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.1～34.6m、第IV層で確認した。SK28と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 調査区域外に約3分の1程度があるものと思われるが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面の深さは、北西壁(1.3)m・深さ43cm、北東壁3.7m・深さ20～45cm、南東壁(2.3)m・深さ18cmを測る。いずれの壁も垂直に近いしっかりした立ち上がりをみせ、住居の軸方向はN-134°-Eである。

[床面・壁溝] 床面の大半は貼り床を施して平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 柱穴は検出されなかった。

[カマド] 南東壁の南西寄りに検出された。周辺では焼土が密に検出されており、カマド構築材の粘土が焼土化した状態で出土している。土層観察によると火床面の下部を黒褐色土で埋めており、旧床面に充填したものと思われる。また、その下部の住居掘り方にも焼土が混入していることから、カマドの位置をずらして作り直しているものと推察される。今回検出した新期カマドの火床面は23×40cmで、被熱が及んで赤色化していたのは深さ4cmである。煙道は煙出し部へ緩やかに立ち上がっていき、住居外に100cm以上延びている。煙道の軸方向はN-173°-Eである。古期カマドの火床面は調査区域内では検出されなかった。

カマドから出土したカマド部材の粘土等材料分析(試料No.6・7・8)を行った。カマド部材は被熱により硬化した粘土で、数cmほどの狭い土手状に検出された。これの火床面に近い部分をサンプリング1、煙道側をサンプリング2、住居の壁に貼り付けてある部分をサンプリング3として採取したものである。分析の結果、海成粘土であることが判明した(第5章第7節)。

[その他の施設] Pit1が検出された。194×127cmの北西から南東に長い楕円形を呈し、床面からの深さは20cmでやや起伏がある。北西半の立ち上がりが不明瞭なため掘り方の可能性も考えられるが、

中平遺跡Ⅲ

SI06 (A-A'・B-B')

| | | |
|----|----------|---------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色土 |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 5 | 7.5YR3/4 | 暗褐色土 |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 7 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| 9 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 10 | 7.5YR3/4 | 暗褐色土 |
| 11 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 12 | 7.5YR4/4 | 褐色土 |
| 13 | 7.5YR4/6 | 褐色土 |
| 14 | 7.5YR4/6 | 褐色土 |
| 15 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| 16 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| 17 | 10YR4/4 | 褐色土 |

黒褐色土40%、炭化物(φ1~3mm)1%未満、黄褐色土1%未満、焼土粒(φ1mm以下)1%未満。
 B-Tm混入。明黄褐色土1%未満、炭化物(φ1mm以下)1%未満。
 黄褐色土1%、明黄褐色土1%、炭化物(φ1~5mm)1%、灰白色土1%未満。
 黒褐色土2%、黄褐色土1%、焼土粒(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%未満。
 暗褐色土20%、赤褐色焼土15%、炭化物(φ10~15mm)1%、明赤褐色焼土1%、炭化物(φ1mm)1%。
 黒褐色土25%、赤褐色土5%、明赤褐色焼土3%、炭化物(φ10~30mm)3%、炭化物(φ1~5mm)2%。
 暗褐色土15%、黄褐色土5%、炭化物(φ10~40mm)3%、黒褐色土1%、炭化物(φ1mm)1%、焼土粒(φ1mm以下)1%未満。
 黄褐色土7%、黒色土5%、炭化物(φ30mm)2%、炭化物(φ1mm以下)1%未満。
 褐色土15%、黒色土5%、炭化物(φ3~10mm)3%、赤褐色焼土2%。
 黒褐色土20%、暗褐色土10%、黄褐色土5%、赤褐色焼土3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 天蓋の崩落土。褐色土30%、褐色焼土7%、炭化物(φ20~30mm)3%。
 天蓋の崩落土。暗褐色土20%、褐色土10%、明褐色土3%、明黄褐色土2%、焼土粒(φ1mm以下)1%未満、炭化物(φ1mm)1%未満。
 天蓋の崩落土。暗褐色土10%、明赤褐色焼土7%、明黄褐色土5%、黒褐色土1%、炭化物(φ1~2mm)1%未満。
 本層上面が火床面。赤褐色焼土40%、暗褐色土10%。
 本層下面が旧床面で旧床面に充填した土層。黄褐色土5%、明黄褐色土3%、赤褐色焼土1%、炭化物(φ1mm)1%未満。
 掘り方。褐色土20%、黄褐色土10%、暗赤褐色焼土1%、炭化物(φ1mm以下)1%未満。
 掘り方。黄褐色土7%、黄褐色土5%、褐色土1%、浅黄色粘土1%、炭化物(φ1mm)1%未満。

SI06内Pit1 (C-C')

| | | |
|---|---------|---------|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 |

明黄褐色土15%、明褐色土15%、炭化物(φ3~5mm)1%。
 にぶい褐色土7%、黄褐色土5%、浅黄褐色土2%、炭化物(φ5~15mm)1%。

図29 第6号竪穴住居跡

- 48 -

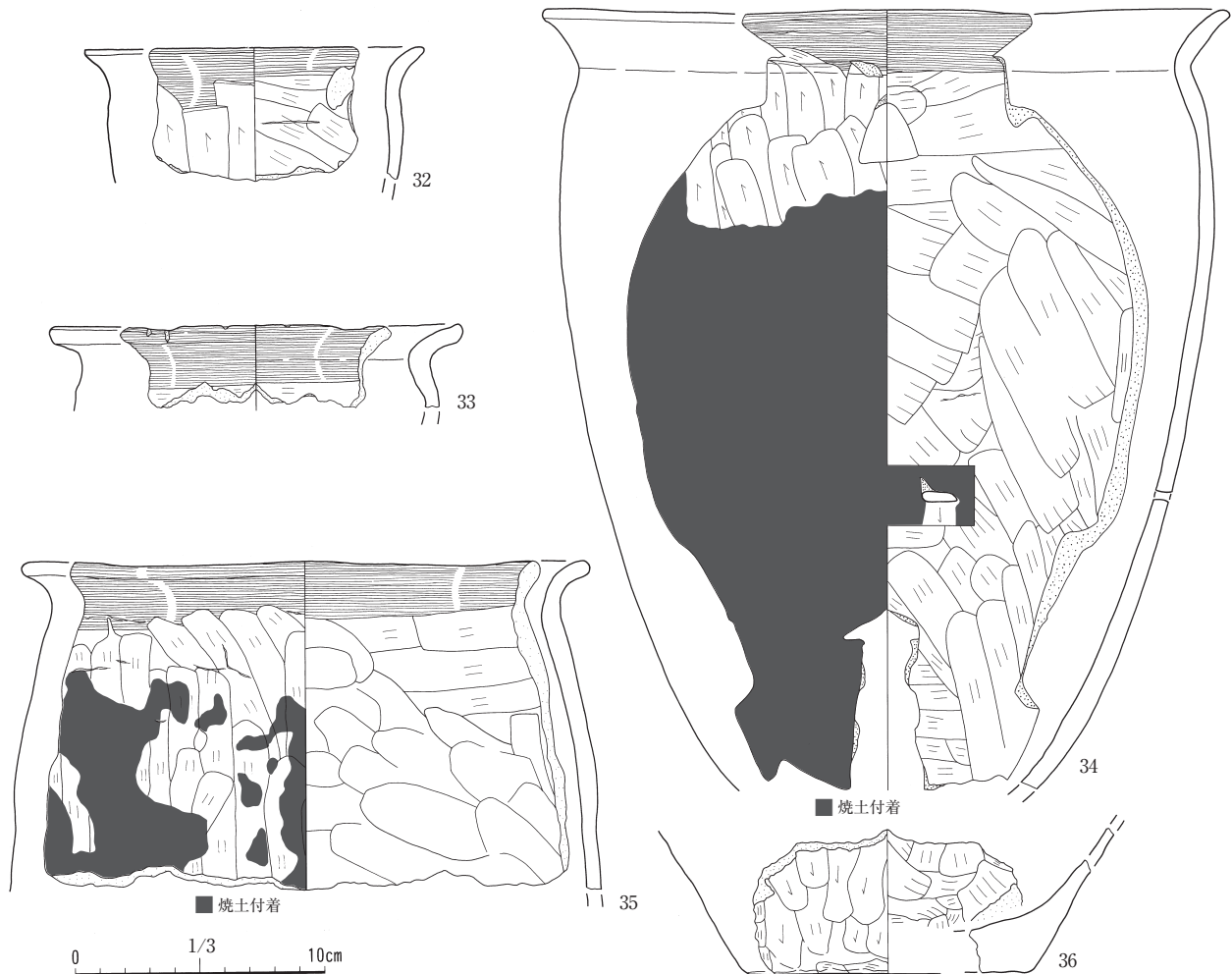


図30 第6号竪穴住居跡 出土遺物

底面と覆土の境界が明瞭で、覆土下位はローム粒の少ない暗褐色土で埋められ覆土上位はローム粒を多く含む貼り床層と考えられることから住居の施設であろうと判断した。遺物は出土していない。

[堆積土] 全体的に暗褐色土が自然堆積し、中位の第2層にはB-Tmが含まれていてやや明るい色調を呈する。下位には焼土や炭化物が多く含まれていて焼失住居跡であることが判明した。特に南東半では焼土が、北西半では炭化物が多く検出されている。

[出土遺物] 出土土器の総重量は2.88kgで、内訳は土師器2.79kg、須恵器0.01kg、縄文土器0.08kgである。そのうち土師器甕5点(32～36)を図示した。カマド周辺から土師器破片が少量出土し、調査区域壁付近でも甕(34)が出土した。34は粘土等材料分析(試料No.18)を行ったところ、淡水成粘土を用いていることが判明した(第5章第7節)。

出土した炭化材のうち16点を樹種同定、1点を放射性炭素年代測定した。樹種同定では、クリ13点、アサダ・オニグルミ・アスナロ1点という結果を得た(第5章第3節)。放射性炭素年代測定結果は第5章第5節に示してある。

[遺構の時期等] 本住居跡は焼失家屋であり、出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相、B-Tmの堆積状況などから、9世紀中葉～10世紀初頭頃には廃絶されていたものと思われる。

第7号竪穴住居跡 (SI07、図31)

[位置・確認] 調査区南側第3号取付道路との分岐点付近、27-33・34グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7~34.0m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区域外に全体の約5分の4があるものと思われ、平面形は方形をなす東隅付近を検出したものと推定される。壁長及び確認面から床面の深さは、北東壁(1.9)m・深さ13~16cm、南東壁(1.4)m・深さ7cmを測る。検出された壁は浅いが、いずれの壁も垂直に近い立ち上がりをするようである。住居の軸方向はN-123°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は貼り床によって平坦に整えられている。壁溝は幅13~38cm、深さ10~19cmで、一部途切れているが、壁際を巡っている。

[柱穴・カマド] 柱穴及びカマドは調査区域内では検出されなかった。

[その他の施設] ピットが2基検出された。Pit 1は53×41cmの楕円形、深さ37cmで、覆土上部に粘土が充填され、下位は黒褐色土で埋められていた。Pit 2は直径43cmの円形、深さ23cmで、Pit 2底面には直径14cmで深さ30cmを測る小ピットが検出された。覆土上位及び下位にはローム粒を多く含む褐色土が、中位には黒褐色土が堆積している。Pit 2は底面に小ピットが検出されたことから、ロクロを設置した、いわゆるロクロピットである。Pit 1・2とも土器などの遺物は出土しておらず、Pit 2覆土から図示していないが、0.21kgの礫が出土した。Pit 1から出土した粘土について粘土等材料分析(試料No.3)を行ったところ、淡水成粘土であることが判明し(第5章第7節)、土師器の材料として貯蔵していたものと考えられる。

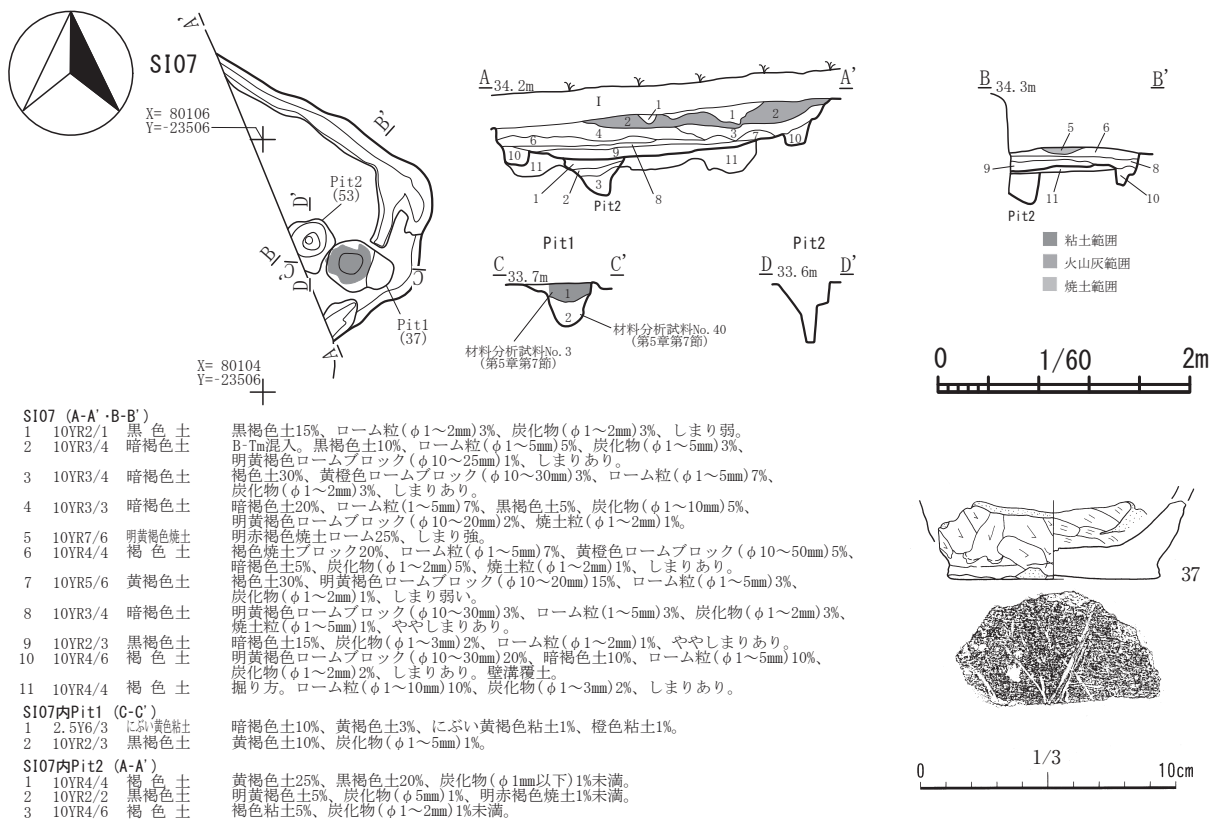


図31 第7号竪穴住居跡と出土遺物

[堆積土] 上位には暗褐色土が、床面付近では黒褐色土が自然堆積している。上位の第2層にはB-Tmが含まれており、やや明るい色調を呈している。

[出土遺物] 出土した遺物は土師器0.13kgで、そのうち土師器甕底部片(37)を図示した。

[遺構の時期等] 出土遺物、堆積土の様相、B-Tmの堆積状況などから、B-Tm降下以前の9世紀中葉～9世紀末葉頃には廃絶されていたものと思われる。またロクロピット(Pit 2)の検出と粘土貯蔵ピット(Pit 1)の検出から、本遺構は土師器製作遺構であったと考えられる。

(2) 土坑

土坑は31基検出され、縄文時代9基(SK02・03・04・07～11・13)、近世以降1基(SK05)で、これら以外の21基は平安時代の土坑と考えられる。縄文時代の土坑は27-4グリッド周辺と第3号取付道路の27-110～115に占地し、平安時代の土坑は農道本線と第3号取付道路のT字路付近に比較的まとまって占地している。なお、SK01は欠番である。

第2号土坑 (SK02、図32)

[位置・確認] 調査区南側北端、27-23グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.3m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸1.0m、短軸0.8mのやや歪な楕円形を呈し、確認面からの深さは28cmである。底面はやや起伏があるものの概ね平坦で、第V層まで掘り込まれている。断面形は壁が直立する浅いコ字状をなしている。

[堆積土] 上位は暗褐色土が、下位はロームブロックが主体で、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。遺構の形態及び堆積土の状況から、平安時代のものである可能性がある。

第3号土坑 (SK03、図32・36)

[位置・確認] 調査区北側北部、27-4グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.9m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸(1.0)m、短軸0.8mの楕円形を呈し、確認面からの深さは21cmで、遺構上部が大きく削平を受けていることから、本来はもっと深さを有していたものと思われる。第V層を平坦な底面としており、断面形は壁が丸みを帯びながら立ち上がる皿状をなしている。

[堆積土] 黒色土が堆積し、底面付近はわずかにローム粒を含んでいる。

[出土遺物と遺構の時期等] 縄文土器0.45kgが出土し、そのうち3点(図36-38～40)を図示した。これらは縄文時代後期初頭の同一個体と思われる十腰内I式の壺形土器で、底面から浮いた状態で出土している。したがって遺構の埋没過程に混入した可能性が考えられ、十腰内I式以前に廃絶された遺構と考えられる。38は粘土等材料分析(試料No.30)を行い、淡水成粘土を用いていることが判明した(第5章第7節)。

第4号土坑 (SK04、図32・36)

[位置・確認] 調査区北側北部、27-3グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.8m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区際に位置し、南西半のみ検出された。長軸1.7mの楕円形を呈すると考えられ、

短軸は約1m程度と思われる。確認面からの深さは55cmで、第Ⅵ層を平坦な底面として使用しており、断面形はフラスコ状をなすが、南西部ではオーバーハングしない部分もある。

[堆積土] 黒色土を主体とし、底面壁際には壁崩落土と思われるロームがブロック状に堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 土器は出土しなかったが、底面から0.49kgの凹石(図36-41)が出土した。扁平な安山岩の4面に各2個ずつ凹みがある。出土遺物と遺構の形状から、縄文時代のフラスコ状土坑と思われる。

第5号土坑 (SK05、図32)

[位置・確認] 調査区北側中央、27-8グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.7mである。焼土を検出したためその周辺を精査したところ、黒色土の落ち込みを確認した。SD03と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 調査区際に位置するため、(1.6)m×(0.6)mの南西半のみ検出された。平面形は円形または楕円形を呈すると考えられ、確認面からの深さは37cm、土層観察によると本来は80cm程度あったものと思われる。底面は第Ⅵ層まで掘り込まれていて平坦で、断面形は底面付近では皿状をなすが、上部が大きく開いている。また本土坑の南側から西側に隣接して焼土が2.6×1.8mの範囲で検出され、本土坑を取り巻くように調査区域外まで延びている。

[堆積土] 上位は黒色土が、中位は黒褐色土が自然堆積しており、下位は焼土粒を含んだ褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は、焼土層から縄文時代中期頃と思われる土器片0.01kgが出土したが、摩耗が激しく図示し得なかった。土層観察によると第Ⅱ層上面から掘り込まれているようで、平安時代以降のものと考えられ、SD03よりも新しい。

第6号土坑 (SK06、図32・36)

[位置・確認] 第3号取付道路西端、27-113グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.7m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区際に位置し、北西側は調査区域外に延びている。南東壁が1.8mを測ることから、おそらく1.8m四方の隅丸方形を呈する可能性が高い。確認面からの深さは24cm、底面は平坦で地山第Ⅴ層をそのまま使用している。断面形は底面付近で丸みを帯びながら立ち上がる皿状をなしている。

[その他の施設] 南隅付近で、深さ4cmまで被熱が及んで赤色化した焼土が検出された。平面形は27×14cmの不整形である。

[堆積土] 暗褐色土が主体で、黒褐色土との互層となっている。中位には火山灰が層状に堆積しており、自然堆積であったと思われる。この火山灰を分析したところ、B-TmとTo-aが含まれていることが判明した(第5章第1節)。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土土器の総重量は1.0kg、内訳は土師器0.79kg、縄文土器0.21kgで、礫が0.08kg出土した。そのうち土師器甕(図36-42・43)、縄文土器片(44~47)を図示した。42は焼土部分から出土した中甕、43は土層観察用ベルト部分から出土した中甕で、43の底部片にはB-Tmが直接堆積していた。42・43は粘土等材料分析(試料No.20・19)を行い、淡水成粘土を用いていることが判明した(第5章第7節)。また底面直上から出土した炭化材1点について樹種同定及び放射性

炭素年代測定を行ったところ、樹種はモクレン属と判明し（第5章第3節）、年代測定結果は第5章第5節に示してある。

覆土中位でB-Tmと思われる火山灰が検出され、出土遺物、堆積土の様相などから9世紀後葉～10世紀初頭頃には廃絶されていたものと考えられる。床面から地床炉の可能性が高い焼土が検出されていて「竪穴遺構」である可能性もあるが、規模が小さいことから「土坑」とした。

第7号土坑（SK07、図33・37）

[位置・確認] 第3号取付道路西端、27-114グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.6m、第V層で確認した。SK08と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は長軸1.8m、短軸1.7mの不整形円形を呈し、確認面からの深さは61cmである。底面はやや平坦ではあるが、断面形は掘り鉢状をなしており、壁は大きく開いている。

[堆積土] 下位は黒褐色土、中位はローム粒を多く含む褐色土で埋め戻されており、確認面付近の第2層では粘土が検出された。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した縄文土器の総重量は0.32kgで、縄文時代中期から後期のものであった。また覆土から剥片石器1点、0.04kgも出土し、これらのうち縄文時代中期土器片（図37-48・49）と削器（50）を図示した。48は底面直上に相当する第4層から出土した円筒上層b式土器で、粘土等材料分析（試料No.31）を行ったところ、淡水成粘土を用いていることが判明した（第5章第7節）。49も縄文時代中期前半の土器と思われる単節縄文が施文された深鉢土器の胴部破片で、50は覆土から出土した珪質頁岩製の削器である。

本土坑からは縄文時代の遺物が出土しているが、これらは第7号土坑を掘った際に重複する第8号土坑に含まれていた遺物を掘り上げ、第7号土坑に混入したものと思われる。確認面で粘土が検出され、堆積土に炭化物が含まれていることなど、堆積土の様相は平安時代のものであることから、本土坑は平安時代の遺構である可能性が高い。

第8号土坑（SK08、図33）

[位置・確認] 第3号取付道路西端、27-114グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.6m、第V層で確認した。SK07と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 遺構上部は重複しているSK07で壊されていて、確認面における平面形及び規模は不明である。確認できるSK08の中端、つまりSK07底面での規模は、長軸1.1m、短軸0.9mの楕円形である。底面は直径約1.3mの円形をなし、確認面からの深さは119cm、断面形はフラスコ状をなしている。第VI層を平坦な底面とし、中央部分に長軸42cm、短軸33cmの楕円形で深さが19cmのピットが検出された。

[堆積土] ローム粒を多く含む黒褐色土もしくは暗褐色土が主体となっており、フラスコの肩部分では地山第V層の崩落土が多量にみられる。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した縄文土器の総重量は0.02kgで、後期のものであったが図示し得なかった。また、礫が0.03kg出土した。遺構の形状、堆積状況、出土遺物、遺構の重複関係などから縄文時代後期頃の遺構と考えられ、いわゆるフラスコ状土坑である。

第9号土坑（SK09、図33）

[位置・確認] 第3号取付道路西側、27-112グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.6m、第IV

層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸0.7m、短軸0.6mの歪な円形を呈し、確認面からの深さは44cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで若干凹凸があり、断面形は底面付近に丸みを帯びたコ字状で、全体の形状は円筒状をなしている。

[堆積土] 暗褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した縄文土器の総重量は0.01kgで、図示し得なかったが縄文時代後期頃の破片と思われる。出土遺物と堆積土の様相から縄文時代後期の遺構である可能性がある。

第10号土坑 (SK10、図33)

[位置・確認] 第3号取付道路西側、27-111グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.7m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸0.8m、短軸0.7mの楕円形を呈し、確認面からの深さは32cmである。底面は第Ⅴ層を掘り込み、やや凹凸があるものの概ね平坦である。断面形はコ字状をなしている。

[堆積土] ローム粒を含む黒褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかったが、堆積土の様相から縄文時代の遺構である可能性がある。

第11号土坑 (SK11、図33)

[位置・確認] 第3号取付道路中央西寄り、27-110グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.8m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸0.8m、短軸0.7mの円形を呈し、確認面からの深さは59cmである。底面は第Ⅵ層まで掘り込んで平坦に仕上げられており、断面形はわずかに内湾するフラスコ状をなしている。

[堆積土] ローム粒を含む黒褐色土が堆積しており、人為的に埋められたものと思われる。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかったが、遺構の形状から縄文時代のフラスコ状土坑と考えられる。

第12号土坑 (SK12、図33・37)

[位置・確認] 第3号取付道路中央、27-107グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.8m、第Ⅳ層で確認した。SP42・43・44・45と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は直径1.5mの円形を呈し、確認面からの深さは31cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んでいてやや起伏があるものの概ね平坦で、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 底面直上では黒色土が堆積するが、全体的に暗褐色土が堆積しており、底面付近ではローム粒を比較的多く含む。壁際では、少量の炭化物の散布範囲が3カ所確認できた。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土土器の総重量は約0.13kgで、内訳は土師器0.017kg、須恵器0.117kgであった。図37-52は底面出土の須恵器壺の底部片である。出土遺物と堆積土の様相から平安時代の遺構と考えられる。また、位置的にSD09の開口部分に位置するが、SD09との関係性は不明である。

第13号土坑 (SK13、図33・37)

[位置・確認] 第3号取付道路西端、27-114グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.5m、第Ⅴ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区際に位置し、全体の約2分の1、(1.2) × (0.4) mの北西半のみ検出された。

直径約1.5m程度の円形を呈すると考えられ、確認面からの深さは31cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで平坦にしており、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 暗褐色土及び褐色土が堆積しており、底面壁際では黄褐色ロームが堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土縄文土器の総重量は0.13kgで、礫が0.003kg出土した。図示したのは縄文時代中期の土器片（図37-53～55）である。縄文土器片は混入した可能性があり、堆積土の様相から平安時代の遺構である可能性が高いと思われる。

第14号土坑（SK14、図33）

[位置・確認] 第3号取付道路東側、27-103グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.0m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区際に位置し、全体の約2分の1、北西半のみ検出された。円形もしくは楕円形を呈すると考えられ、確認面からの深さは18cmである。底面は第Ⅳ層まで掘り込んでいて概ね平坦で、断面形は上部が開く皿状をなしている。

[堆積土] 上位には黒褐色土が、下位は暗褐色土が堆積し、人為的に埋め戻された可能性がある。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかったが、堆積土の様相から平安時代の遺構である可能性が高い。

第15号土坑（SK15、図33・37）

[位置・確認] 第3号取付道路東側、27-103グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.2m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区際に位置するため、全体の約2分の1、(0.8) × (0.4)mの南東半のみ検出された。隅丸長方形を呈するものと思われ、確認面からの深さは34cmであるが、土層観察によると本来は60cm程度以上の深さを有していたものと思われる。底面は第Ⅳ層まで掘り込んでいて、断面形は上部が開くU字状をなしている。

[堆積土] 上位に第Ⅱ層由来の黒色土、下位には黒褐色土が堆積しており、自然堆積と思われる。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器の総重量は0.08kgで、坏の体部下半（図37-55）である。堆積土の様相と出土遺物から、平安時代の遺構と考えられる。

第16号土坑（SK16、図33・37）

[位置・確認] 調査区南側南端、27-44グリッドに位置し、遺構確認面の標高は28.2m、第Ⅳ層で確認した。SK17と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 調査区際に位置し、全体の約2分の1、(1.7) × (1.0)mの南西半のみ検出された。平面形は直径約1.8mのやや歪な円形を呈すると考えられ、確認面からの深さは65cmである。底面は第Ⅵ層まで掘り込まれて平坦で、断面形はコ字状であるが、北西部ではオーバーハングしている部分もある。

[堆積土] 黒色土が主体で、底面付近では黄褐色ロームが流入している。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土土器の総重量は0.11kg、内訳は土師器0.04kg、縄文土器0.07kgである。そのうち土師器甕胴部片（図37-56）と縄文土器片（57～59）を図示した。縄文土器片は後期前葉の十腰内Ⅰ式土器で、偶然混入したものと考えられる。出土遺物と堆積土の様相などから、平安時代の遺構と考えられる。

第17号土坑（SK17、図33・37）

〔位置・確認〕調査区南側南端、27－44グリッドに位置し、遺構確認面の標高は28.1m、第Ⅳ層で確認した。SK16と重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕調査区際に位置し、SK16とも重複していることから全体の約4分の1、(0.6) × (0.5)mの範囲で南西の四半部のみ検出された。平面形は円形もしくは楕円形をなすものと思われるが、全体の規模は不明である。確認面からの深さは12cmであるが、土層観察によると本来は40cmほどあったものと思われる。底面は第Ⅴ層まで掘り込まれてやや丸底状に仕上げ、断面形は上部が開くU字状をなすものと思われる。

〔堆積土〕第Ⅱ層由来の黒色土が堆積しており、自然堆積と思われる。

〔出土遺物と遺構の時期等〕出土した縄文土器の総重量は0.11kgで、縄文後期土器片（図37－60～63）を図示した。縄文時代後期の土器片が出土しているが、第Ⅱ層由来黒色土が堆積している状況と、遺構の重複関係から平安時代の遺構と考えられる。

第18号土坑（SK18、図34）

〔位置・確認〕第3号取付道路東端、27－102グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

〔平面形・規模〕平面形は長軸1.2m、短軸1.1mの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは27cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んでやや凹凸があり、断面形は皿状をなしている。

〔堆積土〕ローム粒を含む暗褐色土が堆積し、底面付近は特に粒径が大きいものが含まれる。

〔出土遺物と遺構の時期等〕土器は出土しなかったが、覆土から剥片が1点（0.002kg）出土した。堆積土の様相から平安時代の遺構と考えられる。

第19号土坑（SK19、図34）

〔位置・確認〕第3号取付道路東端、27－102グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.9m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

〔平面形・規模〕平面形は長軸0.6m、短軸0.3mの楕円形を呈し、確認面からの深さは34cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで凹凸があり、断面形はU字状、全体の形状は短い溝状をなしている。

〔堆積土〕黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物と遺構の時期等〕出土した土師器の重量は0.03kgだが、図示し得るものはなかった。出土遺物と堆積土の様相から、平安時代の遺構と考えられる。

第20号土坑（SK20、図34）

〔位置・確認〕第3号取付道路東端、27－102グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

〔平面形・規模〕調査区際に位置するため南東の一部は確認できなかったが、平面形はおおよそ直径0.6mの円形を呈すると考えられ、確認面からの深さは21cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んだ起伏のある底面で、断面形は皿状をなしている。

〔堆積土〕ローム粒を含む黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物と遺構の時期等〕出土した縄文土器の重量は0.004kgだが、図示し得る遺物はなかった。縄文土器のみの出土だが、堆積土の様相から平安時代の遺構と考えられる。

第21号土坑（SK21、図34）

[位置・確認] 第3号取付道路東端、27-102グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸0.5m、短軸0.4mの楕円形を呈し、確認面からの深さは23cmである。底面は第V層まで掘り込んで起伏があり、断面形は掘り鉢状をなしている。

[堆積土] 黒褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかったが、堆積土の様相から平安時代の遺構と考えられる。

第22号土坑（SK22、図34）

[位置・確認] 第3号取付道路東端、27-102グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸0.5m、短軸0.4mの円形を呈し、確認面からの深さは26cmである。底面は第V層まで掘り込んで凹凸があり、断面形は壁がしっかりと立ち上がる皿状をなしている。

[堆積土] 上位は黒褐色土が、下位はにぶい黄褐色土が堆積していて、SK23と類似した堆積土の様相を示している。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかったが、堆積土の様相から平安時代の遺構と考えられる。

第23号土坑（SK23、図34）

[位置・確認] 第3号取付道路東端、27-102グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区際に位置するため、北西の一部は検出されなかった。長軸80cm程度、短軸66cmの楕円形を呈するものと考えられ、確認面からの深さは31cmである。底面は第VI層上面まで掘り込んでいて、断面形は狭小な底面から大きく開きながら立ち上がる掘り鉢状をなしている。

[堆積土] 上位は黒褐色土が、下位はにぶい黄褐色土が堆積していて、SK22と類似した堆積土の様相を示している。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかったが、堆積土の様相から平安時代の遺構と考えられる。

第24号土坑（SK24、図34）

[位置・確認] 調査区南側第3号取付道路との分岐点付近、27-35（27-101）グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.4m、第IV層で確認した。SK25と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は直径1.5×1.4mの歪な隅丸方形を呈し、確認面からの深さは26cmである。底面は第V層まで掘り込んでいて平坦に仕上げられており、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 上位に暗褐色土、中位に黒褐色土、下位に黒色土が堆積している。底面付近では焼土が散布しており、底面自体も被熱によって橙色化した部分が確認できた。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.03kgで、甕の破片が数点出土したがいずれも図示し得なかった。堆積土の様相、重複関係などから平安時代の遺構と考えられ、9世紀中葉～9世紀末葉頃の可能性が高い。また底面の被熱状況、遺構の形態等から、その機能は土師器の焼成遺構であると考えられる。

第25号土坑（SK25、図34）

[位置・確認] 調査区南側、第3号取付道路との分岐点付近、27-35（27-101）グリッドに位置し、

遺構確認面の標高は33.3m、第Ⅳ層で確認した。SK24・27と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 他遺構との重複によって規模は明確ではないが、長軸1.5m程度、短軸1.35mの隅丸長方形を呈するものと考えられ、確認面からの深さは21cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んでいて平坦で、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 上位はローム粒を含む暗褐色土、底面付近は黒褐色土が堆積し、底面には焼土が全面的に検出されている。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.06kgであるが、図示し得なかった。焼土上及び焼土中から出土した炭化材2点について樹種同定を行ったところ、2点ともクリであった(第5章第3節)。そのうち焼土中から出土した1点について放射性炭素年代測定を行い、その結果は第5章第5節に示してある。堆積土の様相、重複関係などから9世紀中葉～9世紀末葉頃の遺構と考えられる。底面の被熱状況、遺構の形態等から、その機能は土師器の焼成遺構であると考えられる。

第26号土坑 (SK26、図34)

[位置・確認] 調査区南側、第3号取付道路との分岐点付近、27-35(27-101)グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.7m、第Ⅳ層で確認した。SP30・38と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 調査区際に位置し、2.0m×(1.0)mを確認したが、西側は調査区域外に延びている。東壁が2.0mを測ることから、おそらく2.0m四方の隅丸方形を呈する可能性が高い。確認面からの深さは25cmで、底面は第Ⅴ層まで掘り込んでやや起伏がある。

[その他の施設] 底面にはピットが検出された。調査区際に位置するため正確な平面形・規模は不明だが、直径45cm程度の円形をなす可能性が高い。底面からの深さは19cm、断面形はU字状をなしている。実測図を作成していないが、焼土ブロック及びロームブロックを含む褐色土が堆積しており、柱を立てるための柱穴ではないと思われる。

[堆積土] 焼土ブロック及びロームブロックを含む褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.11kgだが、図示し得なかった。堆積土の様相と出土遺物から、平安時代の遺構と考えられる。

第27号土坑 (SK27、図34)

[位置・確認] 調査区南側、第3号取付道路との分岐点付近、27-35グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.3m、第Ⅳ層で確認した。SK25と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は直径0.5mの円形を呈し、確認面からの深さは17cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んでいて概ね平坦で、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] ローム粒・焼土粒・炭化物を含む暗褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.01kgで、図示し得なかった。堆積土の様相と出土遺物、遺構の重複関係などから、平安時代の遺構と考えられる。

第28号土坑 (SK28、図34・37)

[位置・確認] 調査区南側、第3号取付道路との分岐点付近北、27-33グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.1m、第Ⅳ層で確認した。重複するSI06カマドの精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。SI06より本遺構が古い。

[平面形・規模] 調査区際に位置し、SI06とも重複していることから全体の約4分の1、南西の四半

部のみ検出された。平面形は隅丸方形もしくは隅丸長方形をなす可能性が高いが、規模は不明である。壁長は北東壁（1.4）m、南東壁（1.9）mで、確認面からの深さは57cmである。壁は垂直に近い立ち上がりで、北東壁ではオーバーハングしている部分もある。底面は第V層まで掘り込んでいて起伏がある。

[堆積土] 上位は暗褐色土が、下位は第V層由来のロームブロックが主体となっている。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した縄文土器は0.04kgで、縄文時代後期土器片（図37-64）を図示した。SI06より古いことから平安時代以前のものであるものの、出土した十腰内I式土器も混入した可能性が考えられ、堆積土の様相などから平安時代の遺構である可能性が高い。

第29号土坑（SK29、図34）

[位置・確認] 調査区南側北部、27-29グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.7m、第IV層で確認した。SP49と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 調査区際に位置し、全体の約2分の1、(1.0) × (0.4) mの南西半のみ検出された。直径約1.0mの円形を呈すると考えられ、確認面からの深さは26cmである。底面は第V層まで掘り込んでおり、湾曲しながら壁が立ち上がり、断面形は丸底状に仕上げている。

[堆積土] 黒褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.04kgだが、図示し得なかった。堆積土の様相と出土遺物から、平安時代の遺構と考えられる。

第30号土坑（SK30、図35・37）

[位置・確認] 調査区南側、第3号取付道路との分岐点付近、27-34グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.3m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区際に位置し、全体の約3分の1程度、(1.4) × (0.4) mの南西半が検出された。楕円形もしくは隅丸方形を呈するものと思われ、確認面からの深さは15cmである。底面は第V層まで掘り込んで平坦に仕上げている。

[堆積土] 焼土や炭化物が底面付近で密に検出され、北東部の底面は被熱により赤色化している。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.23kgで、図37-65は土師器甕口縁部片、66は土師器甕胴部である。底面から出土した炭化材2点について樹種同定を行ったところ、アサダとブナ属との結果を得た（第5章第3節）。そのうちブナ属とされた炭化材（C2）について放射性炭素年代測定を行い、その結果は第5章第5節に示してある。

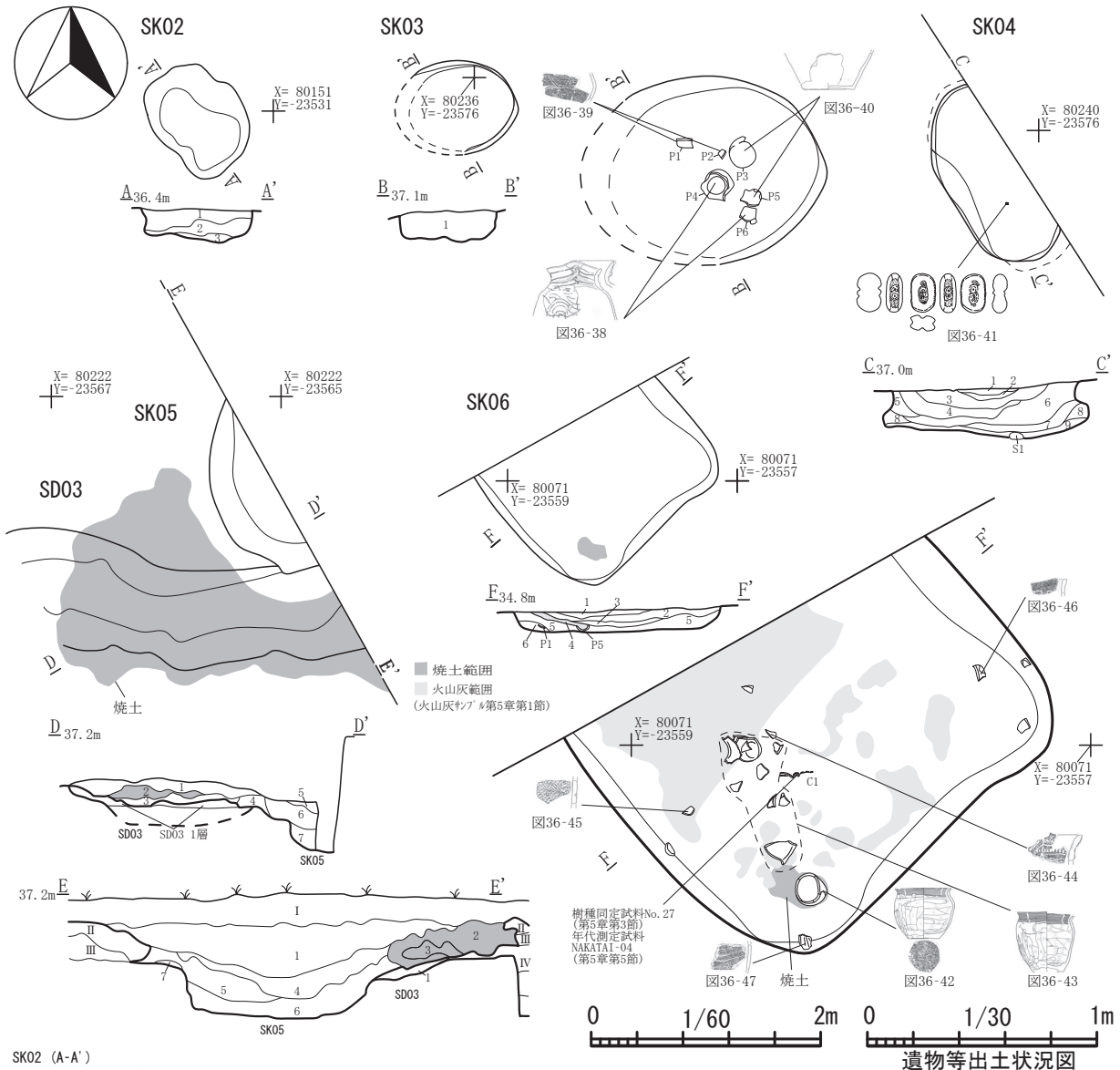
出土遺物と堆積土の様相などから9世紀中葉～9世紀末葉頃の遺構と考えられるが、放射性炭素年代測定では古い年代が出ており、古木効果の可能性もある。また、遺構の形態と焼土の検出状況から土師器焼成遺構であると考えられる。

第31号土坑（SK31、図27）

[位置・確認] 調査区南側南部、27-39グリッドに位置し、遺構確認面の標高は31.0m、第IV層で確認した。SI05と重複し、本遺構が古い。

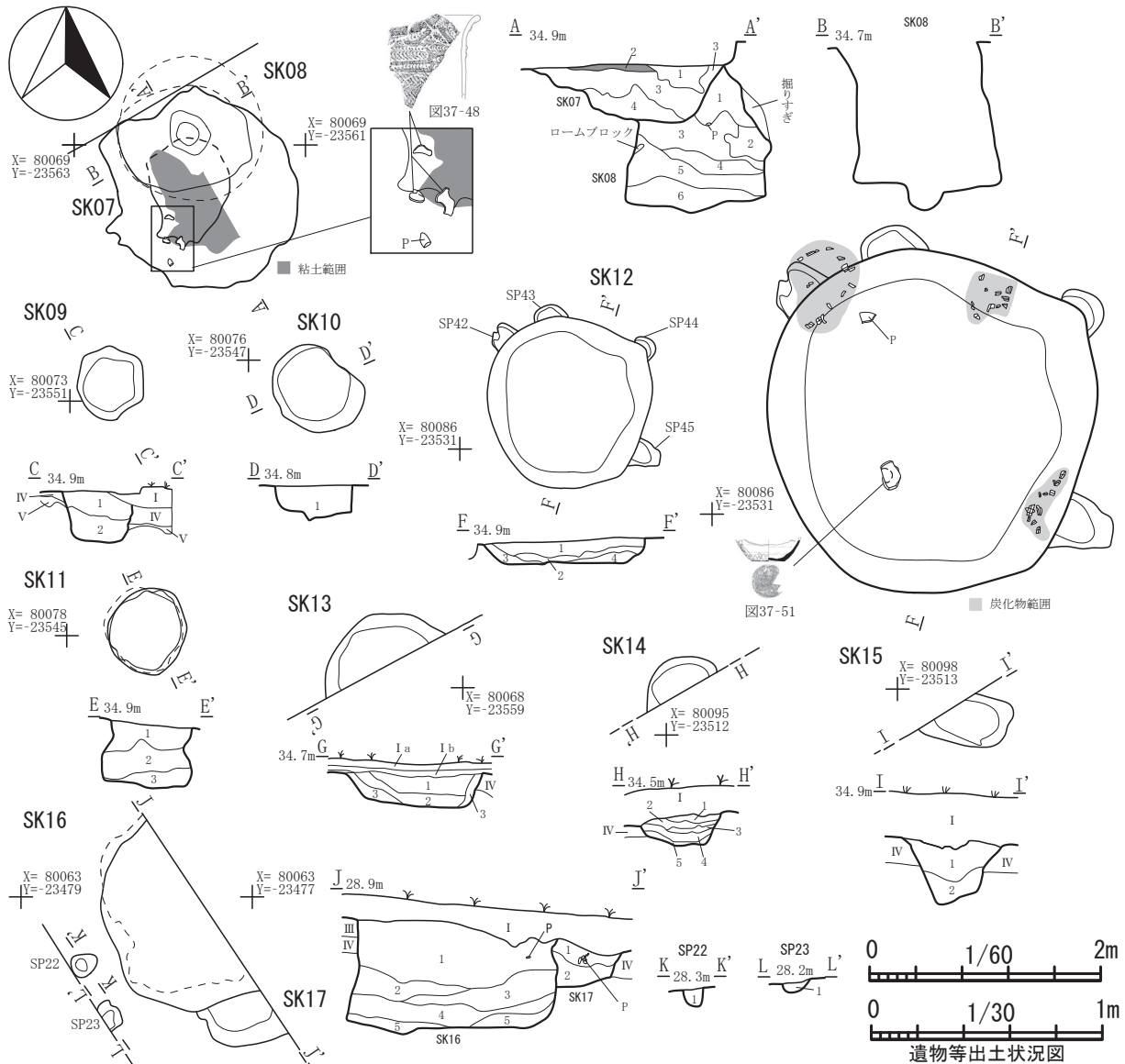
[平面形・規模] 重複により全体の平面形・規模は不明だが、88 × 55cmの三角形、確認面からの深さ29cmを確認した。底面は概ね平坦で、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 全体的に黒褐色土が堆積し、下位はローム粒が混じる。



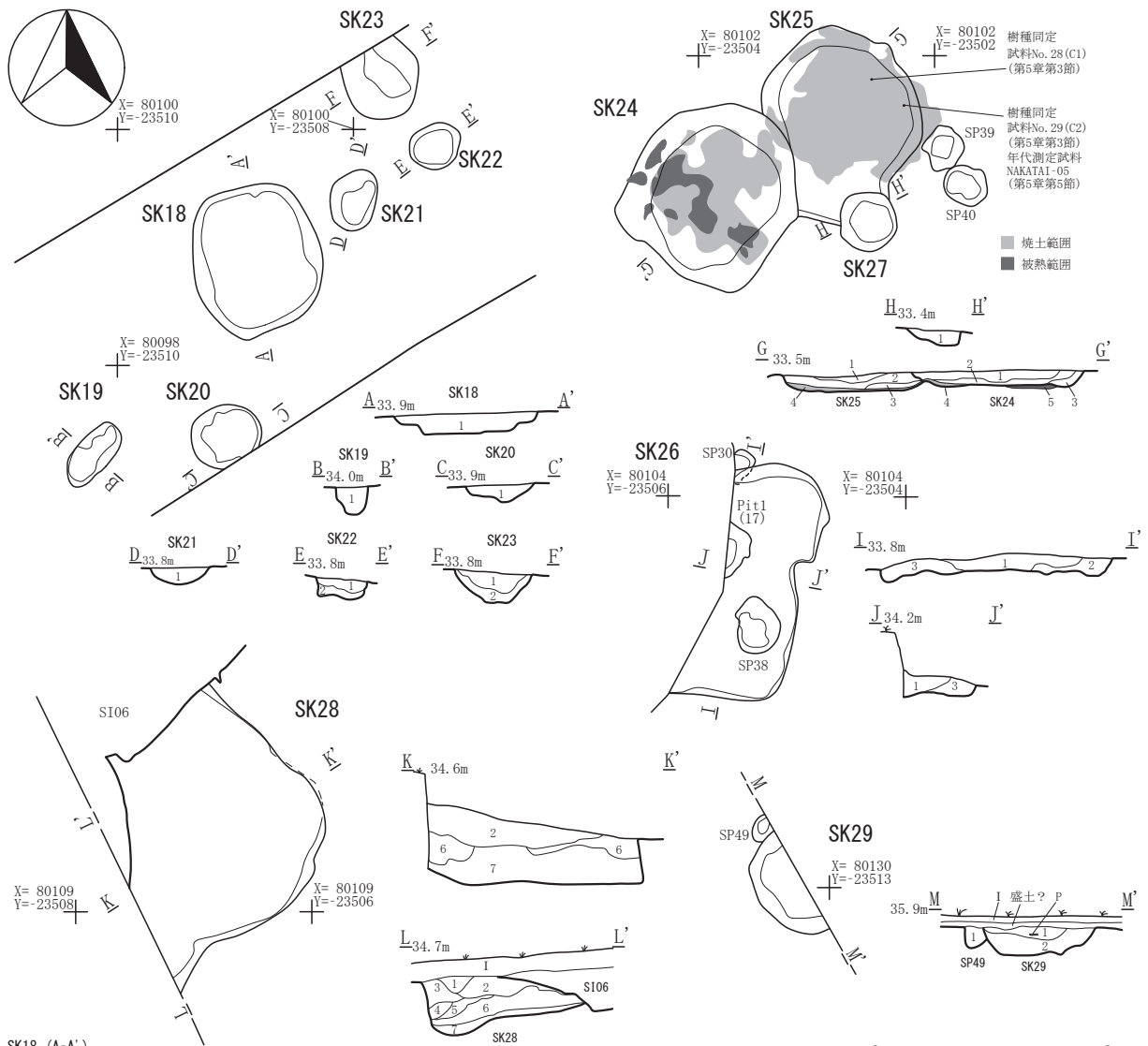
- SK02 (A-A')**
- 10YR3/4 暗褐色土 褐色土20%、ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~5mm)2%、ややしまりあり。
 - 10YR5/8 黄褐色土と10YR4/6黄褐色土の混合層 暗褐色土10%、ローム粒(φ1~3mm)7%、しまり中。
 - 5YR5/8 明褐色土 褐色ロームブロック(φ10~20mm)5%、しまり中。
- SK03 (B-B')**
- 5YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)2%、ややしまりあり。
- SK04 (C-C')**
- 5YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)2%、ややしまりあり。
 - 5YR2/2 黒褐色土 黒褐色土30%、ローム粒(φ1~2mm)7%、ややしまりあり。1層より明るい。
 - 10YR2/1 黒色土 にふい黄褐色砂質ロームブロック(φ1~7mm)7%、ローム粒(φ1~5mm)3%、ややしまりあり。
 - 10YR2/2 黒褐色土 黒色土20%、にふい黄褐色砂質ロームブロック(φ2~10mm)5%、ローム粒(φ1~10mm)2%、ややしまりあり。
 - 10YR2/1 黒褐色土 黄褐色土20%、ローム粒(φ1~2mm)1%、ややしまりあり。
 - 10YR2/1 黒色土 明褐色ロームブロック(φ1~30mm)2%、ややしまりあり。
 - 10YR2/1 黒褐色土 黒褐色土20%、ローム粒(φ1~2mm)3%、ややしまりあり。6層より明るい。
 - 10YR5/6 黄褐色土 黒色土30%、ローム粒(φ1~2mm)2%、ややしまりあり。
 - 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色土5%、ややしまりあり。8層より明るい。
- SK05 (D-D')**
- 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土20%がまばらに混在。明赤褐色焼土ブロック(φ20~50mm)10%、焼土粒(φ1~2mm)10%、炭化物(φ1~2mm)5%、ややしまりあり。
 - 5YR5/8 暗褐色焼土 黒褐色土20%、焼土粒(φ1~3mm)7%、炭化物(φ1~2mm)3%、ややしまりあり。
 - 10YR2/3 黒褐色土 黒色土30%がまばらに混在。赤褐色焼土ブロック(φ10~20mm)10%、焼土粒(φ1~3mm)7%、ややしまりあり。
 - 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土30%、ややしまりあり。
 - 10YR1/1 黒色土 ややしりあり。
 - 10YR2/2 黒褐色土 黒褐色ロームブロック(φ20~50mm)30%、焼土粒(φ1~5mm)1%、ややしまりあり。
 - 10YR2/2 黒褐色ローム にふい黄褐色ローム(φ10~20mm)20%、しまりあり。
- SK05 (E-E')**
- 10YR2/1 黒色土 黒褐色土3%、ややしまりあり。1層と4層の間に草根多、混入物少ない。
 - 5YR4/6 暗褐色焼土 黒色土10%、ローム粒(φ1~2mm)1%、ややしまりあり。
 - 5YR4/6 赤褐色焼土 黒褐色土20%、ローム粒(φ1~2mm)1%、ややしまりあり。
 - 10YR3/1 黒褐色土 黒褐色土30%、ローム粒(φ1~2mm)1%、しまりあり。
 - 5YR3/2 黒褐色土 黒褐色土20%、ローム粒(φ1~5mm)5%、ややしまりあり。
 - 5YR4/3 褐色土 黒褐色土30%、ローム粒(φ1~5mm)5%、焼土粒(φ1~5mm)3%、しまりあり。他層に比べてやや粘土質。
 - 5YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~2mm)1%、しまりあり。
- SD03 (D-D')**
- 10YR2/2 黒褐色土 黒褐色土20%、焼土粒(φ1~4mm)3%、ややしまりあり。III層相当。
- SD03 (E-E')**
- 10YR2/1 黒色土 黒褐色土40%、ローム粒(φ1~2mm)3%。
- SK06 (F-F')**
- 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土35%、褐色土1%、炭化物(φ1~3mm)1%未満。
 - 10YR3/3 暗褐色土 褐色土10%、黒褐色土7%、焼土粒(φ1~2mm)1%、炭化物(φ1mm以下)1%未満。
 - 10YR3/2 暗褐色土 暗褐色土25%、黒褐色土20%、炭化物(φ1mm以下)1%未満。
 - 10YR3/2 暗褐色土 暗褐色土20%、黄褐色火山灰(B-1m)15%、黒色土10%、炭化物(φ1mm)1%未満。
 - 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~5mm)1%、焼土粒(φ1mm以下)1%未満。
 - 10YR3/3 暗褐色土 褐色土5%、炭化物(φ1mm以下)1%未満。

図32 土坑 (1)



| 遺構 | 層 | 土質 | 成分 |
|-------------|---|-----------|---------|
| SK07 (A-A') | 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色土 |
| | 2 | 10YR7/4 | にぶい黄褐色土 |
| | 3 | 7.5YR4/3 | 褐色土 |
| | 4 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| SK08 (A-A') | 1 | 7.5YR4/4 | 褐色土 |
| | 2 | 7.5YR5/8 | 明褐色土 |
| | 3 | 10YR3/4 | 暗褐色土 |
| | 4 | 10YR4/6 | 褐色土 |
| | 5 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| SK09 (C-C') | 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 |
| | 2 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| SK10 (D-D') | 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| | 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| SK11 (E-E') | 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| | 2 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| | 3 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 |
| SK12 (F-F') | 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| | 2 | 10YR2/1 | 黒色土 |
| | 3 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| | 4 | 10YR4/4 | 褐色土 |
| SK13 (G-G') | 1 | 10YR4/4 | 褐色土 |
| | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 |
| SK14 (H-H') | 1 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| | 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| SK15 (I-I') | 1 | 10YR2/1 | 黒色土 |
| | 2 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| SK16 (J-J') | 1 | 10YR1.7/1 | 黒色土 |
| | 2 | 10YR2/1 | 黒色土 |
| SK17 (J-J') | 1 | 10YR1.7/1 | 黒色土 |
| | 2 | 10YR1.7/1 | 黒色土 |
| SP22 (K-K') | 1 | 10YR1.7/1 | 黒色土 |
| | 2 | 10YR2/1 | 黒色土 |
| SP23 (L-L') | 1 | 10YR2/1 | 黒褐色土 |
| | 2 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| SP42 | 1 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 |
| SP43 | 1 | 10YR3/2 | 黒褐色土 |
| | 2 | 10YR3/2 | 黒褐色土 |
| SP44 | 1 | 10YR3/2 | 黒褐色土 |
| | 2 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| SP45 | 1 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| | 2 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |

図33 土坑 (2)



- SK18 (A-A')**
 1 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土30%、明黄褐色ロームブロック(φ1~30mm)7%、炭化物(φ1~2mm)1%、ややしまりあり。
SK18 (B-B')
 1 10YR2/2 黒褐色土 褐色土30%(まばらに混在している)、ややしまりあり。
SK20 (G-G')
 1 10YR2/2 黒褐色土 褐色土10%(下部を中心に混在している)、ローム粒(φ1~10mm)5%、しまり中。
SK21 (D-D')
 1 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土20%(右中心に混在している)、ローム粒(φ1~10mm)5%、しまり中。
SK22 (E-E')
 1 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1~2mm)2%、しまり中。
 2 10YR4/3 黒褐色土 黒褐色土10%、ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1~2mm)3%、しまり中。
SK23 (F-F')
 1 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土30%(全体にまばらに混在している)、ローム粒(φ1~3mm)2%、しまり中。
 2 10YR4/3 明褐色土 ローム粒(φ1~10mm)25%、しまり中。
SK25 (G-G')
 1 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土10%、明黄褐色ロームブロック(φ1~20mm)3%、ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%、しまりあり。
 2 7.5YR3/4 暗褐色土 暗褐色土10%、明黄褐色ロームブロック(φ1~30mm)10%、焼土粒(φ1~2mm)2%、炭化物(φ1~3mm)2%、しまりあり。
 3 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土10%、ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%、焼土粒(φ1~2mm)1%、しまりあり。
 4 5YR5/8 弱赤褐色焼土 暗褐色土20%、黄褐色土10%、黒褐色土10%、炭化物(φ70mm)5%、ローム粒(φ1~2mm)2%、焼土粒(φ1~3mm)2%、しまりあり。
 5 5YR6/8 橙色土 被熱によって橙色化した地山。
SK24 (G-G')
 1 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土10%、明黄褐色ロームブロック(φ10~40mm)7%、ローム粒(φ1~3mm)5%、炭化物(φ1~2mm)2%、しまりあり。
 2 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土20%、ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~5mm)3%、焼土粒(φ1~2mm)しまりあり。
 3 10YR2/1 黒色土 黒褐色土10%、炭化物(φ1~10mm)7%、ローム粒(φ1~3mm)2%、焼土粒(φ1mm)1%、しまりあり。
 4 7.5YR5/8 明褐色焼土 暗褐色土10%、黒褐色土5%、ローム粒(φ1~2mm)1%、焼土粒(φ1~2mm)1%、しまりあり。
SK26 (I-I'・J-J')
 1 10YR4/4 褐色土 暗褐色土20%、明赤褐色焼土ブロック(φ2~20mm)5%、黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)2%、ローム粒(φ1~3mm)5%、炭化物(φ1~3mm)3%、しまりあり。
 2 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土10%、ローム粒(φ1~2mm)3%、炭化物(φ1~3mm)3%、黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)2%、焼土粒(φ1~2mm)1%、しまりあり。
 3 10YR4/6 褐色土 暗褐色土10%、明黄褐色ロームブロック(φ1~50mm)10%、炭化物(φ1~3mm)2%、しまりあり。
SK27 (H-H')
 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土20%、ローム粒(φ1~5mm)5%、焼土粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ2~5mm)2%、しまりあり。
SK28 (K-K'・L-L')
 1 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土25%、明黄褐色土7%、明褐色焼土(φ2mm)1%未満。
 2 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土30%、黄褐色土5%、炭化物(φ1~2mm)1%未満。
 3 10YR3/4 暗褐色土 褐色土40%、黄褐色土3%、炭化物(φ1mm以下)1%未満。
 4 ロームブロック層。
 5 10YR2/3 黒褐色土 黒褐色土5%、黄褐色土5%、炭化物(φ1mm以下)1%未満。
 6 ロームブロック層、黒褐色土15%、暗褐色土10%。
 7 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土30%、ロームブロック5%、炭化物(φ1mm以下)1%未満。
SK29 (M-M')
 1 10YR2/3 黒褐色土 黒褐色土35%、明黄褐色土1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 2 10YR2/2 黒褐色土 黒褐色土20%、褐色土3%、褐色土2%、明黄褐色土2%、炭化物(φ1~6mm)1%。
SP49 (M-M')
 1 10YR2/2 黒褐色土 黒褐色土15%、炭化物(φ1mm以下)1%未満。

図34 土坑 (3)

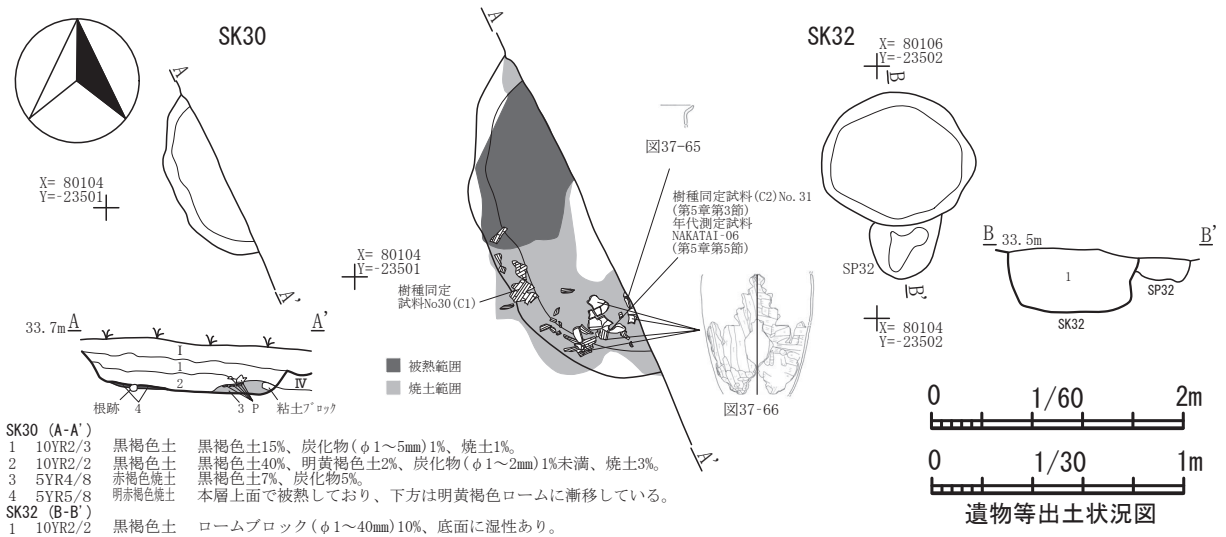


図35 土坑 (4)

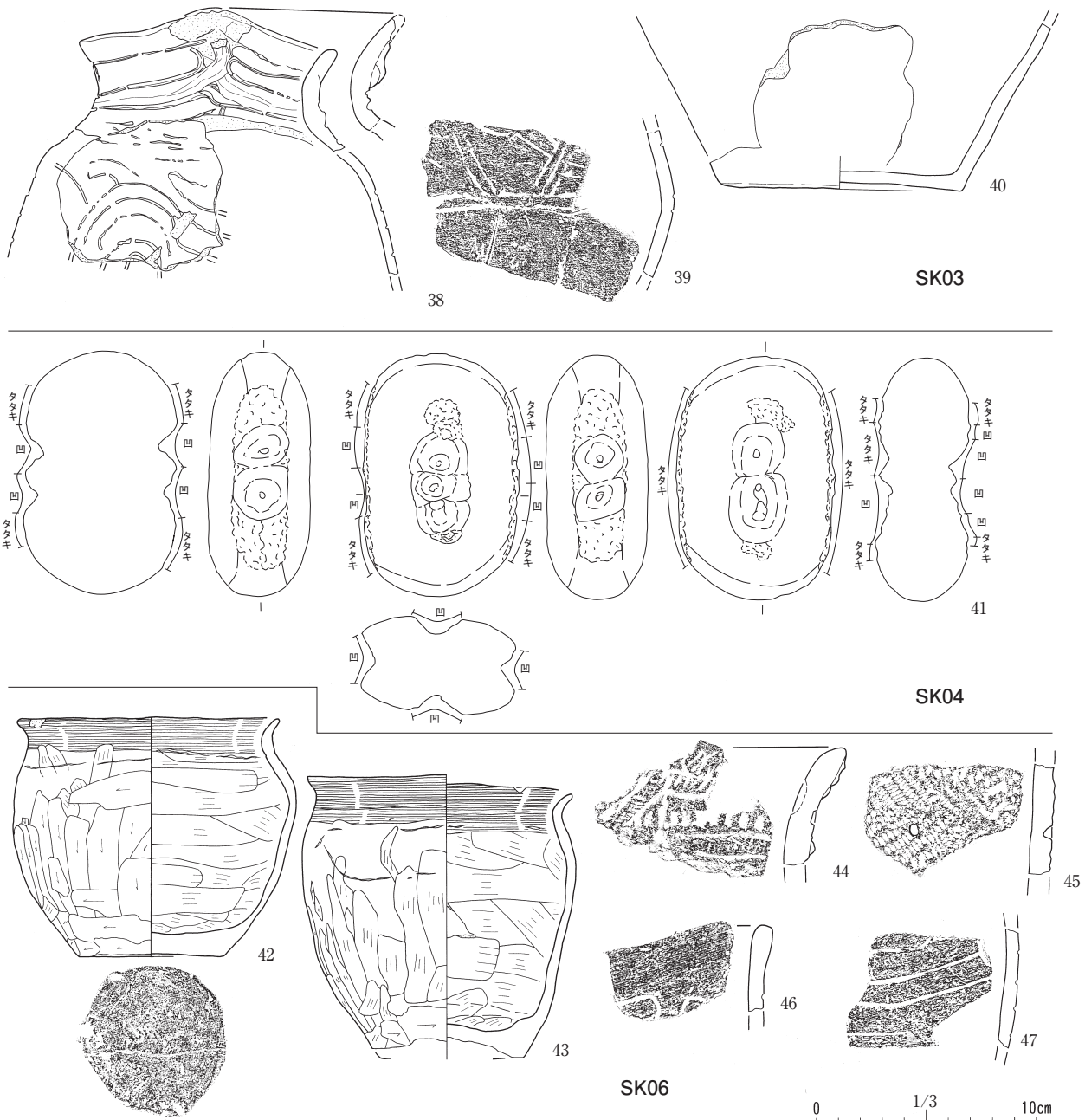
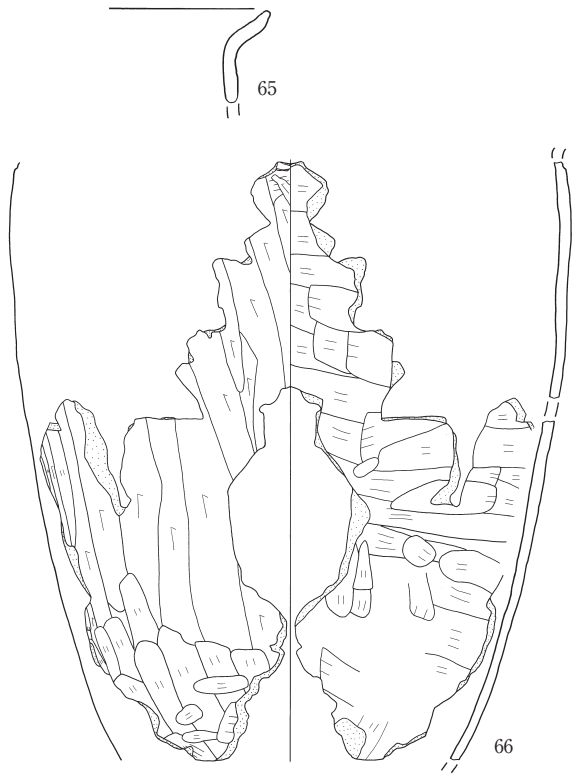
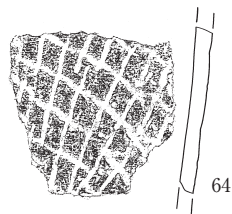
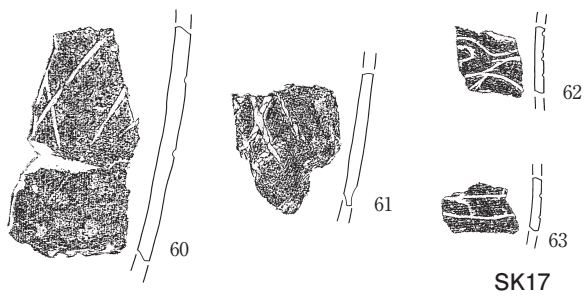
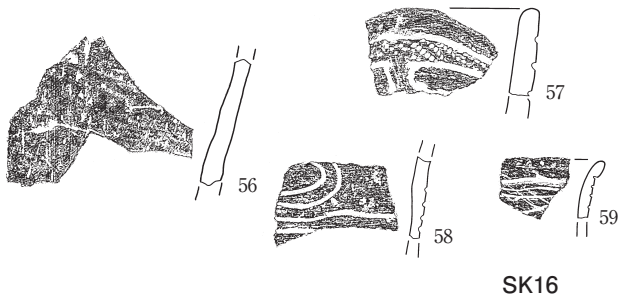
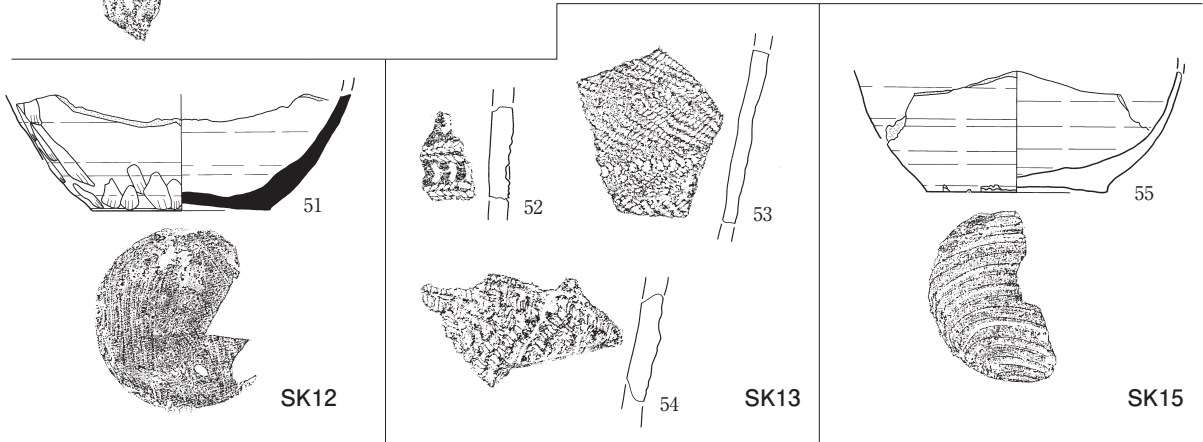
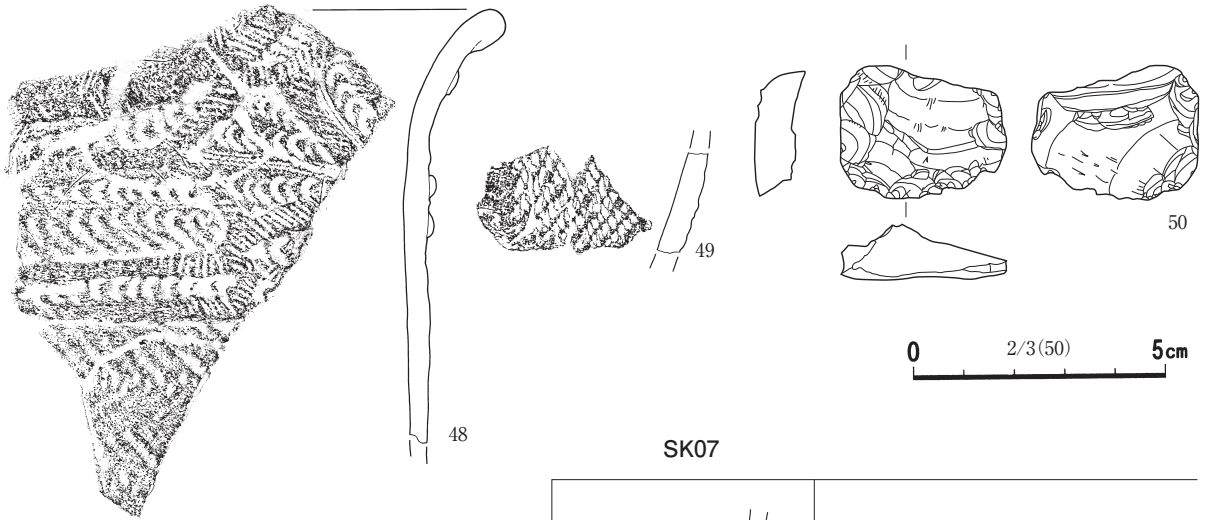


図36 土坑 出土遺物 (1)



0 1/3(48・49・51~66) 10cm

図37 土坑 出土遺物 (2)

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかったが、堆積土の様相から平安時代の遺構と考えられる。

第32号土坑（SK32、図35）

[位置・確認] 調査区南側第3号取付道路との分岐点付近、27-34グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.4m、第IV層で確認した。SP32と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は長軸1.2m、短軸1.0mのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは49cmである。底面は第V層まで掘り込んでいて平坦に仕上げている。断面形は上部がわずかに開くコ字状をなしている。

[堆積土] ローム粒を含む黒褐色土で人為的に埋め戻されている。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかったが、堆積土の様相から平安時代の遺構と考えられる。

（3）溝跡

第1号溝跡（SD01、図17・40）

[位置・確認] 調査区南側北部、27-25グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.3m、第IV層で確認した。SI01と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模・底面] 調査区を南西-北東方向に横切る直線状の溝跡で、遺構の全容は不明である。検出された長さは(5.4)mで、幅は63-93cm、確認面からの深さは20-30cmである。断面形は上部が開くコ字状もしくは逆台形をなしており、底面は第V層を掘り込みやや凹凸が見られる。南西端と北東端との比高差は6cmで、底面は北東方向にやや傾斜している。

[堆積土] 堆積土上位は黒褐色土、中位は暗褐色土、下位はローム粒を多く含む暗褐色土が堆積している。下半は人為的に埋め戻されたものと思われるが、上位は自然堆積の可能性はある。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 出土した土師器は0.43kgで、そのうち土師器坏(図40-67・68)と甕(69)を図示した。時期はSI01との重複関係から10世紀中葉以降と考えられるが、出土遺物や堆積土の様相から平安時代に属するものと思われる。その機能は土地境界や区画の明示、排水などが想定される。

第2号溝跡（SD02、図38）

[位置・確認] 調査区北側北端、27-1グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.9m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置することから遺構の全容は不明であるが、やや直線的な溝跡である。検出できた長さは(2.4)mで、幅87cm、確認面からの深さは13-17cmである。断面形は丸底の皿状をなし、底面は第V層を掘り込み起伏が少ない。北端と南端との比高差は5cmで、底面は南方向にやや傾斜している。

[堆積土] 堆積土は第II層由来の黒色土が自然堆積している。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 遺物は出土せず時期は不明であるが、堆積土の様相から平安時代以降の溝跡と思われる。その機能は不明である。

第3号溝跡（SD03、図32）

[位置・確認] 調査区北側中央、27-8グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.6m、第IV層で確認した。SK05と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 調査区を東西方向に横切るやや直線的な溝である。検出できた長さは(2.6)mで、幅80～97cm、確認面からの深さは12～22cmである。断面形は丸底の皿状をなしており、底面は第Ⅴ層を掘り込み起伏が少ない。東端と西端との比高差は4cmで、底面は西方向にやや傾斜している。

[堆積土] 上部大半がSK05によって壊されているが、第Ⅱ層由来の黒色土が自然堆積している。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 遺物は出土しなかったが、堆積土の様相から平安時代以降の遺構であると考えられ、SK05より古い。その機能は不明である。

第4号溝跡 (SD04、図38)

[位置・確認] 第3号取付道路中央やや西寄り、27-110グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.7m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置するため遺構の全容は不明であるが、緩やかに湾曲した弧状の溝跡である。検出できた長さは(1.4)m、幅24～27cm、確認面からの深さは6～18cmである。断面形はU字状をなしており、底面は第Ⅴ層を掘り込みやや凹凸が見られる。北端と南端との比高差は6cmで、底面は南方向にやや傾斜している。

[堆積土] 堆積土にはローム粒を含む暗褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 遺物は出土しなかったが、堆積土の様相から平安時代の遺構であると考えられる。その形態や周辺遺構の状況から、墓として造られた円形周溝の一部である可能性がある。

第5号溝跡 (SD05、図38)

[位置・確認] 第3号取付道路中央、27-109グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.7～34.9m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置するため遺構の全容は不明であるが、やや湾曲する弧状の溝跡である。検出できた長さは(2.3)mで、幅30～54cm、確認面からの深さは10～17cmである。断面形は上部が開くU字状をなし、底面は第Ⅴ層を掘り込み凹凸が見られる。北西端と南東端との比高差は20cmで、南東方向に底面はやや傾斜している。

[堆積土] 上位には暗褐色土が、下位、特に弧状の内径部分にはローム粒を含む褐色土が堆積している。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 遺物は出土しなかったが、堆積土の様相から平安時代の遺構であると考えられる。その形態や周辺遺構の状況から、墓として造られた円形周溝の一部である可能性がある。

第6号溝跡 (SD06、図38)

[位置・確認] 第3号取付道路中央、27-109グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.9～35.0m、第Ⅳ層で確認した。SP18と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置し、北側調査区域外へ延びている可能性がある。検出できた長さは(0.9)mで、幅15～29cmのやや弧状を呈する。確認面からの深さは7～10cmで、断面形は上部が開く皿状をなしている。底面は第Ⅴ層を掘り込みやや比較的平坦である。北端と南端との比高差は7cmで、南方向に底面はやや傾斜している。

[堆積土] 堆積土は暗褐色土が主体となっており、自然堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 出土した縄文土器は0.01kgで、図示し得なかった。縄文土器は本遺

構に流入したものと考えられ、堆積土の様相と遺構の形態から平安時代の遺構であると考えられる。その形態や周辺遺構の状況から、墓として造られた円形周溝の一部である可能性がある。

第7号溝跡 (SD07、図38)

[位置・確認] 第3号取付道路中央、27-108・109グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.8～35.0m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置し、弧状の溝跡として検出したが、南側は調査区域外に延びていることから本来は半円状をなす可能性が高い。検出できた長さは(4.6)m、幅33～75cm、確認面からの深さは3～13cmである。断面形は上部が開くU字状をなし、底面は第V層を掘り込み凹凸が見られる。この凹凸は掘り方である可能性があり、ロームブロックが掘り方に充填されている。北東端と南西端との比高差は20cmで、南東方向に底面は傾斜している。

[堆積土] 堆積土上位は黒褐色土、中位には暗褐色土、下位にはロームブロックを含む褐色土が主体となっており、下位は掘り方充填土と思われる。中位以上は自然堆積と考えられる。北側ではB-Tmが部分的に検出されている。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 出土した土師器は0.001kgだが、図示し得なかった。B-Tmの検出、出土遺物、堆積土の様相などから平安時代10世紀初頭には開口していたものと思われる。その形態や周辺遺構の状況から、墓として造られた円形周溝の一部である可能性がある。

第8号溝跡 (SD08、図38)

[位置・確認] 第3号取付道路中央、27-108グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.7～34.9m、第IV層で確認した。SP19・20と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 調査区を北西-南東方向に横切る直線状の溝跡で、遺構の全容は不明である。検出できた長さは(2.6)mで、幅65～77cm、確認面からの深さは6～14cmである。断面形は上部が開くU字状、もしくは逆台形状をなしている。底面は第V層を掘り込み凹凸が見られる。北西端と南東端との比高差は11cmで、南東方向に底面は傾斜している。

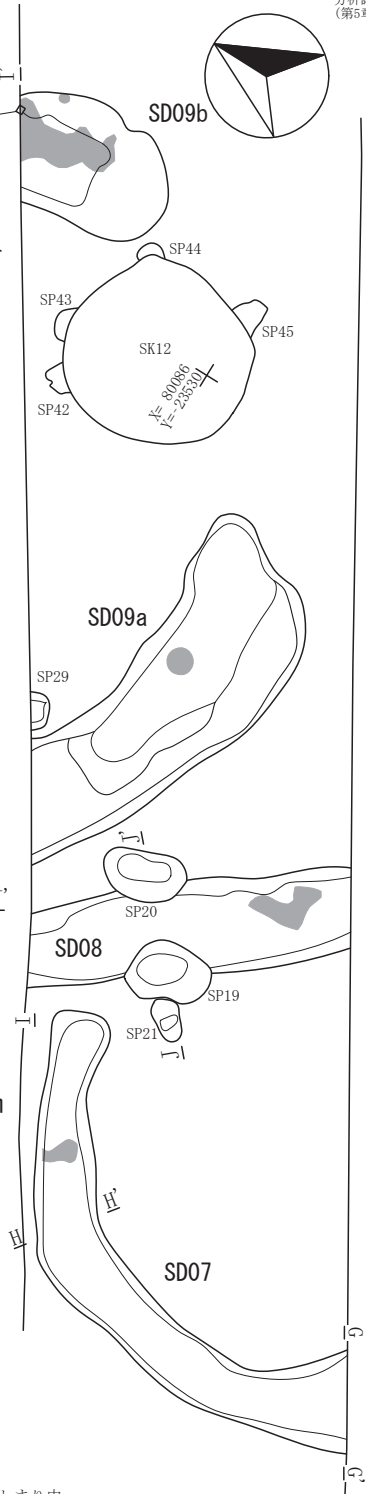
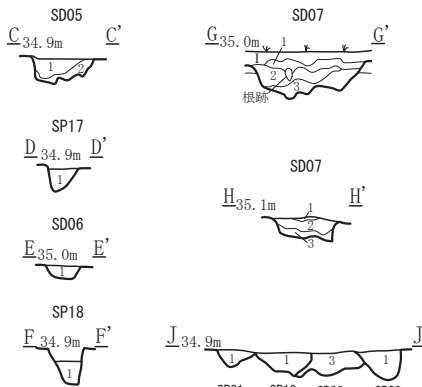
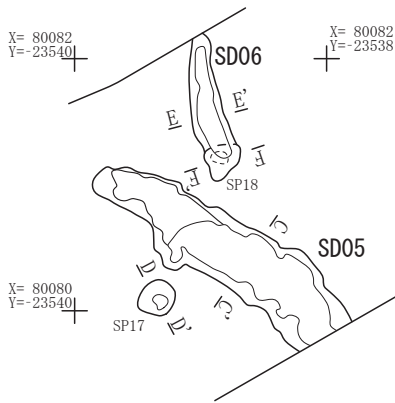
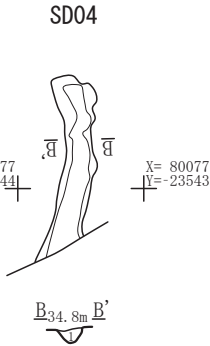
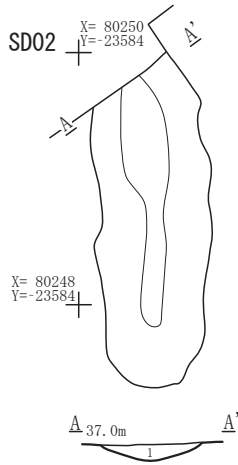
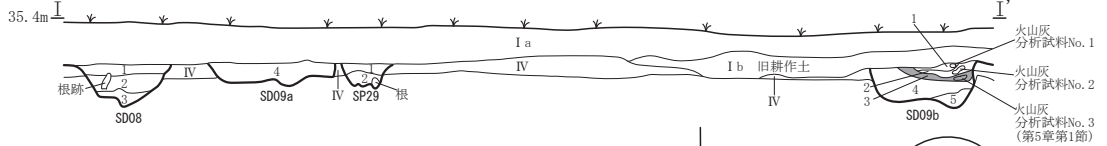
[堆積土] 堆積土は暗褐色土が主体で自然堆積と思われるが、下位はロームを多く含むことから掘り方と考えられる。確認面ではB-Tmと思われる火山灰が部分的に検出されている。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 出土した土師器は0.004kgだが、図示し得なかった。B-Tmの検出、出土遺物、堆積土の様相などから平安時代10世紀初頭には開口していたものと思われる。本遺構の周辺で検出された溝跡は円形周溝である可能性が高いが、本遺構は直線的な溝であってコ字状を形成する平行する溝跡も周辺で検出されていないことから、周辺の円形周溝とは異なった機能(区画・排水等)を有していた可能性が高い。

第9号溝跡 (SD09a・SD09b、図38)

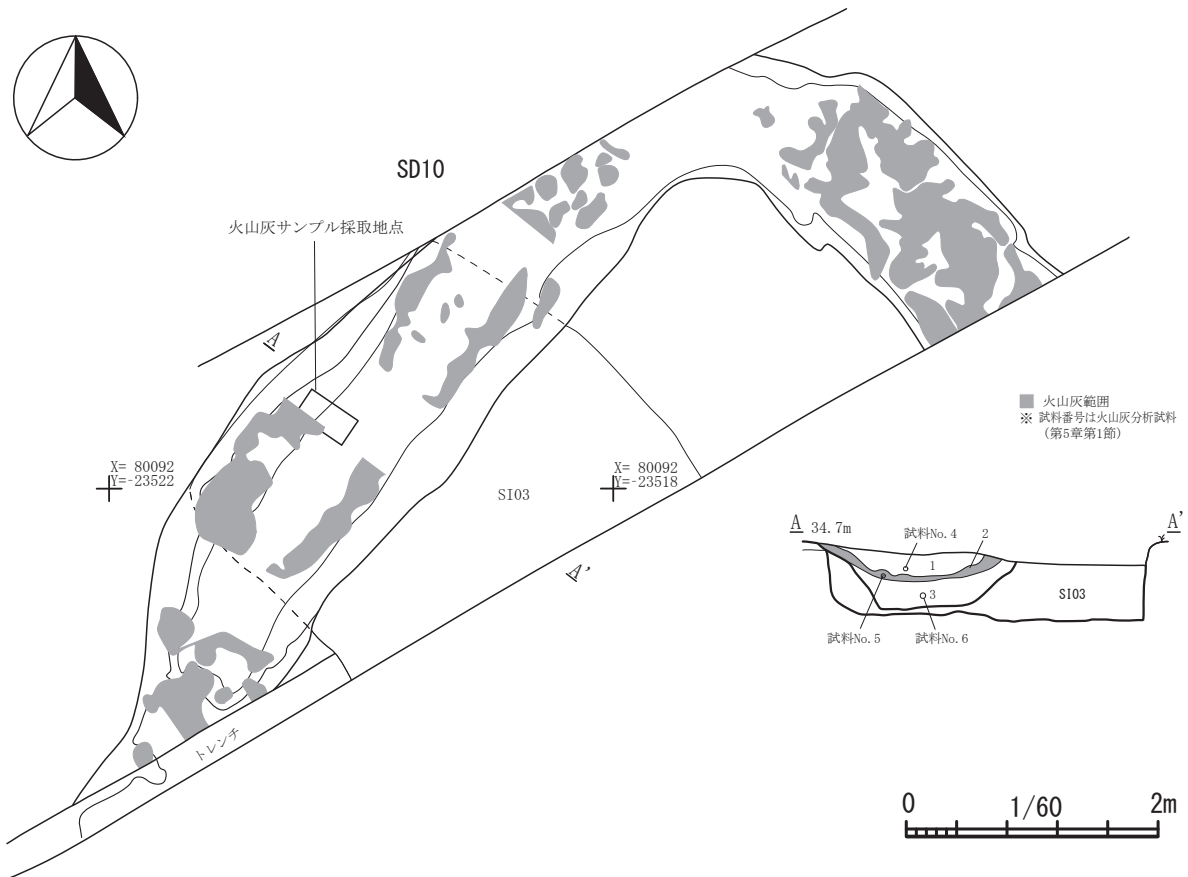
[位置・確認] 第3号取付道路中央、27-106～108グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.8～34.9m、第IV層で確認した。本溝跡は2条の溝跡として検出したが同一の遺構と考えられることから、西側をSD09a、東側をSD09bとして調査・記録した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置し遺構の大半は調査区域外にあるものと思われるが、おそらく南東部が開くC字状を呈する円形周溝と考えられる。検出できた規模は、SD09aが長さ(2.8)m、幅88～105cm、深さ1～9cmで、SD09bが長さ(1.3)m、幅69cm、深さ12～20cmである。断面形は



| | | | |
|-------------------|------------|--------|--|
| SD02 (A-A') | 1 10YR2/1 | 黒色土 | 黒褐色土10%、暗褐色土1%。 |
| SD04 (B-B') | 1 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黄褐色土30%、褐色粘土ローム5%、しまり中。 |
| SD05 (G-G') | 1 10YR3/4 | 暗褐色土 | 褐色土20%、ローム粒(φ1~2mm)1%、しまり中。 |
| | 2 10YR4/6 | 褐色土 | 暗褐色土10%、黄褐色土10%、ローム粒(φ1~5mm)5%、しまり中。 |
| SD06 (E-E') | 1 10YR3/4 | 暗褐色土 | 褐色土20%、ローム粒(φ1~3mm)1%、しまり中。 |
| SD07 (G-G') | 1 7.5YR3/2 | 黒褐色土 | 暗褐色土20%、褐色土5%、ローム粒(φ1~2mm)1%、B-Tm混入。 |
| | 2 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黒褐色土10%、ローム粒(φ1~5mm)5%。 |
| | 3 10YR4/6 | 褐色土 | 掘り方? 黒褐色土20%、黄褐色土15%、ローム粒(φ1~3mm)3%。 |
| SD07 (H-H') | 1 10YR4/4 | 褐色土 | 明黄褐色土40%、ややしまりあり、B-Tm混入。 |
| | 2 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム粒(φ1~10mm)3%、ややしまりあり。 |
| | 3 10YR4/6 | 褐色土 | 掘り方? 明黄褐色土30%、ローム粒(φ1~5mm)5%、ややしまりあり。 |
| SD08 (I-I', J-J') | 1 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黒褐色土7%、黄褐色土1%、炭化物(φ1mm)1%未満、焼土粒(φ1mm以下)1%未満。 |
| | 2 10YR3/4 | 暗褐色土 | 暗褐色土10%、黄褐色土3%、焼土粒(φ1mm以下)1%未満、炭化物(φ1mm以下)1%未満。 |
| | 3 10YR3/4 | 暗褐色土 | 掘り方? 褐色土30%、黄褐色土7%、褐色土1%未満。 |
| SD09a-09b (I-I') | 1 10YR3/4 | 暗褐色土 | 褐色土30%、ローム粒(φ1~2mm)3%、しまり中。 |
| | 2 10YR3/3 | 暗褐色土 | B-Tm5%、褐色土30%、褐色土5%、ローム粒(φ1~3mm)2%、しまり中。 |
| | 3 10YR6/6 | 暗褐色土 | 褐色土15%、ローム粒(φ1~2mm)1%、しまり中。 |
| | 4 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黒褐色土5%、ローム粒(φ1~5mm)5%、明黄褐色土3%、黄褐色土3%、炭化物(φ1~5mm)1%、しまり中。 |
| | 5 10YR3/4 | 暗褐色土 | 褐色土10%、ローム粒(φ1~2mm)1%、しまり中。 |
| SP17 (D-D') | 1 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黒褐色土5%、ローム粒(φ1~2mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%、しまり中。 |
| SP18 (F-F') | 1 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム粒(φ1~2mm)1%、しまり中。 |
| SP19 (J-J') | 1 10YR4/3 | にぶ黄褐色土 | 暗褐色土7%、黄褐色土3%。 |
| SP20 (J-J') | 1 10YR2/3 | 黒褐色土 | 暗褐色土30%、明黄褐色土1%。 |
| SP21 (J-J') | 1 10YR3/4 | 暗褐色土 | 明黄褐色土7%。 |

図38 溝跡 (1)



SD10
 1 10YR3/3 暗褐色土 褐色土20%、暗オリーブ褐色土10%、ローム粒(φ1mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%、ややしまりあり。火山灰混入。
 2 10YR4/4 黒色土 黄褐色土20%、暗褐色土5%、ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%、ややしまりあり。
 3 10YR4/6 褐色土 褐色土30%、明黄褐色ロームブロック(φ20~30mm)7%、ローム粒(φ1~5mm)7%、炭化物(φ1~10mm)3%、しまりあり。やや粘性あり。

図39 溝跡 (2)

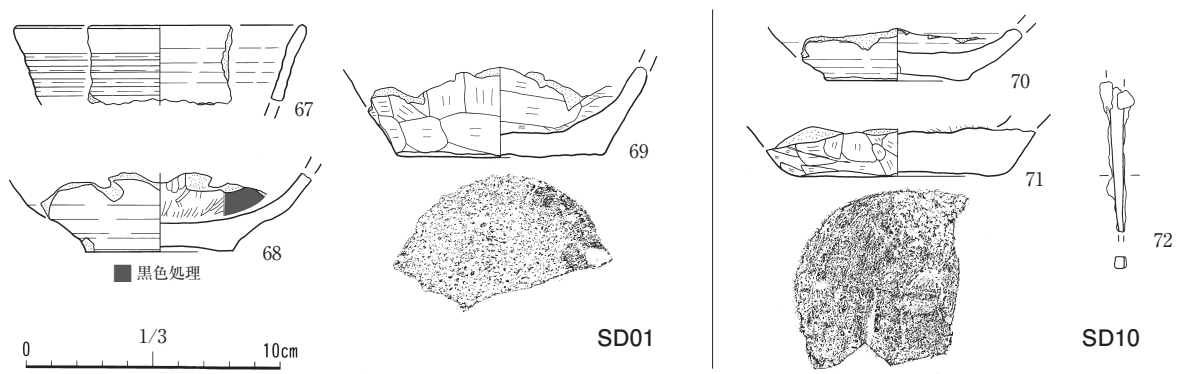


図40 溝跡 出土遺物

逆台形状をなしており、底面は第V層を掘り込み凹凸が見られる。SD09aの西端と東端との比高差は16cmで、東方向に底面は傾斜している。

[堆積土] 堆積土には暗褐色土が主体となっており、SD09a・SD09b両溝の堆積土上位にはB-Tmが薄層をなして自然堆積しているのが部分的に検出された。SD09bのセクション部分で採取した火山灰を分析・同定したところ、B-Tmと再堆積した十和田八戸火山灰(To-H)であるとの結果を得た(第5章第1節)。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 出土した土師器は0.01kgで、図示し得なかった。上位でB-Tmが検出されたことと、出土遺物、堆積土の様相から10世紀初頭には開口していたものと思われる。本遺構は南東部が途切れる円形をなしており、その形態から墓として造られた円形周溝であるものと考えられる。なお、本溝跡の南東部、途切れている部分に位置するSK12との関係性は不明である。

第10号溝跡 (SD10、図39・40)

[位置・確認] 第3号取付道路東側、27-103～105グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.2～34.7m、第IV層で確認したSI03と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置し遺構の大半は調査区域外にあるが、コ字状を呈するものと考えられる。検出された長さは(9.8)mで、幅120～150cm、確認面からの深さは10～50cmである。断面形は逆台形をなし、底面は第V層を掘り込みやや起伏が見られる。北西辺全体から南東方向に傾斜しており、その比高差は28cmである。

[堆積土] 堆積土は上位に暗褐色土、下位に褐色土が堆積しており、中位には全面的にB-Tmと思われる火山灰が薄層をなして自然堆積している。セクション部分で採取した火山灰を分析・同定したところ、第1層ではB-Tm、第2層ではB-TmとTo-a、第3層ではTo-aが検出された(第5章第1節)。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 出土土器の総重量は0.27kg、内訳は土師器0.24kg、縄文土器0.03kgで、そのうち土師器坏(図40-70)・甕(71)、鉄鏃の柄部と思われる鉄製品(72)を図示した。出土遺物と堆積土の様相から、To-a降下前の9世紀末葉頃には開口していた。本遺構の機能は、その形態や周辺遺構の状況から、墓として造られた方形周溝と思われる。

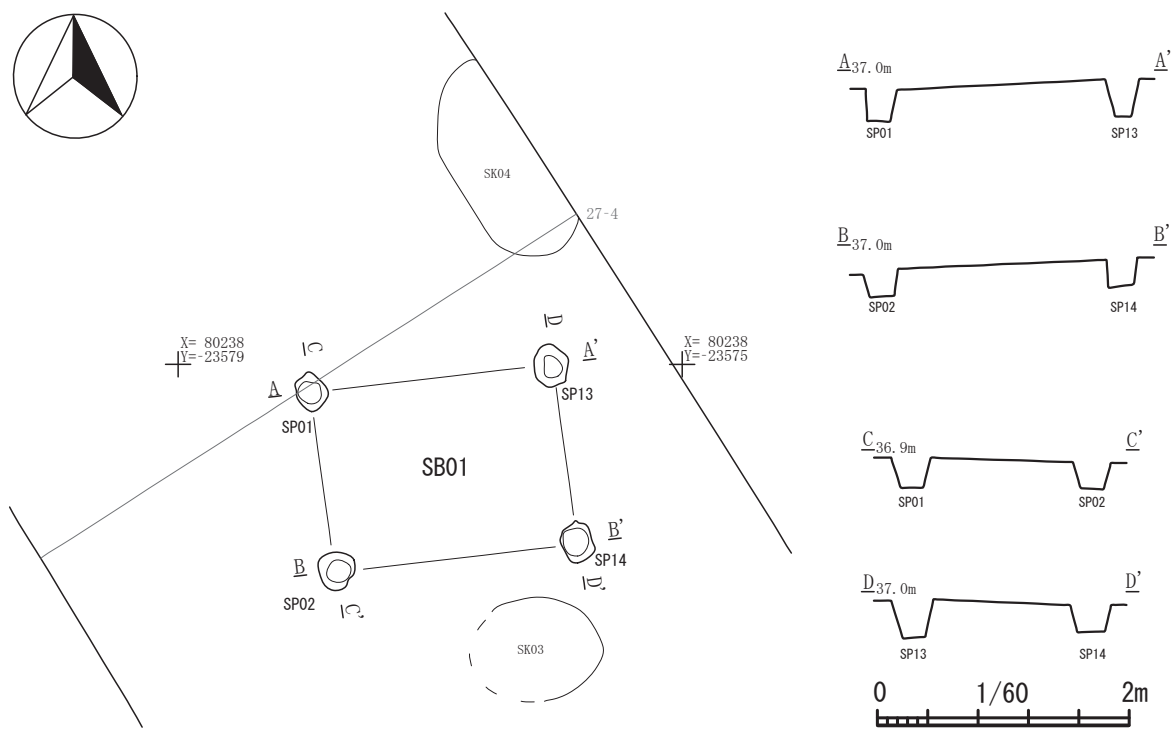


図41 第1号掘立柱建物跡

第1章 調査の概要
 第2章 地形・基本層序
 2号 平成26年度調査
 27号
 28号・1号
 1号 平成25年度調査
 29号
 30号
 第5章 埋化学的分析
 第6章 分析と考察
 まとめ

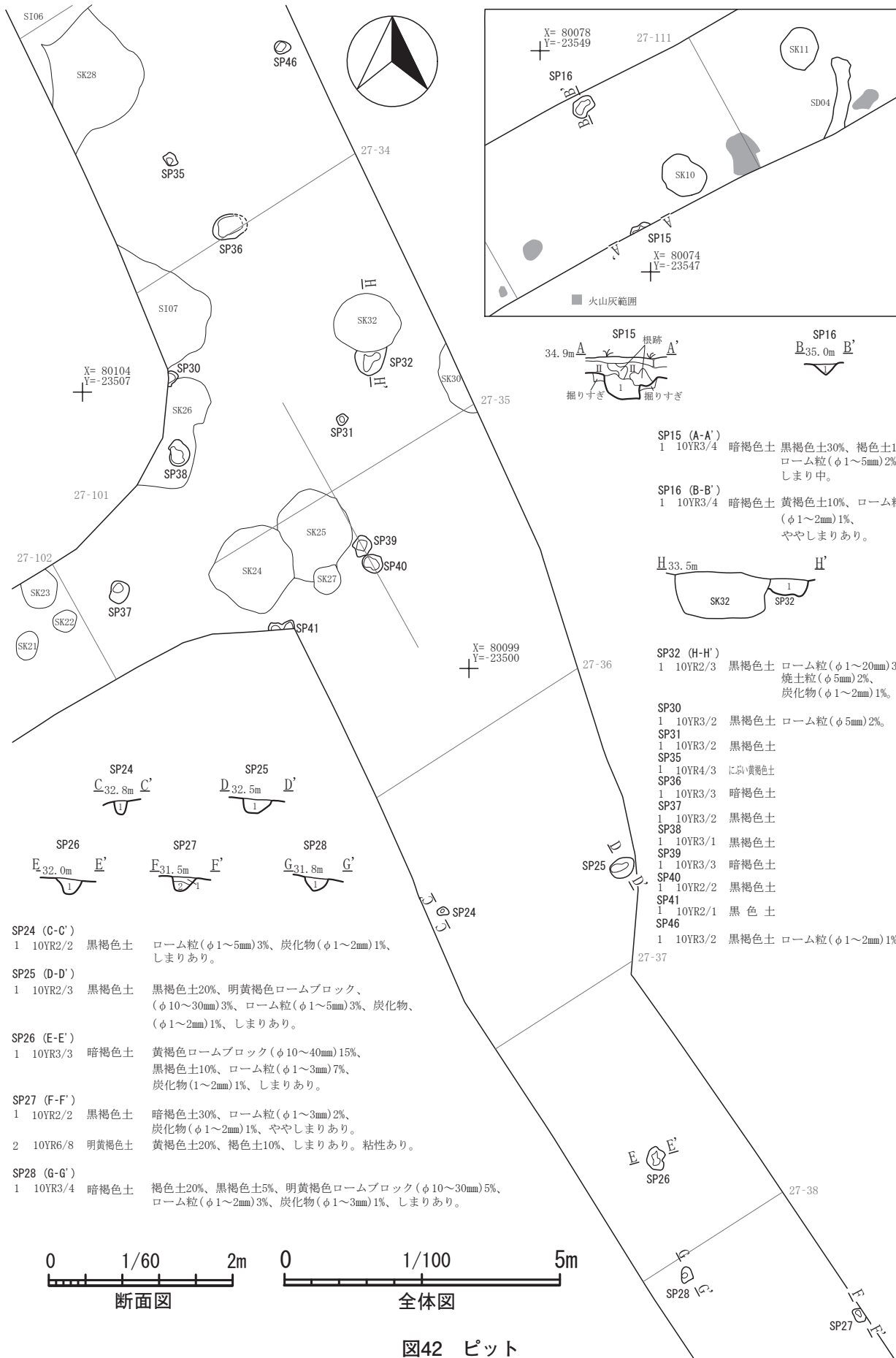


図42 ピット

表9 農道27号 SP計測表

| SP 番号 | 掲載 図版番号 | グリッド | 座標値 | | 標高 (m) | 規模 (cm) | | | 備考 |
|----------|------------|------------|---------|----------|-----------|---------|------|----|--|
| | | | X | Y | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| 1 | 15・41 | 27・3・4 | 80237.8 | -23577.9 | 36.8 | 31 | 26 | 27 | SB01の一部。 |
| 2 | 15・41 | 27・4 | 80236.4 | -23577.7 | 36.8 | 31 | 29 | 24 | SB01の一部。 |
| 3 | 15・43 | 27・7 | 80220.8 | -23569.3 | 36.6 | 38 | 34 | 21 | |
| 4 | 15 | 27・12 | 80201.9 | -23559.0 | 36.4 | 33 | 31 | 8 | |
| 5 | 15 | 27・12 | 80200.9 | -23558.7 | 36.5 | 37 | 31 | 14 | |
| 6 | 16・17 | 27・26 | 80137.0 | -23522.6 | 36.2 | 38 | 30 | 26 | SI01付属SB03の一部。 |
| 7 | 16 | 27・23 | 80154.7 | -23531.0 | 36.3 | 30 | 23 | 12 | |
| 8 | 16・17 | 27・25 | 80142.6 | -23524.4 | 36.2 | 33 | 30 | 23 | SB02の一部。 |
| 9 | 16・17 | 27・25 | 80142.2 | -23523.9 | 36.2 | 33 | 32 | 22 | SB02の一部。 |
| 10 | 16・17 | 27・25 | 80141.6 | -23525.1 | 36.3 | 30 | 27 | 30 | SB02の一部。 |
| 11 | 16・17 | 27・26 | 80141.1 | -23524.5 | 36.2 | 29 | 25 | 27 | SB02の一部。 |
| 12 | 16・17 | 27・26 | 80139.5 | -23524.0 | 36.2 | 27 | 22 | 23 | SI01付属SB03の一部。土師器甕(図19-9、図20-11)の一部出土。 |
| 13 | 15・41 | 27・4 | 80238.0 | -23576.0 | 36.9 | 34 | 28 | 33 | SB01の一部。 |
| 14 | 15・41 | 27・4 | 80236.6 | -23575.8 | 36.9 | 34 | 27 | 24 | SB01の一部。 |
| 15 | 16・42 | 27-111 | 80074.8 | -23547.2 | 36.4 | 41 | (10) | 20 | |
| 16 | 16・42 | 27-111 | 80077.0 | -23548.2 | 34.9 | 44 | 31 | 12 | |
| 17 | 16・38 | 27-109 | 80080.1 | -23539.3 | 34.8 | 32 | 28 | 22 | |
| 18 | 16・38 | 27-109 | 80081.2 | -23538.8 | 34.9 | 34 | (26) | 30 | SD06より古い。 |
| 19 | 16・38 | 27-108 | 80083.8 | -23534.2 | 34.9 | 69 | 49 | 25 | SD08より新しい。 |
| 20 | 16・38 | 27-108 | 80084.3 | -23533.6 | 34.8 | 68 | 40 | 24 | SD08より新しい。 |
| 21 | 16・38 | 27-108 | 80083.6 | -23534.5 | 34.8 | 36 | 20 | 20 | |
| 22 | 16・33 | 27-44 | 80062.2 | -23478.4 | 28.2 | 24 | 21 | 18 | |
| 23 | 16・33 | 27-44 | 80061.7 | -23478.1 | 28.1 | 27 | (16) | 12 | |
| 24 | 16・42 | 27-36 | 80094.6 | -23500.5 | 32.7 | 21 | 15 | 18 | |
| 25 | 16・42 | 27-36 | 80095.4 | -23497.2 | 32.4 | 47 | 35 | 19 | |
| 26 | 16・42 | 27-37 | 80090.1 | -23496.6 | 31.9 | 44 | 35 | 20 | |
| 27 | 16・42 | 27-38 | 80087.3 | -23492.9 | 31.4 | 28 | (21) | 17 | |
| 28 | 16・42 | 27-38 | 80088.0 | -23496.0 | 31.7 | 30 | 23 | 22 | |
| 29 | 16・38 | 27-107 | 80085.8 | -23533.0 | 34.9 | 29 | 12 | 23 | |
| 30 | 16・34・42 | 27-34 | 80104.3 | -23505.4 | 33.6 | (28) | (17) | 21 | SK26より古い。堆積土-黒褐色土(10YR3/2)。 |
| 31 | 16 | 27-34 | 80103.5 | -23502.3 | 33.4 | 22 | 20 | 25 | 堆積土-黒褐色土(10YR3/2)、ローム(φ5mm)2%。 |
| 32 | 16・35・42 | 27-34 | 80104.6 | -23501.8 | 33.9 | (50) | 54 | 22 | |
| 33 | 16・21 | 27-29 | 80126.6 | -23516.3 | 35.7 | 27 | 22 | 30 | SI02付属SB04の一部。堆積土-黒褐色土(10YR3/1)。 |
| 34 | 16・21 | 27-29 | 80124.3 | -23514.9 | 35.5 | 26 | 21 | 16 | SI02付属SB04の一部。堆積土-黒褐色土(10YR3/2)。 |
| 35 | 16・42 | 27-33 | 80108.2 | -23505.4 | 33.9 | 29 | 23 | 31 | 堆積土-にぶい黄褐色土(10YR4/3)。 |
| 36 | 16・42 | 27-33・34 | 80107.0 | -23505.4 | 33.8 | 56 | 46 | 25 | 堆積土-暗褐色土(10YR3/3)。 |
| 37 | 16・42 | 27-34(101) | 80100.4 | -23506.3 | 33.6 | 41 | 38 | 34 | 堆積土-黒褐色土(10YR3/2)。 |
| 38 | 16・34・42 | 27-35(101) | 80102.9 | -23505.2 | 33.4 | 49 | 38 | 19 | SK26より古い。堆積土-黒褐色土(10YR3/1)。 |
| 39 | 16・34・42 | 27-35 | 80101.2 | -23501.9 | 33.2 | 39 | 34 | 25 | 堆積土-暗褐色土(10YR3/3)。 |
| 40 | 16・34・42 | 27-35 | 80100.9 | -23501.7 | 33.2 | 38 | 33 | 21 | 堆積土-黒褐色土(10YR2/2)。 |
| 41 | 16 | 27-35(101) | 80099.7 | -23503.4 | 33.3 | 49 | 16 | 30 | 堆積土-黒色土(10YR2/1)。 |
| 42 | 16・33・38 | 27-107 | 80086.9 | -23530.6 | 34.9 | 29 | (22) | 11 | SK12より古い。堆積土-黒色土(10YR2/1)、炭化物多量。 |
| 43 | 16・33・38 | 27-107 | 80087.1 | -23530.2 | 34.9 | 30 | (10) | 9 | SK12より古い。堆積土-黒褐色土(10YR2/2)、炭化物少量。 |
| 44 | 16・33・38 | 27-107 | 80086.9 | -23529.4 | 34.8 | 23 | (8) | 13 | SK12より古い。堆積土-黒褐色土(10YR2/2)、炭化物少量。 |
| 45 | 16・33・38 | 27-107 | 80086.0 | -23529.4 | 34.8 | (24) | (23) | 11 | SK12より古い。堆積土-黒褐色土(10YR3/2)、炭化物多量。 |
| 46 | 16・42 | 27-33 | 80110.2 | -23503.4 | 33.8 | 30 | 24 | 22 | 堆積土-黒褐色土(10YR3/2)、ローム(φ1~2mm)1%。 |
| 47 | 16・21 | 27-27・28 | 80134.6 | -23516.3 | 35.9 | 44 | 39 | 25 | 堆積土-黒褐色土(10YR3/1)、ローム(φ1~20mm)7%。 |
| 48 | 16・21 | 27-28 | 80134.2 | -23516.4 | 35.9 | 25 | 20 | 12 | 堆積土-灰黄褐色土(10YR4/2)、ローム(φ1~10mm)7%。 |
| 49 | 16・21 | 27-29 | 80130.5 | -23513.6 | 35.7 | (20) | (16) | 17 | SK29より古い。 |

(4) 掘立柱建物跡・ピット

農道27号からは49基のピットが検出された。各ピットの計測値等は表9に、位置は図15・16遺構配置図や図42ピット、各遺構図等に示した。精査の結果、49基のピットのうち12基は4棟の掘立柱建物跡を構成するもので、第1・2号掘立柱建物跡は単独の掘立柱建物跡、第3・4号掘立柱建物跡は竪穴住居跡と組み合わされて建物跡を構成するものである。第1・2号掘立柱建物跡は以下に記述するが、第3・4号建物跡は第1・2号建物跡の項にて記載した。残り37基のピットは概ね平安時代のものが多いが、それ以降のものも一部含まれると思われる。

第1号掘立柱建物跡 (SB01 (SP01・02・13・14)、図41)

[位置・確認] 27-4グリッドに位置し、他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 構成されるピットはSP01・02・13・14の4基で、現状では梁行1間×桁行1間の長方形の掘立柱建物跡であるが、東側に延びる可能性もある。軸方向はN-83°-Eで、柱間は梁間1.4m、桁間1.9mである。柱痕は検出されていない。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかったが、平安時代以降の掘立柱建物跡と考えられる。

第2号掘立柱建物跡 (SB 02 (SP08~SP11)、図17)

[位置・確認] 27-25・26グリッドに位置し、SI01の東側に位置する。他遺構との重複関係は認められなかった。

[平面形・規模] 構成されるのは、SP08~SP11の4基の柱穴で、現状では梁行1間×桁行1間の長方形の掘立柱建物跡と推定されるが、西側に延びる可能性もある。軸方向はN-151°-Eである。柱間は梁間0.8m、桁間1.3mである。柱痕は検出されなかった。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかったが、平安時代以降の掘立柱建物跡と考えられる。

(5) 焼土遺構

第1号焼土遺構 (SN01、図43)

[位置・確認] 調査区北側中央、27-7グリッドに位置し、標高は約36.7mである。第IV層で確認した。

[平面形・規模・堆積土] 調査区域外に延びているが、確認できた規模は長軸156cm、短軸110cmの

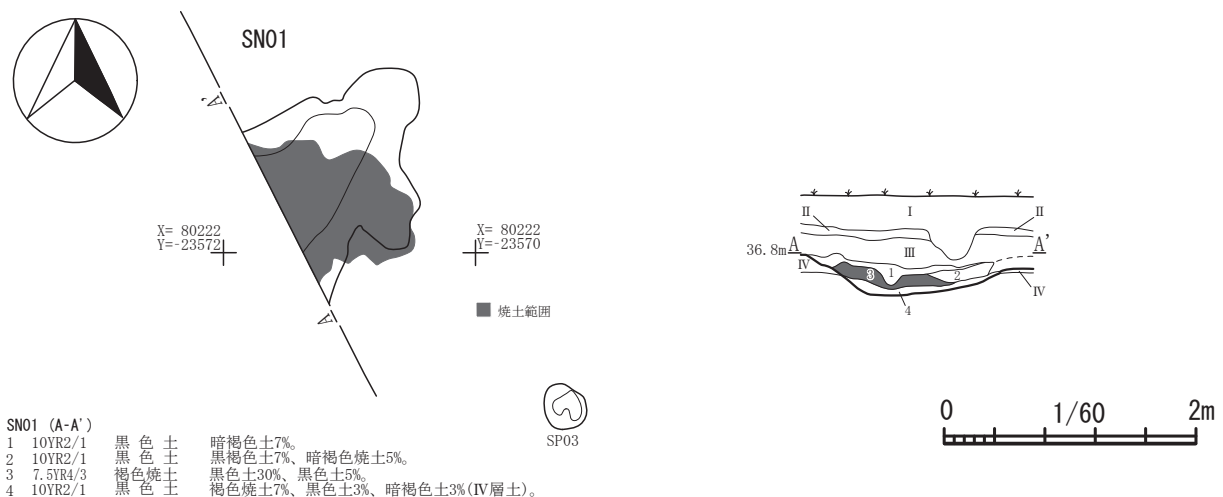


図43 焼土遺構

不整形の掘り方を有し、95×130cmの範囲に焼土が散布している。堆積土は厚さ13cmの焼土の上部に黒色土が自然堆積している。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していないが、土層観察から縄文時代の焼土遺構である可能性がある。

2 遺構外の出土遺物 (図44・45)

農道27号の遺構外からは縄文土器4.12kg、土師器5.75kg、須恵器0.29kg、合計10.16kgの土器類と近代の遺物が出土し、礫が0.38kg出土した。遺物量は、農道1号より南側からの出土が大半である。縄文土器は農道本線部分と第3号取付道路部分とほぼ同量（それぞれ約2kg程度）であるが、土師器は第3号取付道路部分（約1.8kg）の約2倍の量が農道本線部分から出土（約4.0kg）しており、時代によって土地利用のあり方が異なっていることが垣間見られる。以下、縄文時代の遺物（73～106）と平安時代の遺物（107～119）について記述する。

縄文時代の遺物は、土器27点（73～99）と石器7点（100～106）を図示した。土器は、前期（73～91）、中期（92～97）、後期（98・99）がある。前期は円筒下層d式のもの为主体で、縄の側面圧痕や刺突、結節回転文、結束羽状縄文、単軸絡条体回転文、多軸絡条体回転文など多彩な文様施文がなされている。中期は少量だが各時期の土器が出土している。92は円筒上層b式の弁状突起で、93は頸部以下全面に刺突文を施しており、口縁部には単軸絡条体回転文を施文している。器形や口縁の施文技法から円筒上層c式頃と思われる。94・95は中期後葉のものと思われ、95は円筒上層e式である。後期は十腰内I式（98）と後半期の上げ底の底部片（99）がある。

石器は、尖頭器（100）、削器（101～103）、石錐（104）、磨製石斧（105）、凹石（106）がある。尖頭器（100）は未製品と思われる。102・103の削器には連続した剥離によって刃部が形成されている。104は石錐で、使用頻度が高かったものと思われ、刃部には摩滅と微細な剥離が見られる。

平安時代の遺物には、土師器（107～115）、須恵器（116）、土製品（117・118）、鉄製品（119）がある。土師器はミニチュア土器（107）・鉢（108）・坏（109）・甕（110～113）・広口壺（114）・埴（115）がある。109は底面も含め内外面にミガキ調整を施す坏で、内面は黒色処理が滅失した可能性がある。114は内面にミガキが施されているが、黒色処理を施しているかどうかは不明である。須恵器は坏（116）を図示したが、底外面にヘラケズリを施している。土製品は、土錘（117）と土鈴紐部（118）がある。鉄製品（119）はSK24・25周辺で出土したもので、これらの遺構と関連する可能性がある。

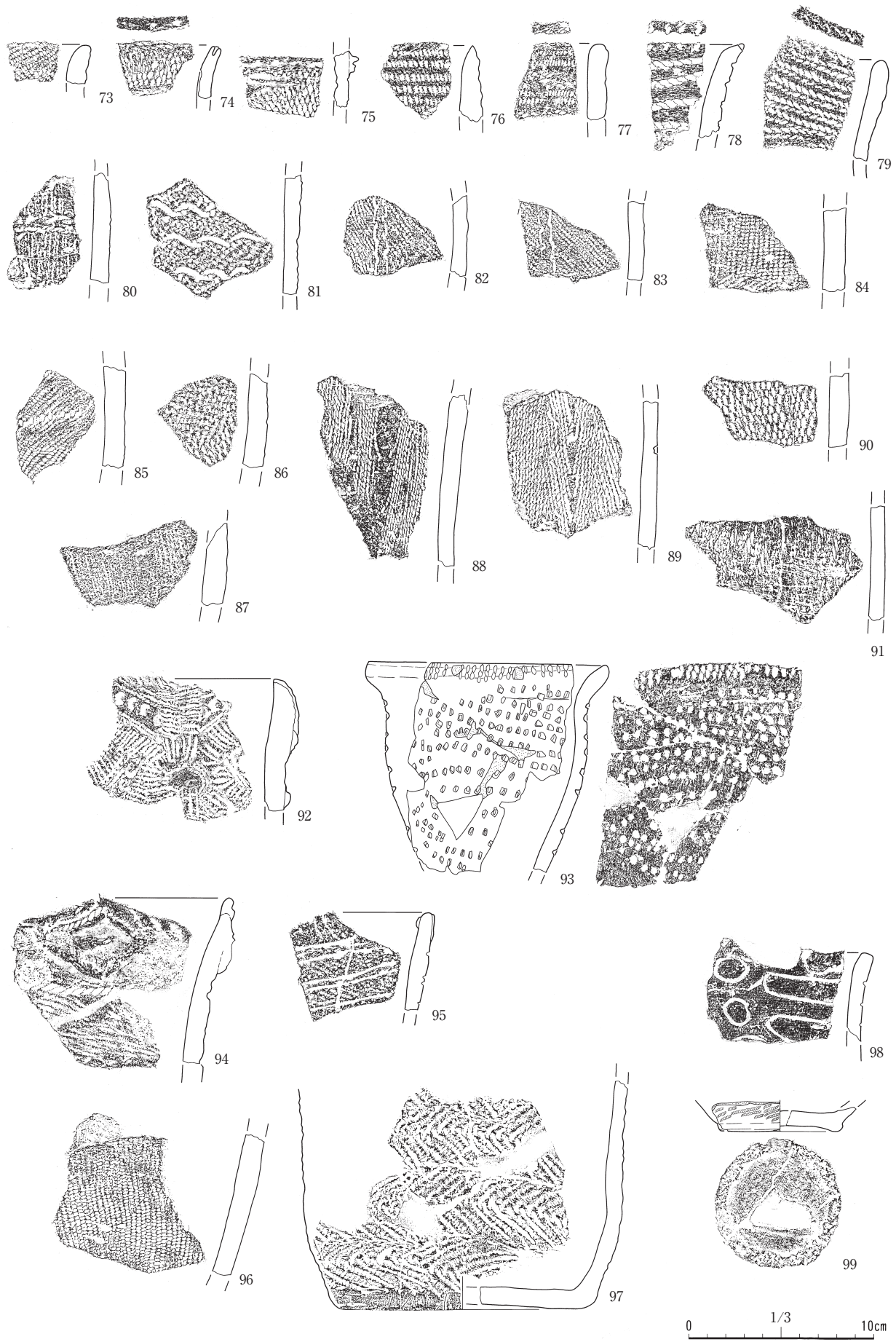


図44 遺構外出土遺物 (1)

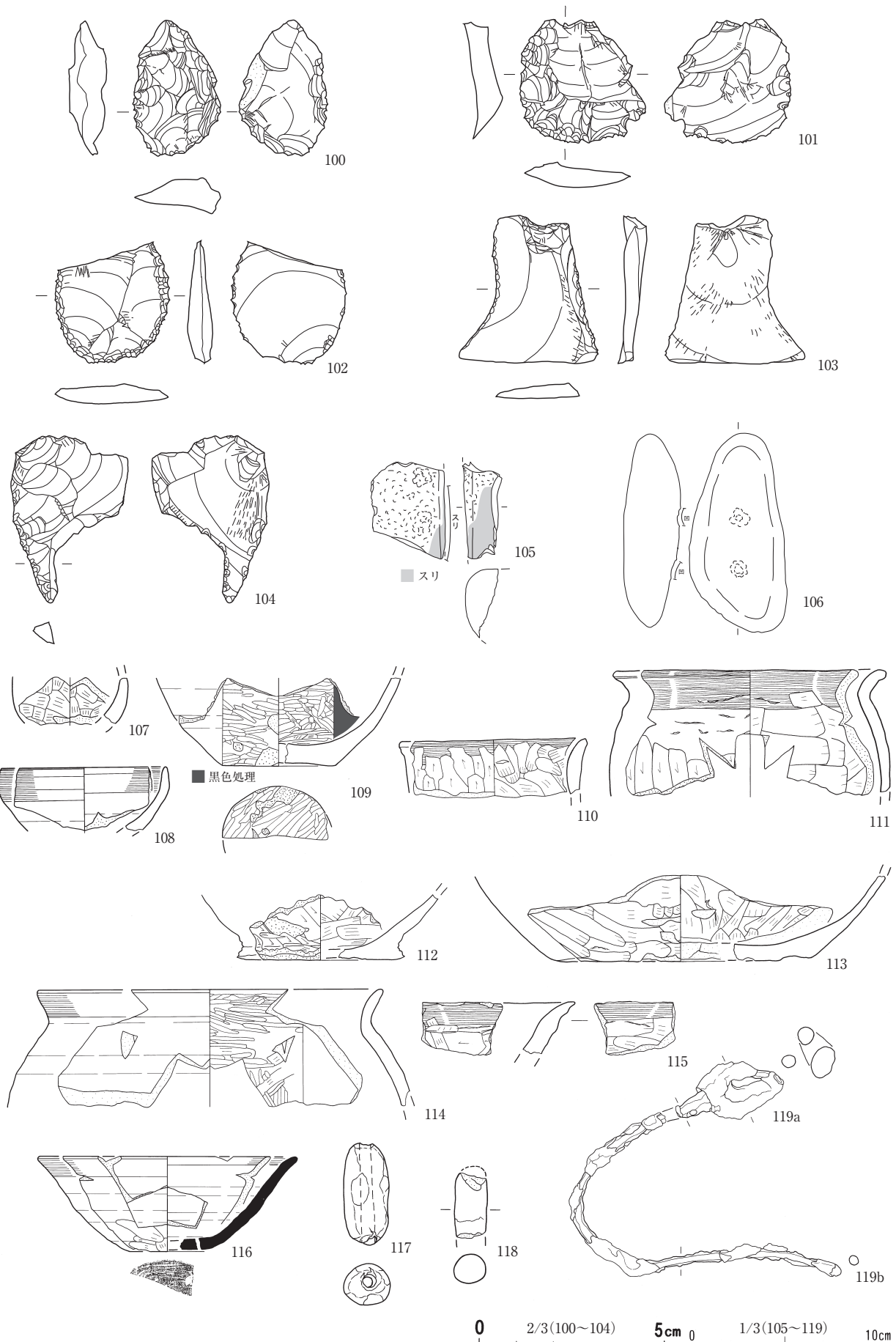


図45 遺構外出土遺物 (2)

第1章 調査の概要
 第2章 地形・基本層序
 2号
 平成21年度調査
 27号
 28号・1号
 1号
 平成25年度調査
 29号
 30号
 第5章 理化学的分析
 第6章 分析と考察
 まとめ

3 遺物観察表

表10 農道27号出土土器類 観察表

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 部位 | 計測値 (cm) | | | 外面調整 (文様) | 内面調整 (文様) | 備考 (底面調整、時期等) |
|------|------|-------|--|------|---------|------|----------|--------|--------|-------------------------------|---------------------|--|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 19 | 1 | SI01 | 覆土 | 土師器 | ミニチュア土器 | 胴部 | - | - | (3.15) | 輪積痕、ナデ | ナデ (剥落) | 穿孔?あり。 |
| 19 | 2 | SI01 | 床面P14・15・?、8層P?、カマド床面P29、カマド覆土 | 土師器 | 中甕 | 略完形 | (14.9) | 7.2 | 13.8 | 横ナデ、ヘラナデ?、ヘラケズリ?(被熱・磨耗により不明瞭) | 輪積痕、ナデ、横ナデ、ヘラナデ、指ナデ | 底面・オサエ。材料分析試料No.14。 |
| 19 | 3 | SI01 | 8層P5 | 土師器 | 小甕 | 口縁部 | (14.6) | - | (4.8) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ | 輪積痕、ナデ、横ナデ | |
| 19 | 4 | SI01 | カマド床面P41 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (7.2) | (3.5) | ヘラナデ | 指ナデ (剥落) | 底面・ヘラナデ。 |
| 19 | 5 | SI01 | カマド床面P19、カマド覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (26.6) | - | (7.8) | 横ナデ、ヘラケズリ | ナデ、刷毛目、横ナデ | |
| 19 | 6 | SI01 | カマド床面P44 | 土師器 | 甕 | 体部上半 | (22.0) | - | (16.8) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ、ナデ | 輪積痕、ナデ、横ナデ | |
| 19 | 7 | SI01 | カマド床面P16、27-26 I層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (25.6) | - | (12.6) | ロクロナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ | 輪積痕、ロクロナデ、横ナデ、炭化物付着 | |
| 19 | 8 | SI01 | カマド覆土P24、カマド床面、カマド床面P2、覆土P40、覆土、27-26 I層 | 土師器 | 甕 | 略完形 | (22.6) | - | (24.8) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ、焼土付着 | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、指ナデ | |
| 19 | 9 | SI01 | 覆土、カマド覆土、カマド覆土P32、カマド床面P47・50・51、床面P1、SP12P1確認面、27-26 I層 | 土師器 | 甕 | 体部上半 | (25.8) | - | (28.1) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ、焼土付着 | 輪積痕、ナデ (上部摩滅により不明瞭) | |
| 20 | 10 | SI01 | 床面P6・30・31・54、8層P8・9、カマド床面P49、27-26覆土、27-26 I層 | 土師器 | 甕 | 略完形 | (21.4) | 9.8 | 31.7 | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、指ナデ | 底面・砂底。材料分析試料No.13。黒色物付着。 |
| 20 | 11 | SI01 | カマド床面P17・20~22・27・42・48・49・53、床面P30・36・52・55・56、覆土、27-26攪乱・I層、SP12下確認面、カマド覆土 | 土師器 | 甕 | 略完形 | - | (9.2) | (32.3) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ、焼土付着 | 刷毛目、横ナデ、ヘラナデ、指ナデ | 底面・上げ底、オサエ、ヘラナデ。 |
| 20 | 12 | SI01 | 床面P3 | 土師器 | 小甕 | 底部 | - | (7.0) | (4.5) | ヘラナデ、ヘラケズリ | 輪積痕、指ナデ | 底面・ヘラナデ。 |
| 20 | 13 | SI01 | カマド覆土P34、27-26 | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | (10.2) | (10.2) | ヘラナデ、ヘラケズリ | 指ナデ、ナデ (摩滅) | 底面・ヘラナデ。 |
| 20 | 14 | SI01 | カマド攪乱P18 | 土師器 | 埴 | 口縁部 | (33.4) | - | (6.4) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ、ナデ | ナデ、横ナデ | 材料分析試料No.15。 |
| 20 | 15 | SI01 | 掘り方 | 土師器 | 鉢 | 口縁部 | - | - | (3.4) | ナデ、横ナデ | ナデ、横ナデ | |
| 20 | 16 | SI01 | 掘り方 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (2.5) | 単軸絡糸体第5類 (R) 回転 | (磨耗) | 図37-61と同一個体?後期? |
| 23 | 17 | SI02 | 床面直上P7 | 土師器 | 中甕 | 口縁部 | (15.0) | - | (9.2) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ、ナデ | 横ナデ、ヘラナデ、ナデ | |
| 23 | 18 | SI02 | 床面直上P2 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (21.6) | - | (10.1) | 輪積痕、オサエ、横ナデ、ヘラナデ | ヘラナデ (摩滅) | |
| 23 | 19 | SI02 | 覆土・床面直上P4~6 | 土師器 | 大鉢 | 略完形 | (33.8) | 11.0 | 14.9 | 輪積痕、オサエ、横ナデ、ナデ | ミガキ、黒色処理 | 底面・上げ底、オサエ。材料分析試料No.21。 |
| 24 | 20 | SI03 | Pit1 覆土、床面 | 土師器 | 小甕 | 体部上半 | (12.4) | - | (10.8) | ロクロ、ナデ? (摩滅) | 横ナデ、ナデ (摩滅) | |
| 24 | 21 | SI03 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (8.6) | (5.5) | 輪積痕、ヘラナデ、ヘラケズリ | 指ナデ | 底面・砂底。 |
| 26 | 22 | SI04 | 覆土P11 | 土師器 | 坏 | 体部下半 | - | 6.0 | (3.1) | ロクロ | ロクロ | 底面・回転糸切。 |
| 26 | 23 | SI04 | 床面直上P4・37、覆土 | 土師器 | 坏 | 略完形 | 12.9 | 5.2 | 4.9 | ロクロ、ナデ | ロクロ | 底面・回転糸切。材料分析試料No.16。 |
| 26 | 24 | SI04 | 覆土P9、SP27 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (9.6) | (4.0) | ヘラケズリ | 指ナデ、刷毛目 | 底面・上げ底、砂底。 |
| 26 | 25 | SI04 | 覆土P8 | 土師器 | 壺 | 肩部 | - | - | (5.7) | 輪積痕、ロクロ、黒色物付着 | ミガキ、黒色処理 | 材料分析試料No.17。 |
| 28 | 28 | SI05b | 覆土 | 土師器 | 坏 | 体部上半 | (16.0) | - | (4.6) | ロクロ | ロクロ | |
| 28 | 29 | SI05 | 覆土P4 | 土師器 | 小甕 | 口縁部 | (16.0) | - | (6.6) | 横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ、焼土付着 | 輪積痕、ナデ、横ナデ | |
| 28 | 30 | SI05 | Pit1 覆土 | 土師器 | 小甕 | 底部 | - | (7.8) | (3.8) | 輪積痕、ヘラナデ | ナデ | 底面・砂底。 |
| 28 | 31 | SI05 | 覆土 | 須恵器 | 壺 | 口縁部 | (12.0) | - | (2.2) | ロクロ | ロクロ | |
| 30 | 32 | SI06 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (13.6) | - | (5.4) | 横ナデ、ヘラケズリ | 輪積痕、ナデ、横ナデ | |
| 30 | 33 | SI06 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (16.6) | - | (3.4) | 横ナデ | ナデ、横ナデ | |
| 30 | 34 | SI06 | 覆土、覆土P11~13・14・16~23・25~27 | 土師器 | 甕 | 体部上半 | (27.6) | - | (31.4) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ、焼土付着 | 輪積痕、ナデ、ヘラナデ | 底面・穿孔あり。材料分析試料No.18。 |
| 30 | 35 | SI06 | カマド5層P1 | 土師器 | 甕 | 体部上半 | (22.8) | - | (13.2) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、焼土付着 | ナデ、横ナデ、指ナデ | |
| 30 | 36 | SI06 | 覆土P10 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (11.8) | (5.8) | オサエ、ナデ、ヘラケズリ | ナデ | 底面・ナデ。 |
| 31 | 37 | SI07 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (8.4) | (3.1) | オサエ、ヘラケズリ | 輪積痕、指ナデ | 底面・木葉痕? |
| 36 | 38 | SK03 | 1層P4・6 | 縄文土器 | 壺 | 体部上半 | (11.8) | - | (12.0) | 粘土紐貼付、沈線、ミガキ | ミガキ | 材料分析試料No.30。図36-40・36-39と同一個体。後期・十腰内I式 |
| 36 | 39 | SK03 | 1層P1・2、27-4 風倒木 | 縄文土器 | 壺 | 胴部 | - | - | (6.4) | 沈線、ミガキ | ミガキ | 図36-38・36-40と同一個体。後期・十腰内I式 |
| 36 | 40 | SK03 | 1層P3・5 | 縄文土器 | 壺 | 底部 | - | (11.1) | (7.7) | 沈線、ミガキ | ミガキ | 図36-38・36-39と同一個体。後期・十腰内I式 |

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 部位 | 計測値 (cm) | | | 外面調整 (文様) | 内面調整 (文様) | 備考 (底面調整、時期等) |
|------|------|------|--------------------------|------|---------|------|----------|-------|--------|---|----------------|--------------------------------------|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 36 | 42 | SK06 | 底面直上・P8 | 土師器 | 中甕 | 完形 | 11.9 | 6.6 | 10.9 | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ | 輪積痕、指ナデ、横ナデ | 底面・ヘラナデ。材料分析試料No.19。 |
| 36 | 43 | SK06 | 3層P6、4層P2~4、底面直上P5・11・12 | 土師器 | 中甕 | 略完形 | 12.0 | - | 13.0 | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ | 輪積痕、ナデ、指ナデ、横ナデ | 材料分析試料No.19。底外面剥落。歪みあり。 |
| 36 | 44 | SK06 | 1層P7、27-113 1層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (5.4) | 粘土紐貼付、単軸絡糸体第1類 (L) 側面圧痕、刺突 | ミガキ (磨耗) | 中期・円筒上層c式 |
| 36 | 45 | SK06 | 6層P1 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (5.1) | 結束第1種 (RL・LR)? | ナデ | 混和材 (豆類の可能性有り) の脱落痕? あり。植物繊維少量。前期~中期 |
| 36 | 46 | SK06 | 覆土P13 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (3.9) | 沈線 | ミガキ | 後期・十腰内I式 |
| 36 | 47 | SK06 | 底面直上P10 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (5.4) | 沈線 | 平滑なナデ | 後期・十腰内I式 |
| 37 | 48 | SK07 | 覆土、2層P1、4層P2~4 | 縄文土器 | 深鉢 | 体部上半 | - | - | (17.2) | 粘土紐貼付、口唇-単軸絡糸体第1類 (L) 回転、口縁-馬蹄状圧痕 (L)・繩側面圧痕 (L・R・L)、胴部-結束第1種 (RL (0段多糸)・一方不明) | ナデ (磨耗) | 材料分析試料No.31。中期・円筒上層b式 |
| 37 | 49 | SK07 | 確認面 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (4.1) | LR横 | 平滑なナデ | 植物繊維微量。中期前半 |
| 37 | 51 | SK12 | 底面P1、27-109 1層 | 須恵器 | 壺 | 底部 | - | 7.0 | (4.6) | ロクロ、ナデ | ロクロ | 底面・ヘラナデ。 |
| 37 | 52 | SK13 | 覆土 | 縄文土器 | 深鉢 | 頸部 | - | - | (3.7) | R・L側面圧痕、刺突 | 平滑なナデ | 中期・円筒上層b式 |
| 37 | 53 | SK13 | 2層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (6.9) | 結束第1種 (RL・LR) | ミガキ | 中期前半 |
| 37 | 54 | SK13 | 覆土、27-114 1層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (4.3) | 結束第1種 (RL・LR、いずれも0段多糸) | 平滑なナデ | 中期前半 |
| 37 | 55 | SK15 | 2層上部 | 土師器 | 坏 | 体部下半 | - | (7.0) | (4.8) | ロクロ | ロクロ | 底面・静止糸切。 |
| 37 | 56 | SK16 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 胴部 | - | - | (5.1) | ヘラナデ | 刷毛目、ナデ | |
| 37 | 57 | SK16 | 覆土 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (3.4) | 沈線、RL横 | ミガキ | 後期・十腰内I式 |
| 37 | 58 | SK16 | 覆土 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (3.2) | 沈線 | ミガキ | 後期・十腰内I式 |
| 37 | 59 | SK16 | 覆土 | 縄文土器 | ミニチュア深鉢 | 口縁部 | - | - | (2.3) | 口縁肥厚、沈線 | ミガキ | 図37-62・37-63と同一個体。後期・十腰内I式 |
| 37 | 60 | SK17 | 覆土 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (9.4) | 沈線 | 平滑なナデ | 後期・十腰内I式 |
| 37 | 61 | SK17 | 覆土 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (5.2) | 単軸絡糸体第5類 (L) 回転 | ミガキ | 図20-16と同一個体? 後期? |
| 37 | 62 | SK17 | 覆土 | 縄文土器 | ミニチュア深鉢 | 胴部 | - | - | (2.6) | 沈線 | ミガキ | 図37-59・37-63と同一個体。後期・十腰内I式 |
| 37 | 63 | SK17 | 覆土 | 縄文土器 | ミニチュア深鉢 | 胴部 | - | - | (2.1) | 沈線 | ミガキ | 図37-59・37-62と同一個体。後期・十腰内I式 |
| 37 | 64 | SK28 | 覆土 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (6.6) | 単軸絡糸体第5類 (r) 回転 | 平滑なナデ | 後期・十腰内I式 |
| 37 | 65 | SK30 | 底面P4 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | - | - | (3.7) | ロクロ? | ナデ、横ナデ | |
| 37 | 66 | SK30 | 覆土、底面P1~5 | 土師器 | 甕 | 胴部 | - | - | (23.7) | 輪積痕、ヘラナデ、ヘラケズリ、指ナデ | ナデ、ヘラナデ | |
| 40 | 67 | SD01 | 1層 | 土師器 | 坏 | 口縁部 | (11.6) | - | (3.2) | ロクロ | ロクロ | |
| 40 | 68 | SD01 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 底部 | - | (5.8) | (3.5) | ロクロ | ミガキ、黒色処理 | 底面・回転糸切。 |
| 40 | 69 | SD01 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (8.2) | (3.5) | 輪積痕、ヘラナデ? (摩滅?) | 指ナデ | 底面・砂底。 |
| 40 | 70 | SD10 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 底部 | - | (5.6) | (2.1) | ロクロ | ロクロ | 底面・回転糸切。 |
| 40 | 71 | SD10 | 覆土、1層 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (8.6) | (2.0) | ヘラナデ | 指ナデ | 底面・ヘラナデ。 |
| 44 | 73 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (2.2) | 結束第1種 (LR・RL) | 平滑なナデ | 植物繊維少量。前期後半・円筒下層d2式 |
| 44 | 74 | 遺構外 | 27-21 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (2.9) | 口唇-刺突、口唇-単軸絡糸体第1類 (L) 回転 | ナデ? (剥落) | 植物繊維中量。図44-75と同一個体。前期後半・円筒下層d2式 |
| 44 | 75 | 遺構外 | 27-20 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 頸部 | - | - | (3.0) | 隆帯-粘土紐貼付・刺突、胴部-単軸絡糸体第1類 (L) 回転 | ナデ? (剥落) | 植物繊維中量。図44-74と同一個体。前期後半・円筒下層d2式 |
| 44 | 76 | 遺構外 | 27-112 風倒木 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (4.0) | 口縁-単軸絡糸体第1類 (R) 側面圧痕、口唇-LR横 | ミガキ | 植物繊維少量。前期後半・円筒下層d2式 |
| 44 | 77 | 遺構外 | 27-15 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (4.0) | 口唇-LR側面圧痕、口縁-単軸絡糸体第1類 (R) 側面圧痕、LR側面圧痕 | ミガキ | 植物繊維中量。前期後半・円筒下層d2式 |
| 44 | 78 | 遺構外 | 27-23 IV層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (5.0) | 口唇-LR側面圧痕、口縁-LR側面圧痕 | ミガキ | 植物繊維微量。前期後半・円筒下層d2式 |
| 44 | 79 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (5.5) | LR・RL側面圧痕 | ミガキ | 植物繊維少量。前期後半・円筒下層d2式 |
| 44 | 80 | 遺構外 | 27-45 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (5.9) | 単軸絡糸体第1類 (R) 回転、結節回転文 (R) | ミガキ | 植物繊維多量。前期後半 |
| 44 | 81 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (6.4) | 結束第1種 (LR・LR)、結節回転文 (LR) | 平滑なナデ | 植物繊維少量。前期後半 |
| 44 | 82 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (4.4) | LR縦回転、結節回転文 (R)、繩端閉塞他糸繩の回転文 (r)? | 平滑なナデ | 植物繊維少量。図44-83と同一個体。前期後半 |
| 44 | 83 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (4.3) | LR縦回転、結節回転文 (R) | 平滑なナデ | 植物繊維微量。図44-82と同一個体。前期後半 |
| 44 | 84 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (4.4) | RL斜回転 | ミガキ | 植物繊維多量。前期後半 |

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 部位 | 計測値 (cm) | | | 外面調整 (文様) | 内面調整 (文様) | 備考 (底面調整、時期等) |
|------|------|------------|-----------------------|------|---------|------|----------|--------|--------|--|-------------------------|----------------|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 44 | 85 | 遺構外 | 27-112 風倒木 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (5.6) | 結束第1種 (LR・RL) | ミガキ | 植物繊維少量。前期後半 |
| 44 | 86 | 遺構外 | 27-45 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (5.1) | 結束第1種 (LR・RL)、多軸絡条体 (r) 回転 | ミガキ | 植物繊維微量。前期後半 |
| 44 | 87 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (4.2) | 単軸絡条体第1類 (R) 回転 | ミガキ | 植物繊維中量。前期後半 |
| 44 | 88 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (9.2) | 単軸絡条体第1A類 (R) 回転 | ミガキ | 植物繊維少量。前期後半 |
| 44 | 89 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (8.1) | 単軸絡条体第1A類 (L) 回転、口唇による刺突? | ミガキ | 植物繊維少量。前期後半 |
| 44 | 90 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (3.9) | 多軸絡条体 (r) | ミガキ | 植物繊維少量。前期後半 |
| 44 | 91 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (6.1) | 直前段合捺 | ミガキ | 植物繊維多量。前期後半 |
| 44 | 92 | 遺構外 | 27-113 IV層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (7.1) | 口縁-粘土紐貼付・側面圧痕 (R・L・R)・馬蹄状圧痕 (L)・単軸絡条体第1類 (R) 回転、口唇-単軸絡条体第1類 (R) 回転 | ミガキ | 弁状突起。中期・円筒上層b式 |
| 44 | 93 | 遺構外 (注記なし) | | 縄文土器 | 深鉢 | 体部上半 | (12.8) | - | (11.3) | 口縁-単軸絡条体第1類 (R) 回転、胴部-刺突 | オサエ、ミガキ | 中期・円筒上層c式前後? |
| 44 | 94 | 遺構外 | 27-110 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (9.0) | 粘土貼付、口唇-RL側面圧痕、口縁-胴部-RL側面圧痕-RL横、剥落あり | ミガキ | 中期後葉 |
| 44 | 95 | 遺構外 | 27-111 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (5.3) | 口唇-粘土紐貼付・LR横?、口縁-沈線、LR縦回転 | ナデ | 中期・円筒上層e式 |
| 44 | 96 | 遺構外 | 27-47 表採 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (7.7) | RL斜回転 | 平滑なナデ | 植物繊維少量。中期前葉? |
| 44 | 97 | 遺構外 | 27-113 IV層 | 縄文土器 | 深鉢 | 体部下半 | - | (14.0) | (12.4) | 結束羽状縄文 (RL・LR (共に0段多条)、縄端回転文 (振り方向不明)、ミガキ | ナデ、ミガキ | 底外面・ミガキ。中期 |
| 44 | 98 | 遺構外 | 27-112 風倒木 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (4.9) | 沈線 | ミガキ | 後期・十腰内I式 |
| 44 | 99 | 遺構外 | 27-106 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | - | (6.8) | (1.6) | LR横 | ナデ | 上げ底。後期後半? |
| 45 | 107 | 遺構外 | 27-105 I層 | 土師器 | ミニチュア土器 | 底部 | - | - | (2.6) | ナデ | 指ナデ | |
| 45 | 108 | 遺構外 | 27-35 I層 | 土師器 | 鉢 | 体部上半 | (8.8) | - | (3.5) | | | |
| 45 | 109 | 遺構外 | 27-37 I層 | 土師器 | 坏 | 体部下半 | - | (6.0) | (4.8) | ロクロ、ミガキ、(黒色処理なし) | ナデ、ミガキ、(黒色処理はとんでる可能性あり) | 底面・ミガキ。 |
| 45 | 110 | 遺構外 | 27-39 I層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (10.2) | - | (3.1) | 横ナデ、ヘラケズリ | 輪積痕、ナデ、横ナデ | |
| 45 | 111 | 遺構外 | 27-23 I層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (14.7) | - | (6.7) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ | ヘラナデ、横ナデ | |
| 45 | 112 | 遺構外 | 27-29 I層 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (8.8) | (3.5) | 輪積痕、ヘラナデ | ナデ | 底面-砂底、ナデ。 |
| 45 | 113 | 遺構外 | 27-33 I層、II層 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (14.0) | (4.6) | ヘラナデ、ヘラケズリ | ナデ、ヘラナデ | 底面-オサエ。 |
| 45 | 114 | 遺構外 | 27-101 I層、27-34・35 I層 | 土師器 | 広口壺 | 口縁部 | (18.6) | - | (6.3) | ロクロ | ナデ、ミガキ | 内面黒色処理なし? |
| 45 | 115 | 遺構外 | 27-37 I層 | 土師器 | 塀 | 口縁部 | - | - | (2.9) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ、ナデ | 輪積痕、ナデ、横ナデ | |
| 45 | 116 | 遺構外 | 27-106 I層、27-105 I層 | 須恵器 | 坏 | 略完形 | (14.0) | (4.8) | (5.0) | ロクロ、指ナデ | ロクロ | 底面-ヘラケズリ。 |

表11 農道27号出土石器・土製品・金属製品 観察表

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 石質 | 計測 (mm) | | | 重さ (g) | | 備考 |
|------|------|------|------------|-----|-------|------|---------|-------|--------|----------|--------|--|
| | | | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 処理前 | 処理後 | |
| 26 | 26 | S104 | 覆土P27~31 | 土製品 | 羽口 | - | 121 | 75 | (12.1) | 316.6 | | 材料分析試料No.32。初、植物繊維等多量混入。高さ69mm、外径73mm、内径32mm。溶損角度20・30度、複数回操業の可能性あり。 |
| 26 | 27 | S104 | 覆土S3 | 石器 | 石鎌 | 珪質頁岩 | (26) | (11) | (45) | (0.7) | | 欠損。火バネあり。 |
| 36 | 41 | SK04 | 底面S1 | 石器 | 凹石 | 安山岩 | 112 | 73 | 48 | 492.1 | | |
| 37 | 50 | SK07 | 覆土 | 石器 | 削器 | 珪質頁岩 | 32 | 33 | 11 | 5.7 | | |
| 40 | 72 | SD10 | 覆土I層 | 鉄製品 | 鎌の柄部? | - | (59) | (13) | (11) | (6.4) | (4.3) | 欠損。 |
| 45 | 100 | 遺構外 | 27-113 IV層 | 石器 | 尖頭器 | 珪質頁岩 | 38 | 25 | 11 | 7.3 | | 未製品。 |
| 45 | 101 | 遺構外 | 27-110 I層 | 石器 | 削器 | 珪質頁岩 | 34 | 34 | 11 | 8.0 | | |
| 45 | 102 | 遺構外 | 27-22 I層 | 石器 | 削器 | 珪質頁岩 | 34 | 31 | 7 | 6.9 | | |
| 45 | 103 | 遺構外 | 27-16 II層 | 石器 | 削器 | 珪質頁岩 | 41 | 38 | 8 | 6.6 | | |
| 45 | 104 | 遺構外 | 27-20 I層 | 石器 | 石釜 | 珪質頁岩 | 46 | 33 | 15 | 12.3 | | |
| 45 | 105 | 遺構外 | 27-7 I層 | 石器 | 磨製石斧 | 緑色片岩 | (52) | (41) | (22) | (58.3) | | 欠損。 |
| 45 | 106 | 遺構外 | 27-11 I層 | 石器 | 凹石 | 安山岩 | 53 | 107 | 31 | 191.0 | | 欠損。大半タタキ、スリ、擦痕あり。 |
| 45 | 117 | 遺構外 | 27-34 攪乱 | 土製品 | 土錘 | - | 5.6 | 2.5 | 2.2 | 27.8 | | 完形。オサエ。貫通孔φ6mm。 |
| 45 | 118 | 遺構外 | 27-114 I層 | 土製品 | 土鈴 | - | (3.6) | (1.8) | (1.6) | (8.9) | | 紐部。粘土積痕。 |
| 45 | 119 | 遺構外 | 27-35 I層? | 鉄製品 | 弧状? | - | a (59) | (31) | (18) | (1072.3) | (35.1) | 欠損。土壌ごと取り上げ(処理前重量には土壌・容器重量含む)。 |
| 写真35 | - | S105 | 覆土 | 石器 | 破裂礫 | 凝灰岩 | 200 | 128 | 51 | (906.5) | | 破片数71点。 |

第4節 農道28・1号

農道28号は、遺跡の存在する台地の南側縁辺部に位置し、本路線の南端は熊沢溜池に落ちていく段丘崖となっている。調査前の標高は、北西端で約36.7m、南東の28-37グリッドで約33.5mである。メインとなる農道28号調査区は長さ約197m、幅約5.2m、流末水路部分は長さ約31m、幅約2.0m、合計1,114㎡を調査した。

調査の結果、28-21グリッド以北では農道1号を含め、遺構・遺物とも皆無であった。比較的平坦な28-22グリッドから28-37グリッドに遺構は密に検出され、斜度が強くなる28-37グリッド以南ではまた遺構は疎に分布する。農道28号で検出された遺構は、竪穴住居跡5軒、土坑20基、溝跡6条、ピット25基で、これらの多くが平安時代の遺構と思われる。遺物は、縄文・平安時代の土器類11箱、石器類3箱、鉄製品1箱の計段ボール箱14箱分が出土した。縄文時代の遺物のごく少量で、土師器製作の材料と思われる粘土塊も出土した。

併せて調査を行った農道1号は、農道28号の中央やや北寄り部分、28-17グリッド付近で直交する農道である。平成20年度に南西半の調査を行っており、平成21年度はそれに隣接する区間、工事用中心杭No.3+3.95~No.3+21.70間、長さ約18m、幅約7.3mの133㎡の調査を行った。その結果、遺構・遺物とも皆無であったため調査区を図47に示すのみとする。農道1号の遺構確認面の標高は、約35.7mであった。

以下、農道28号で検出された古代以前の遺構について、遺構種ごとに記述を行う。

1 検出遺構

(1) 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡 (SI01、図48~52)

[位置・確認] 調査区南側中央南寄り、28-36・37グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.5~33.8m、第IV層で確認した。SK19と重複し、本遺構が新しい。カマド煙出し部でSP24とも重複するが、新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は一辺が約3.7mの方形を呈する。壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁3.7m・深さ45cm、北東壁3.7m・深さ33cm、南東壁3.8m・深さ37cm、南西壁3.7m・深さ39cmを測る。いずれの壁もしっかりした立ち上がりを見せ、住居の軸方向はN-149°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は基本的に地山をそのまま床面としているが、東側などでは部分的に貼り床を施して平坦に整えている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 5基検出されたピットのうち、Pit 2・3・4・5の4基が柱穴と思われる。各Pitの規模は、Pit 2が28×21cmで深さ24cm、Pit 3が21×17cmで深さ27cm、Pit 4が21×15cmで深さ15cm、Pit 5が20×14cmで深さ6cmを測る。これらは住居のコーナー部分で検出されたが、カマドと反対側のピット (Pit 2・3) は深さを有しているものの、カマド側のピット (Pit 4・5) は浅いという特徴がある。いずれも柱痕は確認されなかった。

[カマド] 南東壁の南寄りに検出された。袖部は粘土で構築されており、燃焼部内側は被熱により赤色化・硬化していた。41×33cmの火床面が検出され、深さ8cmまで被熱が及んで赤色化・硬化して

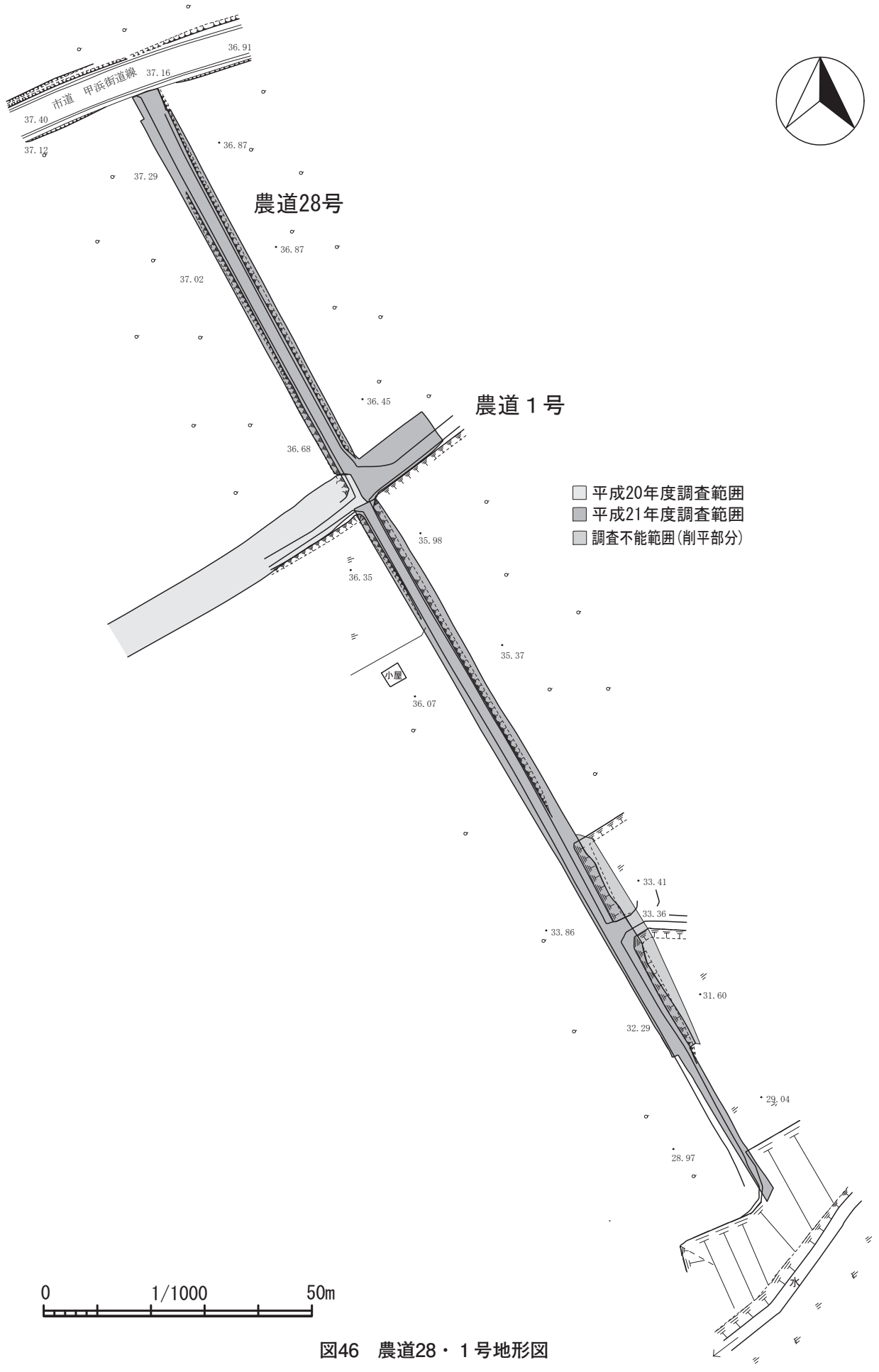


図46 農道28・1号地形図

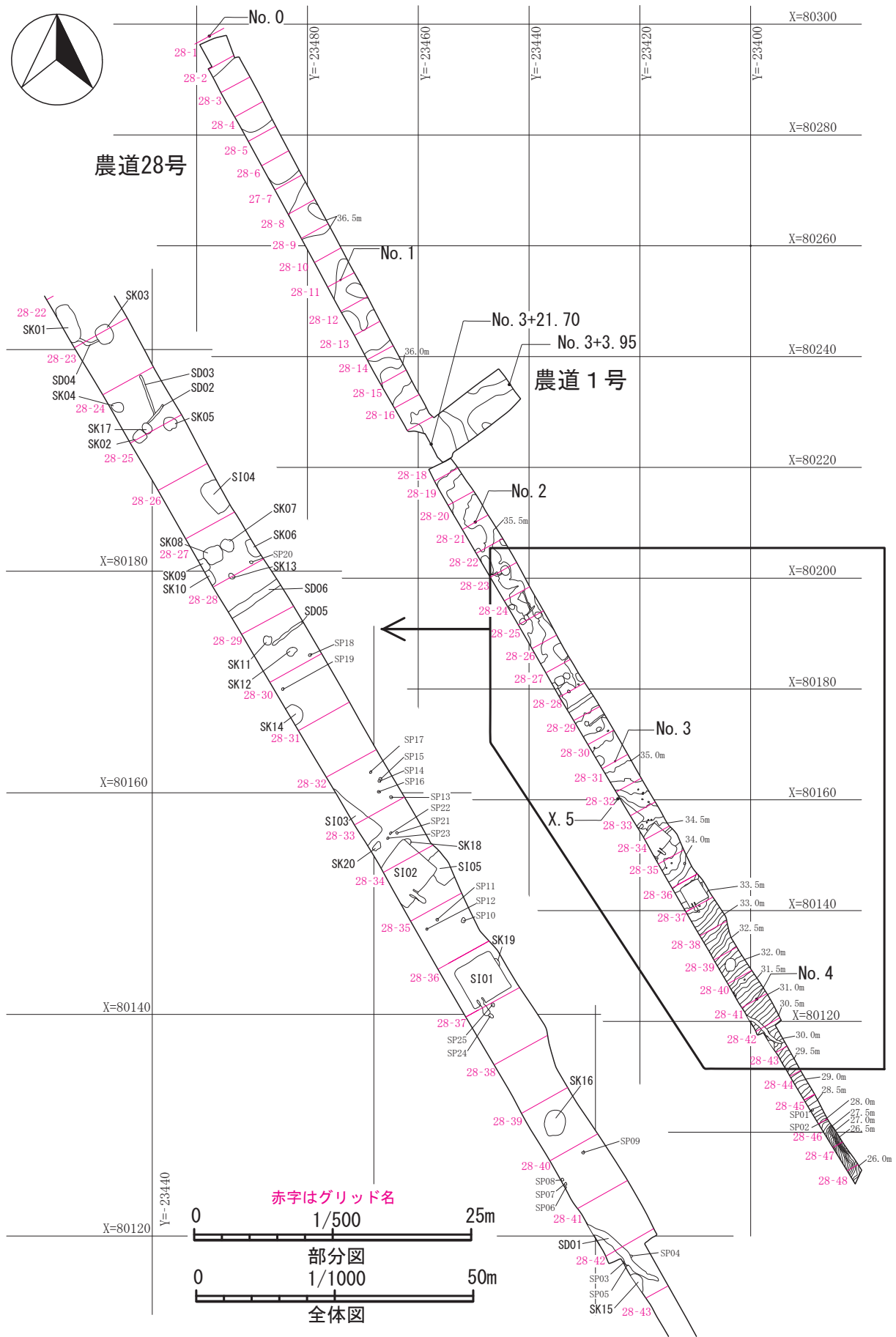
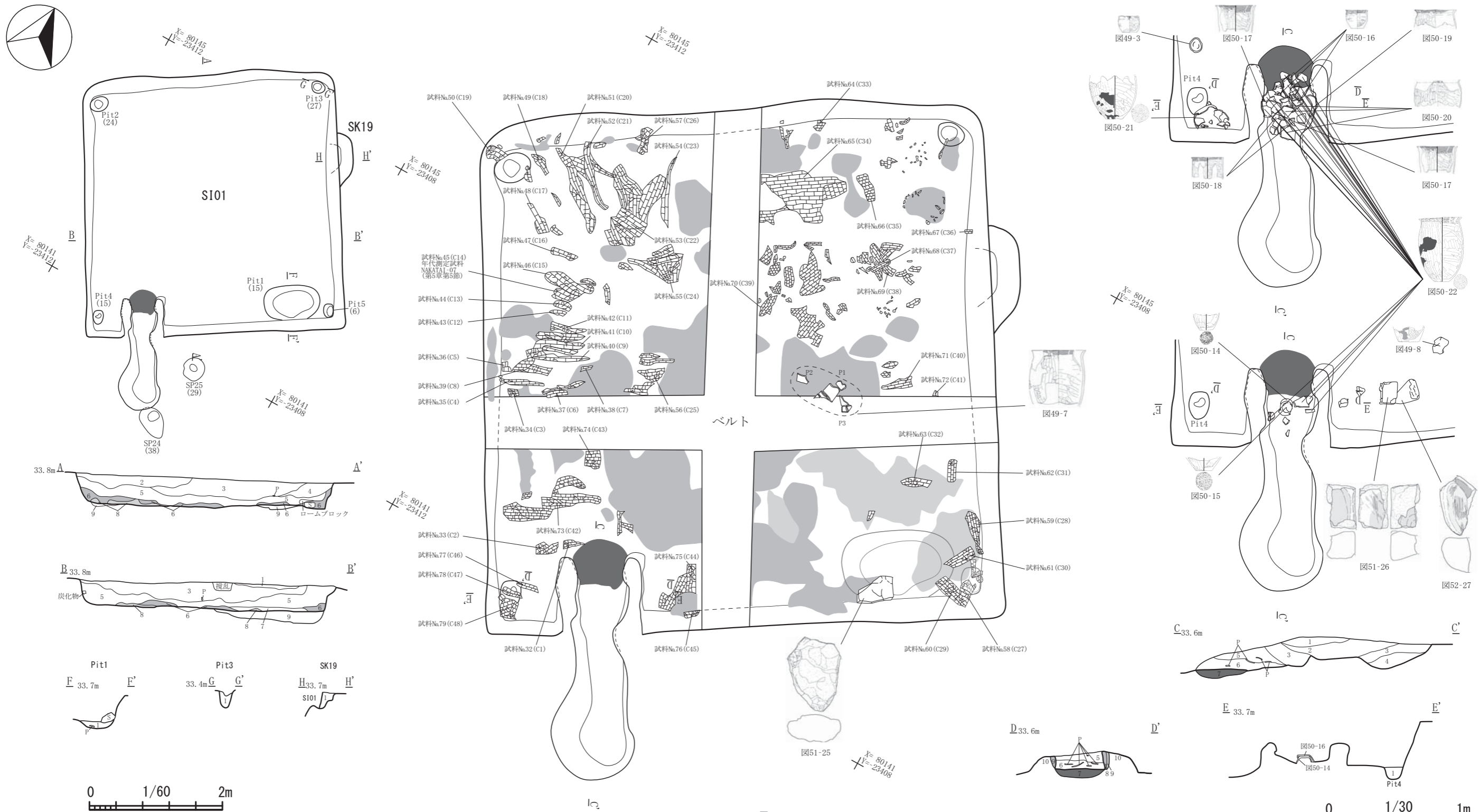


図47 農道28・1号遺構配置図



S101 (A-A'・B-B')

| | | | |
|---|----------|------|--|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色土 | 焼土粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%、浮石(φ1mm)1%。 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 焼土粒(φ1~15mm)1%、ローム粒(φ1~15mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。 |
| 3 | 10YR2/2 | 暗褐色土 | 焼土粒(φ1~5mm)1%、ローム粒(φ1~5mm)5%。 |
| 4 | 10YR4/4 | 褐色土 | 焼土粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。 |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 焼土粒(φ5~10mm)3%、炭化物(φ1~10mm)3%、ローム粒(φ1~30mm)5%。 |
| 6 | 2.5YR4/6 | 赤褐色土 | 褐色焼土ローム。 |
| 7 | 10YR4/4 | 褐色土 | 炭化物主体層。 |
| 8 | 10YR4/6 | 褐色土 | 掘り方。黄褐色土30%、褐色焼土15%、明黄褐色土7%、炭化物(φ1mm)5%。 |

S101Pit1 (F-F')

| | | | |
|---|---------|------|---|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 明赤褐色焼土粒(φ1~10mm)7%、炭化物(φ1~10mm)10%、ややしまりあり。 |
|---|---------|------|---|

S101Pit3 (G-G')

| | | | |
|---|---------|-----|--|
| 1 | 10YR4/6 | 褐色土 | 黄褐色土15%、ローム粒(φ1~2mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%、しまり中。 |
|---|---------|-----|--|

SK19 (H-H')

| | | | |
|---|---------|------|------------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒(φ1~2mm)3%、ややしまりあり、根が多い。 |
|---|---------|------|------------------------------|

■ 火床面
 ■ 焼土範囲
 ■ 炭化物範囲
 ※ 試料No.前種同定試料番号 (第5章第3節)

S101カマド (C-C'・D-D')

| | | | |
|----|----------|---------|---|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 暗褐色土15%、赤褐色焼土粒(φ1~3mm)3%、明赤褐色焼土粒(φ5mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%、浅黄褐色土1%。 |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色土 | 暗褐色土30%、黒褐色土10%、赤褐色焼土粒(φ1~10mm)1%、灰オリブ色土1%。 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 暗褐色土20%、赤褐色焼土2%、炭化材(φ20mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%未満。 |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 褐色土10%、赤褐色焼土粒(φ1mm)1%未満。 |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 赤褐色土25%、褐色土20%、にぶい黄褐色土7%、暗褐色土5%、暗赤褐色焼土3%、炭化物(φ1~5mm)2%。 |
| 6 | 7.5YR4/4 | 褐色土 | 極暗褐色土40%、褐色土10%、赤褐色焼土2%、炭化物(φ1~2mm)1%。 |
| 7 | 2.5YR4/8 | 赤褐色土 | 本層上面が火床面、上面は明赤褐色を呈する、非常に固くしまっている。 |
| 8 | 2.5YR5/8 | 明赤褐色土 | 袖の貼り付け材。 |
| 9 | 5YR5/8 | 明赤褐色土 | 袖の構築材。成熟部分は内側ほど赤色強い、外側は橙色化している。 |
| 10 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | 袖の構築材。内側は橙色化に漸移している。 |

S101内Pit4 (E-E')

| | | | |
|---|---------|-----|---------------------|
| 1 | 10YR4/4 | 褐色土 | 炭化物(φ1~3mm)2%、しまり弱。 |
|---|---------|-----|---------------------|

図48 第1号竪穴住居跡

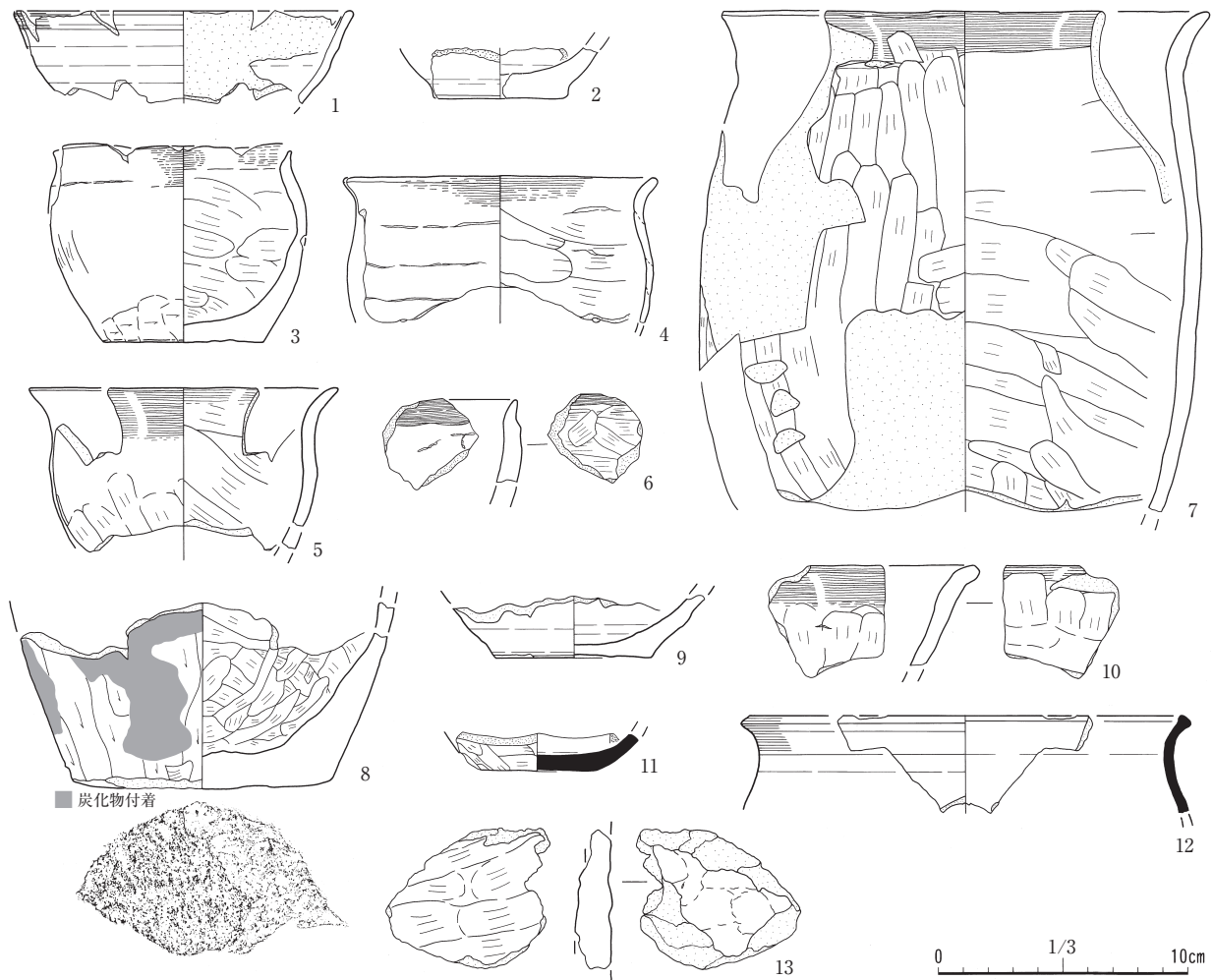


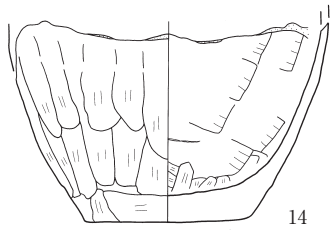
図49 第1号竪穴住居跡 出土遺物 (1)

いた。煙道は住居外に113cm延び、煙出し部へ緩やかに立ち上がっていく。煙道の軸方向はN-149°-Eである。土師器甕底部2点(図50-14・15)を火床面奥に倒立して重ね置き、支脚として使用していたものと思われる。14が下で、その上に15を重ね乗せている。

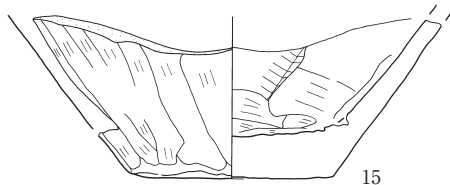
[その他の施設] Pit 1が検出され、規模は85×52cmで深さ15cmを測る。焼土・炭化物が多く含まれる暗褐色土が堆積し、Pit 1確認面で台石(図51-25)が出土した。底面から出土した土師器甕の破片は、支脚として使用されていた15と接合している。

[堆積土] 全体的に褐色土から暗褐色土が主体となっている。床面付近では、住居全面から焼土及び炭化物が密に検出された焼失家屋であり、床面も焼土化している部分がある。

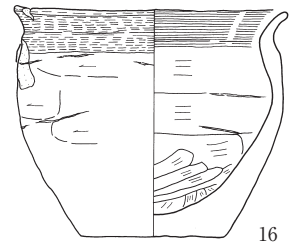
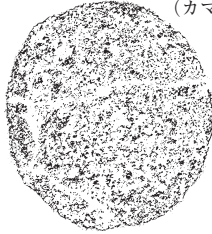
[出土遺物] 遺物は南東壁及びカマドの周辺から多く出土した。出土土器の総重量は7.23kgで、内訳は土師器7.16kg、縄文土器0.07kgである。また、礫1.44kg、鉄滓0.02kgも出土した。そのうち土師器坏(1・2)・鉢(6)・甕(3~5・7~9・13~22)・埴(10)、須恵器坏(11)・鉢(12)、凹石(23)・敲・凹石(24)・台石(25)・台石?(26・27)を図示した。カマド燃焼部から重なるように土器類が出土し、それらは図50に一括して掲載したとおり土師器甕のみであった。13は通常の甕とは異なり、器厚が厚く器面に凹凸がみられるもので、植物繊維が混和材として混入されている。3・16は粘土等材料分析(試料No.22・23)を行ったところ、淡水成粘土を用いていることが判明した(第



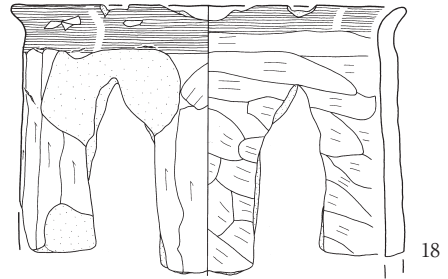
14 (カマド支脚下部)



15 (カマド支脚上部)



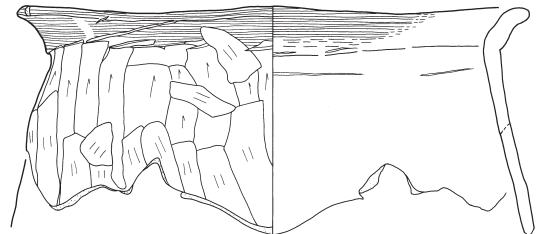
16



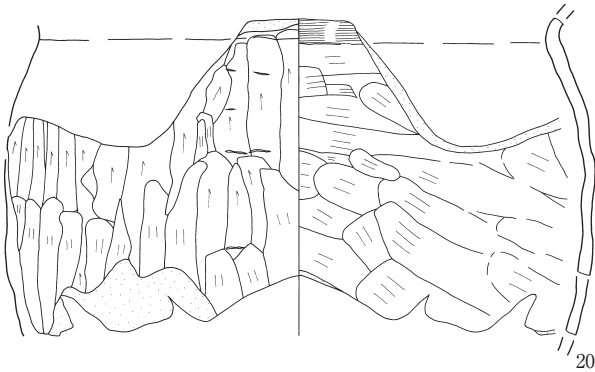
18



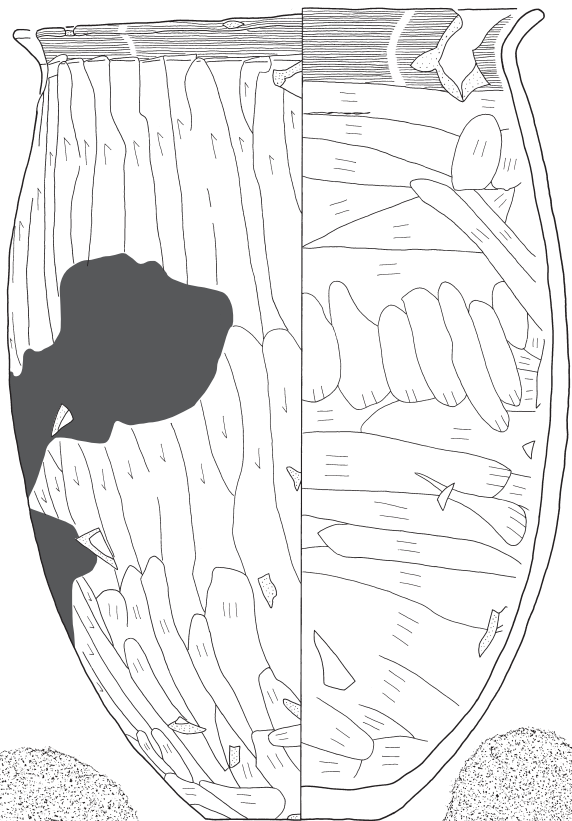
17



19

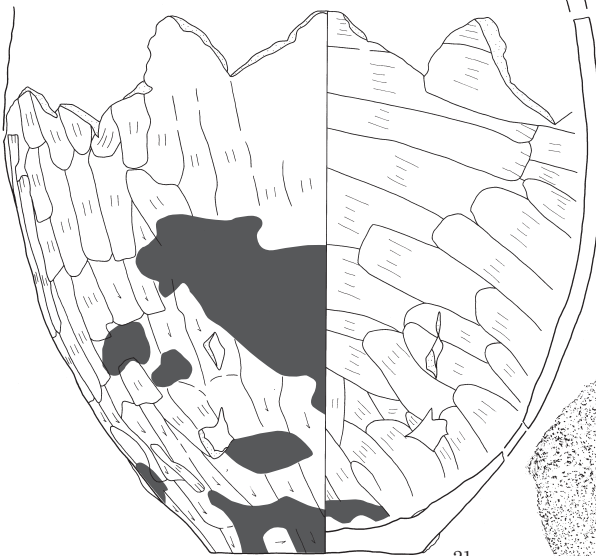


20



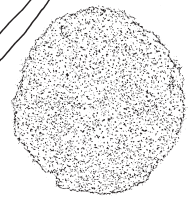
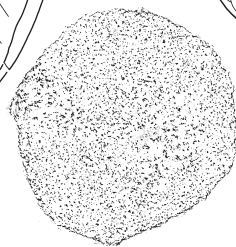
■ 焼土付着

22



21

■ 焼土付着



0 1/3 10cm

図50 第1号竪穴住居跡 出土遺物(2) カマド

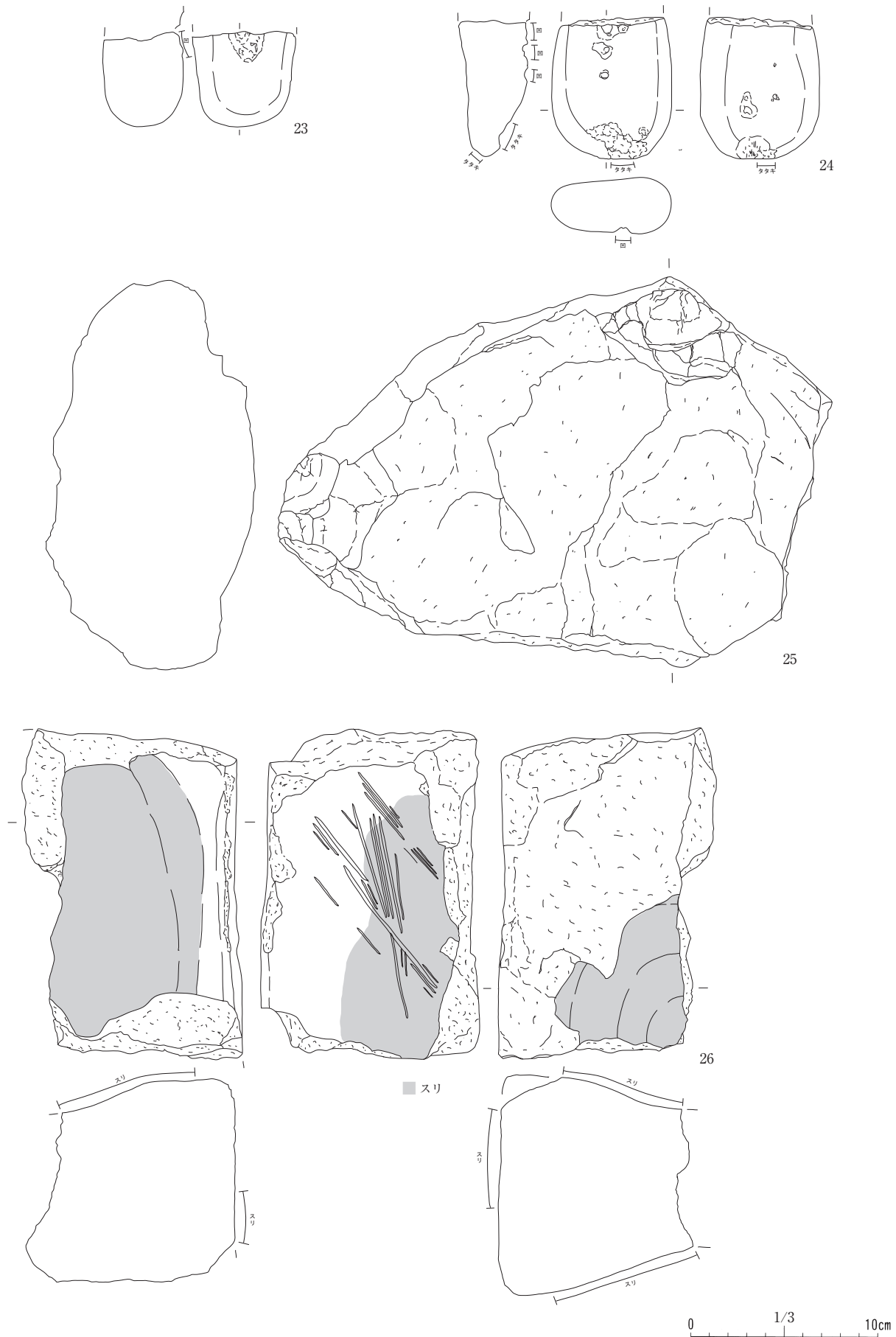


図51 第1号竪穴住居跡 出土遺物 (3)

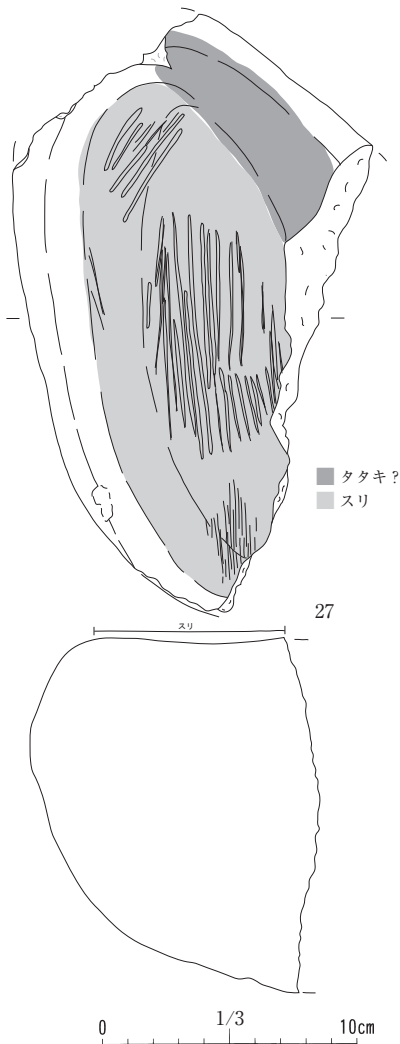


図52 第1号竪穴住居跡
出土遺物(4)

5章第7節)。23・24は縄文時代の石器とみられるが、25～27は平安時代に使用された台石と思われる。25は敲きによると思われる剥落が面的に広がっている。カマド左側から並んで出土した26・27は、大きく欠損しているものの磨り及び擦痕が顕著にみられ、丁寧に使い込まれたものと思われる。

また、住居全体から多量の炭化材が出土した。炭化材は住居の西半から特に多く出土し、特に南西壁付近では遺存状況が良好な上屋の部材と思われる炭化材が住居内に倒れ込んだような状態で検出された。これらのうち48点について樹種同定を行ったところ、クリ41点、モクレン属4点、トネリコ属シオジ節2点、ハンノキ属ハンノキ亜属1点であった(第5章第3節)。また1点の炭化クリ材(C14)について放射性炭素年代測定を行っている(第5章第5節)。

[遺構の時期等] 本住居跡は焼失家屋であり、出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の状況などから、9世紀後葉～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。

第2号竪穴住居跡 (SI02、図53～56)

[位置・確認] 調査区南側中央、28-33・34グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.3～34.5m、第IV層で確認した。SI05・SK18と重複し、本遺構が新しい。

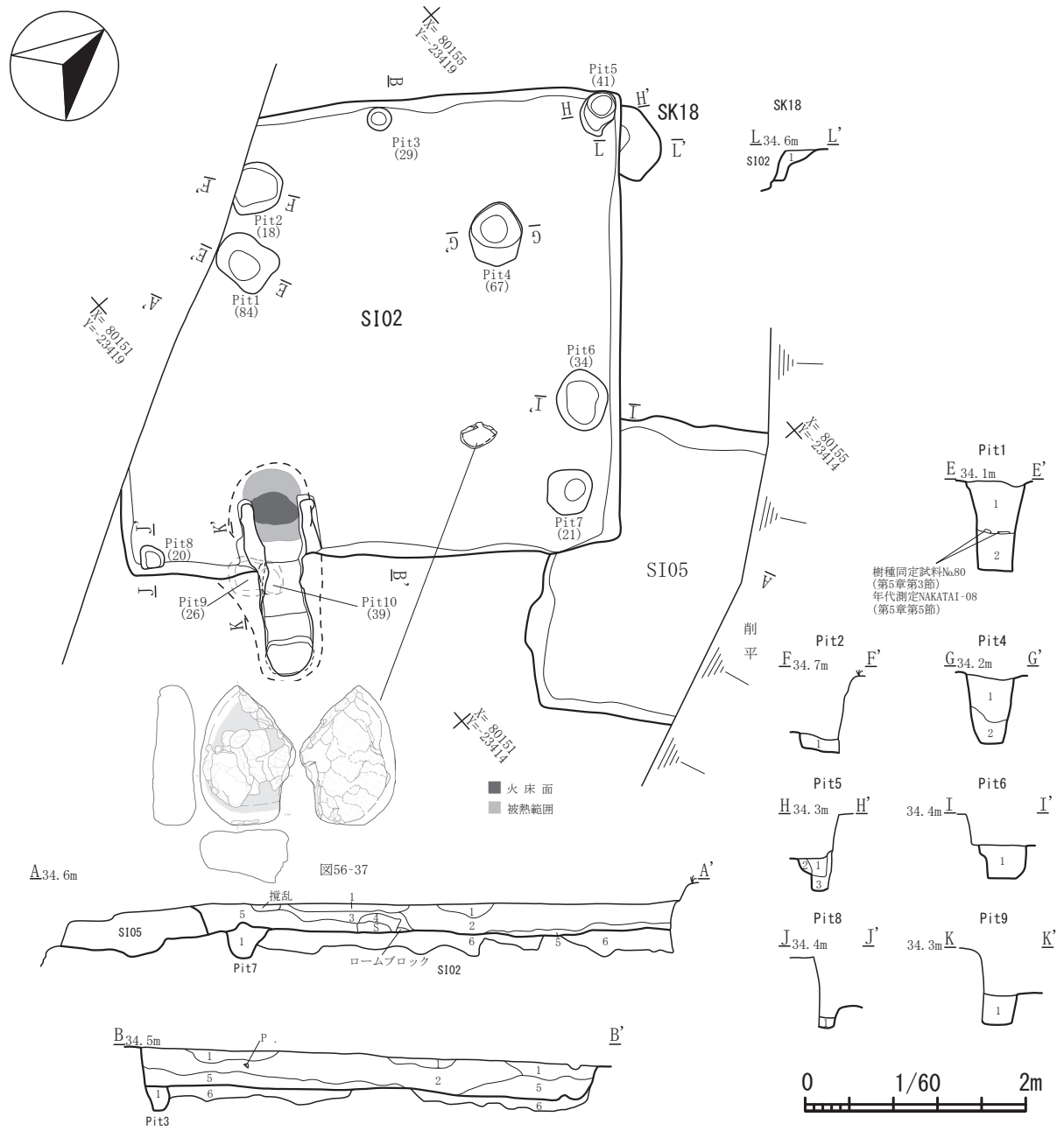
[平面形・規模] 調査区域外に約5分の1程度があるものと思われるが、平面形は4.4×4.0mの長方形と推定される。壁長及

び確認面から床面の深さは、北西壁(3.3)m・深さ37cm、北東壁4.0m・深さ25～37cm、南東壁4.4m・深さ26～37cm、南西壁(0.8)m・深さ37cmを測る。いずれの壁もしっかりと立ち上がっており、住居の軸方向はN-131°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は貼り床によって平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

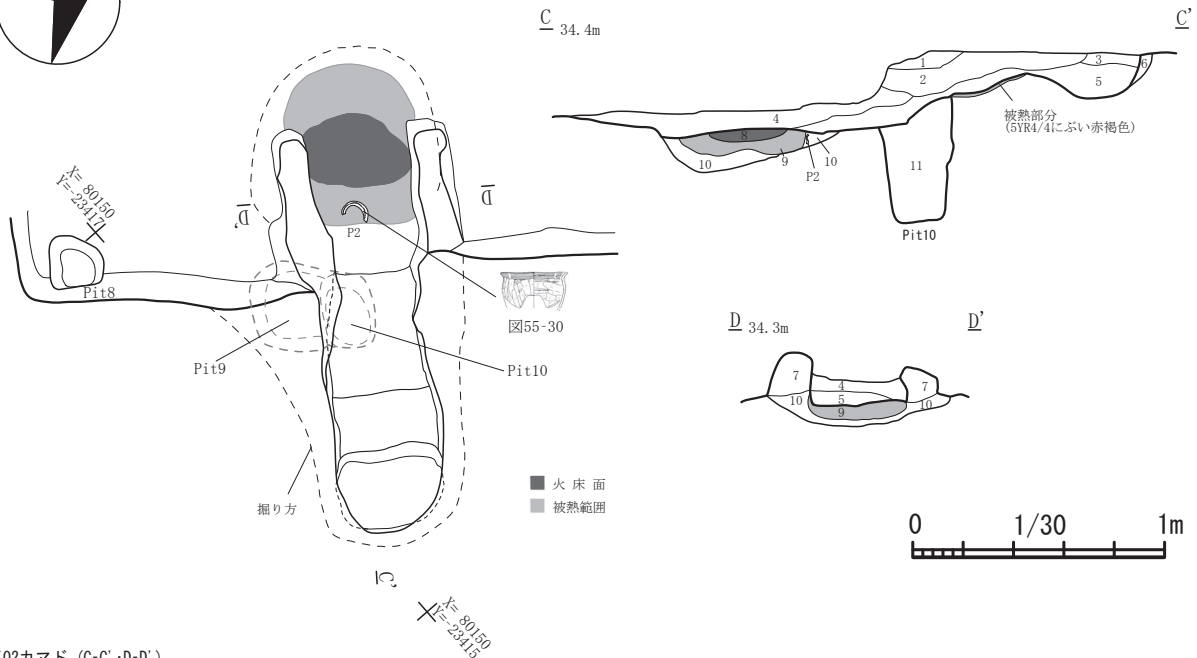
[柱穴] 10基検出されたピットのうち、Pit 1・4が主柱穴でPit 5・7・8が隅柱穴と思われる。Pit 3は北西壁のおおよそ中間地点にあることから壁柱穴と考えられる。主柱穴のPit 1・4には柱痕が確認されていないことから、柱材を抜き取った後、埋め戻したものと考えられる。Pit 9・10は、カマド掘り方の精査中に検出されたことから、古い時期の柱穴もしくは別遺構の可能性はある。各Pitの規模は、Pit 1が53×44cmで深さ84cm、Pit 2が52×40cmで深さ18cm、Pit 3が22×20cmで深さ29cm、Pit 4が58×49cmで深さ67cm、Pit 5が41×31cmで深さ41cm、Pit 6が56×47cmで深さ34cm、Pit 7が44×44cmで深さ21cm、Pit 8が22×21cmで深さ20cm、Pit 9が(30)×35cmで深さ26cm、Pit10が30×(21)cmで深さ30cm以上を測る。Pit 2・6は形態から柱穴の可能性が高いが、断定できるものではない。

[カマド] 南東壁の南寄りに検出された。天井部は遺存していないものの、粘土で構築された袖部はしっ



- SI02 (A-A'・B-B')
- 1 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土30%、にぶい黄褐色土20%、焼土粒(φ1~3mm)1%、ローム粒(φ1~4mm)5%、炭化物(φ1~2mm)3%、ややしまりあり、小礫(φ1~2mm)3%。
 - 2 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(φ10~50mm)10%、ローム粒(φ1~5mm)7%、焼土粒(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1~5mm)3%、しまり中、小礫(φ1~3mm)2%。
 - 3 10YR4/6 褐色土 ローム粒(φ1~5mm)7%、炭化物(φ1~5mm)5%、小礫(φ1~3mm)7%、しまりあり。
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土20%、ローム粒(φ1~2mm)2%、炭化物(φ1~2mm)2%、小礫(φ1~5mm)2%、しまりあり。
 - 5 10YR4/4 褐色土 褐色土30%、焼土粒(φ1~3mm)1%、ロームブロック(φ10~50mm)20%、ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1~5mm)5%、小礫(φ1~3mm)1%、しまり中。
 - 6 7.5R5/6 明褐色土 掘り方。褐色土30%、にぶい黄褐色土15%、褐色土10%、明黄褐色土7%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- SI02内Pit1 (E-E')
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック(φ5~40mm)30%、黒色土10%、焼土粒(φ5~10mm)2%。
 - 2 10YR5/6 黄褐色土 砂質土。
- SI02内Pit2 (F-F')
- 1 10YR4/6 褐色土 粘土質土。
- SI02内Pit3 (B-B')
- 1 10YR4/4 褐色土 ローム粒(φ1~3mm)7%、ややしまりあり。
- SI02内Pit4 (G-G')
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒(φ1~20mm)7%。
 - 2 10YR5/6 黄褐色土 掘り方。粘土ブロック主体土。
- SI02内Pit5 (H-H')
- 1 10YR2/2 黒褐色土
 - 2 10YR3/4 暗褐色土
 - 3 10YR4/4 褐色土
- SI02内Pit6 (I-I')
- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ10~30mm)10%。
- SI02内Pit7 (A-A')
- 1 7.5R4/4 褐色土 褐色ロームブロック(φ10~30mm)25%、焼土ブロック(φ10~20mm)5%、炭化物(φ1~10mm)2%、ややしまりあり。
- SI02内Pit8 (J-J')
- 1 10YR4/4 褐色土 暗褐色土30%。
- SI02内Pit9 (K-K')
- 1 10YR4/4 褐色土 褐色土15%、褐色焼土3%、黒褐色土1%。
- SK18 (L-L')
- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~2mm)3%。

図53 第2号竪穴住居跡 (1)



S102カマド (C-C'・D-D')

- 1 10YR8/3 浅黄褐色粘土 褐色土20%、炭化物(φ1~2mm)1%、しまり非常にかたい。
- 2 10YR4/6 褐色土 黒褐色土(φ20~60mm)2%、ブロックで混入、炭化物(φ1~2mm)5%、ローム粒(φ1~5mm)3%、焼土粒(φ1~3mm)1%、しまりあり。
- 3 10YR4/6 褐色土 暗褐色土20%、ローム粒(φ1~20mm)5%、炭化物(φ1~2mm)3%、焼土粒(φ1~5mm)3%、小礫(φ1~5mm)3%。
- 4 10YR4/6 褐色土 明黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)3%、炭化物(φ5~20mm)3%、しまりあり。
- 5 7.5YR4/6 褐色土 黒褐色土30%、炭化物(φ1~2mm)1%、焼土粒(φ1~5mm)1%、しまりあり。
- 6 10YR7/4 黄褐色土 掘り方。砂質土で、掘出し部。
- 7 2.5Y5/3 黄褐色土 袖部、粘土ブロック主体、左袖内面は被熱し、明赤褐色を呈する。
- 8 2.5YR4/6 赤褐色焼土 本層上面が火床面、非常に堅緻。
- 9 5YR3/6 暗赤褐色土 火床面下部、被熱部分。
- 10 10YR3/4 暗褐色土 カマド掘り方。
- 11 10YR4/4 褐色土 Pit10覆土。

図54 第2号竪穴住居跡 (2)

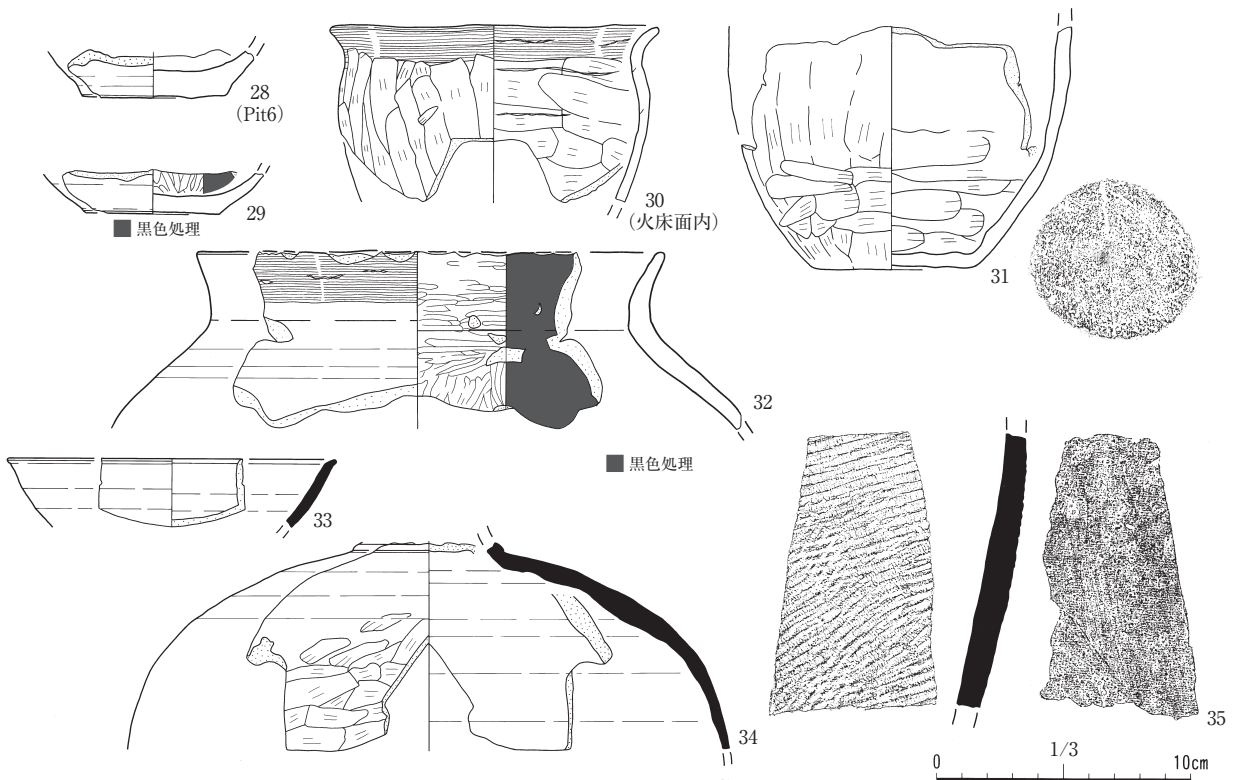


図55 第2号竪穴住居跡 出土遺物 (1)

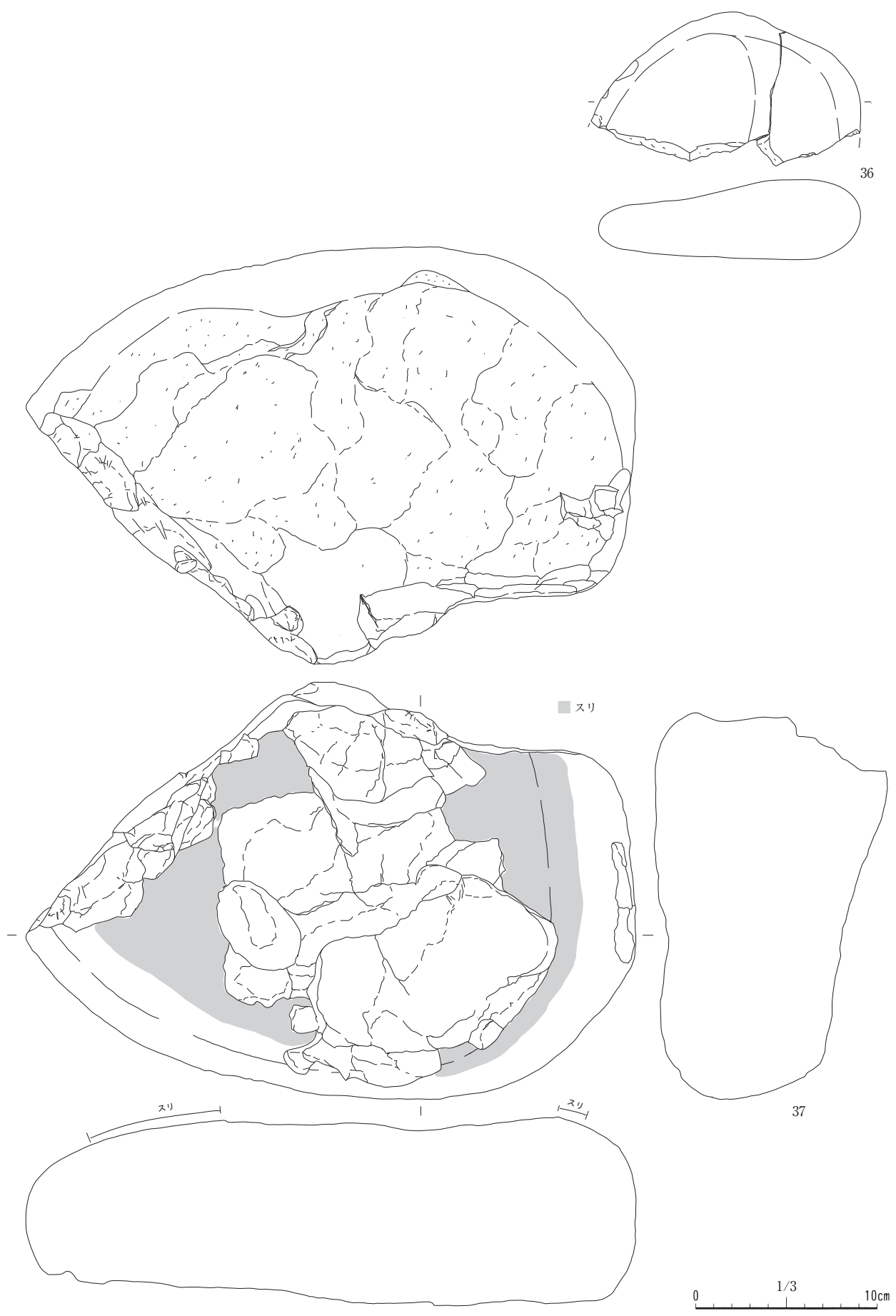


図56 第2号竪穴住居跡 出土遺物 (2)

かり遺存していた。40×29cmの非常に堅緻な火床面が検出され、その手前20cmと奥行き15cmの部分も被熱により暗赤褐色を呈している。火床面は深さ5cmまで硬化しており、さらにその下部5cm程度にも被熱が及んで赤色化していた。煙道は住居外に102cm延び、煙出し部へ緩やかに立ち上がっていき、煙出し部の手前40cmで10cmほど落ち込んでピット状をなしている。煙道の軸方向はN-126°-Eである。燃焼部付近には掘り方が認められ、火床面下部から倒立した土師器甕（図55-30）が出土した。火床面からそのレベル下位まで被熱が及んで焼土化しており、この土師器甕の下面が短期的な火床面であった可能性が考えられる。また、カマドの下部からPit 9・10が検出されたことも考慮に入れると、Pit 9もしくはPit10の脇に一度カマドを造作して短期的に使用したものの何らかの支障が生じ、ピットを埋めて柱を移設してカマドを作り直したことが考えられる。この時に土を充填して火床面のレベルが若干上げられたものの、平面的位置はほとんど変わらなかったものと思われる。

[堆積土] 褐色土が主体となって埋め戻されており、掘り方は明褐色土が主体である。

[出土遺物] 出土土器の総重量は1.63kgで、内訳は土師器1.44kg、須恵器0.18kg、縄文土器0.01kgである。また、礫0.27kg、鉄滓0.02kgが出土した。そのうち土師器坏（28・29）・甕（30・31）・壺（32）、須恵器坏（33）・壺（34）・甕（35）、礫（36）、台石（37）を図示した。26はPit 6覆土から出土した土師器坏底部、31は住居床面とPit 2覆土から出土した遺物が接合した土師器小甕底部で、粘土等材料分析（試料No.24）を行ったところ、淡水成粘土を使用していることが判明した（第5章第7節）。32はSI02覆土とSI05覆土出土の土器片が接合した土師器壺口縁部で、内面にミガキ及び黒色処理を施している。37は中央西寄りの床面から出土した台石である。また、Pit 1覆土中位から出土した炭化材1点について樹種同定及び放射性炭素年代測定を行った。その結果、樹種はクリであることが判明し（第5章第3節）、年代は第5章第5節にその結果を示してある。本試料は、Pit 1から柱材を抜き取った後に入り込んだ炭化材と考えられ、柱材の一部か、埋め戻し時に混入した柱材とは異なる炭化材か不明である。したがって年代測定結果については、本試料が柱材の一部であるならば構築時期に近い年代を、柱材と異なる部材であれば住居の廃絶時、もしくは廃絶後のいずれかの時期に近い年代を示している可能性が高い。

[遺構の時期等] 出土遺物や遺構の重複関係、堆積土の様相などから、9世紀後葉～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。

第3号竪穴住居跡（SI03、図57）

[位置・確認] 調査区南側中央、28-32・33グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.5～34.7m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区域外に約5分の4程度があるものと思われ、平面形は方形と推定されるがその規模は不明である。確認できた壁長及び確認面から床面の深さは、北東壁（5.5）m・深さ28cm、南東壁（2.0）m・深さ23cmを測る。いずれの壁も垂直に近いしっかりした立ち上がりをみせている。住居の軸方向はN-127°-Eである。

[床面・壁溝] 床面の大半には貼り床が施されて平坦に整えられている。壁溝は幅5～18cm、深さ3～10cmで、壁際を全周するように巡らされるようだが、南東付近で確認できない部分があった。

[柱穴] 柱穴は5基検出され、Pit 1が主柱穴でPit 2～5は壁柱穴と考えられる。各Pitの規模は、Pit

1は大半が調査区域外にあるためその規模は不明だが、直径60cm程度と思われ、深さ33cmであることは確認できた。Pit 2が51×38cmで深さ68cm、Pit 3が65×47cmで深さ53cm、Pit 4が44×42cmで深さ48cm、Pit 5が平面規模不明で深さ49cmを測る。いずれも柱痕は確認できなかった。

[カマド] 調査区域内では検出されず、調査区域外にあるものと思われる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物] 出土した土師器は0.75kgで、礫が0.44kg出土した。そのうち土師器坏（38・39）・甕（40～42）を図示した。

[遺構の時期等] 出土遺物、堆積土の様相などから、9世紀後葉～10世紀前半頃に廃絶された住居と思われる。

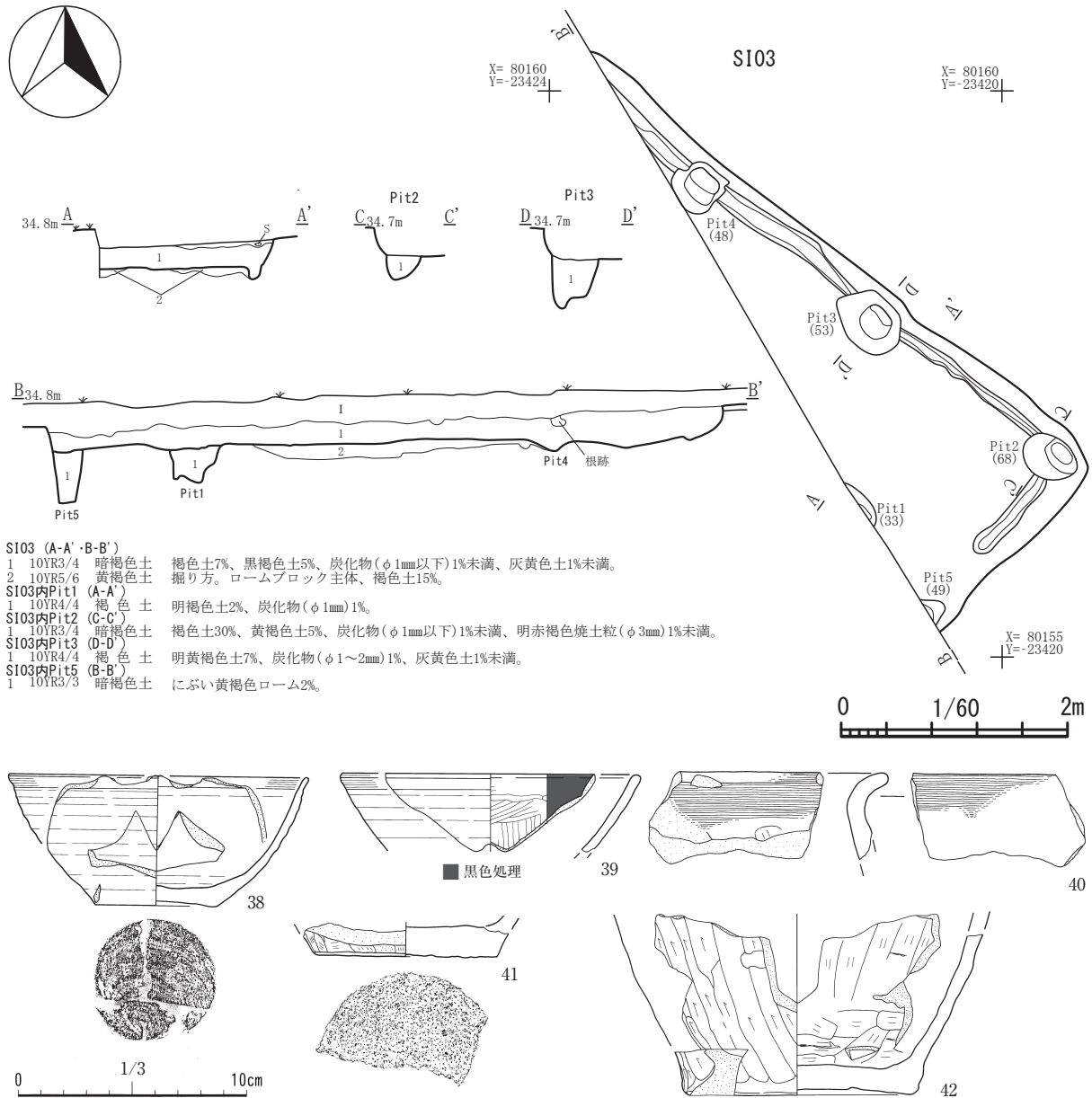


図57 第3号竪穴住居跡と出土遺物

第4号竪穴住居跡 (SI04、図58・59)

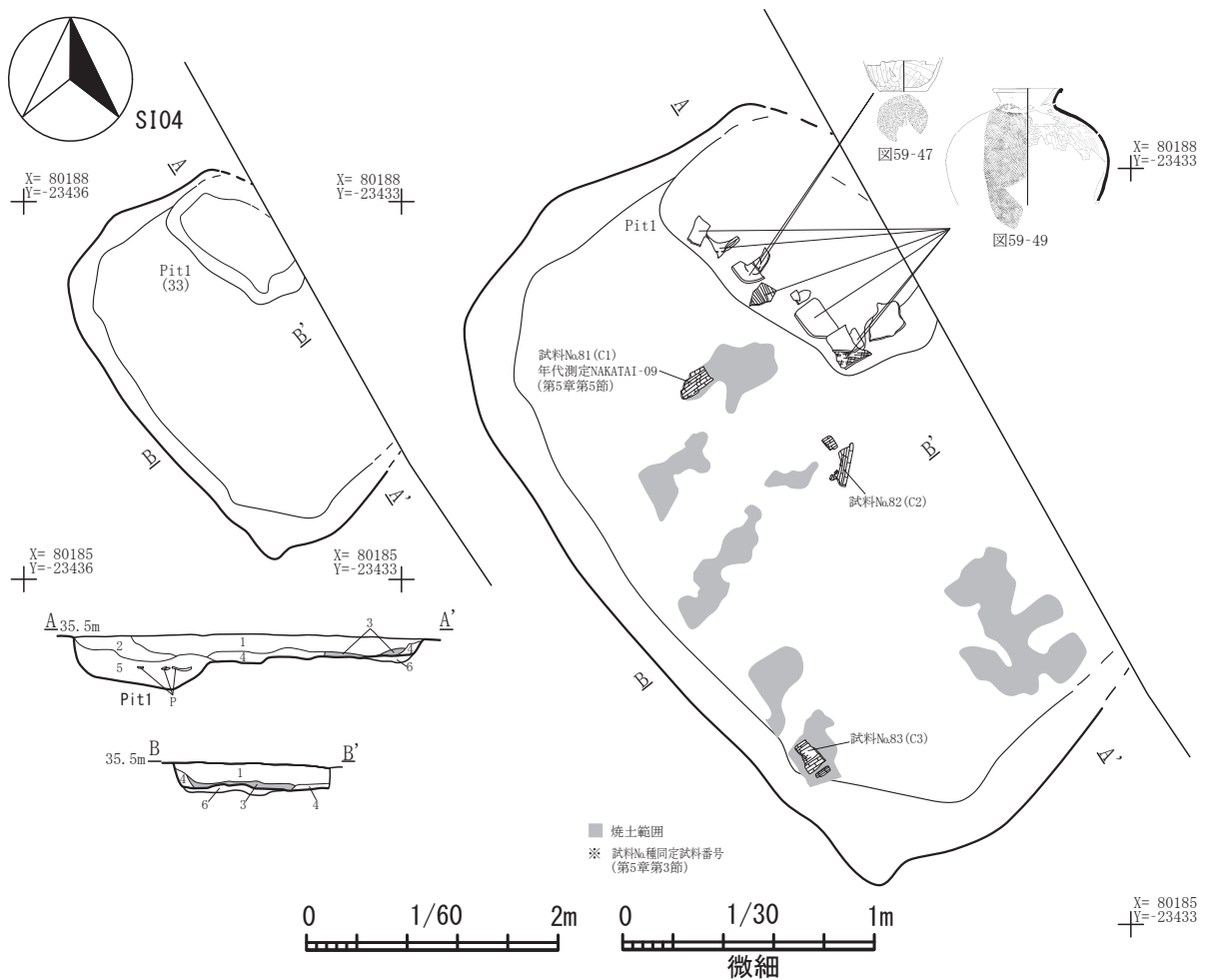
[位置・確認] 調査区南側北寄り、28-26グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.4m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区域外に約2分の1程度があるものと思われ、平面形は1.8m四方の隅丸方形と推定される。壁長及び確認面から床面の深さは、北西壁(1.5)m・深さ12~19cm、南東壁(1.1)m・深さ21cm、南西壁2.7m・深さ17~22cmを測る。いずれの壁も外に開きながら緩やかに立ち上がる。住居の軸方向はN-143°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は基本的に地山をそのまま床面としているが、一部は貼り床を施し平坦に整えている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴・カマド] いずれも検出されなかった。

[その他の施設] Pit 1が検出された。調査区域外に延びていて全容は不明だが、規模は1.2×0.8mの楕円形を呈するものと思われる。床面からの深さは22cmである。褐色土が堆積し、住居使用時は開口していたものと思われる。ピット西側壁面上部に張り付くように土師器甕(図59-47)・須恵器大甕(49)の破片が出土した。



SI04 (A-A'・B-B')

- | | | | |
|---|-----------|-------|--|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 褐色土20%、ローム粒(φ1~20mm)5%、炭化物(φ1~10mm)3%、焼土粒(φ1~2mm)1%、しまりあり。 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 暗褐色土10%、ローム粒(φ1~20mm)7%、炭化物(φ1~2mm)2%、しまりあり。 |
| 3 | 5YR5/8 | 明赤褐色土 | 暗褐色土30%、焼土粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~5mm)1%、しまりあり。 |
| 4 | 10YR1/7/1 | 黒色土 | 黒褐色土20%、炭化物(φ1~5mm)7%、焼土粒(φ1~3mm)1%、しまりあり。 |
| 5 | 10YR4/4 | 褐色土 | Pit1覆土。暗褐色土15%、ローム粒(φ1~20mm)5%、炭化物(φ1~3mm)2%、焼土粒(φ1~2mm)1%、しまりあり、やや粘りあり。 |
| 6 | 10YR4/3 | 褐色土 | 掘り方。ローム粒(φ1~5mm)2%。 |

図58 第4号竪穴住居跡

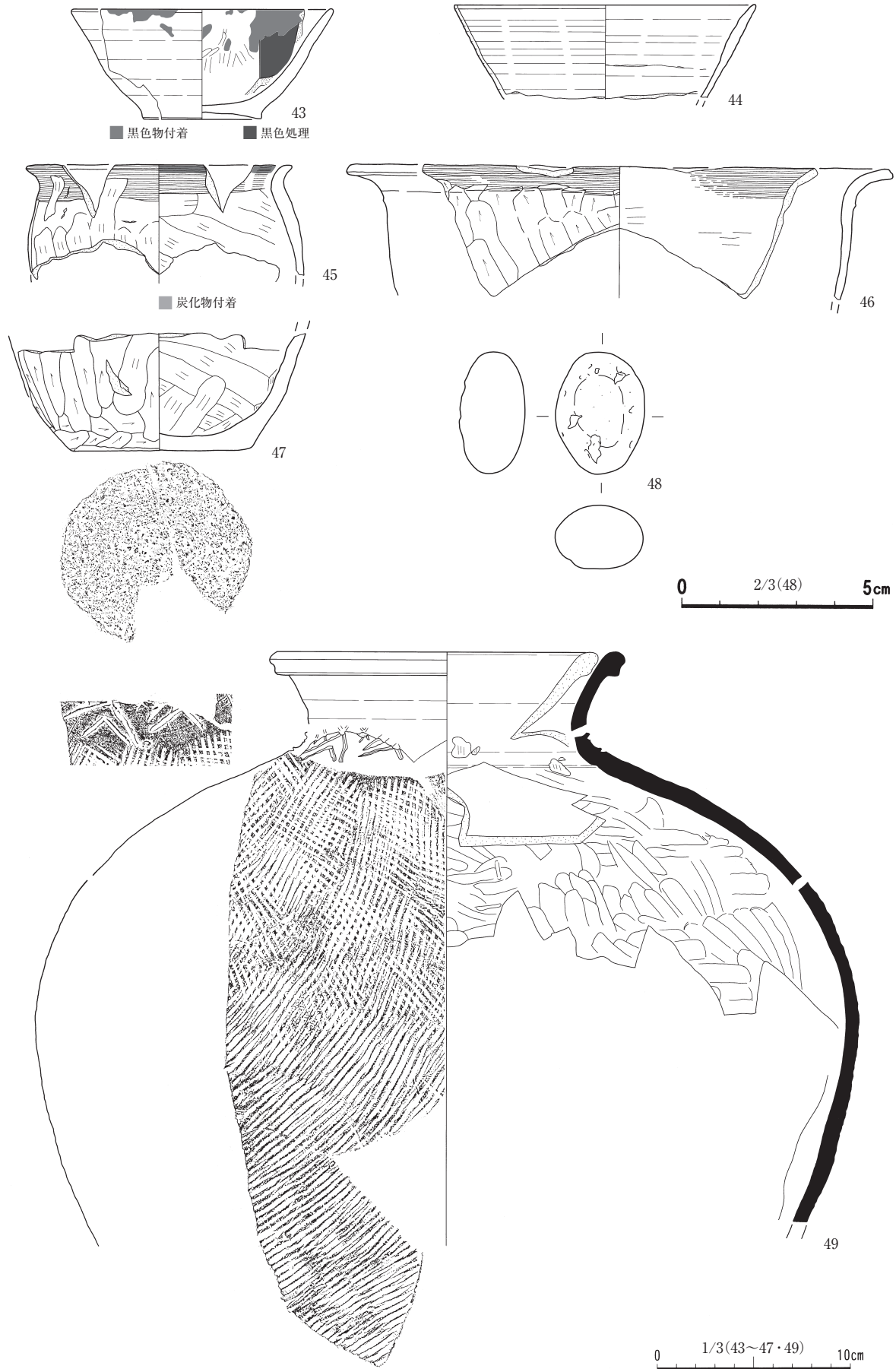


図59 第4号竪穴住居跡 出土遺物

[堆積土] 上位には暗褐色土が堆積し、床面付近では焼土及び炭化物が散在して検出された。

[出土遺物] 出土土器の総重量は2.50kgで、内訳は土師器1.16kg、須恵器1.34kgである。また、礫が0.03kg出土した。そのうち土師器坏（43・44）・甕（45～47）、須恵器大甕（49）、軽石製品（48）を図示した。49の須恵器大甕は、頸部に刻書が認められる。

堆積土から出土した炭化材3点について樹種同定を行ったところ、2点はカツラ属で、1点はクリであることが判明した（第5章第3節）。そのうちカツラ属1点（C1）について年代測定を行い、第5章第5節にその結果を示してある。

[遺構の時期等] 本住居跡は焼失家屋と思われ、出土遺物や、堆積土の様相などから、9世紀後葉～10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

第5号竪穴住居跡（SI05、図60～63）

[位置・確認] 調査区南側中央、28－34グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.1～34.3mで、第IV層で確認した。SI02と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 北から南東部分は削平を受けており、約3分の1程度が遺存していない。おそらく平面形は、一辺が2.7m程度の方角と推定される。壁長及び確認面から床面の深さは、北西壁（1.4）m・深さ30cm、南東壁（1.2）m・深さ19～28cm、南西壁（1.4）m・深さ25cmを測る。いずれの壁も床面から丸みを帯びながらも、垂直に近いしっかりした立ち上がりを見せている。カマドが遺存していないが、南東方向にあったとすれば、住居の軸方向はN－135°－Eと考えられる。

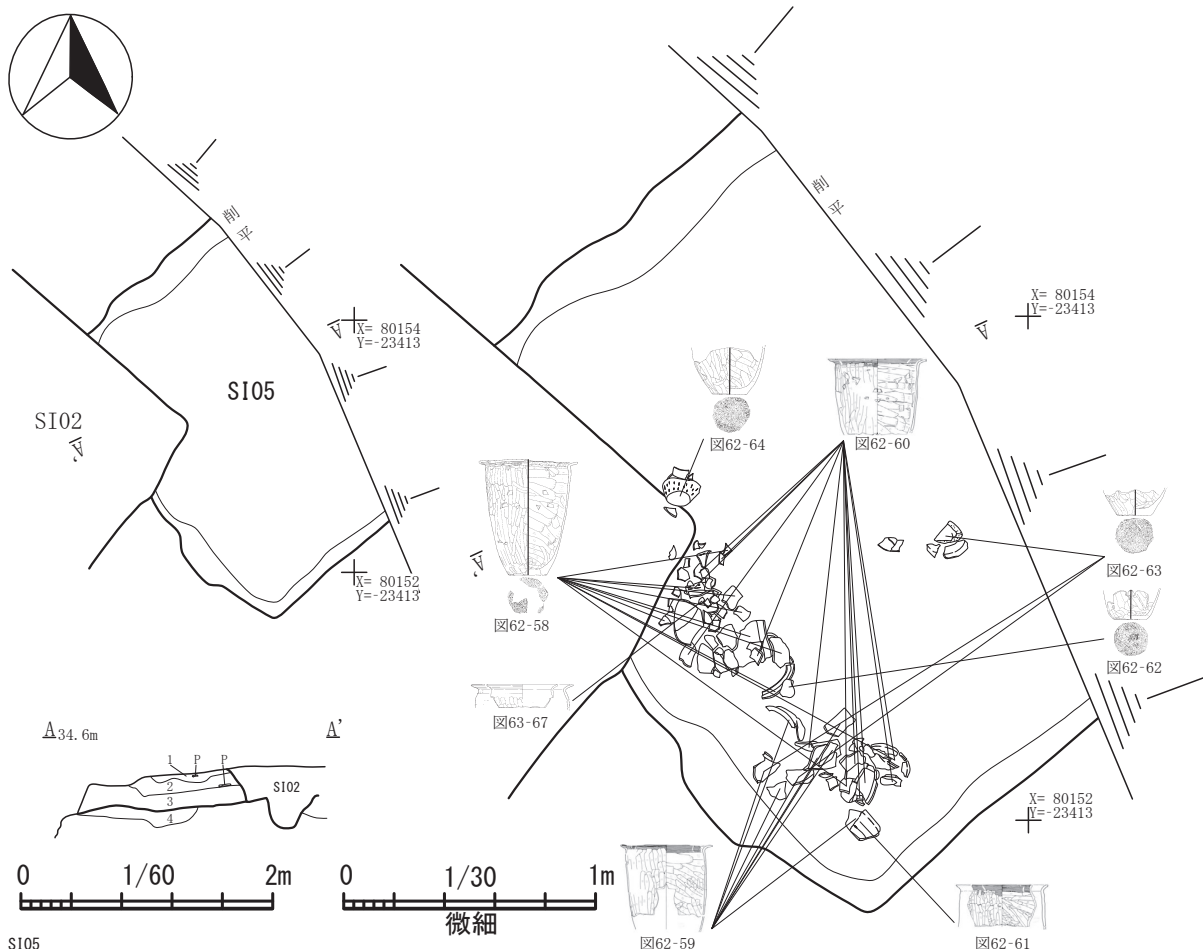
[床面・壁溝] 床面は部分的に貼り床が施されて平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴・カマド] いずれも検出されなかったが、カマドは削平された住居東側にあったものと思われる。

[堆積土] 暗褐色土が主体となっており、中位ではロームブロックをやや多く含んでいる。

[出土遺物] 出土土器の総重量は10.72kgで、内訳は土師器10.16kg、須恵器0.56kgである。また、礫0.15kg、鉄製品2点（0.003kg）、鉄滓0.24kgも出土した。遺物は南西壁に沿うようにまとまって出土しており、重複しているSI02によって壊されていないければ、そこにも遺物が密集していたものと思われる。図示したのは土師器坏（50～53）・甕（54～70）・埴（71）、須恵器坏（72・73）・壺（74・75）・甕（76）、鉄製品（77・78）である。このうち床面直上から出土したものは図62にまとめ、図61・63は覆土出土のものである。土師器坏はいわゆる切りっぱなしのもの（50～52）が主体で、ミガキ・内面黒色処理を施すものがわずかにある（53）。甕はロクロ成形と輪積み成形の双方があり、いずれも短めの口縁が屈曲して外反する個体が多いことが特徴といえる（55・58～60・65・67など）。土師器の50・52・57は粘土等材料分析（試料No.26・27・25）を行い、いずれも淡水成粘土を用いていることが判明した（第5章第7節）。須恵器坏の72・73には刻書が施されている。須恵器壺は、肩部片の74には明瞭な凸帯はなく、高台付き底部の75底外面には菊花状調整がなされている。鉄製品の77は鉄鏃柄部、78は刀子破片と思われる。

[遺構の時期等] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の堆積状況などから、9世紀中葉～9世紀末葉頃に廃絶されたものと思われる。



- SI05
- | | |
|-------------------|---|
| 1 10YR3/4 暗褐色土 | ローム粒(φ1~10mm)2%、しまりあり。 |
| 2 10YR5/6 黄褐色ローム | 褐色土30%、炭化物(φ1~20mm)2%、小礫(φ1~10mm)1%、しまりあり、やや粘りあり。 |
| 3 10YR3/4 暗褐色土 | 褐色土20%、褐色ロームブロック(φ10~30mm)5%、ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~20mm)2%、しまりあり。 |
| 4 10YR5/4 に近い黄褐色土 | 掘り方。明黄褐色土3%。 |

図60 第5号竪穴住居跡

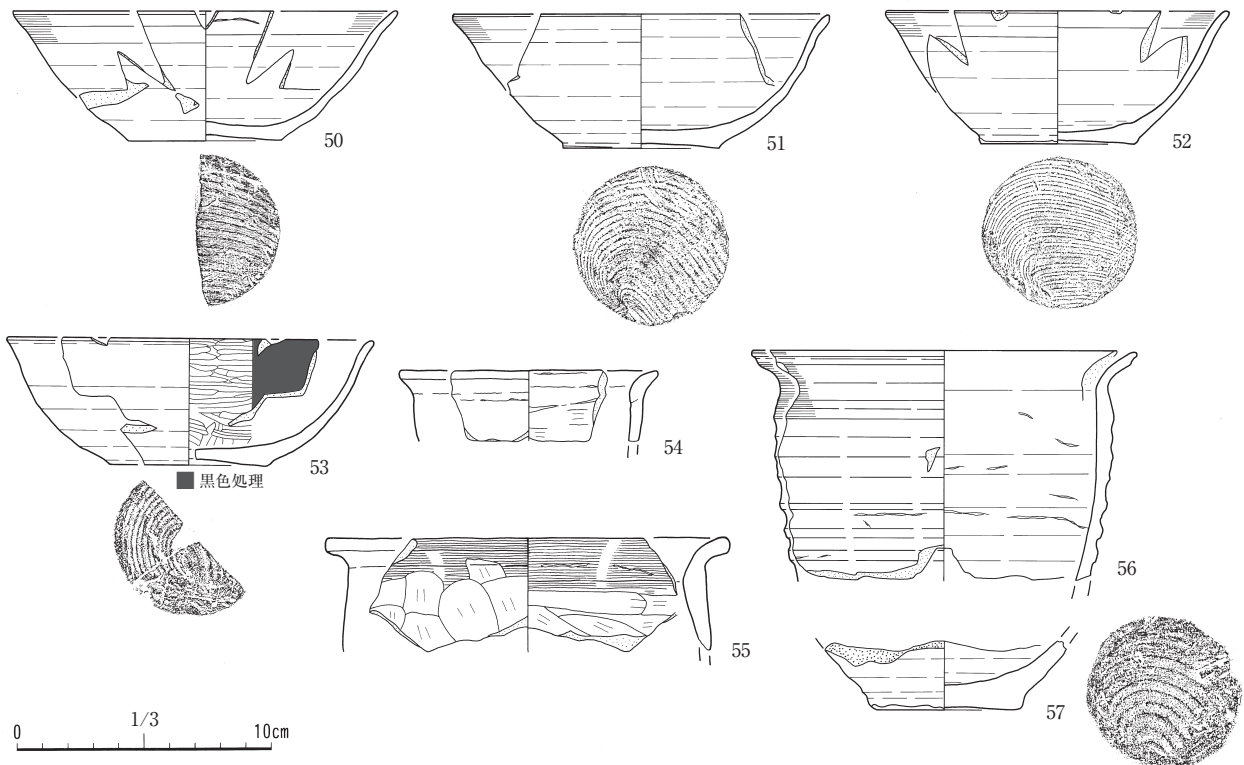


図61 第5号竪穴住居跡 出土遺物(1)



図62 第5号竪穴住居跡 出土遺物(2) 床面直上主体

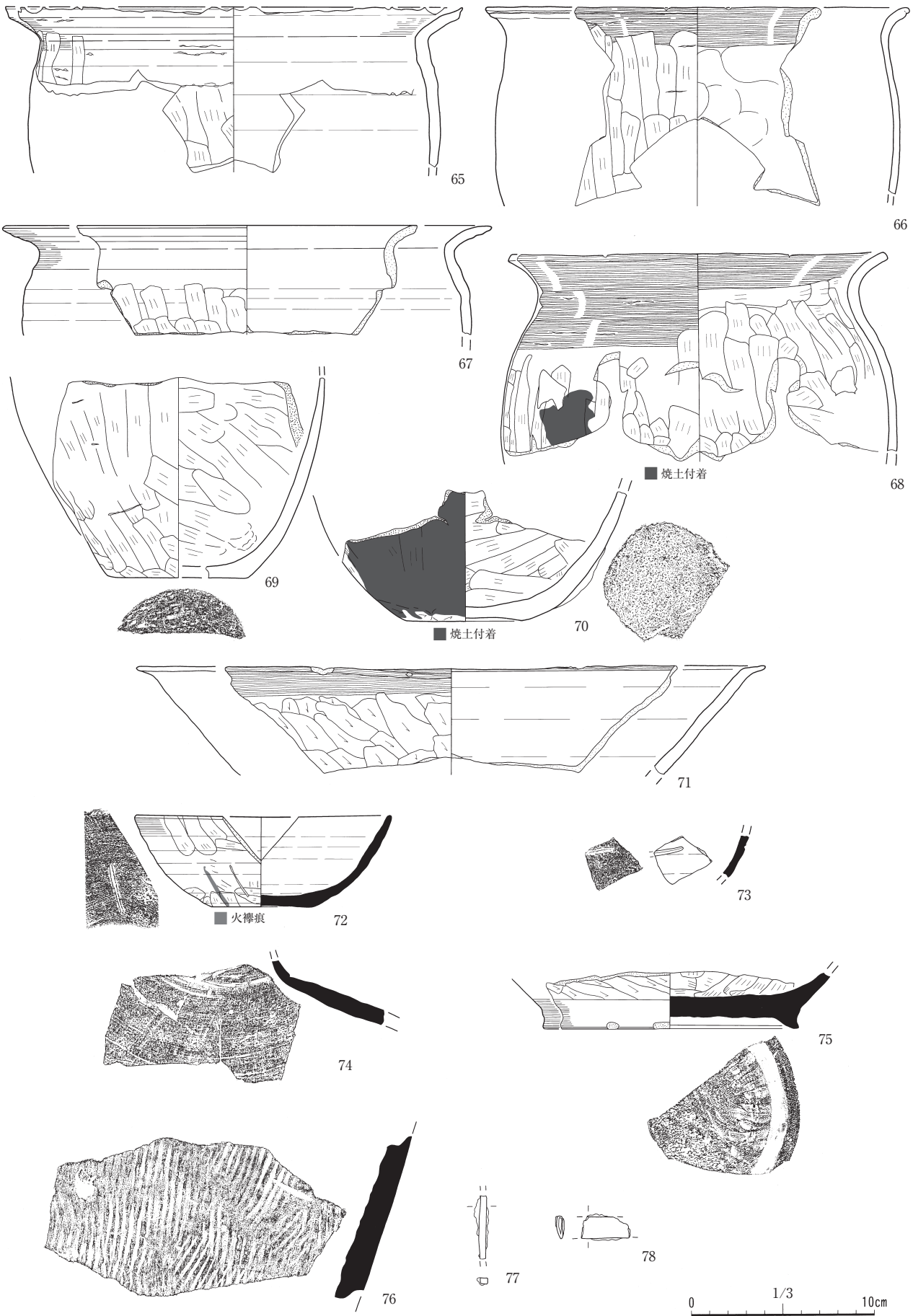


図63 第5号竪穴住居跡 出土遺物 (3)

(2) 土坑

第1号土坑 (SK01、図64・66)

[位置・確認] 調査区南側北端、28-22グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.6m、第Ⅳ層で確認した。SD04と重複し、新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 調査区際に位置するため、南西部は検出されなかった。楕円形を呈すると考えられ、検出された長軸は3.6m、確認面からの深さは45cmである。第Ⅴ層まで掘り込んだ底面にはやや起伏があり、断面形は上部が開く皿状をなしている。

[堆積土] 全体的に黒色土が主体となっており、中位には粘土・焼土粒・ローム粒・炭化物が混在した土層が検出された。本層は主に南側で検出され、これに含まれる粘土について粘土等材料分析(試料No.4)を行ったところ、淡水成粘土であることが判明した(第5章第7節)。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は1.32kgで、そのうち土師器坏(図66-79・80)・鉢(81)・甕(82~85)を図示した。また、鉄滓0.005kgも出土した。出土遺物及び堆積土の様相から9世紀後半~10世紀前半頃の遺構と考えられる。

第2号土坑 (SK02、図64・66・67)

[位置・確認] 調査区南側北部、28-24・25グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.6m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は一辺1.1mの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは20cmである。第Ⅴ層まで掘り込んだ底面はやや凹凸があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 堆積土の大半は焼土粒・炭化物・ローム粒を含む黒色土である。確認面では土師器が多量に包含され、北隅では粘土が比較的密に検出された。これらは一括して廃棄されたものと思われる。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は6.98kgで、坏(図66-86)・甕(図66-87~図67-100)を図示した。器種は少量の坏が含まれるがほとんどが甕で、短い口縁部が比較的強い屈曲をもって外反し、砂底を有する特徴がある。96は粘土等材料分析(試料No.28)を行ったところ、淡水成粘土を用いていることが判明した(第5章第7節)。

底面から出土した炭化材8点について樹種同定を行ったところ、クリ6点、モクレン属1点、トネリコ属シオジ節1点であった(第5章第3節)。そのうち炭化クリ材の1点(C1)を年代測定しており、その結果は第5章第5節に示してある。

出土遺物と堆積土の様相などから、9世紀後半~10世紀前半頃の遺構と考えられる。

第3号土坑 (SK03、図64・68)

[位置・確認] 調査区南側北端、28-22・23グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.5m、第Ⅳ層で確認した。SD04と重複し、新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は長軸1.8m、短軸1.5mの楕円形に近い隅丸長方形を呈し、確認面からの深さは23cmである。第Ⅴ層まで掘り込んだ底面は部分的に掘り方を有し、概ね平坦で断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 上位は粘土・ローム粒・焼土粒を含んだ黒褐色土が、下位は炭化物・焼土粒を含んだ黒色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は1.08kgで、ミニチュア鉢(図68-101)・甕(102~

105) を図示した。103～105は胎土・色調・焼成状況などから同一個体と思われるが、接合しなかったものである。短い口縁部から寸胴気味に底部へ徐々にすぼまる器形と思われ、103に示したように頸部直下に貫通孔が2個縦方向にあけられている。出土遺物と堆積土の様相などから9世紀後半～10世紀前半頃の遺構と考えられる。

第4号土坑 (SK04、図64・68)

[位置・確認] 調査区南側北部、28-24グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.7m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸1.2m、短軸0.8mの楕円形を呈し、確認面からの深さは19cmである。底面は第V層まで掘り込んでやや凹凸があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 炭化物や遺物を含んだ黒褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.15kgで、土師器鉢(図68-106)・埴(107・108、同一個体と思われる)を図示した。出土遺物と堆積土の様相から、9世紀後半～10世紀前半頃の遺構と考えられる。

第5号土坑 (SK05、図64)

[位置・確認] 調査区南側北部、28-24・25グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.5m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸1.3m、短軸1.2mの歪な円形を呈し、確認面からの深さは9cmである。底面は第V層まで掘り込んでやや起伏があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] ローム粒を含む黒褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されている。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.01kgで、図示し得なかった。出土遺物と堆積土の様相から、平安時代の遺構と考えられる。

第6号土坑 (SK06、図64)

[位置・確認] 調査区南側北部、28-27グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.4m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区際に位置するため遺構の全容は不明だが、南西半が検出されたと思われる。平面形は円形または楕円形を呈すると考えられ、検出された長軸は1.7m、確認面からの深さは22cmである。底面は第V層まで掘り込んで丸底状を呈しており、起伏は少ない。また調査区際の底面からPit 1が検出されたが、大半は調査区域外にあるものと思われる、底面からの深さ23cmを測るものの平面形・規模は不明である。Pit 1の全体の形状は円筒状をなすものと思われる。

[堆積土] ローム粒・焼土粒などを含む黒褐色土が堆積していることから人為的に埋め戻されたものである。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.11kgで、図示し得なかった。出土遺物と堆積土の状況から、平安時代の遺構と考えられる。

第7号土坑 (SK07、図65・68)

[位置・確認] 調査区南側北部、28-27グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.4m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸1.3m、短軸1.2mの歪な楕円形を呈し、確認面からの深さは20cmである。

底面は第Ⅴ層まで掘り込んで凹凸があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 上位は暗褐色土が、下位はロームブロックが主体となっている。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.18kgで、甕底部(図68-109)を図示した。出土遺物と堆積土の様相から9世紀後半～10世紀前半頃の遺構と考えられる。

第8号土坑(SK08、図65・68)

[位置・確認] 調査区南側北部、28-27グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.4m、第Ⅳ層で確認した。SK09と接するように位置し、新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は長軸1.8m、短軸1.5mの隅丸長方形を呈し、確認面からの深さは19cmである。第Ⅴ層まで掘り込んだ底面は若干起伏があるものの概ね平坦で、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 上位は黒色土、下位は黒褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は1.6kg、縄文土器0.006kgで、そのうち土師器甕(図68-110～113)、平安時代の焼成粘土(114～116)、縄文土器片(117)を図示した。114・115は土器製作で余った粘土が押し潰され、意図的か偶発的かは分からないが、そのまま焼成されたものと思われる。116は土師器甕の砂底部分と思われるもので、砂粒が付着した粘土がゆるく巻かれて焼成されている。117は縄文時代前期末の円筒下層d2式土器の口縁部片が剥落したものである。出土遺物と堆積土の様相から、9世紀後半～10世紀前半頃の遺構と考えられる。

第9号土坑(SK09、図65)

[位置・確認] 調査区南側北部、28-27グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.4m、第Ⅳ層で確認した。SK08と接するように位置し、SK10と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 調査区際に位置するため遺構の全容は不明だが、北東半が検出されたと思われる。平面形は隅丸長方形もしくは隅丸方形を呈すると考えられ、検出された長軸は1.2m、短軸(0.7)m、確認面からの深さは30cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで凹凸があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] ロームブロックを含んだ黒褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されている。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.08kgで、図示し得なかった。出土遺物と堆積土の様相、遺構との重複関係などから10世紀前半以降の遺構と考えられる。

第10号土坑(SK10、図65・69)

[位置・確認] 調査区南側北部、28-27グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.4m、第Ⅳ層で確認した。SK09と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 調査区際に位置することとSK09との重複によって遺構の全容は不明だが、平面形は方形もしくは長方形を呈するものと考えられ、確認面からの深さは30cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んだ凹凸のある掘り方に灰黄褐色土を充填し平坦に仕上げている。断面形は上部が開く皿状をなしている。

[堆積土] 上位に暗褐色土、下位に黒褐色土が堆積し、底面付近には焼土が薄層をなして検出された。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は1.6kgで、土師器坏(図69-118)・甕(119～122)を図示した。また、礫は0.01kg出土した。出土遺物と堆積土の様相から、9世紀後半～10世紀前半頃の遺構と考えられる。

第11号土坑（SK11、図65）

[位置・確認] 調査区南側中央北寄り、28-29グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.3m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は直径0.8mのやや歪な円形を呈し、確認面からの深さは25cmである。底面は第V層まで掘り込んで丸底気味で、断面形は上部が開く播り鉢状をなしている。

[堆積土] ローム粒を含む黒褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。遺構の時期は、堆積土の様相から平安時代の遺構である可能性がある。

第12号土坑（SK12、図65・69）

[位置・確認] 調査区南側中央北寄り、28-29グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.2m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸1.0m、短軸0.7mのやや歪な楕円形を呈し、確認面からの深さは15cmである。底面は第V層まで掘り込んでやや起伏があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] ロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土土器の総重量は約0.01kg、内訳は土師器0.003kg、縄文土器0.01kgで、縄文時代前期末葉期と思われる土器片（図69-123）を図示した。出土遺物と堆積土の様相から平安時代の遺構である可能性がある。

第13号土坑（SK13、図65）

[位置・確認] 調査区南側北部、28-27・28グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.4m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸0.6m、短軸0.5mの楕円形を呈し、確認面からの深さは19cmである。底面は第V層まで掘り込んだ丸底気味で、断面形は上部がやや開く播り鉢状をなしている。

[堆積土] ローム粒を含む黒褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相から、本遺構は平安時代の遺構である可能性がある。

第14号土坑（SK14、図65・69）

[位置・確認] 調査区南側中央北寄り、28-30グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.1m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区際に位置するため遺構の全容は不明だが、北東半が検出されたと思われる。円形または楕円形を呈すると考えられ、検出された長軸は1.8m、確認面からの深さは45cmである。底面は第V層まで掘り込み平坦で、壁は底面から丸みを帯びながら大きく外に開きながら立ち上がる。断面形は鍋底状をなしている。

[堆積土] 全体的に黒褐色土が堆積するが、部分的にロームを多く含むことから人為的に埋め戻されたものである。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土土器の総重量は2.33kg、内訳は土師器2.21kg、須恵器0.12kgで、土師器坏（図69-124・125）・甕（126～131）、須恵器甕（132）を図示した。これらの遺物は覆土からの出土で、ロームとともに廃棄されたものと考えられる。また礫は0.01kg出土した。出土遺物と

堆積土の様相から9世紀後半頃の遺構と考えられる。

第15号土坑（SK15、図65）

〔位置・確認〕調査区南側南部、28-42グリッドに位置し、遺構確認面の標高は30.9m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

〔平面形・規模〕調査区際に位置するため遺構の全容は不明だが、北東半が検出されたと思われる。円形または楕円形を呈すると考えられ、検出された長軸は（1.8）m、確認面からの深さは45cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで起伏があり、断面形は掘り鉢状をなしている。

〔堆積土〕第Ⅱ層由来の黒褐色土が主として堆積しており、確認面付近ではロームが多く含まれる。

〔出土遺物と遺構の時期等〕遺物は出土しなかった。堆積土の様相などから、平安時代以降の遺構である可能性がある。

第16号土坑（SK16、図65）

〔位置・確認〕調査区南側南部、28-39グリッドに位置し、遺構確認面の標高は32.9m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

〔平面形・規模〕平面形は長軸2.5m、短軸1.9mの楕円形を呈し、確認面からの深さは39cmである。底面は第Ⅴ層まで掘り込んで地山をそのまま平坦な底面としており、断面形は壁がしっかりと立ち上がる皿状をなしている。

〔堆積土〕上位ほど第Ⅱ層由来の黒色が強く、下位ほど暗褐色が強い堆積土で、自然堆積と思われる。

〔出土遺物と遺構の時期等〕遺物は出土しなかったが、堆積土の様相などから平安時代以降の遺構である可能性がある。

第17号土坑（SK17、図64）

〔位置・確認〕調査区南側北部、28-24グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.6m、第Ⅳ層で確認した。SD02と重複し、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕平面形は長軸1.1m、短軸0.8mの楕円形を呈し、確認面からの深さは18cmである。第Ⅴ層まで掘り込んだ底面は概ね平坦で、断面形は壁がしっかりと立ち上がる皿状をなしている。

〔堆積土〕ローム粒を含む黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物と遺構の時期等〕出土した土師器は0.03kgだが、図示し得なかった。出土遺物と堆積土の様相から、平安時代の遺構と考えられる。

第18号土坑（SK8、図53）

〔位置・確認〕調査区南側中央、28-33グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.5m、第Ⅳ層で確認した。SI02と重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕SI02との重複によって本遺構の大半は壊されているが、0.7×0.5m程度の楕円形もしくは円形をなすものと思われ、確認面からの深さは29cmを測る。底面は平坦であるか明確ではないが第Ⅴ層まで掘り込んでいて、断面形が掘り鉢状をなす可能性があり、部分的に壁の途中で段差がついている。

〔堆積土〕ローム粒・炭化物を含む暗褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと思われる。

〔出土遺物と遺構の時期等〕遺物は出土しなかった。SI02との重複関係と堆積土の様相などから、10世紀初頭以前の平安時代の遺構と考えられる。

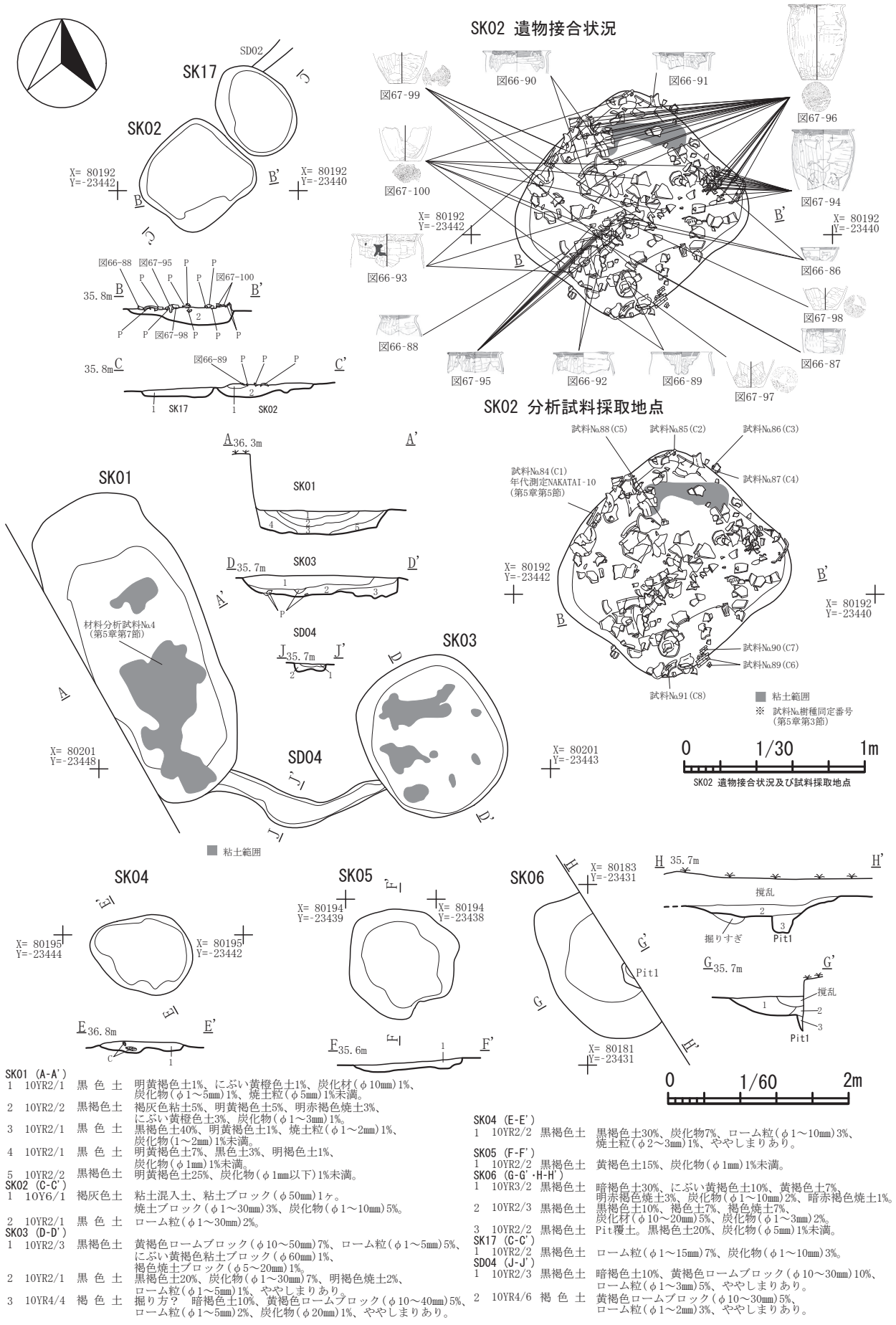
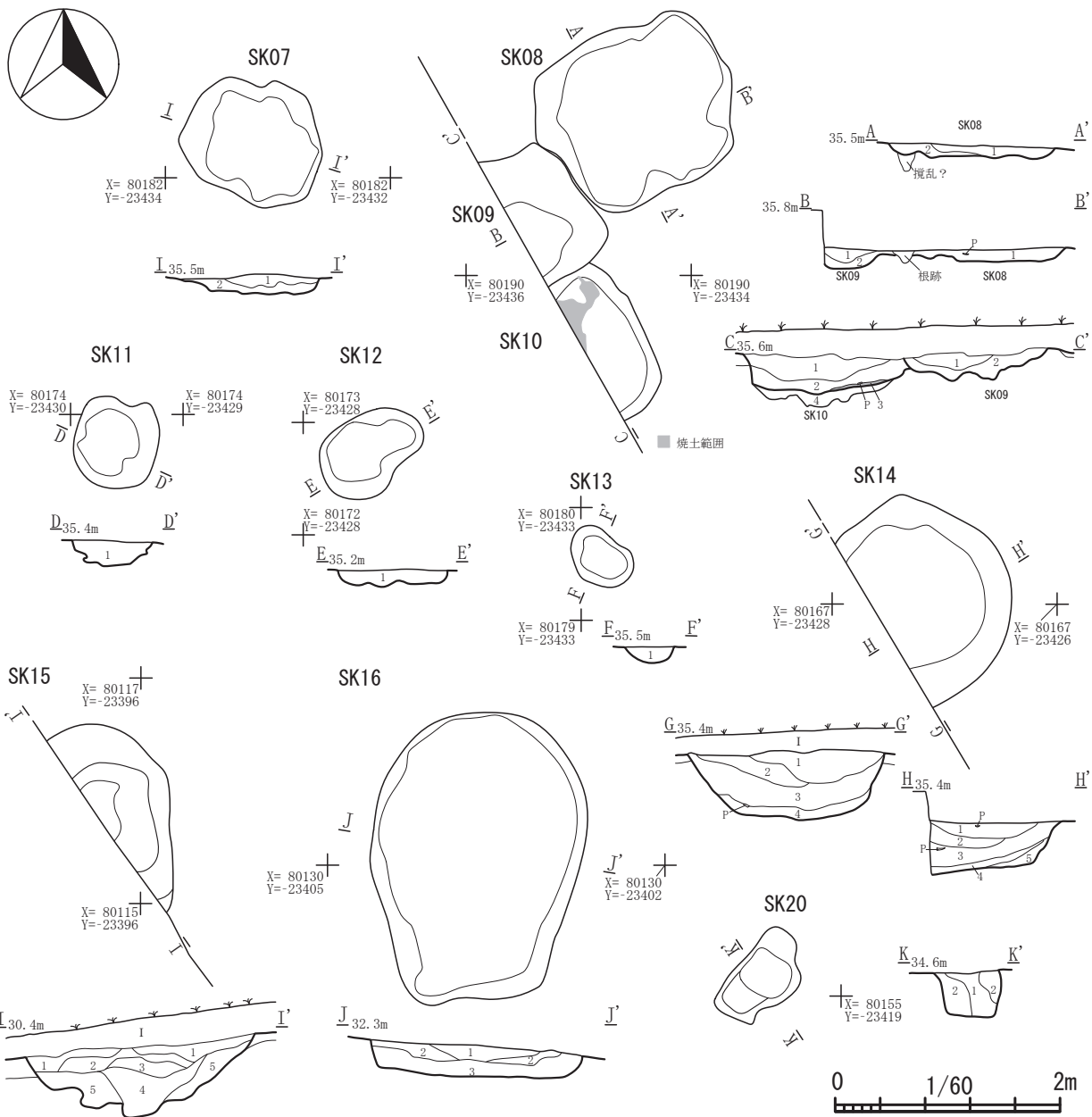


図64 土坑 (1)



- SK07 (I-I')**
- 1 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土20%、ローム粒(φ1~15mm)7%、炭化物(φ1~2mm)3%、しまりあり。
 - 2 10YR6/8 明褐色土(2~7%) 褐色土20%、暗褐色土10%、炭化物(φ1~2mm)1%、しまりあり。
- SK08 (A-A'・B-B')**
- 1 10YR2/1 黒色土 黒褐色土10%、炭化物(φ1~3mm)5%、明黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)3%、ローム粒(φ1~5mm)3%、しまりあり。
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土30%、ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~2mm)2%、しまりあり。
- SK09 (B-B'・C-C')**
- 1 10YR2/1 黒色土 暗褐色土30%、ローム粒(φ1~10mm)7%、明黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)5%、炭化物(φ1~10mm)1%、しまりあり。
 - 2 10YR5/8 明褐色土(2~7%) 褐色土10%、ローム粒(φ1~10mm)10%、しまり弱。
- SK10 (C-C')**
- 1 10YR3/3 暗褐色土 褐色土30%、黒褐色土10%、ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1~3mm)3%、しまりあり。
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土20%、炭化物(φ1~10mm)7%、ローム粒(φ1~10mm)3%、焼土粒(φ1~3mm)2%。
 - 3 5YR5/8 明赤褐色焼土 掘り方。ロームブロック(φ1~20mm)7%。
 - 4 10YR4/2 灰黄褐色土
- SK11 (D-D')**
- 1 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土20%、黄褐色ロームブロック(φ10~40mm)5%、ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%、ややしまりあり。
- SK12 (E-E')**
- 1 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土20%、黄褐色ロームブロック(φ20~50mm)15%、ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~5mm)1%、ややしまりあり。
- SK13 (F-F')**
- 1 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土20%、黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)3%、ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1~3mm)2%、ややしまりあり。

- SK14 (G-G'・H-H')**
- 1 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土30%、褐色ロームブロック(φ10~20mm)7%、ローム粒(φ1~5mm)7%、炭化物(φ1~5mm)7%、ややしまりあり。
 - 2 10YR4/6 褐色土 暗褐色土20%、明黄褐色ロームブロック(φ10~50mm)5%、黒褐色土5%、ローム粒(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~3mm)2%、ややしまりあり。
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土30%、黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)3%、ローム粒(φ1~2mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%、ややしまりあり。
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土20%、黄褐色ロームブロック(φ10~80mm)15%、ローム粒(φ1~2mm)5%、炭化物(φ1~2mm)2%、ややしまりあり。
 - 5 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土20%、黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)5%、ローム粒(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%、ややしまりあり。
- SK15 (I-I')**
- 1 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土35%、明黄褐色土3%、炭化物(φ1~2mm)1%。
 - 2 10YR2/3 黒褐色土 黒褐色土30%、黄褐色土10%、黄褐色土7%、明黄褐色土7%、炭化物(φ1mm)1%。
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 黒褐色土20%、黄褐色土1%。
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 黒褐色土35%、暗褐色土2%。
 - 5 10YR2/2 黒褐色土 褐色土30%、暗褐色土25%、炭化物(φ1mm以下)1%。
- SK16 (J-J')**
- 1 10YR1.7/1 黒色土 黒色土35%、黒褐色土7%、明黄褐色土1%、炭化物(φ1mm以下)1%。
- SK20 (K-K')**
- 1 10YR3/3 暗褐色土 明赤褐色焼土粒(φ1mm)1%未滿。にぶい黄褐色土40%、黒色土5%。にぶい黄褐色土30%、黒褐色土5%、黒色土5%。
 - 2 10YR4/6 褐色土 黄褐色ロームブロック(φ30mm)3%、ローム粒(φ1~3mm)1%、ややしまりあり。黄褐色ローム粒(φ1~10mm)30%、ローム粒(φ1~5mm)5%、ややしまりあり。

図65 土坑(2)

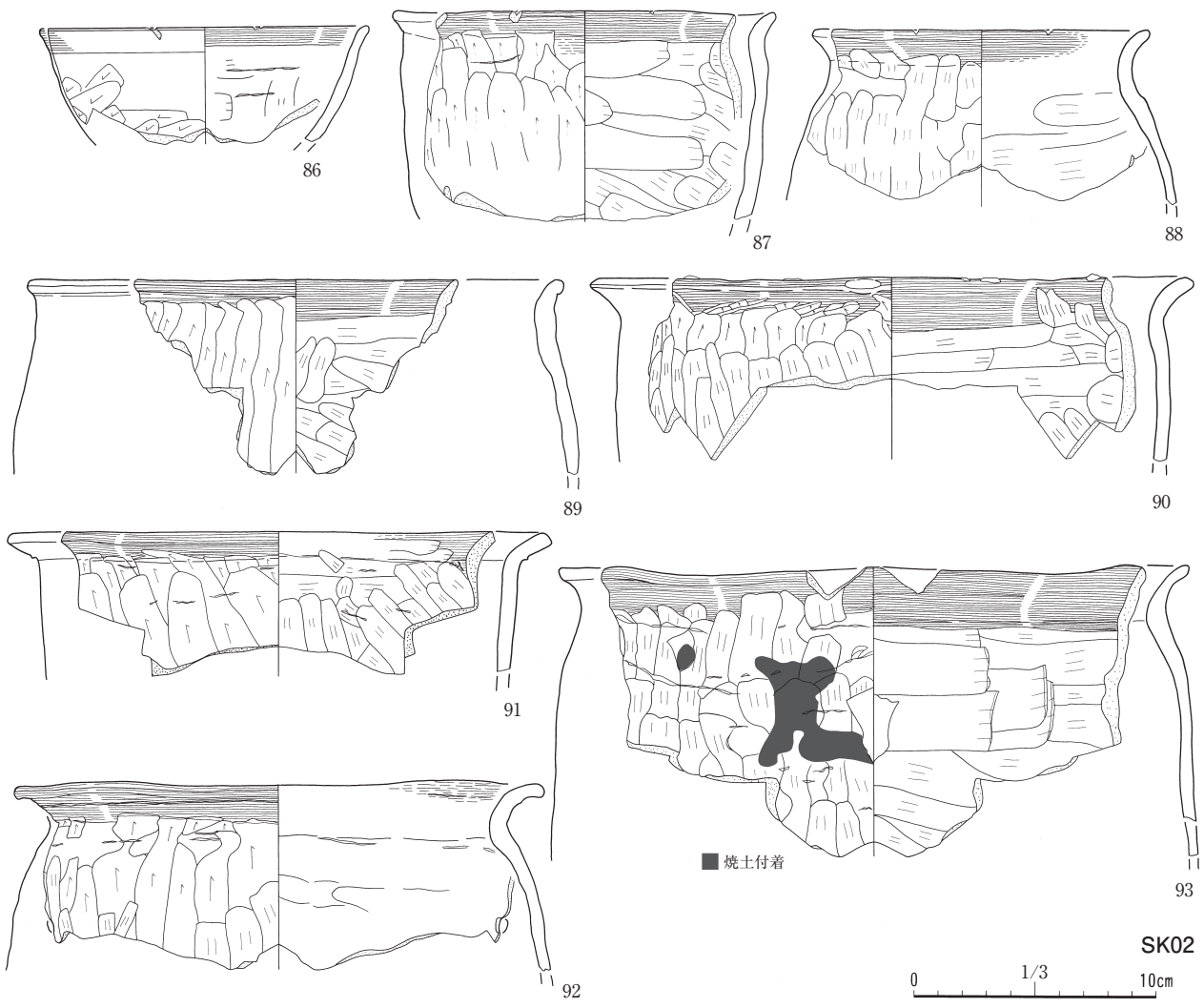
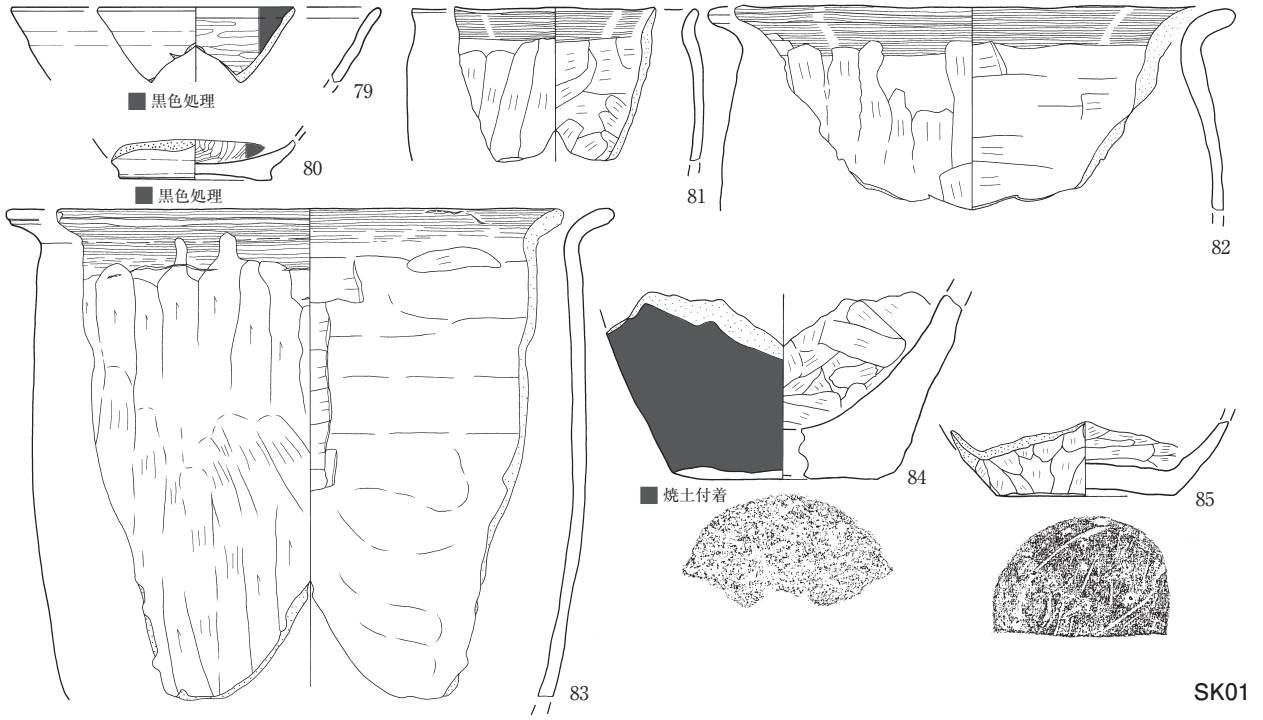
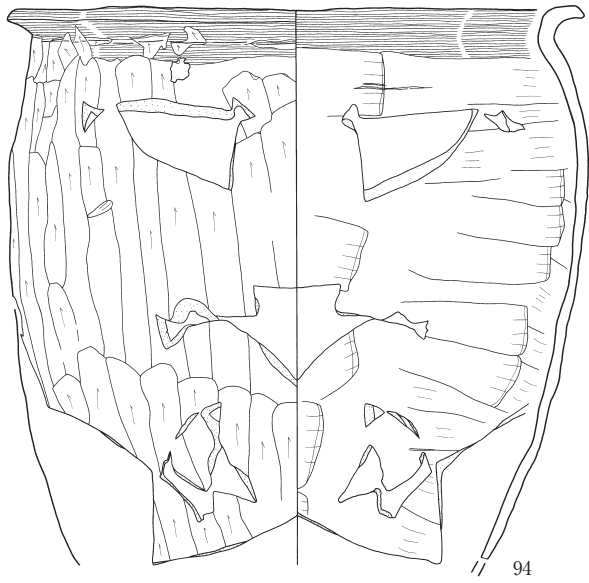
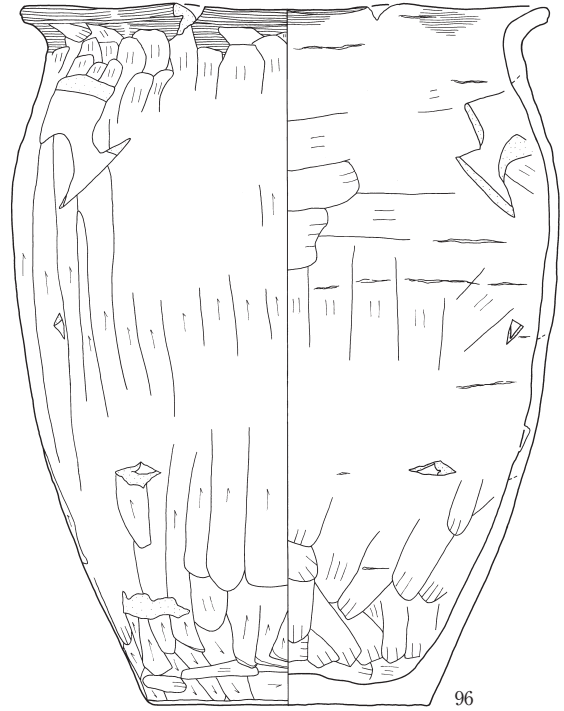


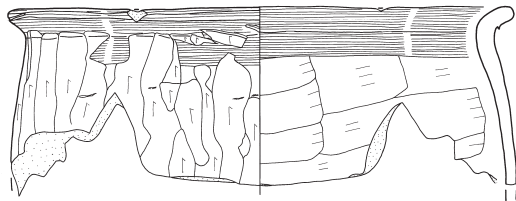
図66 土坑 出土遺物 (1)



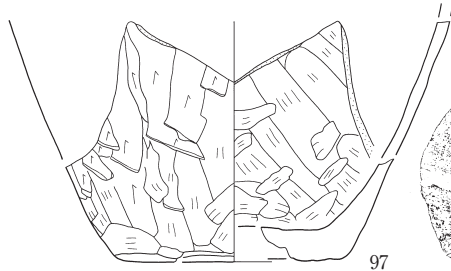
94



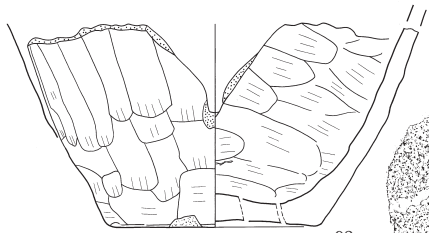
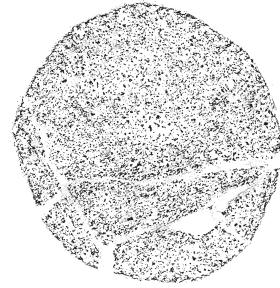
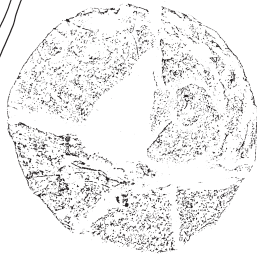
96



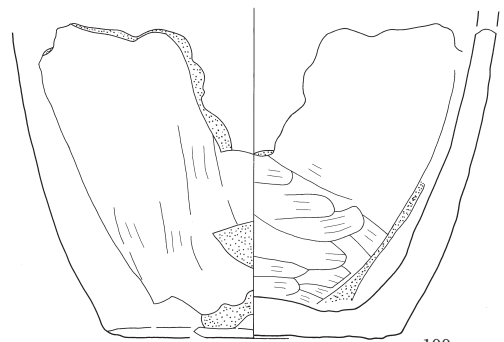
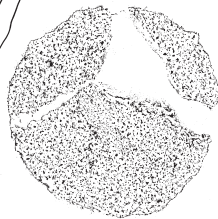
95



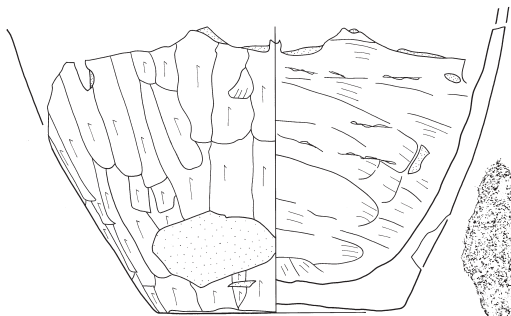
97



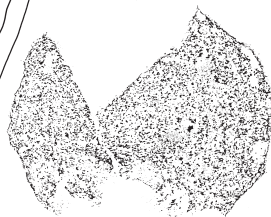
98



100



99



SK02

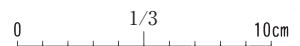


図67 土坑 出土遺物 (2)

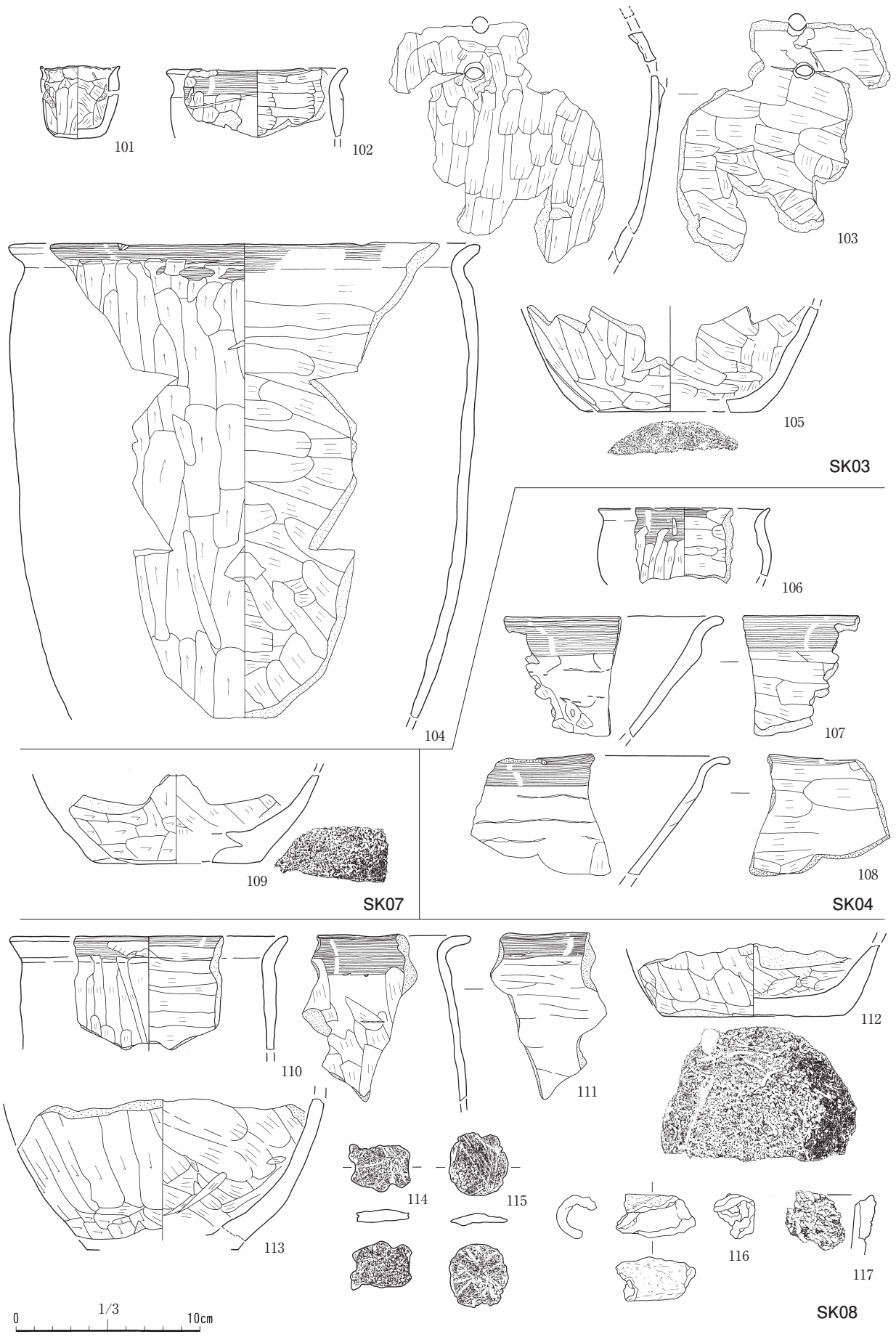


図68 土坑 出土遺物 (3)

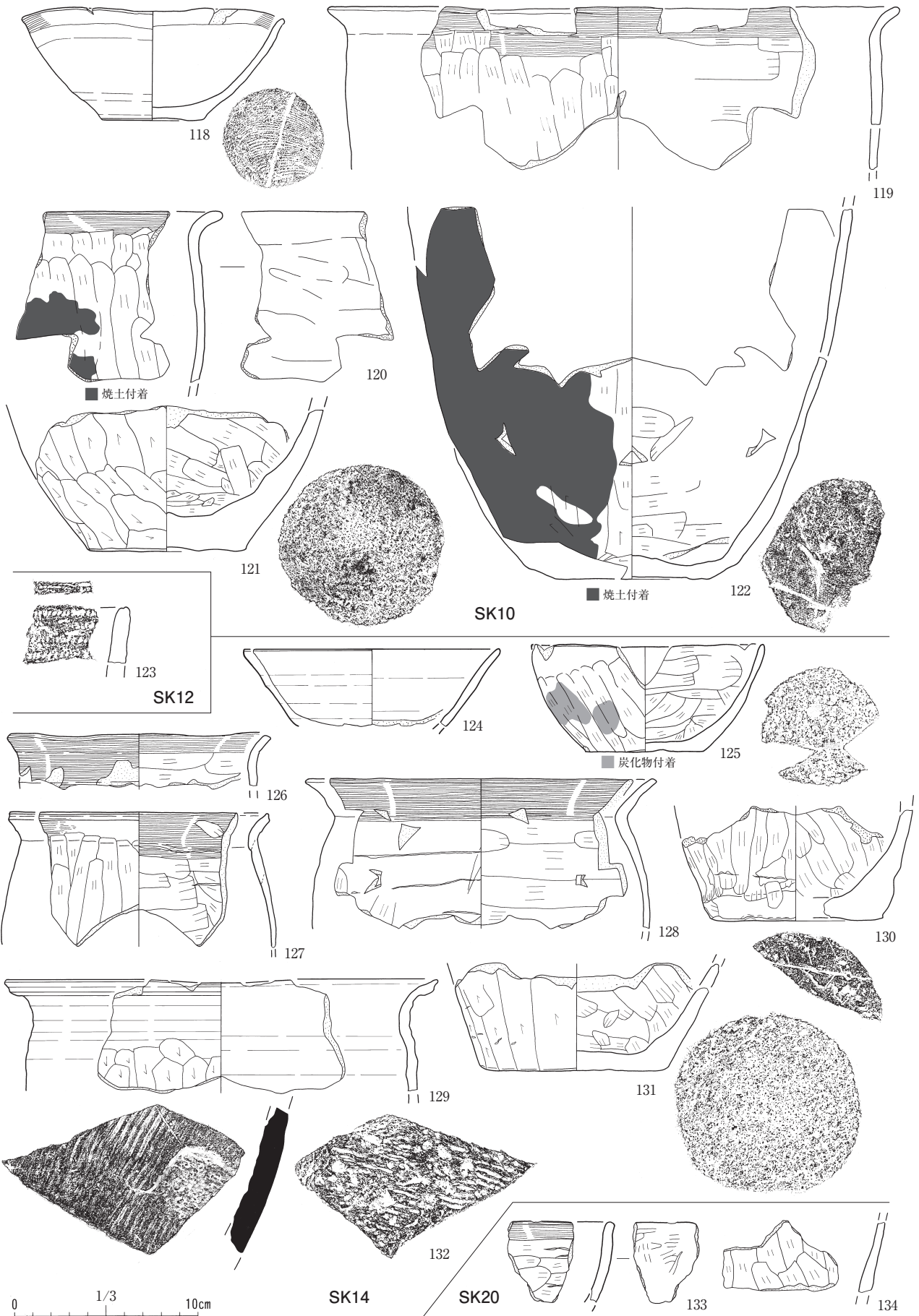


図69 土坑 出土遺物 (4)

第19号土坑（SK19、図48）

[位置・確認] 調査区南側中央南寄り、28-36グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.6m、第IV層で確認した。SI01と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] SI01との重複によって本遺構の大半は壊されているが、0.9×0.8m程度の円形もしくは楕円形をなす可能性があり、確認面からの深さは27cmを測る。底面は平坦であるか明確ではないが第V層まで掘り込んでいて、断面形が掘り鉢状をなす可能性がある。

[堆積土] ローム粒を含む黒褐色土が堆積している。

[出土遺物と遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。SI01との重複関係と堆積土の様相などから、10世紀初頭以前の平安時代の遺構と考えられる。

第20号土坑（SK20、図65・69）

[位置・確認] 調査区南側中央、28-33グリッドに位置し、遺構確認面の標高は34.5m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸0.9m、短軸0.5mの不整長方形を呈し、確認面からの深さは49cmである。底面は第V層まで掘り込んで地山をそのまま底面として使用し、断面形は壁が直立するコ字状をなしている。

[堆積土] 暗褐色土もしくは褐色土が堆積し、ローム粒を含み人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物と遺構の時期等] 出土した土師器は0.02kgで、土師器坏（図69-133）・甕（134）を図示した。いずれも覆土からの出土で、出土遺物と堆積土の様相等から、9世紀後半～10世紀前半頃の遺構と考えられる。

(3) 溝跡**第1号溝跡**（SD01、図70・71）

[位置・確認] 調査区南側南部、28-41・42グリッドに位置し、遺構確認面の標高は29.9～31.0m、第IV層で確認した。SP03・04・05と重複するが、新旧関係は不明である。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置するため遺構の全容は不明で、東部のみが検出されたと思われる。確認できた長さは(7.6)m、幅51～68cmの緩やかに蛇行した溝跡で、確認面からの深さは10～21cmである。断面形は皿状をなし、底面は第V層まで掘り込み、やや凹凸が見られる。北西端底面と南東端底面との比高差は約100cmで、南東方向に底面は傾斜している。

[堆積土] 黒褐色土が主として堆積し、下位にはロームが多く含まれる。自然堆積の可能性が高い。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 出土土器の総重量は1.05kg、内訳は土師器0.85kg、須恵器0.2kgで、土師器鉢（図71-135）・甕（136～139）、須恵器甕（140）を図示した。140はSP01出土遺物と接合したもので、内外面ともに被熱による剥落が見られる。遺物は覆土上位から散発的に出土し、礫0.002kgも出土している。出土遺物や堆積土の様相等から9世紀後半～10世紀前半頃の遺構であると考えられ、本遺構はその形状や走行方向から建物跡の外周溝となる可能性がある。

第2号溝跡（SD02、図70）

[位置・確認] 調査区南側北部、28-24グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.5m、第IV層で確認した。SK17・SD03と重複し、本遺構はSD03より新しく、SK17より古い。

[平面形・規模・底面] SK17との重複によって全体の規模は不明だが、確認できた長さは(2.1) m、幅13～23cmの直線状の溝跡で、確認面からの深さは2～4cmである。断面形はU字状をなし、底面は第IV層で収まり、やや凹凸が見られる。北東端と南西端との比高差はほとんどない。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、自然堆積と思われる。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 出土した土師器は0.002kgだが、図示し得なかった。堆積土の様相と遺構の重複関係から、平安時代の遺構であると考えられるが、本遺構の機能は不明である。

第3号溝跡 (SD03、図70・71)

[位置・確認] 調査区南側北部、28-24グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.5m、第IV層で確認した。SD02と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] SD02との重複によって全体の規模は不明だが、確認できた長さは(3.7) m、幅16～20cmの直線状の溝跡で、確認面からの深さは3～12cmである。断面形はU字状をなし、第IV層で収まるように底面は掘り込まれている。北西端と南東端との比高差はほとんどない。

[堆積土] 黒褐色土が堆積しており、自然堆積と思われる。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 出土した土師器は0.02kgで図示し得なかったが、鉄製品が1点(0.07g)出土し、鏽落としたところ鎌先(図71-141)であった。出土遺物や堆積土の様相等から平安時代の遺構であると考えられるが、本遺構の機能は不明である。

第4号溝跡 (SD04、図64・71)

[位置・確認] 調査区南側北端、28-22・23グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.6m、第IV層で確認した。SK01・03と重複し、新旧関係は不明である。

[平面形・規模・底面] 重複により全体の規模は不明だが、確認できた長さは(1.9) m、幅13～36cmの湾曲した溝跡で、確認面からの深さは2～8cmである。断面形はU字状をなし、底面は第V層を掘り込みわずかな凹凸が見られる。東端と西端との比高差はほとんどない。

[堆積土] 堆積土上位には黒褐色土、下位には褐色土が堆積し、いずれもロームを含んでいる。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 出土した土師器は0.07kg、甕口縁部片(図71-142)である。出土遺物及び堆積土の様相などから平安時代の溝跡と思われるが、その機能やSK01・03との関連性は不明である。

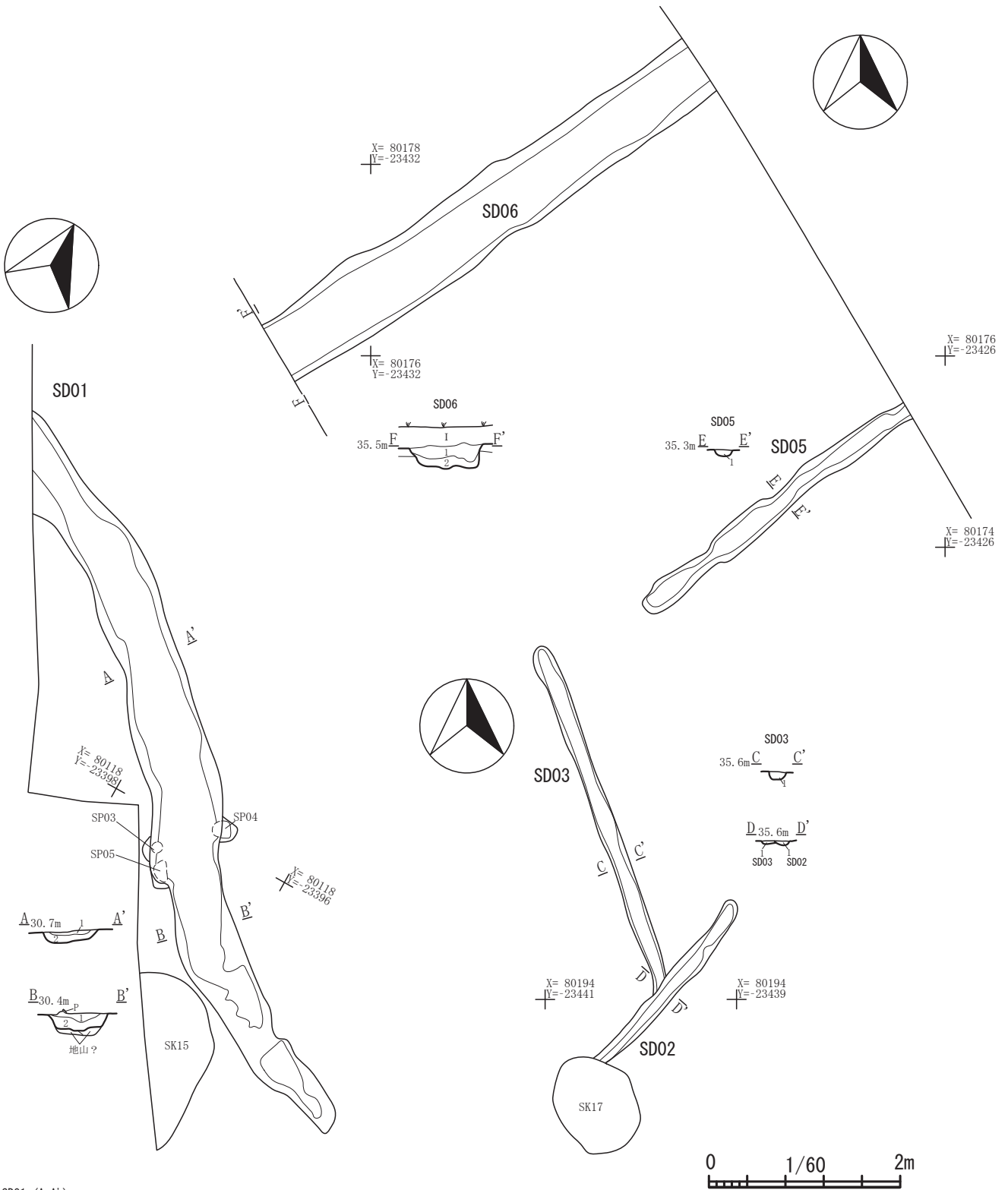
第5号溝跡 (SD05、図70)

[位置・確認] 調査区南側中央北寄り、28-29グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.2m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置するため遺構全体の規模は不明だが、確認できた長さは(3.4) m、幅15～30cmの直線状の溝跡で、確認面からの深さは6～12cmである。断面形はU字状をなし、第V層を部分的に掘り込む底面には若干の起伏が見られる。北東端と南西端との比高差はほとんどない。

[堆積土] ローム粒を含む暗褐色土が堆積している。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相等から平安時代の遺構であると考えられるが、その機能は不明である。



- | | | |
|--------------------|------|---|
| SD01 (A-A') | 黒褐色土 | ローム粒(φ1~2mm)3%、炭化物(φ1~2mm)2%、ややしまりあり。 |
| 1 10YR2/3 | 黒褐色土 | 褐色土30%、ローム粒(φ1~2mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%、ややしまりあり。 |
| SD01 (B-B') | 暗褐色土 | ローム粒(φ1~2mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%、ややしまりあり。 |
| 1 10YR3/3 | 暗褐色土 | 褐色土30%、明褐色土20%、ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~6mm)2%、しまり中。 |
| 2 10YR3/4 | 暗褐色土 | |
| SD02 (D-D') | 黒褐色土 | ローム粒(φ1~5mm)2%、ややしまりあり。 |
| 1 10YR2/3 | 黒褐色土 | 褐色土10%、ローム粒(φ1~2mm)2%、ややしまりあり。 |
| SD03 (C-C') | 黒褐色土 | 褐色土30%、明褐色土20%、ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~6mm)2%、しまり中。 |
| 1 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%、ややしまりあり。 |
| SD03 (D-D') | 黒褐色土 | |
| 1 10YR2/3 | 暗褐色土 | 褐色土10%、明黄褐色ロームブロック(φ20mm)3%、ローム粒(φ1~3mm)1%。 |
| SD05 (E-E') | 暗褐色土 | |
| 1 10YR3/4 | 暗褐色土 | |
| SD06 (F-F') | 黒褐色土 | 黄褐色ロームブロック(φ10~70mm)7%、ローム粒(φ1~3mm)2%、しまりあり。 |
| 1 10YR2/3 | 暗褐色土 | 黄褐色ロームブロック(φ40~80mm)25%、ローム粒(φ1~5mm)5%、しまりあり。 |
| 2 10YR3/3 | | |

図70 溝跡

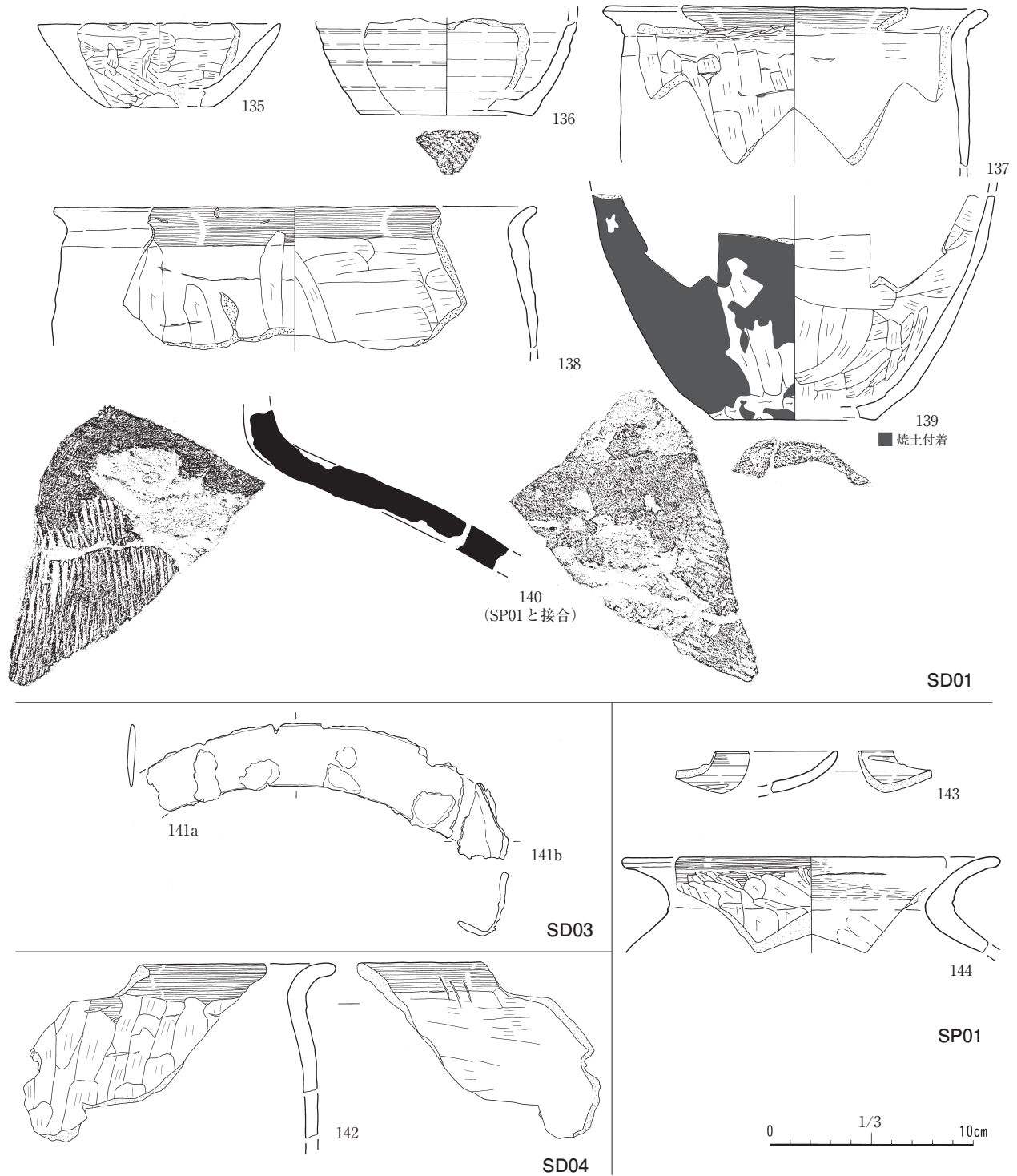


図71 溝跡・ピット 出土遺物

第6号溝跡 (SD06、図70)

[位置・確認] 調査区南側北部、28-28グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.3～35.4m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区を南西-北東方向に横切る直線状の溝跡で、確認できた長さは(5.3)m、幅67～80cm、確認面からの深さは10～20cmである。断面形は上部が開くコ字状をなし、第V層を掘

第1章 調査の概要
 第2章 地形・基本層序
 2号
 平成26年度調査
 27号
 28号・1号
 1号
 平成25年度調査
 29号
 30号
 第5章 埋蔵化学的分析
 第6章 分析と考察
 まとめ

り込む底面は若干凹凸が見られるが、概ね平坦である。北東端と南西端との比高差は約10cmで、底面は北東方向にわずかに傾斜している。

[堆積土] 上位は黒褐色土が、下位はロームブロックを多く含む暗褐色土が堆積している。

[出土遺物・遺構の時期と用途] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相から平安時代の遺構であると思われる、その機能として土地の区画や排水などが考えられる。

(4) ピット

農道28号からは25基のピットが検出されたが、それらが組み合わされて掘立柱建物跡や柵等の構造物をなすと思われるものは確認できなかった。いずれも平安時代のものと思われる。ピットの位置は図47の遺構配置図に、計測値や堆積土等は表12に示すにとどめることとする。28-45グリッドで検出されたSP01からは土師器皿片(143)・壺片(144)とともに、SD01出土遺物と接合した須恵器甕片(140)が出土した。

表12 農道28号 SP計測表

| SP 番号 | 掲載 図版番号 | グリッド | 座標値 | | 標高 (m) | 規模 (cm) | | | 備考 |
|----------|------------|----------|---------|----------|-----------|---------|------|----|---|
| | | | X | Y | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| 1 | 47 | 28-45 | 80104.0 | -23388.8 | 27.9 | 36 | 42 | 38 | 土師器(図71-143・144)、須恵器(図7-140)出土。 堆積土-黒色土(10YR2/1)、ローム15%。 |
| 2 | 47 | 28-45・46 | 80102.3 | -23386.3 | 29.0 | 43 | 20 | 23 | 堆積土-黒褐色土(10YR2/2)。 |
| 3 | 47・70 | 28-42 | 80117.7 | -23397.3 | 30.3 | (24) | (12) | 26 | SD01との新旧関係不明、堆積土-黒褐色土(10YR3/1)、ローム(φ1~40mm)20%。 |
| 4 | 47・70 | 28-42 | 80118.2 | -23396.8 | 30.3 | 26 | (17) | 27 | SD01との新旧関係不明、堆積土-黒褐色土(10YR3/1)、ローム(φ1~20mm)7%。 |
| 5 | 47・70 | 28-42 | 80177.5 | -23397.2 | 30.3 | (17) | (7) | 24 | SD01との新旧関係不明、堆積土-黒色土(10YR2/1)。 |
| 6 | 47 | 28-40 | 80124.4 | -23402.8 | 31.5 | 24 | (13) | 23 | 堆積土-黒褐色土(10YR3/1)、ローム(φ1~30mm)20%。 |
| 7 | 47 | 28-24 | 80214.7 | -23402.7 | 31.5 | 27 | 25 | 25 | 堆積土-黒色土(10YR2/1)、ローム(φ1~5mm)5%。 |
| 8 | 47 | 28-40 | 80125.1 | -23403.0 | 31.5 | 28 | 25 | 20 | 堆積土-黒褐色土(10YR2/2)、ローム(φ1~10mm)3%。 |
| 9 | 47 | 28-40 | 80127.5 | -23401.1 | 31.6 | 28 | 27 | 15 | 堆積土-黒褐色土(10YR3/2)、ローム(φ1~5mm)2%。 |
| 10 | 47 | 28-35 | 80148.5 | -23411.9 | 34.0 | 48 | 40 | 49 | 上位20cmの堆積土-褐色土(10YR4/4)。 下位29cmの堆積土-暗褐色土(10YR3/3)、ローム(φ1~10mm)7%。 |
| 11 | 47 | 28-35 | 80148.6 | -23414.3 | 34.2 | 27 | 23 | 32 | 堆積土-褐色粘土質土(10YR4/4)、炭化物(φ1~15mm)2%。 |
| 12 | 47 | 28-35 | 80147.7 | -23415.2 | 34.2 | 23 | 22 | 24 | 柱痕(確認面で径10cm)堆積土-黒色土(10YR2/1)、粘土ブロック(φ1~5mm)5%。 掘り方堆積土-にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土ブロック(φ1~20mm)主体。 |
| 13 | 47 | 28-32 | 80159.6 | -23418.4 | 34.6 | 31 | 31 | 24 | 堆積土-にぶい黄褐色土(10YR4/3)。 |
| 14 | 47 | 28-32 | 80161.1 | -23419.5 | 34.8 | 26 | 22 | 28 | 堆積土-黒褐色土(10YR3/2)、ローム(φ1~30mm)5%。 |
| 15 | 47 | 28-31 | 80161.3 | -23419.4 | 34.7 | 30 | 28 | 29 | 堆積土不明。 |
| 16 | 47 | 28-32 | 80160.1 | -23419.5 | 34.8 | 28 | 25 | 17 | 上位10cmの堆積土-褐色土(10YR4/4)、ローム(φ5~10mm)1%。 下位7cmの堆積土-黒褐色土(10YR3/2)。 |
| 17 | 47 | 28-31 | 80161.9 | -23420.3 | 34.8 | 25 | 21 | 16 | 堆積土-暗褐色土(10YR3/3)、炭化物(φ1~5mm)1%、焼土粒(φ1~5mm)1%。 |
| 18 | 47 | 28-29 | 80172.4 | -23425.8 | 34.8 | 32 | 26 | 31 | 堆積土-黒褐色土(10YR3/2)、ローム(φ5~20mm)7%。 |
| 19 | 47 | 28-30 | 80169.4 | -23428.2 | 35.1 | 28 | 25 | 16 | 堆積土-黒色土(10YR2/1)、ローム(φ1~30mm)10%。 |
| 20 | 47 | 28-27 | 80180.8 | -23431.1 | 35.4 | 31 | 25 | 29 | 堆積土-黒色土(10YR2/1)、ローム(φ1~5mm)5%、白色粘土粒(φ5~15mm)2%。 |
| 21 | 47 | 28-33 | 80156.4 | -23417.9 | 34.6 | 27 | 20 | 31 | 堆積土-暗褐色土(10YR3/4)。 |
| 22 | 47 | 28-33 | 80156.4 | -23418.5 | 34.6 | 27 | 18 | 29 | 堆積土-にぶい黄褐色土(10YR4/3)。 |
| 23 | 47 | 28-33 | 80155.9 | -23418.7 | 34.6 | 24 | 23 | 21 | 堆積土-暗褐色土(10YR3/4)。 |
| 24 | 47・48 | 28-37 | 80139.9 | -23409.4 | 33.5 | (50) | 32 | 38 | SI01カマドとの新旧関係不明。堆積土-にぶい黄褐色土(10YR4/3)。 |
| 25 | 47・48 | 28-37 | 80140.9 | -23409.3 | 33.6 | 35 | 32 | 28 | SI01カマド付近。上位堆積土-灰黄褐色土(10YR4/2)、焼土(φ5mm)3%。 下位堆積土-灰黄褐色粘土質土(10YR6/2)。 |

2 遺構外出土遺物 (図72)

農道28号の遺構外からは縄文土器0.65kg、土師器12.19kg、須恵器0.99kg、合計13.83kgの土器類と近代の遺物が出土した。そのうち縄文時代(145~153)と平安時代(154~159)の遺物を図示した。また、礫は0.03kg、鉄は0.07kg出土した。

以下、縄文時代の遺物(145~153)と平安時代の遺物(154~159)について記述する。

縄文時代の遺物には、前期末葉の土器(145)、後期前葉の十腰内I式土器(146~148)、晩期前葉の大洞B式土器(150・151)、粗製土器(152)、石器(使用痕剥片・153)がある。

平安時代の遺物には、土師器坏(154・155)・鉢(156~158)・ミニチュア甕(159)、須恵器坏(160・161)を図示した。須恵器坏の2点には刻書が施されている。

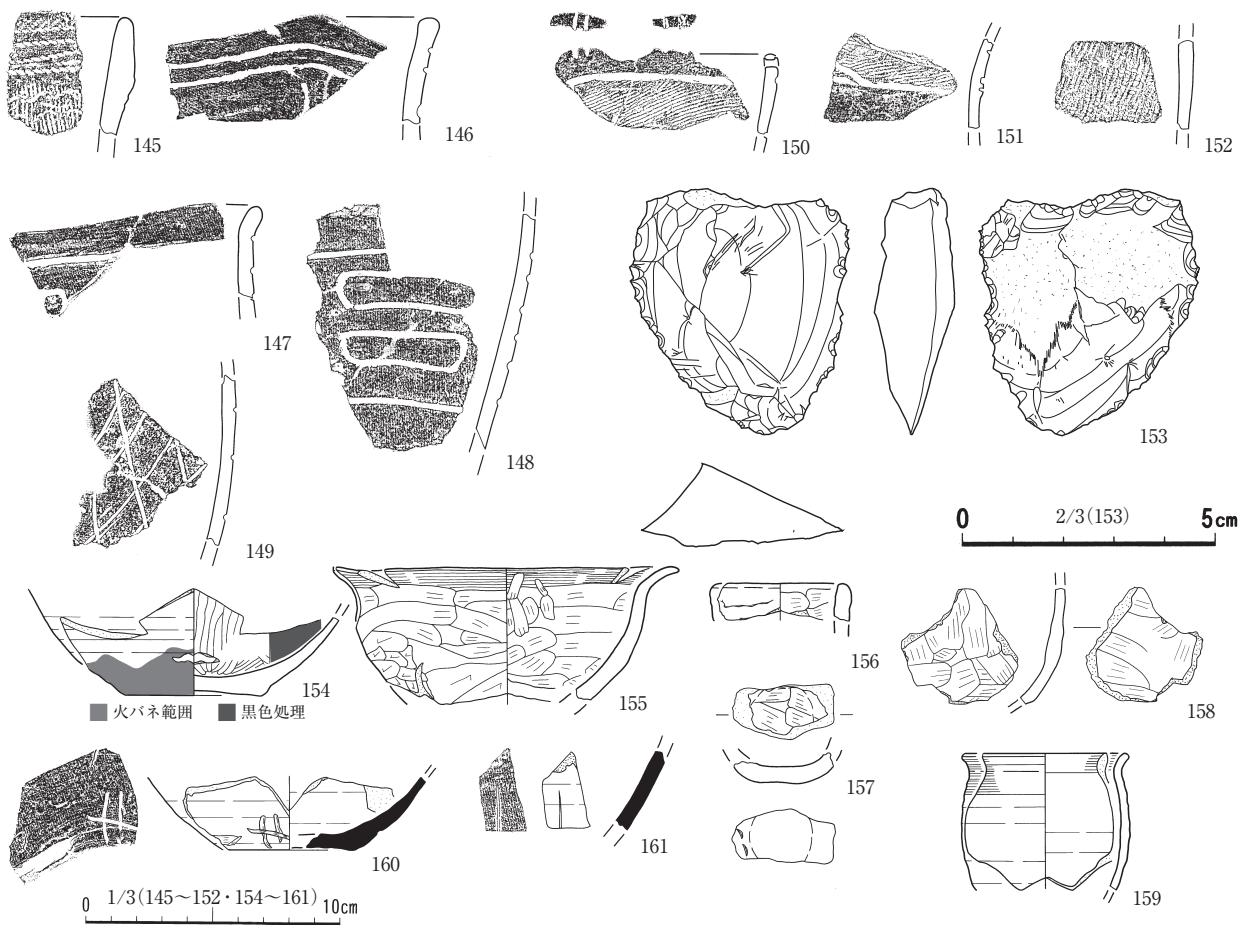


図72 遺構外出土遺物

3 遺物観察表

表13 農道28号出土土器類 観察表

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 部位 | 計測値 (cm) | | | 外面調整 (文様) | 内面調整 (文様) | 備考 (底面調整、時期等) |
|------|------|--------------|--|-----|----|------|----------|--------|--------|----------------------------------|----------------------------|--|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 49 | 1 | SI01 | 覆土、床面 | 土師器 | 坏 | 口縁部 | (13.6) | - | (3.7) | ロクロ | ロクロ (大部分剥落) | |
| 49 | 2 | SI01 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 底部 | - | (5.4) | (2.1) | ロクロ | ロクロ | 底面-回転糸切。 |
| 49 | 3 | SI01 | 床面P5 | 土師器 | 小甕 | 略完形 | (9.6) | 6.4 | 8.0 | 輪積痕、磨耗のため調整不明瞭(横ナデ、ヘラナデ?、ヘラケズリ?) | 磨耗のため調整不明瞭(指ナデ、横ナデ?) | 底面-磨耗のため調整不明瞭(ヘラナデ?)。材料分析試料No.22。歪みあり。 |
| 49 | 4 | SI01 | 覆土 | 土師器 | 小甕 | 口縁部 | (12.6) | - | (5.9) | 輪積痕、横ナデ、表面剥落のため不明 | 輪積痕、ナデ、横ナデ | |
| 49 | 5 | SI01 | 覆土 | 土師器 | 小甕 | 口縁部 | (12.4) | - | (6.5) | 横ナデ、ヘラナデ | ナデ、横ナデ | |
| 49 | 6 | SI01 | 覆土 | 土師器 | 鉢 | 口縁部 | - | - | (3.7) | 輪積痕、横ナデ | ナデ、横ナデ | |
| 49 | 7 | SI01 | 床面P1~3、覆土 | 土師器 | 甕 | 体部上半 | (19.6) | - | (20.1) | 横ナデ、ヘラナデ、(被熱により剥落) | ナデ、横ナデ | 歪みあり。 |
| 49 | 8 | SI01 | 床面直上P45 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (10.4) | (7.5) | ヘラケズリ、炭化物付着 | 指ナデ | 底面-砂底、剥落あり。 |
| 49 | 9 | SI01 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (6.3) | (2.5) | ロクロ | ロクロ | 底面-回転糸切。 |
| 49 | 10 | SI01 | 覆土 | 土師器 | 埴 | 口縁部 | - | - | (4.0) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ | 横ナデ、ナデ | |
| 49 | 11 | SI01 | 覆土 | 須恵器 | 坏 | 底部 | - | (4.6) | (1.5) | ロクロ、ナデ、火襷痕 | ロクロ、火襷痕 | 底面-回転糸切。 |
| 49 | 12 | SI01 | 覆土 | 須恵器 | 鉢 | 口縁部 | (18.0) | - | (3.9) | ロクロ | ロクロ | |
| 49 | 13 | SI01 | 覆土 | 土師器 | 甕? | 胴部 | - | - | (5.6) | 指ナデ | オサエ、剥落? | 植物繊維中量。 |
| 50 | 14 | SI01 | カマド(支脚下部)、カマド床面P44 | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | (6.4) | (7.9) | ヘラナデ | 輪積痕、ヘラナデ、指ナデ | 底面-ヘラナデ。 |
| 50 | 15 | SI01 | Pit1底面、カマド(支脚上部)床面P36、一部注記不明 | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | (8.0) | (6.4) | オサエ、ヘラナデ | 指ナデ、ヘラナデ(磨耗により不明瞭、焼土塊付着あり) | 底面-砂底。 |
| 50 | 16 | SI01 | カマド覆土、カマド覆土P19・25・31、覆土 | 土師器 | 小甕 | 略完形 | 10.8 | 5.6 | 9.3 | 輪積痕、磨耗のため調整不明瞭(横ナデ、ヘラケズリ?) | 輪積痕、指ナデ、ナデ、横ナデ | 底面-磨耗のため調整不明瞭(ヘラナデ?)。材料分析試料No.23。 |
| 50 | 17 | SI01 | 覆土、カマド覆土P13・35 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (19.8) | - | (13.0) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、焼土付着 | 輪積痕、ナデ、横ナデ | |
| 50 | 18 | SI01 | 覆土、カマド覆土P9・12、28・36 I層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (15.6) | - | (10.7) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ、剥落あり | 指ナデ、横ナデ | 歪みあり。 |
| 50 | 19 | SI01 | カマド覆土P11、カマド覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (20.2) | - | (9.0) | 横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ | 輪積痕、横ナデ(磨耗により調整不明瞭) | |
| 50 | 20 | SI01 | カマド覆土P6・16 | 土師器 | 甕 | 胴部 | - | - | (12.5) | 輪積痕、ヘラケズリ、ヘラナデ | ナデ、横ナデ | |
| 50 | 21 | SI01 | 床面P4 | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | (8.3) | (21.4) | ヘラナデ、ヘラケズリ、焼土付着 | ヘラナデ、指ナデ | 底面-砂底。内外面とも化粧粘土。歪みあり。 |
| 50 | 22 | SI01 | カマド覆土P8・13~15・17・18・20・21・24・27~30・32~34・37~39・42、覆土 | 土師器 | 甕 | 略完形 | (20.9) | (6.9) | (32.0) | 横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ、焼土付着 | 輪積痕、指ナデ、ナデ、横ナデ | 底面-砂底。 |
| 55 | 28 | SI02 | Pit6覆土 | 土師器 | 坏 | 底部 | - | (5.4) | (1.9) | ロクロ | ロクロ | 底面-回転糸切。 |
| 55 | 29 | SI02 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 底部 | - | (5.2) | (1.8) | ロクロ | ミガキ、黒色処理 | 底面-回転糸切。 |
| 55 | 30 | SI02 | カマド火床面P2、カマド覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (13.0) | - | (7.0) | 横ナデ、ヘラナデ | 輪積痕、指ナデ、横ナデ | |
| 55 | 31 | SI02 | 床面、床面P1、Pit2覆土 | 土師器 | 小甕 | 体部下半 | - | (6.4) | (9.6) | ヘラナデ | 指ナデ、ナデ | 底面-オサエ。 |
| 55 | 32 | SI02 SI05 | 覆土 覆土 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | (17.6) | - | (7.0) | 輪積痕、ロクロ、横ナデ | ミガキ、黒色処理 | 材料分析試料No.24。 |
| 55 | 33 | SI02 | 覆土 | 須恵器 | 坏 | 口縁部 | (13.0) | - | (2.7) | ロクロ | ロクロ | |
| 55 | 34 | SI02 | 床面、28-33 I層 | 須恵器 | 壺 | 肩部 | - | - | (8.2) | ロクロ、ヘラナデ | ロクロ | |
| 55 | 35 | SI02 | 覆土 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | - | - | (10.8) | 叩き目 | ナデ | |
| 57 | 38 | SI03 SI05 | 覆土 覆土 | 土師器 | 坏 | 略完形 | (13.1) | (5.3) | (5.7) | ロクロ | ロクロ | 底面-回転糸切。 |
| 57 | 39 | SI03 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 口縁部 | (13.2) | - | (3.4) | ロクロ | ミガキ、黒色処理 | |
| 57 | 40 | SI03 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | - | - | (3.8) | 横ナデ、ヘラナデ、(磨耗) | 横ナデ、(磨耗) | |
| 57 | 41 | SI03 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (8.0) | (1.4) | ヘラナデ | ナデ | 底面-砂底。 |
| 57 | 42 | SI03 | 覆土、28-33 I層 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | 10.2 | (7.9) | ヘラケズリ | 輪積痕、指ナデ、ナデ | 底面-平滑なナデ。 |
| 59 | 43 | SI04 | 覆土、28-26・28-27 I層 | 土師器 | 坏 | 略完形 | (13.6) | (6.1) | 5.7 | ロクロ | ミガキ、黒色処理、摩滅顕著 | 底面-回転糸切。内外面に黒色物付着、灯皿として使用。 |
| 59 | 44 | SI04 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 体部上半 | (15.6) | - | (4.9) | ロクロ | 輪積痕、ロクロ | |
| 59 | 45 | SI04 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (13.8) | - | (6.1) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ | ナデ?、横ナデ、炭化物付着 | |
| 59 | 46 | SI04 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (28.4) | - | (6.8) | 横ナデ、ヘラケズリ | ナデ、横ナデ | |
| 59 | 47 | SI04 | 覆土、覆土P3・4、28-26・28-27 I層 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (9.5) | (6.1) | ヘラケズリ | 指ナデ、ナデ | 底面-砂底。 |

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 部位 | 計測値 (cm) | | | 外面調整 (文様) | 内面調整 (文様) | 備考 (底面調整、時期等) |
|------|------|--------------|---|-----|----|------|----------|--------|--------|-----------------------------------|----------------------|--|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 59 | 49 | SI04 | 覆土 P1・2・5・8・10・11・ 覆土、28-25 I層、 28-26 I層 | 須恵器 | 大甕 | 体部上半 | (17.6) | - | (29.5) | ロクロ、叩き目、 刻書 | ロクロ、あて具痕、 ナデ | |
| 61 | 50 | SI05 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 略完形 | (15.2) | (6.0) | 5.1 | ロクロ | 輪積痕、ロクロ | 底面-静止糸切? |
| 61 | 51 | SI05 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 略完形 | (14.9) | 6.2 | 5.3 | ロクロ | ロクロ | 底面-回転糸切。材料 分析試料No.26。 |
| 61 | 52 | SI05 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 略完形 | (13.6) | 6.0 | 5.3 | ロクロ | ロクロ | 底面-回転糸切。 |
| 61 | 53 | SI05 SI02 | 覆土、28-34 I層、 28-24 I層 覆土、確認面 | 土師器 | 坏 | 略完形 | (14.4) | (6.4) | (5.0) | ロクロ | ミガキ、黒色処理 | 底面-回転糸切。材料 分析試料No.27。 |
| 61 | 54 | SI05 | 覆土 | 土師器 | 小甕 | 口縁部 | (10.2) | - | (2.8) | 輪積痕、(磨耗) | 輪積痕、ナデ、 (磨耗) | |
| 61 | 55 | SI05 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (16.0) | - | (4.5) | 横ナデ、ヘラナデ | 輪積痕、ヘラナデ、 ナデ、横ナデ | |
| 61 | 56 | SI05 SI02 | 覆土 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (15.2) | - | (9.1) | 輪積痕、ロクロ | 輪積痕、ロクロ、 (磨耗) | 図61-57と同一個体? |
| 61 | 57 | SI05 | 覆土 | 土師器 | 小甕 | 底部 | - | (6.0) | (2.7) | ロクロ | ロクロ | 底面-回転糸切。図 61-56と同一個体? |
| 62 | 58 | SI05 | 床面直上P2・6・17・ 18・20・21・25・26・28・ 31、覆土、ベルト | 土師器 | 甕 | 略完形 | 26.0 | 10.0 | 31.0 | 輪積痕、横ナデ、ヘ ラナデ、(被熱によ り一部不明瞭) | 指ナデ、ヘラナデ、 横ナデ | 底面-砂底。材料分析 試料No.25。歪みあり。 口縁は22.7×25.8cm の楕円形。 |
| 62 | 59 | SI05 | 床面直上P1・8～ 10・12～15、覆土、 ベルト | 土師器 | 甕 | 体部上半 | (23.8) | - | (22.0) | 横ナデ、ヘラナデ、 (磨耗) | ナデ、横ナデ | |
| 62 | 60 | SI05 SK08 | 床面直上P2～6・11・ 19・23・26・28・30・33、 覆土 覆土 | 土師器 | 甕 | 体部上半 | (25.5) | - | (19.8) | 輪積痕、横ナデ、ナ デ、(磨耗) | 輪積痕、ヘラナデ、 ナデ | |
| 62 | 61 | SI05 | 床面直上P1 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (24.0) | - | (11.1) | 輪積痕、オサエ、横 ナデ、ナデ | 指ナデ、ナデ、横 ナデ、(剥落) | |
| 62 | 62 | SI05 | 床面直上P16、覆土、 床面 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (8.9) | (7.6) | ヘラナデ | 指ナデ | 底面-オサエ、砂底。 |
| 62 | 63 | SI05 | 床面直上P12・14・37 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (9.4) | (6.8) | ヘラケズリ、ヘラナ デ | 指ナデ | 底面-砂底。 |
| 62 | 64 | SI05 | 床面直上P35、覆土 | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | 9.3 | (12.3) | ヘラケズリ、ヘラナ デ | 輪積痕、指ナデ | 底面-砂底。 |
| 63 | 65 | SI05 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (25.0) | - | (9.1) | 輪積痕、ロクロ、ヘ ラナデ、(磨耗) | ロクロ、(磨耗) | |
| 63 | 66 | SI05 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (23.2) | - | (10.9) | 輪積痕、横ナデ、ヘ ラナデ | ナデ?、横ナデ、 (磨耗) | |
| 63 | 67 | SI05 | 覆土、ベルト、覆 土P24 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (26.8) | - | (6.0) | ロクロ、ヘラナデ | ロクロ | |
| 63 | 68 | SI05 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (20.8) | - | (11.4) | 輪積痕、横ナデ、ヘ ラナデ、焼土付着 | ナデ、横ナデ | |
| 63 | 69 | SI05 | 覆土、ベルト | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | (7.5) | (10.9) | 輪積痕、ヘラナデ、 (磨耗) | 指ナデ、(磨耗) | 底面-ヘラナデ。 |
| 63 | 70 | SI05 | 覆土、28-34 I層 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (6.4) | (7.1) | ヘラナデ、ヘラケズ リ、全体的に焼土付 着 | 指ナデ | 底面-上げ底風砂底。 |
| 63 | 71 | SI05 | 覆土 | 土師器 | 塀 | 口縁部 | (34.4) | - | (5.9) | 輪積痕、横ナデ、ヘ ラケズリ | ロクロ | |
| 63 | 72 | SI05 | 覆土 | 須恵器 | 坏 | 略完形 | (14.0) | 5.4 | 5.0 | ロクロ、ナデ、刻書、 火襷痕 | ロクロ、火襷痕 | |
| 63 | 73 | SI05 | 覆土 | 須恵器 | 坏 | 胴部 | - | - | (2.3) | ロクロ、刻書 | ロクロ | |
| 63 | 74 | SI05 | 覆土、28-34 I層 | 須恵器 | 壺 | 肩部 | - | - | (3.3) | 輪積痕、タタキ、ロ クロ | 輪積痕、ロクロ | |
| 63 | 75 | SI05 | 覆土 | 須恵器 | 壺 | 底部 | - | (14.0) | (3.1) | ヘラケズリ、ロクロ | 指ナデ、ヘラナデ | 底面-オサエ、菊花状 調整。高台。 |
| 63 | 76 | SI05 | 覆土 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | - | - | (9.0) | タタキ | タタキ、(剥落) | 図69-132と同一個体? |
| 66 | 79 | SK01 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 口縁部 | (14.6) | - | (3.0) | ロクロ | ミガキ、黒色処理 | |
| 66 | 80 | SK01 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 底部 | - | (6.0) | (1.6) | ロクロ | ミガキ、黒色処理 | 底面-回転糸切。 |
| 66 | 81 | SK01 | 覆土 | 土師器 | 鉢 | 口縁部 | (11.2) | - | (6.0) | 横ナデ、ヘラナデ | ヘラナデ、ナデ、 横ナデ | |
| 66 | 82 | SK01 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (20.8) | - | (8.1) | 横ナデ、ヘラナデ | ナデ、横ナデ | 図71-142と同一個体? |
| 66 | 83 | SK01 | 底面直上 | 土師器 | 甕 | 体部上半 | (24.0) | - | (19.4) | 輪積痕、横ナデ、ヘ ラケズリ、ヘラナデ | ナデ?、横ナデ? | |
| 66 | 84 | SK01 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (8.8) | (7.4) | 全面的に焼土付着の ため調整不明 | ナデ | 底面-砂底。 |
| 66 | 85 | SK01 | 覆土 | 土師器 | 小甕 | 底部 | - | (7.0) | (2.9) | ヘラナデ | 刷毛目、指ナデ | 底面-ヘラナデ。 |
| 66 | 86 | SK02 | 底面P67・228・229 | 土師器 | 坏 | 体部上半 | (13.6) | - | (4.8) | 横ナデ、ヘラケズ リ?、(磨耗) | 輪積痕、ナデ、横 ナデ | |
| 66 | 87 | SK02 | 底面P180・217 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (15.8) | - | (8.7) | 輪積痕、横ナデ、ヘ ラケズリ? | ナデ、横ナデ | |
| 66 | 88 | SK02 | 底面P211、28-24 I層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (13.9) | - | (7.0) | 横ナデ、ヘラナデ | ヘラナデ、ナデ、 横ナデ、(磨耗) | |
| 66 | 89 | SK02 | 底面P173・178・192 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (22.2) | - | (8.1) | 横ナデ、ヘラケズリ | ナデ、横ナデ | |
| 66 | 90 | SK02 | 底面P28・51、覆土、 底面 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (25.0) | - | (7.5) | 横ナデ、ヘラケズリ、 ヘラナデ | ナデ、横ナデ | |

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 部位 | 計測値 (cm) | | | 外面調整 (文様) | 内面調整 (文様) | 備考 (底面調整、時期等) |
|------|------|--------------|---|------|--------|------|----------|--------|--------|-------------------------------------|---------------------------|------------------------------------|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 66 | 91 | SK02 | 底面P41、28-24 I層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (22.5) | - | (6.0) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ | 輪積痕、指ナデ、横ナデ、ナデ | |
| 66 | 92 | SK02 | 底面P201・205 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (21.9) | - | (7.7) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ | 輪積痕、横ナデ?、(磨耗) | 胴部に貫通孔? |
| 66 | 93 | SK02 | 底面P17・144・209 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (26.1) | - | (12.0) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、焼土付着 | 輪積痕、ヘラナデ、ナデ、横ナデ | |
| 67 | 94 | SK02 | 覆土、底面、底面P74・92～96・98・100・101・104・108・116・226、28-24 I層 | 土師器 | 甕 | 体部上半 | 22.3 | - | (22.0) | 横ナデ、ヘラケズリ | ヘラナデ、横ナデ | |
| 67 | 95 | SK02 | 底面P212・219・228・232～234・241 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (19.9) | - | (7.4) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ | ヘラナデ、横ナデ | 図67-97と同一個体。 |
| 67 | 96 | SK02 | 覆土、底面P10・11・14・15・17・18・20・22・26・27・32・33・36～38・42・47・52～54・73・76・78・79・99・100・105・110・107・108、28-24 I層 | 土師器 | 甕 | 略完形 | 20.6 | 11.0 | 27.7 | 横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ、指ナデ、(磨耗により不明瞭) | 輪積痕、指ナデ、ナデ、横ナデ、(磨耗により不明瞭) | 底面・砂底。材料分析試料No.28。 |
| 67 | 97 | SK02 | 底面P242、覆土 | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | (9.1) | (9.5) | ヘラケズリ、ヘラナデ | 指ナデ、ナデ | 底面・砂底。図67-95と同一個体。 |
| 67 | 98 | SK02 | 覆土、底面、底面P222 | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | (8.4) | (8.0) | ヘラナデ、(磨耗) | 輪積痕、指ナデ?、(磨耗) | 底面・砂底。 |
| 67 | 99 | SK02 | 底面P4・12・11・155・175、28-24 I層 | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | (9.9) | (11.3) | ヘラケズリ | 輪積痕、指ナデ?、(磨耗) | 底面・砂底。 |
| 67 | 100 | SK02 | 底面P39・61・84・139・218・210、28-24 I層 | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | (11.1) | (12.5) | ヘラナデ、(磨耗) | 指ナデ、ナデ、(磨耗) | 底面・砂底。 |
| 68 | 101 | SK03 | 覆土 | 土師器 | ミニチュア鉢 | 略完形 | (4.4) | - | (4.0) | オサエ、ヘラケズリ | 指ナデ | 底面・ヘラナデ。 |
| 68 | 102 | SK03 | 覆土 | 土師器 | 小甕 | 口縁部 | (9.8) | - | (3.7) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ | ナデ、横ナデ | |
| 68 | 103 | SK03 | 覆土、底面 | 土師器 | 甕 | 胴部 | - | - | (13.1) | ヘラケズリ、ヘラナデ | ナデ | 貫通孔2つ。図68-104・68-105と同一個体の可能性あり。 |
| 68 | 104 | SK03 | 覆土、底面 | 土師器 | 甕 | 体部上半 | (25.6) | - | (25.9) | 横ナデ、ヘラケズリ | 指ナデ、横ナデ、(磨耗) | 図68-103・68-105と同一個体の可能性あり。 |
| 68 | 105 | SK03 | 覆土、底面 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (9.8) | (5.8) | ヘラケズリ、ヘラナデ | 指ナデ | 底面・ヘラナデ。図68-104・68-103と同一個体の可能性あり。 |
| 68 | 106 | SK04 | 覆土 | 土師器 | 鉢 | 口縁部 | (9.2) | - | (4.1) | 横ナデ、ヘラナデ | ナデ、横ナデ | |
| 68 | 107 | SK04 | 覆土 | 土師器 | 埴 | 口縁部 | - | - | (6.5) | 輪積痕、オサエ、横ナデ、ヘラナデ | ナデ、横ナデ | 図68-108と同一個体。 |
| 68 | 108 | SK04 | 覆土 | 土師器 | 埴 | 口縁部 | - | - | (6.4) | 輪積痕、オサエ、横ナデ、ヘラナデ | ナデ、横ナデ、(磨耗) | 口縁歪み。図68-107と同一個体。 |
| 68 | 109 | SK07 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (9.2) | (4.8) | ヘラケズリ | ナデ | 底面・砂底、ヘラナデ。 |
| 68 | 110 | SK08 SK07 | 覆土 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (15.0) | - | (6.2) | 横ナデ、ナデ、ヘラナデ | ナデ、横ナデ | |
| 68 | 111 | SK08 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | - | - | (9.1) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ | 輪積痕、ヘラナデ? | 底面・横ナデ?、(磨耗)。 |
| 68 | 112 | SK08 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (9.8) | (3.4) | ヘラケズリ、ヘラナデ | ナデ | 底面・砂底、ヘラナデ。 |
| 68 | 113 | SK08 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 胴部下半 | - | - | (7.6) | ヘラケズリ、ヘラナデ | 指ナデ、ヘラナデ、横ナデ、(磨耗) | |
| 68 | 117 | SK08 | 覆土 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (2.4) | 縦位-RL側面圧痕、横位-L側面圧痕 | (剥落) | 植物繊維多量。前期末葉・円筒下層d2式 |
| 69 | 118 | SK10 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 略完形 | (14.4) | (5.6) | (6.2) | ロクロ | ロクロ | 底面・回転糸切。歪みあり。 |
| 69 | 119 | SK10 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (31.3) | - | (8.9) | 横ナデ、ヘラナデ、(磨耗) | | |
| 69 | 120 | SK10 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | - | - | (9.3) | 横ナデ、ヘラナデ、焼土付着 | ナデ?、横ナデ?、(磨耗) | |
| 69 | 121 | SK10 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (8.6) | (8.0) | ヘラケズリ | 指ナデ | 底面・砂底。 |
| 69 | 122 | SK10 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | (8.4) | (20.3) | ヘラケズリ、ヘラナデ、焼土付着 | ナデ、(磨耗) | 底面・ナデ。 |
| 69 | 123 | SK12 | 1層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (3.05) | 口唇-単軸絡条体第1類(R)回転、口縁-単軸絡条体第1類(R)側面圧痕 | | 植物繊維微量。前期末葉・円筒下層d2式 |
| 69 | 124 | SK14 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 体部上半 | (14.0) | - | (4.2) | ロクロ、(磨耗) | ロクロ、(磨耗) | |
| 69 | 125 | SK14 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 略完形 | (12.7) | 6.4 | 5.9 | ヘラナデ(磨耗)、炭化物付着 | 指ナデ(磨耗) | 底面・砂底?(剥落?)。 |
| 69 | 126 | SK14 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (14.4) | - | (3.1) | 横ナデ | ナデ、横ナデ | |
| 69 | 127 | SK14 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (14.1) | - | (7.3) | 横ナデ?、ヘラナデ、(磨耗) | 輪積痕、ヘラナデ、ナデ、横ナデ | |
| 69 | 128 | SK14 | 覆土、28-30 I層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (19.2) | - | (8.2) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ?、(磨耗) | ヘラナデ、指ナデ、横ナデ | |
| 69 | 129 | SK14 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (23.6) | - | (6.2) | ロクロ、ヘラケズリ | ロクロ?、(磨耗) | |
| 69 | 130 | SK14 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (9.4) | (6.2) | 輪積痕、オサエ、ヘラナデ | 指ナデ | 底面・木葉痕。 |
| 69 | 131 | SK14 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (10.0) | (5.9) | 輪積痕、ヘラケズリ | 指ナデ | 底面・砂底。 |

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 部位 | 計測値 (cm) | | | 外面調整 (文様) | 内面調整 (文様) | 備考 (底面調整、時期等) |
|------|------|------|-------------------------------------|------|--------|------|----------|-------|--------|---|------------------|----------------------|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 69 | 132 | SK14 | 覆土 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | - | - | (8.1) | 叩き目 | 当て具痕(剥落あり) | 図63-76と同一個体? |
| 69 | 133 | SK20 | 覆土 | 土師器 | 坏 | 体部上半 | - | - | (4.4) | 輪積痕、横ナデ、ナデ | ミガキ?(不明瞭) | |
| 69 | 134 | SK20 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 胴部 | - | - | (3.8) | ヘラナデ | ヘラナデ?(磨耗) | |
| 71 | 135 | SD01 | 覆土 | 土師器 | 鉢 | 体部上半 | (12.0) | (5.2) | (4.1) | 輪積痕、ナデ、ヘラナデ | ナデ | 底面・弧編痕? |
| 71 | 136 | SD01 | 覆土 | 土師器 | 小甕 | 底部 | - | (8.4) | (4.8) | ロクロ | ロクロ | 底面・回転糸切。 |
| 71 | 137 | SD01 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (19.0) | - | (7.8) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ | 輪積痕、横ナデ、ナデ?(磨耗) | |
| 71 | 138 | SD01 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (23.8) | - | (7.1) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ | ヘラナデ、ナデ、横ナデ | |
| 71 | 139 | SD01 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 体部下半 | - | (8.0) | (11.1) | ヘラケズリ、焼土付着 | ヘラナデ | 底面・砂底。 |
| 71 | 140 | SD01 | 覆土、SP01底面 | 須恵器 | 甕 | 肩部 | - | - | (7.6) | 叩き目、ナデ、火バネ | 叩き目、ナデ | |
| 71 | 142 | SD04 | 覆土 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | - | - | (8.7) | 輪積痕、横ナデ、ヘラナデ | ナデ、横ナデ、火バネ | 図66-82と同一個体? |
| 71 | 143 | SP01 | 底面 | 土師器 | 皿 | 体部上半 | - | - | (2.1) | ロクロ | ロクロ | |
| 71 | 144 | SP01 | 底面 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | (18.6) | - | (4.7) | 輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ | 輪積痕、ナデ?、横ナデ?(磨耗) | |
| 72 | 145 | 遺構外 | 28-23 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (4.7) | 口縁-LR横・LR側面圧痕、胴部-単軸絡糸体第1類(L)回転・結節回転文(L) | ミガキ | 植物繊維少量。前期・円筒下層d1式 |
| 72 | 146 | 遺構外 | 28-48 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (4.15) | 沈線、ミガキ | ミガキ | 後期・十腰内I式 |
| 72 | 147 | 遺構外 | 28-24 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (3.6) | 沈線 | 平滑なナデ | 後期・十腰内I式 |
| 72 | 148 | 遺構外 | 28-24 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (9.4) | 沈線 | ナデ | 後期・十腰内I式 |
| 72 | 149 | 遺構外 | 28-46 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (6.75) | 沈線 | ナデ | 後期・十腰内I式 |
| 72 | 150 | 遺構外 | 28-47 III層、28-42 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (3.1) | 口唇-突起上に刺突、口縁-沈線・L横 | ナデ | 図72-151と同一個体。晩期・大洞B式 |
| 72 | 151 | 遺構外 | 28-47 III層 | 縄文土器 | 深鉢 | 頸部 | - | - | (3.5) | 沈線、L横 | ナデ | 図72-150と同一個体。晩期・大洞B式 |
| 72 | 152 | 遺構外 | 28-46 I層 | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部 | - | - | (3.5) | LR横、炭化物付着 | ナデ | 晩期 |
| 72 | 154 | 遺構外 | 28-33 I層、28-34 I層、28-38 I層、28-39 I層 | 土師器 | 坏 | 体部下半 | - | (5.4) | (4.2) | ロクロ(火バネ顕著) | ミガキ、黒色処理 | 底面・回転糸切。 |
| 72 | 155 | 遺構外 | 28-27 I層 | 土師器 | 坏 | 体部上半 | (13.6) | - | (5.4) | 指ナデ、横ナデ、ヘラケズリ | 指ナデ、横ナデ | |
| 72 | 156 | 遺構外 | 28-26 I層 | 土師器 | 鉢 | 口縁部 | (5.4) | - | (1.5) | 輪積痕、オサエ | ナデ | |
| 72 | 157 | 遺構外 | 28-26 I層 | 土師器 | 鉢 | 底部 | - | - | (1.3) | オサエ | 指ナデ | 底面・オサエ。 |
| 72 | 158 | 遺構外 | 28-27 I層 | 土師器 | 鉢? | 胴部 | - | - | (4.6) | ヘラナデ | 指ナデ | |
| 72 | 159 | 遺構外 | 28-23 I層 | 土師器 | ミニチュア甕 | 体部上半 | (6.6) | - | (5.4) | ロクロ | ロクロ | |
| 72 | 160 | 遺構外 | 28-42 攪乱 | 須恵器 | 坏 | 体部下半 | - | (5.2) | (2.9) | ロクロ、刻書 | ロクロ | 底面・回転糸切。 |
| 72 | 161 | 遺構外 | 28-27 I層 | 須恵器 | 坏 | 胴部 | - | - | (3.0) | ロクロ、刻書 | ロクロ | |

表14 農道28号出土石器・石製品・土製品・金属製品 観察表

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 石質 | 計測 (mm) | | | 重さ (g) | | 備考 |
|------|------|------|--------------|-----|-------|-----|-----------------|----------|--------|-----------|--------|-----------------------------|
| | | | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 処理前 | 処理後 | |
| 51 | 23 | SI01 | 覆土一括 | 石器 | 凹石 | 安山岩 | (53) | 55 | 45 | (182.7) | | 欠損。 |
| 51 | 24 | SI01 | 床面 | 石器 | 敲・凹石 | 安山岩 | (76) | 64 | 43 | (277.4) | | 欠損。 |
| 51 | 25 | SI01 | 覆土S1 | 石器 | 台石 | 流紋岩 | (299) | (209) | (113) | (7,750.0) | | 欠損。敲きによる?剥落。 |
| 51 | 26 | SI01 | 床面S4 | 石器 | 台石? | 安山岩 | (178) | (117) | (117) | (4,000.0) | | 欠損。磨り・擦痕あり。 |
| 52 | 27 | SI01 | 床面S5 | 石器 | 台石? | 安山岩 | (236) | (153) | (158) | (5,550.0) | | 欠損。磨り・擦痕・敲き?あり。 |
| 56 | 36 | SI02 | カマド覆土、カマド火床面 | 石器 | 礫 | 安山岩 | (95) | (148) | 44 | (637.0) | | 欠損。 |
| 56 | 37 | SI02 | 床面S1 | 石器 | 台石 | 安山岩 | (340) | (231) | (134) | (1,325.0) | | 欠損。 |
| 59 | 48 | SI04 | 覆土 | 石製品 | 軽石製品 | 軽石 | (32) | 23 | 17 | 4.6 | | |
| 63 | 77 | SI05 | 覆土 | 鉄製品 | 鎌の柄部? | - | (35) | 80 | 5 | (2.4) | (1.2) | 欠損。 |
| 63 | 78 | SI05 | 覆土 | 鉄製品 | 刀子 | - | (27) | 14 | 6 | (6.2) | (2.0) | 欠損。 |
| 68 | 114 | SK08 | 覆土 | 土製品 | 焼成粘土 | - | 26 | 33 | 7 | - | 4.6 | 上面-植物繊維痕? 下面-オサエ。 |
| 68 | 115 | SK08 | 覆土 | 土製品 | 焼成粘土 | - | 84 | 32 | 7 | - | 6.1 | 上面-植物繊維痕(笹痕?)。 下面-植物繊維痕。 |
| 68 | 116 | SK08 | 覆土 | 土製品 | 焼成粘土 | - | 24 | 43 | 6 | - | 8.9 | 上面-オサエ。 下面-砂付着。輪積痕あり。 |
| 71 | 141 | SD03 | 覆土 | 鉄製品 | 鎌 | - | a(156) b(40) | 34 26 | 6 4 | (66.5) | (39.8) | 欠損。処理前重量に土壌は含まない。 |
| 72 | 153 | 遺構外 | 28-45 IV層 | 石器 | 使用痕剥片 | 頁岩 | 49 | 43 | 16 | 26.6 | | 裏面は節理面で剥離されており、不純物付着。 |

第4章 平成22年度の検出遺構と出土遺物

第1節 農道1号

農道1号の平成22年度調査区は、遺跡の存在する台地ほぼ中央部の平坦面にある。北側には農道2号と農道8号が挟む台地中央部に大きく挟り込む沢があって、その沢頭部分に農道1号の起点がある。調査前の標高は、起点のある北東端部約35.7m、平成22年度調査区南西端約36.4mで、南西から北東方向へごくわずかに傾斜する。

農道1号は平成20年度と21年度にも調査を行っていて、平成22年度調査区はそれに隣接する北東部約3分の1の区間である。平成22年度は長さ約177m、幅約7mの1,228㎡を調査し、1-1～13グリッドと1-21グリッド周辺で土坑1基、溝跡1条、ピット2基、焼土遺構3基が散発的に検出された。遺物は、縄文・平安時代のものが段ボール箱1箱分出土した。これらに以前の調査結果をまとめると、農道1号では建物跡（溝跡・掘立柱建物跡・土坑を含む、建て替え含む）2棟、竪穴住居跡2軒、土坑11基、溝跡2条、ピット22基、焼土遺構3基、溝状土坑4基、埋設土器1基が検出され、計段ボール箱8箱分の遺物が出土したことになる。焼土遺構、溝状土坑、埋設土器などを除き、多くの遺構が平安時代のものであると思われる。なお3ヶ年にわたる調査であることから、遺構名についてはそれまでの調査で検出された遺構名の続き番号を付している。

以下、個々の遺構や出土遺物について記述していく。

1 検出遺構

(1) 土坑

第12号土坑（SK12、図75）

[位置・確認] 調査区北東、1-7グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.5m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸1.4m、短軸1.1mの楕円形を呈し、確認面からの深さは35cmである。底面は第Ⅴ層まで地山を掘り込んで掘り方を有している。断面形は上部が開く皿状をなす。

[堆積土] 黒褐色土もしくは黒色土が堆積しており、覆土中位では炭化物層が検出された。底面は掘り方を有し、ロームと黒褐色土で床面を整えている。

[出土遺物・遺構の時期等] 炭化物は出土したものの、土器などの遺物は出土しなかった。帰属時期は不明だが、堆積の状況とその様相等から平安時代以降の可能性はあるが、時期は特定できない。

(2) 溝跡

第4号溝跡（SD04、図75・76）

[位置・確認] 調査区北東寄り、1-13グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.7m、第Ⅳ層で確認した。しかし調査区壁で土層観察を行った結果、第Ⅲ層の上位から掘り込まれていることがわかった。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置するため遺構全体の規模は不明だが、確認できた長さは(3.1)m、幅88～103cmの溝状を呈し、確認面からの深さは7～10cmである。平面形は湾曲する弧状をなし、

中平遺跡Ⅲ

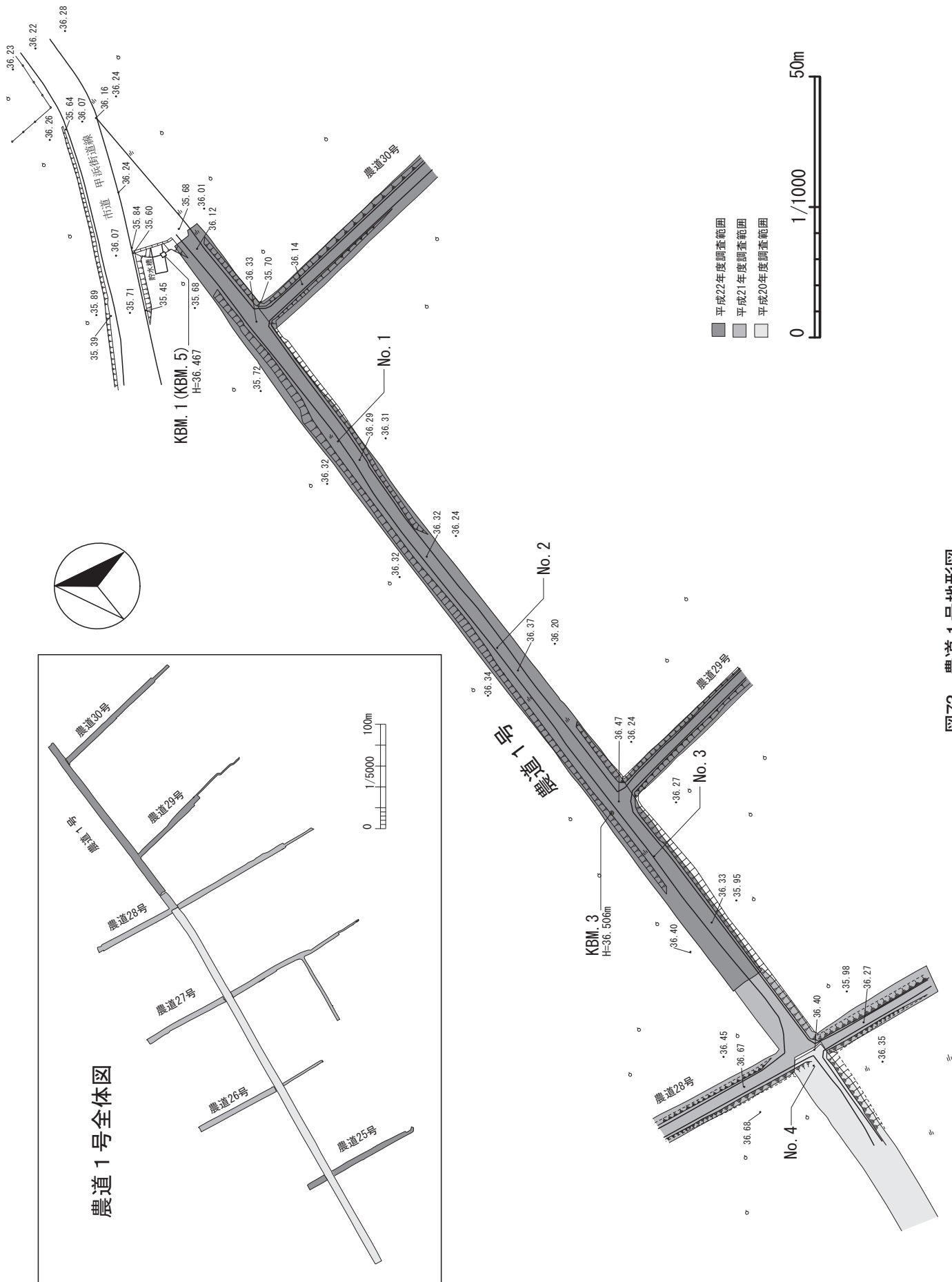


図73 農道1号地形図

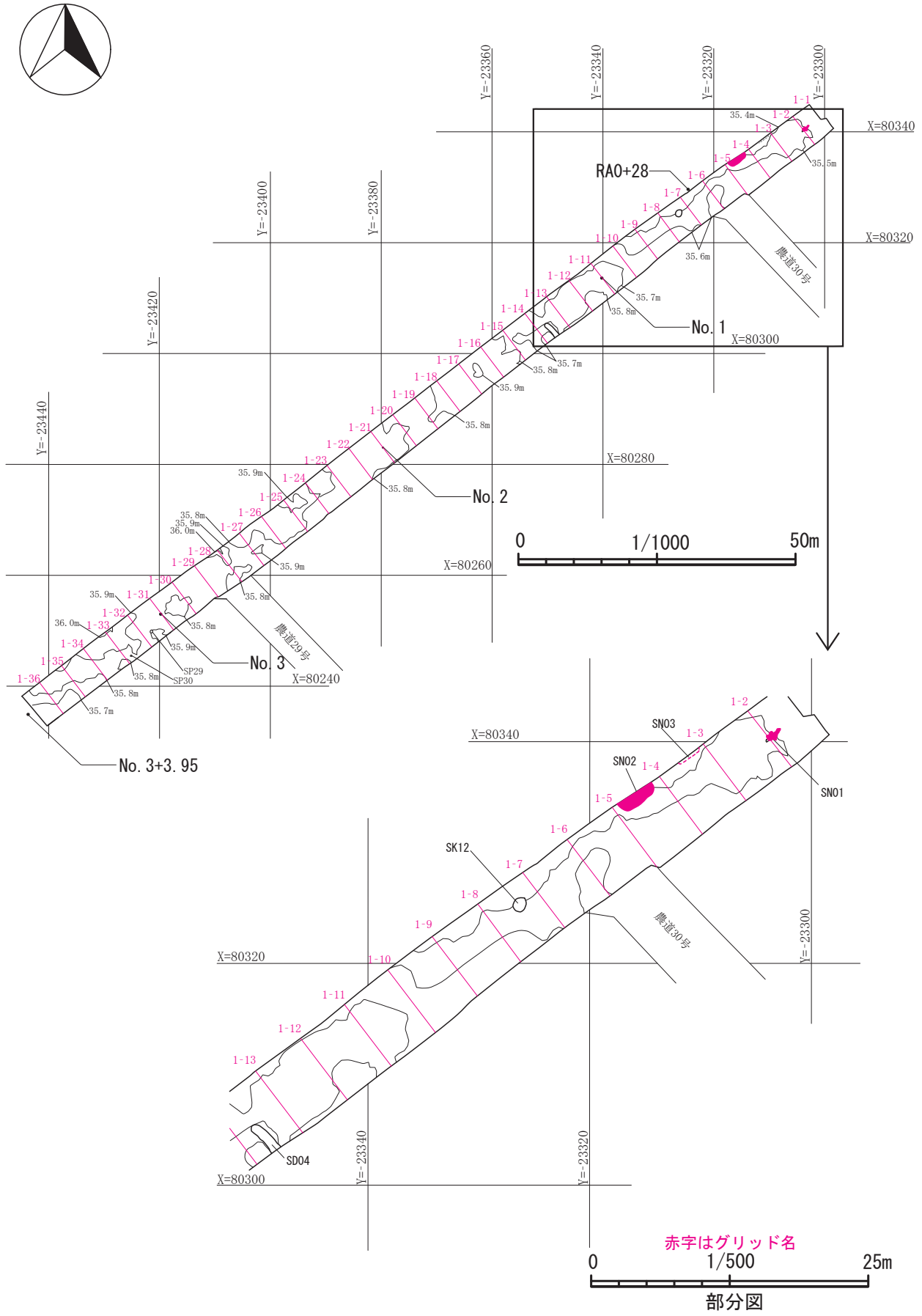
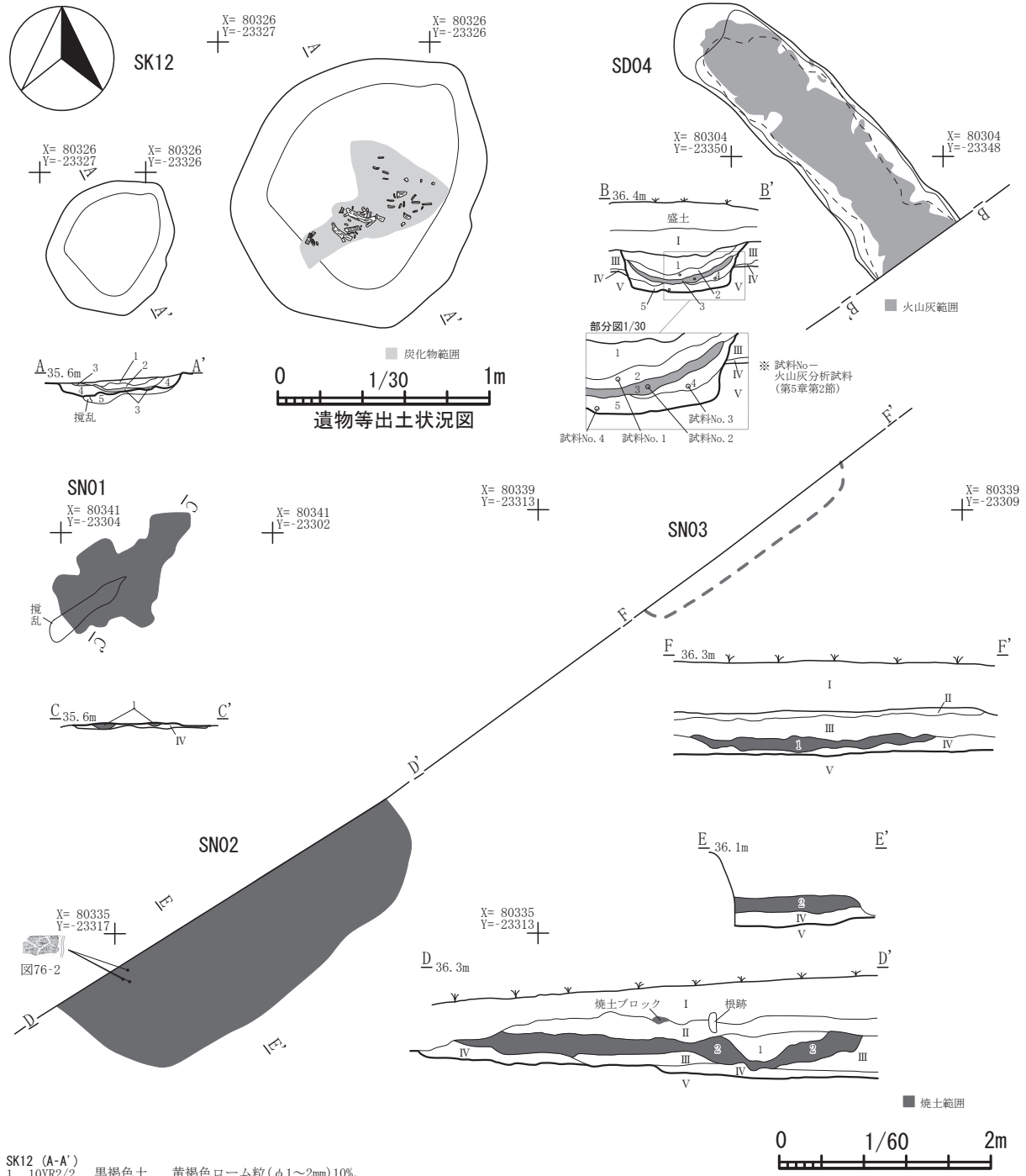


図74 農道1号遺構配置図



- SK12 (A-A')**
- 1 10YR2/2 黒褐色土
 - 2 10YR2/1 黒色土
 - 3 炭化物層
 - 4 10YR2/2 黒褐色土
 - 5 10YR6/6 明黄褐色土
- SD04 (B-B')**
- 1 10YR2/1 黒色土
 - 2 10YR1.7/1 黒色土
 - 3 10YR2/2 黒褐色土
 - 4 10YR5/4 明赤褐色土
 - 5 10YR2/1 黒色土
 - 6 10YR6/4 明黄褐色土
- SN01 (C-C')**
- 1 10YR3/3 暗褐色焼土
 - 2 10YR2/3 黒褐色土
- SN02 (D-D')・E-E')**
- 1 10YR2/1 黒色土
 - 2 5YR5/8 明赤褐色土
 - 3 10YR2/2 黒褐色土
- SN03 (F-F')**
- 1 5YR3/4 暗赤褐色土
- 黄褐色ローム粒(φ1~2mm)10%。
黄褐色ローム粒(φ1mm以下)1%。
明黄褐色ローム粒(φ1mm以下)3%。
振り方。黒褐色土塊(φ50mm)が層左側にあり、明褐色土(φ1mm以下)2%。
ローム粒(φ1mm以下)1%、しまりあり、ビニールなし。
ローム粒(φ1~3mm)1%、ややしまりあり。
ローム粒(φ1~3mm)3%、しまりあり、B-1mの2次堆積層?。
黒褐色土20%、しまり強、B-1m層。
振り方。火山灰5%(To-a?)、しまりあり。
振り方。黒色土10%、褐灰色粘土ブロック(φ1~50mm)5%、しまり強。
にぶい赤褐色焼土30%、炭化物(φ1mm以下)微量、しまりあり。
赤褐色焼土粒(φ1mm以下)微量、炭化物(φ1mm以下)微量、しまりあり。
にぶい黄褐色ロームブロック(φ20mm)層左側にあり。明赤褐色ローム粒(φ1mm以下)3%、炭化物(φ1mm以下)2%、しまりあり。
にぶい黄褐色土10%、赤褐色焼土粒(φ1mm以下)微量。
暗褐色土30%、ローム粒(φ1mm以下)1%、焼土粒(φ1mm以下)1%。

図75 農道1号 検出遺構

断面形は上部が開くコ字状をなしている。底面は掘り方を有し、凹凸を敷き均すように塊状の第Ⅴ層土と第Ⅱ層由来の黒色土が掘り方に充填されている。掘り方下部は第Ⅴ層を掘り込み凹凸が見られる。[堆積土] 堆積土中位（第3層）には火山灰が薄層をなして堆積しており、その上位には第Ⅱ層由来の黒色土が堆積する。第3層で検出された火山灰に関して、その上下及び掘り方（第5層）の土壤に含まれる火山灰4点の分析を行ったところ、堆積土の3点ではB-Tmが主体的であるが、掘り方（第5層）ではB-Tmは含まれず、To-aが含まれることが判明した（第5章第2節）。To-a降下直後に構築されてTo-aが掘り方に混入、溝機能時に黒色土が三角状に堆積、そこにB-Tmがレンズ状に降下・堆積したものと考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 出土土器は須恵器0.03kgで、須恵器坏（図76-1）1点を図示した。底外面には2条の線刻のようなものが割れ口部分に認められ、刻書である可能性がある。この須恵器坏は火山灰の上層から出土したもので、埋没途中に流入したものと考えられる。

掘り方及び堆積土から検出された火山灰の状況から、To-a降下直後に構築され、B-Tmが降下する時点では初期堆積が進んだ状況であったことがわかった。したがって、10世紀中葉（915年もしくは916年頃）の遺構であると考えられる。また、底面に明瞭な高低差はみられず、底面付近で砂等流水作用による堆積状況もみられないことから水を流すための溝ではないと判断できるが、本遺構の直接的な機能は不明である。

(3) ピット

農道1号からは2基のピットが検出されたが、掘立柱建物を構成するものであるかどうかは不明である。ピットの位置は図74の遺構配置図に、計測値等は表15に示した。いずれも遺物は出土しておらず、構築時期も不明である。

表15 農道1号 SP計測表

| SP 番号 | 掲載 図版番号 | グリッド | 座標値 | | 標高 (m) | 規模 (cm) | | | 備考 |
|----------|------------|------|---------|----------|-----------|---------|----|----|----|
| | | | X | Y | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| 29 | 74 | 1-31 | 80249.8 | -23421.5 | 35.9 | 57 | 47 | 40 | |
| 30 | 74 | 1-32 | 80245.5 | -23425.1 | 35.9 | 33 | 29 | 24 | |

(4) 焼土遺構

第1号焼土遺構 (SN01、図75)

[位置・確認] 1-1・2グリッドに位置し、標高は約35.6mである。第Ⅳ層上面で確認し、他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・堆積土] 規模は長軸1.4m、短軸0.9mの不整形を呈する。堆積土はにぶい赤褐色焼土と暗褐色土の混合土層である。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかったが土層観察から縄文時代に帰属する可能性がある。

第2号焼土遺構 (SN02、図75・76)

[位置・確認] 1-4グリッドに位置し、標高は約35.7mである。第Ⅱ層下面で確認し、他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・堆積土] 調査区際に位置するため遺構の全容は不明だが、南東半が検出されたと思われる。検出された長軸は3.7m、隅丸方形を呈する。堆積土は明赤褐色焼土が主体である。

[出土遺物・遺構の時期等] 3片の縄文土器0.04kgが出土し、接合したのが図76-2の縄文時代後期、十腰内Ⅱ式の土器片である。出土遺物と検出土層から縄文時代後期の焼土遺構の可能性がある。

第3号焼土遺構 (SN03、図75)

[位置・確認] 1-3グリッドに位置し、標高は約35.5mである。第Ⅲ層下面で確認し、他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・堆積土] 調査区壁の土層観察によって本遺構を検出したため、平面形は不明であるが、長軸2.3m以上の規模を有する。堆積土は暗赤褐色焼土が主体である。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していないが土層観察によって縄文時代の焼土遺構と思われる。

2 遺構外の出土遺物 (図76)

農道1号の遺構外からは縄文土器0.02kg、土師器0.06kg、合計約0.1kgの土器類と石器、近代の遺物が出土した。そのうち縄文時代(5)と平安時代(3・4)の遺物を図示した。

縄文時代の石器と思われる削器1点を図示した。三角形の剥片側縁部1辺に刃部を形成しており、刃部の対角にある頂部を打ち欠き、鈍化させている。平安時代の遺物は、土師器の坏口縁部片(3)と甕底部片(4)を図示した。3はロクロ整形の坏で、4の底外面にはヘラケズリが施されている。

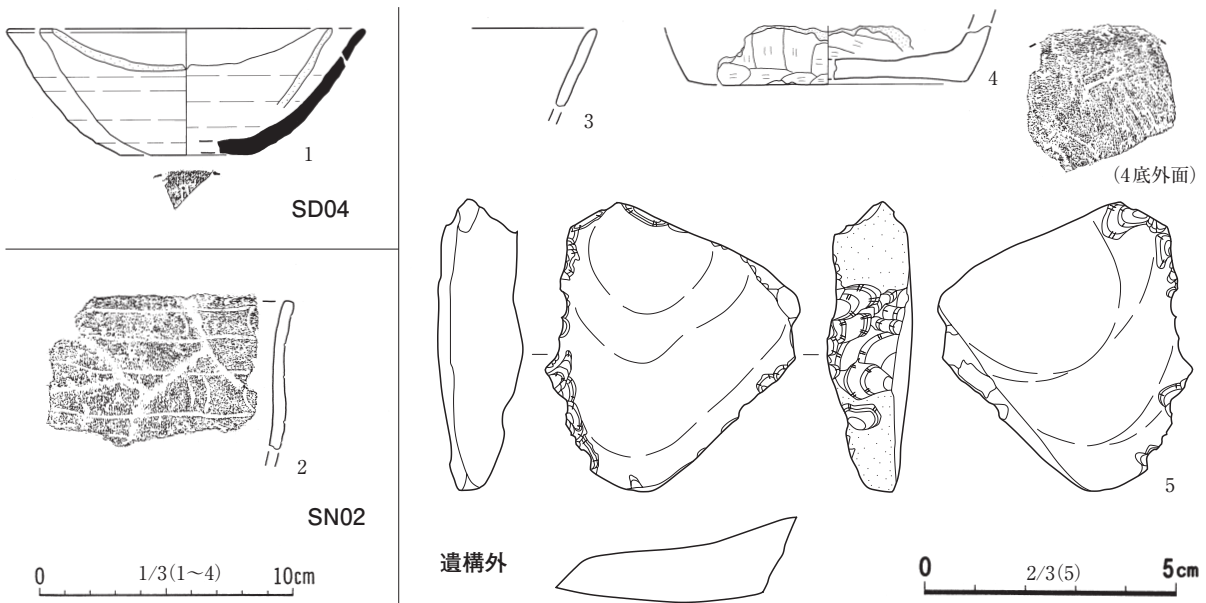


図76 農道1号出土遺物

3 遺物観察表

表16 農道1号出土土器類 観察表

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 部位 | 計測値 (cm) | | | 外面調整 (文様) | 内面調整 (文様) | 備考 (底面調整、時期等) |
|------|------|------|--------------|------|----|-----|----------|--------|-------|-----------|-----------|------------------|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 76 | 1 | SD04 | 2層(火山灰土) | 須恵器 | 坏 | 略完形 | (14.2) | (5.2) | (5.0) | ロクロ | ロクロ | 底面-ヘラナデ? 刻書? |
| 76 | 2 | SN02 | 焼土層上面P1~3、覆土 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部 | - | - | (5.9) | 沈線 | ナデ | 後期・十腰内Ⅱ式 |
| 76 | 3 | 遺構外 | 1-20 風倒木 | 土師器 | 坏 | 口縁部 | - | - | (3.0) | ロクロ | ロクロ | |
| 76 | 4 | 遺構外 | 1-37 Ⅱ層 | 土師器 | 甕 | 底部 | - | (11.0) | (2.3) | ヘラナデ | 指ナデ | 底面-ヘラケズリ。 |

表17 農道1号出土石器 観察表

| 図版番号 | 遺物番号 | 遺構名 | 出土位置・層位等 | 種類 | 器種 | 石質 | 計測 (mm) | | | 重さ (g) | 備考 |
|------|------|-----|----------|----|----|----|---------|----|----|--------|----|
| | | | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | |
| 76 | 5 | 遺構外 | 1-13 Ⅰ層 | 石器 | 削器 | 頁岩 | 58 | 50 | 17 | 41.0 | |

第2節 農道25号

農道25号は、遺跡が所在する台地の頂部から南東側斜面上に位置する。道路関連工事予定地は、道路起点から終点まで全長189mであり、25-18・19グリッド付近で農道1号と直交する。今回は本調査の対象となった、農道部分25-14グリッドから25-35グリッドまでの長さ約100m、幅約6m、流末水路部分の25-35グリッド南から25-37グリッドまでの長さ8.8m、幅約2～3mの、合計525㎡の調査を行った。調査前の標高は、北西端で35.7m、農道1号との交差点で35.2m、中程の25-23グリッドで34.9m、南東端の29.2mで、25-31グリッド付近で南東方向に急に傾斜している。農道1号以北の25-14から25-18グリッド付近は、耕作の影響による土地削平が著しく、SI01をはじめ、遺構の床面や底面部分がわずかに残存するような状況であった。また25-29から25-31グリッド付近も一部耕作土直下に第V層が検出され、耕作による攪乱が窺われるものであった。一方、傾斜地である25-32グリッドから25-37グリッドの間は、第Ⅲ層が厚く堆積していた。

調査区内の土層については、隣接する農道1号の土層と同様のため、土層の詳細は県埋文報第490集図4に譲る。

農道25号で検出された遺構は、竪穴住居跡5軒、土坑9基、溝跡2条、掘立柱建物跡1棟、ピット29基、性格不明遺構1基である。このうち、竪穴住居と掘立柱建物跡がセットと考えられる建物跡が1棟ある。この場合、検出遺構の構成は建物跡1棟、単独の竪穴住居跡4軒、土坑9基、溝跡2条、ピット25基、性格不明遺構1基である。これらは、多くが平安時代の遺構と思われ、遺構は25-15グリッド付近から25-30グリッドまでの、比較的平坦な箇所や緩斜面を中心に散在している。傾斜地である25-32グリッドから25-37グリッドの間は遺構検出を第Ⅲ層上層と第V層上面で行ったが、遺構は検出できなかった。なお、整理段階で土層と写真から再検討した結果、SK07は自然土層、SK09は風倒木痕と判断したため欠番とした。

遺構内外からは、縄文・平安時代の土器類段ボール箱で5箱、縄文時代の石器十数点、平安時代・時期不明鉄製品10点が出土した。以下、検出した遺構種ごとに記述を行う。

1 検出遺構

(1) 建物跡・竪穴住居跡

掘立柱建物と竪穴住居がセットとなる建物跡は1棟（第4号建物跡）のみであり、他は単独の竪穴住居跡である。

第1号竪穴住居跡（SI01、図79）

〔位置・確認〕調査区北寄り、25-16グリッドに位置し、標高は35.6mである。第V層で確認したが、耕作による削平の影響で、床面は一部破壊されていた。SK03と重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕平面形は方形である。壁長及び確認面から床面の深さは、北西壁は現存値で(1.9)m・深さ9～12cm、北東壁3.2m・深さ6～13cm、南東壁2.7m・深さ12～16cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せるが、掘り込みが浅く、明瞭に判断できない箇所がある。住居の軸方向はN-45°-Wである。

〔床面・壁溝〕確認されたところでは、床面は貼り床によって平坦に整えられている。壁溝は検出さ

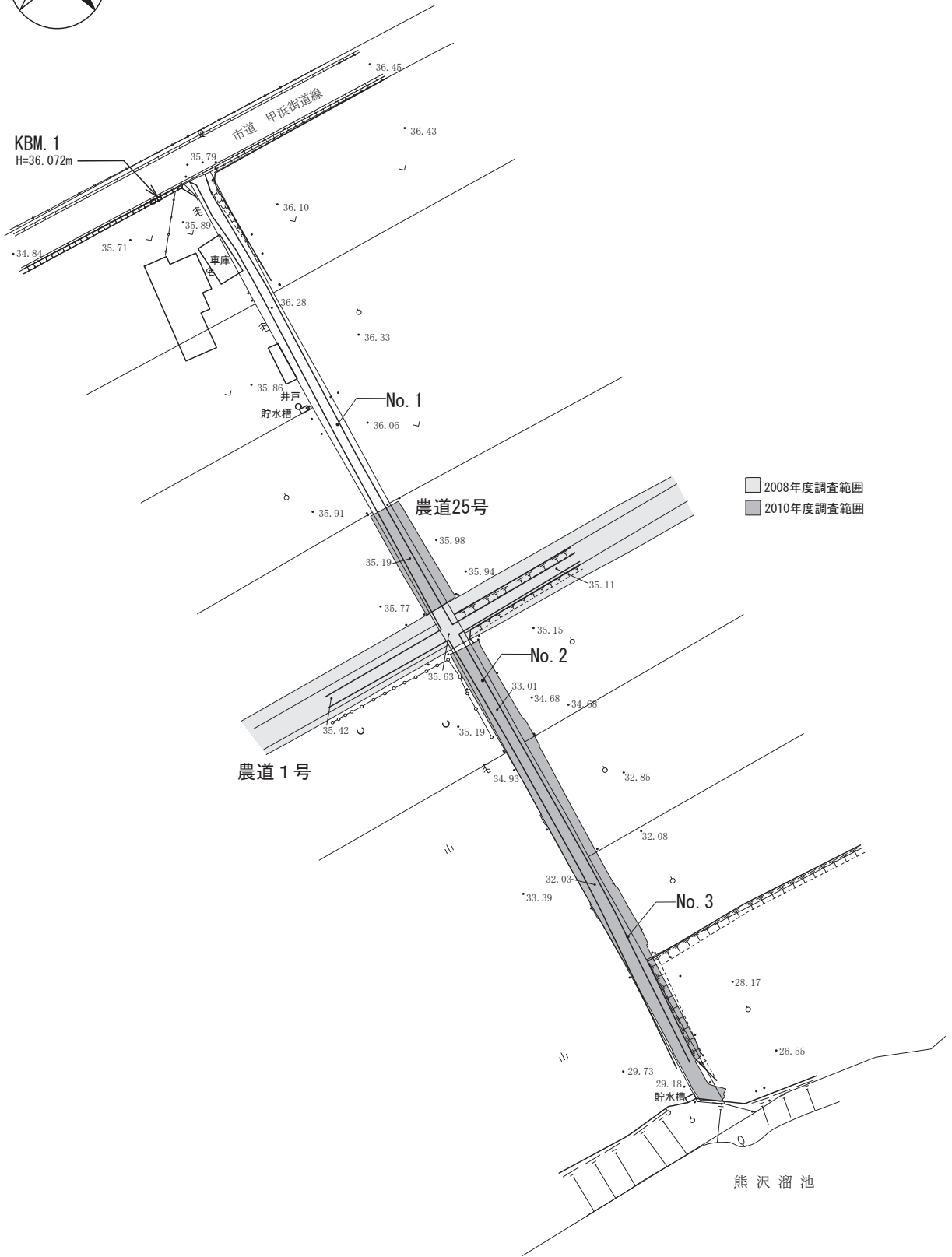


図77 農道25号地形図

第1章 調査の概要
 第2章 地形・基本層序
 2号
 平成26年
 27年度
 調査
 28号・1号
 1号
 平成25年
 29年度
 調査
 30号
 第5章 理化学的分析
 第6章 分析と考察
 まとめ

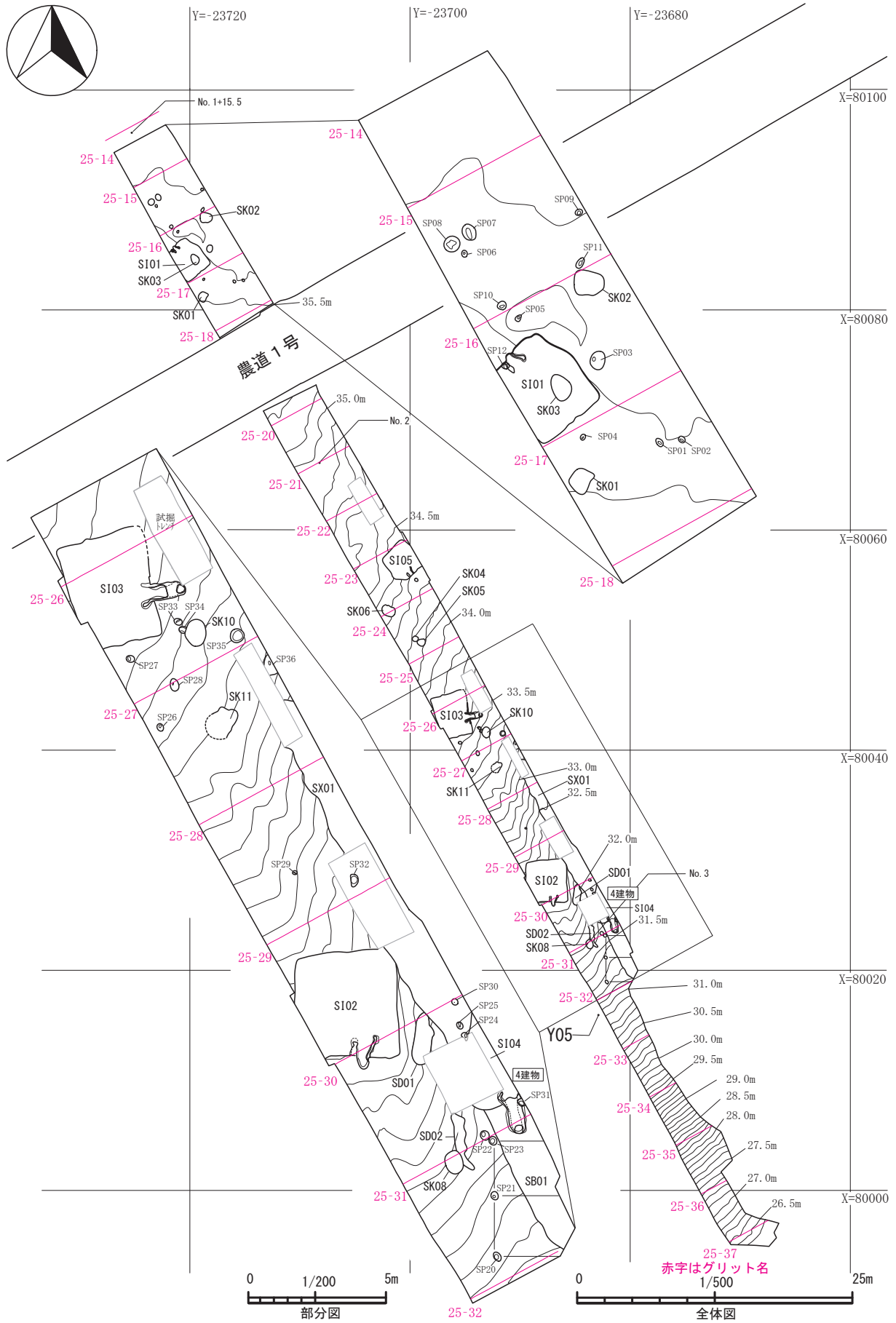
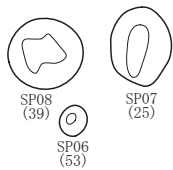
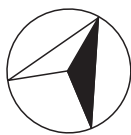


図78 農道25号 遺構配置図



X=80086
Y=23729

C 35.7m

D 35.7m

E 35.7m

0 1/30 1m

X=80086
Y=23721

A 35.8m

B 35.8m

0 1/60 2m

X=80084
Y=23722

X=80084
Y=23718

図79-2

SP04 (22)

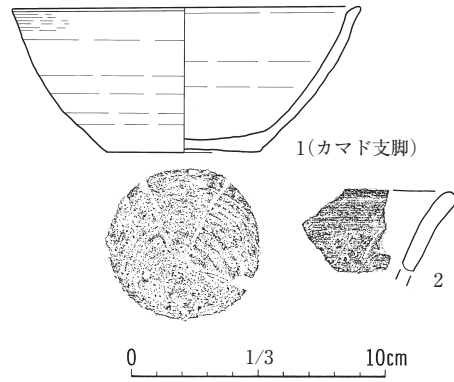
- S101 (A-A'-B-B')**
- 1 10VR2/3 黒褐色土
 - 2 10VR3/4 暗褐色土
 - 3 10VR5/6 黄褐色土
 - 4 10VR5/6 黄褐色土
 - 5 10VR2/2 黒褐色土
- SK03 (A-A'-B-B')**
- a 10VR3/3 暗褐色土
 - b 10VR3/4 暗褐色土
 - c 10VR5/8 黄褐色土
 - d 10VR5/6 黄褐色土
- S101カマド (C-C'-D-D')**
- 1 7.5YR4/4 褐色土
 - 2 10VR3/4 暗褐色土
 - 3 10VR5/8 黄褐色土
 - 4 10VR3/3 暗褐色土
 - 5 7.5YR5/8 明褐色土
 - 6 10VR5/6 黄褐色土
 - 7 5YR3/6 暗赤褐色土
 - 8 10VR4/6 褐色土
 - 9 10VR3/3 暗褐色土
 - 10 10VR4/6 褐色土
 - 11 10VR3/4 暗褐色土
 - 12 10VR3/3 暗褐色土
 - 13 10VR6/8 明黄褐色土
- SP03 (F-F')**
- 1 10VR2/3 黒褐色土
 - 2 10VR5/6 黄褐色土
- SP04**
- 1 10VR3/3 暗褐色土
- SP05**
- 1 10VR5/3 黄褐色土
- SP06**
- 1 10VR3/2 黒褐色土
- SP07**
- 1 10VR3/1 黒褐色土
- SP08**
- 1 10VR4/2 黄褐色土
- SP10**
- 1 10VR5/4 黄褐色土
- SP12**
- 1 10VR3/4 暗褐色土

褐色土20%、明黄褐色ローム粒(φ2~10mm)7%、赤褐色焼土粒(φ1~2mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%。
 褐色土20%、明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%、明黄褐色ロームブロック(φ20mm)7%、炭化物(φ1~2mm)3%。
 掘り方。黒褐色土20%、明黄褐色ロームブロック(φ30~100mm)20%、浮石(φ5~20mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 Pit6覆土。にぶい褐色ロームブロック(φ30~50mm)20%、浮石(φ10~30mm)20%、黒褐色土10%。
 Pit6覆土。褐色土10%、浮石(φ10~50mm)15%。

褐色土7%、明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)7%、炭化物(φ1mm)3%、黄褐色浮石(φ1~5mm)1%。
 黄褐色ローム粒(φ1~10mm)20%、炭化物(φ1mm)微量。
 黄褐色浮石(φ1~2mm)3%、炭化物(φ2~5mm)1%。
 浅黄褐色浮石(φ1mm)1%。

赤褐色焼土粒(φ1~5mm)7%、黄褐色ローム粒(φ1~2mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
 黒色土3%。
 明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)1%。
 明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%。
 赤褐色焼土粒(φ1~5mm)20%、黄褐色ローム粒(φ1~5mm)10%。
 黄褐色ローム粒(φ2mm)8%。
 赤褐色焼土粒(φ1~3mm)3%。
 黒褐色土7%、暗褐色焼土粒(φ1mm以下)1%、炭化物(φ1mm)微量。
 明黄褐色ローム粒(φ1mm)5%。
 黄褐色ローム粒(φ1mm)5%、被熱により一部赤褐色化。
 明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)1%、炭化物(φ1mm以下)1%。
 明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)5%、赤褐色焼土粒(φ1mm)1%。
 褐色土20%、浅黄褐色浮石(φ1mm)1%。

黒褐色土7%、明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)5%。
 明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)3%。
 明黄褐色土40%、明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)1%。
 浮石(φ5mm~10mm)5%。
 浮石(φ5mm)5%。
 ロームブロック(φ10~15mm)10%。
 ロームブロック(φ15mm)5%。
 黒褐色土(φ5mm)微量。
 ローム粒(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1mm以下)1%。



0 1/3 10cm

図79 第1号竪穴住居跡と出土遺物

第1章 調査の概要
 第2章 地形・基本層序
 2号 平成26年度調査
 27号
 28号・1号
 1号 平成25年度調査
 29号
 30号
 第5章 理化学的分析
 第6章 分析と考察

れなかった。

[柱穴] 柱穴は9基検出され、Pit 1・5・7が主柱穴、Pit 2・4・8が壁柱穴と考えられる。各Pitの規模は、Pit 1が24×15cmで深さ41cm、Pit 2が26×19cmで深さ17cm、Pit 3が25×15cmで深さ9cm、Pit 4が32×24cmで深さ16cm、Pit 5が39×32cmで深さ30cm、Pit 6が30×27cmで深さ32cm、Pit 7が43×22cmで深さ28cm、Pit 8が29×25cmで深さ13cm、Pit 9が34×20cmで深さ11cmを測る。SP12はカマド下から検出されており、本遺構に伴う可能性がある。

[カマド] 北西壁の中央付近に検出された。明確な火床面は確認できなかったが、燃焼部では土師器坏(図79-1)が倒立の状態出土し、支脚に転用されていた。煙道は、耕作による破壊を受け確認できなかったが、焼土の分布を確認した。焚口部付近に検出されたPit 9は、土層や位置的にカマドに伴う遺構の可能性があるが、灰などは出土していない。

[堆積土] 黒褐色土と、第V層起源のロームブロックを含む暗褐色土が堆積する。

[出土遺物] 土師器が0.2kg出土し、土師器坏(1)・甕(2)を図示した。本遺構の全域が第I層に大きく破壊されているため、遺物の出土量は比較的少ない。Pit 4堆積土から出土した炭化物NAKA25-SI01-C2は、放射性炭素年代測定を行っている(第5章第6節)。

[遺構の時期等] カマドの構築形態や出土遺物の属性から、平安時代の9世紀後半からB-Tm・To-a降下以前に廃絶し埋没したものであると思われる。放射性炭素年代測定の結果は考古学的所見よりも古い年代が示されるが、理由として樹幹内部の試料を測定したことによる古木効果の可能性が考えられる。

北西壁方向に、SP05・SP10、やや離れてSP06・SP07・SP08が検出されている。これらのピットは掘立柱建物跡の一部を構成する可能性があるが、確証を得ることができなかった。

第2号竪穴住居跡(SI02、図80・81・82)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、25-29・30グリッドに位置し、標高は32.2～32.5mである。第V層で確認した。SX01と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面の深さは、現存部分で北壁(3.0)m・深さ37～53cm、東壁(3.3)m・深さ15～20cm、南壁(2.7)m・深さ3～18cm、西壁(1.6)m・深さ38～47cmを測る。いずれの壁も床からやや開いて立ち上がる。住居の軸方向はN-177°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は第V層を掘り込み構築されており東側は一部貼り床を施している箇所もある。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 柱穴は住居の中心付近に4基検出された。うち1基はカマド西側に隣接する。各Pitの規模は、Pit 1が22×19cmで深さ7cm、Pit 2が25×15cmで深さ11cm、Pit 5が15×10cmで深さ6cm、Pit 6が17×14cmで深さ6cmを測る。いずれも小規模なものである。

[カマド] 南壁の東寄りに検出された。煙道部や、住居南半の堆積土中に構築材の粘土が散在して検出され、本住居廃絶時に意図的に破壊されたことを窺わせるものである。56×56cmの火床面が検出され、深さ7cmまで被熱していた。煙道は住居外に約45cm延び、煙出し部へ緩やかに立ち上がる。煙道の軸方向はN-179°-Eである。本住居跡の南西隅の床面が焼けており、調査区壁面にも焼土が検出されていることから、調査区外には、古い時期のカマドが存在していた可能性がある。

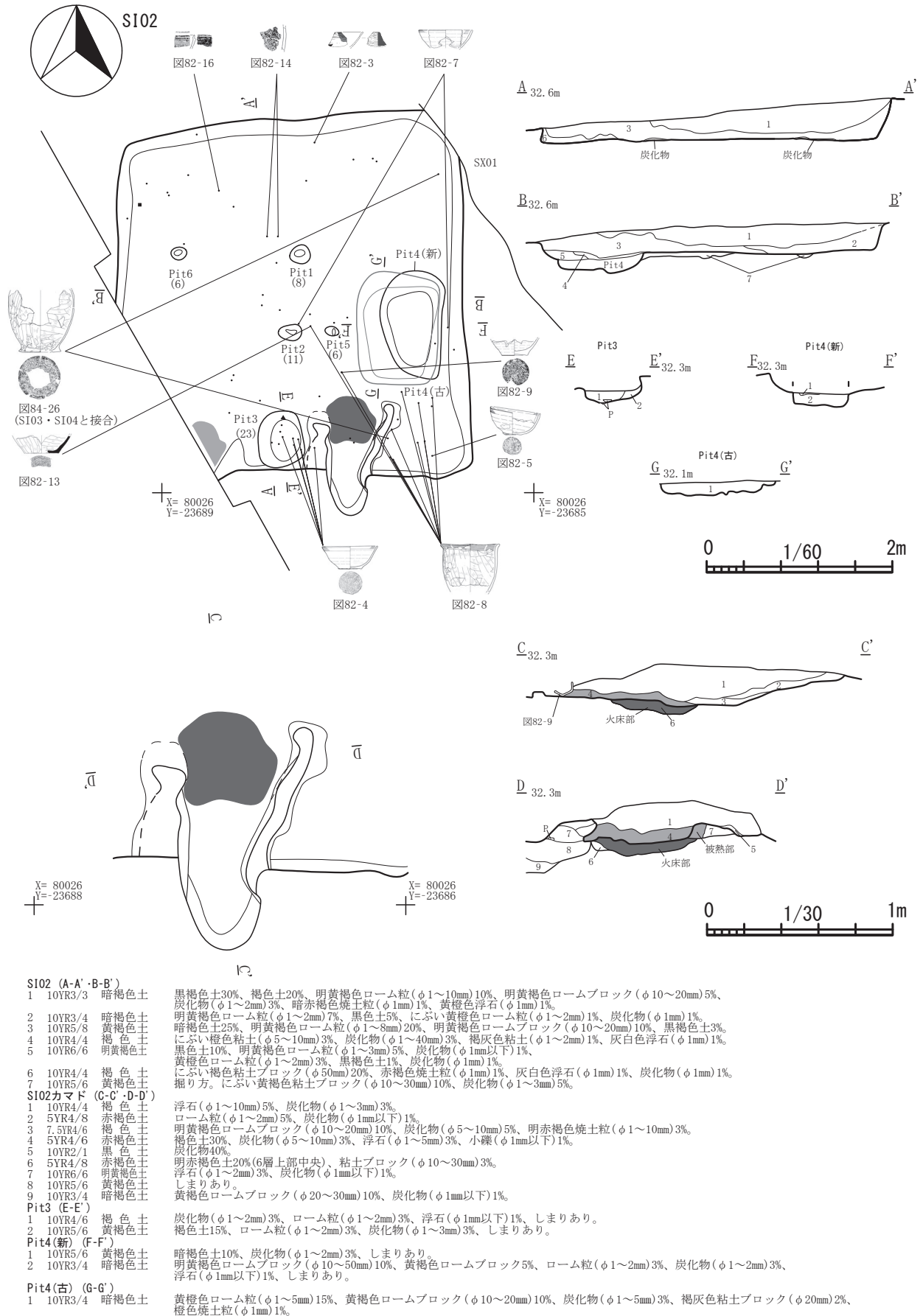


図80 第2号竪穴住居跡(1)